

2026/4/20 版

習志野市 高齢者等実態調査結果 報告書

令和8年3月

習志野市高齢者支援課

目次

第Ⅰ部 調査結果	1
第1章 調査概要	2
1. 調査の概要	2
(1) 調査の目的	2
(2) 調査実施概要	2
(3) 調査方法	2
(4) 調査期間	2
2. 本報告書の見方	2
第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果	3
1. 回答者属性	4
(1) 調査票の回答者	4
(2) 年齢	4
(3) 居住地区	5
(4) 性別	5
(5) 家族構成	6
(6) 介護・介助の状況	7
(7) 要支援認定区分	9
(8) 経済状況	10
(9) 住まいの形態	11
2. からだを動かすことについて	12
(1) 運動機能の状況	12
(2) 外出の頻度	14
(3) 移動手段	18
3. 食べることについて	19

(1) BMI.....	19
(2) 口腔機能の状況.....	19
(3) 口腔ケアの状況.....	21
(4) 体重減少の状況.....	24
(5) 共食の状況.....	24
4. 健康について.....	25
(1) 主観的健康観.....	25
(2) 主観的幸福感.....	26
(3) うつ傾向.....	27
(4) 通院の状況.....	28
(5) 飲酒習慣.....	29
(6) 喫煙習慣.....	29
(7) 治療中や後遺症のある病気.....	30
(8) 健康診査、がん検診の状況(一般高齢者のみ).....	31
(9) 医療・介護についての知識・情報の入手元.....	36
5. 毎日の生活について.....	37
(1) 認知機能の状況.....	37
(2) 手段的日常生活動作(IADL)の状況.....	38
(3) 知的能動性の状況.....	42
(4) 他者との関わりの状況.....	44
趣味や生きがいの有無.....	46
6. 地域での活動・ボランティアについて.....	47
(1) 地域の会・グループ等への参加状況.....	47
(2) 地域の会・グループ等への参加意向.....	58

(3) 地域における支え合いの意識.....	60
7. 就労について.....	64
(1) 就労状況.....	64
8. 「たすけあい」について	66
(1) 「たすけあい」の状況.....	66
(2) 相談相手	70
(3) 友人・知人との交流状況	72
9. 日常生活で困っていることや将来の不安について	74
(1) 現在困っていることや将来の不安	74
10. 将来への備えについて	76
(1) 人生会議・ACP の認知度	76
(2) 終活の準備状況.....	79
(3) 緊急事態が起きた時について	81
(4) 成年後見制度の認知度.....	82
11. 認知症について	83
(1) 「新しい認知症観」の認知度	83
(2) 認知症の症状の有無	83
(3) 認知症に関する相談窓口の認知度	84
(4) 自分や家族が認知症になった場合について.....	86
(5) 市の認知症施策の認知度.....	90
12. 介護保険の利用について	91
(1) ケアマネジャーに対する満足度	91
(2) 介護保険サービスの利用状況.....	91
(3) 介護サービスの自己負担割合と負担感.....	94

13. 介護保険制度・高齢者施策について	96
(1) 介護保険料と介護サービスのあり方について	96
(2) 将来の生活と介護予防について	98
(3) 高齢者外出支援事業について	101
(4) 運転免許証自主返納者への支援について	104
(5) 高齢者相談センターの相談窓口の認知度	106
(6) 高齢者が地域で在宅を続けるために必要な施策	107
14. 主な介護者の方への質問	108
(1) 介護者の年齢	108
(2) 介護の種類	109
(3) 介護者の現状	110
(4) 介護者の仕事と介護の両立について	112
15. ご意見・ご要望	114
第3章 在宅要介護認定者調査	118
1. 回答者属性	119
(1) 回答者	119
(2) 年齢	119
(3) 居住地区	120
(4) 性別	120
(5) 家族構成	121
(6) 介護・介助の状況	122
(7) 認定区分	123
(8) 経済状況	124
(9) 住まいの形態	124

2. 地域交流・ボランティアについて.....	125
(1) 地域における支え合いの意識.....	125
(2) ボランティア支援の利用意向.....	125
3. 日常生活で困っていることや将来の不安について	127
(1) 困っていること	127
(2) 将来についての不安	128
4. 将来への備え等について	129
(1) 人生会議・ACP の認知度.....	129
(2) 新しい認知症観の認知度	130
(3) 緊急時の意思決定・金銭管理を担う人の有無	131
(4) 成年後見制度の認知度.....	131
(5) 医療・介護情報の入手先	132
(6) 認知症の有無(本人・家族).....	132
(7) 認知症相談窓口の認知度.....	133
5. 介護保険の利用について.....	135
(1) ケアマネ対応の満足度	135
(2) 介護保険サービス利用状況.....	135
6. 介護保険制度・高齢者施策について	140
(1) 介護保険料と介護サービスのあり方について	140
(2) 今後希望する生活場所	142
(3) 高齢者外出支援事業	143
(4) 運転免許証自主返納者への支援.....	145
(5) 高齢者が地域で在宅を続けるために必要な施策.....	146
7. 主な介護者の方にうかがいます。.....	147

(1) 介護者の年齢	147
(2) 介護の種類	148
(3) 介護を行う上で困っていること	149
(4) 介護サービスを利用することによる変化.....	150
(5) 介護者としてあったらいいと思う支援	151
(6) 介護者の勤務形態	152
(7) 仕事と介護の両立に効果のある支援.....	152
8. ご意見・ご要望	153
第4章 一般若年者調査	156
1. 回答者属性	157
(1) 年齢	157
(2) 居住地区	157
(3) 性別.....	158
(4) 家族構成	158
(5) 住まいの形態.....	159
2. 健康について.....	160
(1) 健康への配慮	160
(2) 医療・介護情報の入手先	164
(3) ACP の認知度	165
(4) 認知症について.....	167
(5) 健康診査等の状況	174
(6) 口腔機能の状況.....	180
3. 就労や社会参画などについて	183
(1) 就労の状況	183

(2) 生きがいや今後やりたいこと	184
4. 地域における交流、支え合いの状況	187
5. 将来の不安、備えについて	193
6. 介護保険制度・高齢者施策について	197
(1) 介護保険料と介護サービスのありかたについて	197
(2) 介護の経験	200
(3) ボランティアの参加意向	204
(4) 高齢者外出支援事業について	205
(5) 高齢者相談センターの相談窓口の認知度	207
(6) 高齢者が地域で在宅生活を続けるために必要な施策	208
7. ご意見・ご要望	209
第5章 施設入所者調査	212
1. 回答者属性	213
(1) 回答者	213
(2) 年齢	213
(3) 性別	214
(4) 認定区分	214
2. 入所している施設について	215
(1) 入所している施設の種類	215
(2) 入所の理由	216
(3) 部屋について	218
(4) 今後希望する介護	219
(5) 入所先の満足度	220
3. 現在の心配ごとや悩みごとについて	225

4. 将来への備えについて	226
5. 介護保険制度・高齢者施策について	227
(1) 介護保険料と介護サービスのあり方	227
(2) 介護サービスの自己負担割合と負担感	230
6. ご意見・ご要望	232
第6章 サービス提供事業者調査	235
1. 貴事業者の概要について	236
2. 介護保険サービスについて	237
3. サービスの質の向上について	245
4. ケアマネジメントについて(該当事業者のみ)	250
5. 今後の高齢者介護について	256
6. ご意見・ご要望	258
第II部 総括・整理	260
第7章 生活機能等の状況(一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果より)	261
1. 生活機能	261
(1) 運動器の機能低下	261
(2) 閉じこもり傾向	264
(3) 低栄養の傾向	266
(4) 口腔機能の低下	268
(5) 認知機能の低下	270
(6) うつ傾向	272
2. 手段的自立度(IADL)	274
3. 社会参加	277
(1) 知的能動性	277
(2) 社会的役割	280

第 8 章 認知症に関する状況	283
1. 認知症への理解.....	283
(1) 「新しい認知症観」について	283
(2) 認知症の相談窓口について.....	283
(3) 市が取り組んでいる認知症施策について	283
2. 認知症に対する不安・実態.....	283
(1) 認知症の要介護状況	283
(2) 認知症向け介護サービスの状況.....	283
(3) 認知症への不安.....	284
3. 今後の共生社会への展望	284
(1) 認知症になった場合のイメージ	284
(2) 共生社会に向けて必要なこと	284
(3) 認知症向け介護サービスの今後の事業展開	284
第 9 章 将来への備えに関する状況.....	285
1. 将来への備えに関する理解	285
(1) ACP	285
(2) 身元保証制度.....	285
(3) 成年後見制度.....	285
2. 将来への備えの状況	286
(1) ACP の状況.....	286
(2) 終活.....	286
(3) 老後の生活に必要なだと思うこと	286
第 10 章 住み慣れた地域での生活継続に関する状況	287
1. 生活継続に対する意向	287
2. 生活継続に向けた支援ニーズ.....	287

(1) 住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な施策.....	287
(2) 自宅での生活を続けるために必要なサービス.....	287
3. 日常生活における困りごと・不安.....	288
(1) 現在困っていること.....	288
(2) 将来についての不安	288
4. 外出・移動環境の状況.....	289
(1) 高齢者外出支援事業の認知度	289
(2) 高齢者外出支援事業の見直しについて	289
(3) 運転免許証を自主返納した方への支援.....	289
5. 在宅生活を支える介護者の状況.....	291
(1) 介護者の年齢	291
(2) 介護を行う上で困っている(困った)こと.....	291
(3) 仕事との両立.....	291
第11章 社会参加・地域との関わりの状況.....	292
1. 地域の活動	292
(1) 参加状況.....	292
(2) 参加の意向.....	292
(3) 隣近所や地域で高齢者を支えることについて.....	292
第12章 介護サービスの利用・供給の状況.....	293
1. 介護保険制度に対する意識.....	293
(1) 介護保険制度における保険料と介護サービスのあり方	293
(2) 低所得者への配慮	293
2. 介護サービスの利用状況.....	293
(1) サービスの利用状況	293
(2) 利用しているサービス	294

(3) 介護者サービス利用による介護者の変化.....	294
(4) 利用していない理由.....	294
(5) サービスの自己負担感	294
(6) 福祉サービスの利用に結び付いていない高齢者	295
3. サービスの供給状況	295
(1) 事業者の人手不足.....	295
(2) インフォーマルサービスの利用.....	295
(3) 地域のボランティア意向	295

第 I 部 調查結果

第1章 調査概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる社会を築くために策定し、事業の推進を図っている市の「習志野市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」の次期計画に市民等の意見を反映させ、高齢者の保健福祉や介護サービスの充実に向けた貴重な資料とすることを目的にしています。

(2) 調査実施概要

調査区分	抽出方法	送付数	有効回収数	有効回収率	(参考) 前回回収率
一般高齢者 (65 歳以上)	無作為抽出	1,500 人	920	61.3%	67.4%
要支援認定者・ 事業対象者	無作為抽出	1,500 人	906	60.4%	65.1%
在宅要介護認定者	無作為抽出	1,500 人	752	50.1%	54.6%
一般若年者	無作為抽出	1,500 人	653	43.5%	48.6%
介護保険施設入所者	全員	852 人	467	54.8%	57.4%
介護サービス提供事業者	全事業者	174 人	92	52.9%	48.8%

(3) 調査方法

郵送配布・郵送回収及び Web 回答方式

(4) 調査期間

令和 7 年 12 月 15 日～令和 8 年 1 月 16 日

2. 本報告書の見方

- アンケートの選択肢や項目等の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがあります。
- 本文中の「n」は、設問に対する回答者数を示します。
- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第 2 位を四捨五入して算出しています。なお、四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常、100%を超えます。
- 【経年比較】における「前回調査」とは、令和4年度の高齢者等実態調査の結果を指しています。

第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果

1. 回答者属性

(1) 調査票の回答者

(単位%)

	あて名 のご本人	あて名の方の配偶 者(夫・妻)	あて名の方のこども	あて名の方の親族	友人・知人	ケア マネ ジャー	施設 の職 員	ホームヘルパー	その他	無回答
一般高齢者 (回答者数 920)	91.7	1.7	1.1	0.0	0.1	－	－	－	0.2	5.0
要支援者・事業対象者 (回答者数 906)	83.3	2.3	5.2	1.2	0.0	0.2	0.0	0.0	1.5	6.2

(2) 年齢

あなたの年齢を教えてください。

一般高齢者では、「75～79 歳」が 25.3%と最も高く、次いで「70～74 歳」が 23.8%、「65～69 歳」が 22.8%となっている。

要支援者・事業対象者では、「85～89 歳」が 30.7%と最も高く、次いで「80～84 歳」が 27.7%、「75～79 歳」が 14.1%となっている。

(単位%)

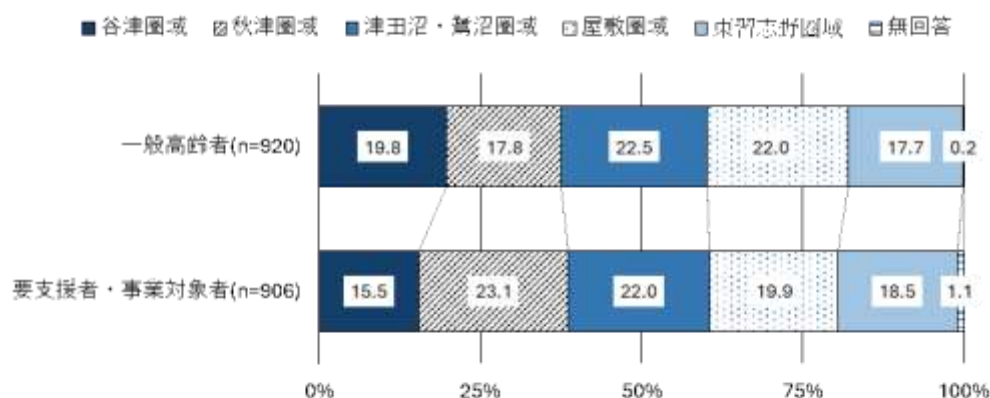
	65～ 69 歳	70～ 74 歳	75～ 79 歳	80～ 84 歳	85～ 89 歳	90～ 94 歳	95～ 99 歳	100 歳 以上	無回答
一般高齢者 (回答者数 920)	22.8	23.8	25.3	17.2	8.0	2.2	0.2	0.0	0.4
要支援者・事業対象者 (回答者数 906)	2.8	5.7	14.1	27.7	30.7	13.7	3.4	0.2	1.7

(3) 居住地区

お住いの地区名を教えてください。

一般高齢者では、津田沼・鷺沼圏域が22.5%と最も多く、次いで屋敷圏域が22.0%となっている。

要支援者・事業対象者では、秋津圏域が23.1%と最も多く、次いで津田沼・鷺沼圏域が22.0%となっている。

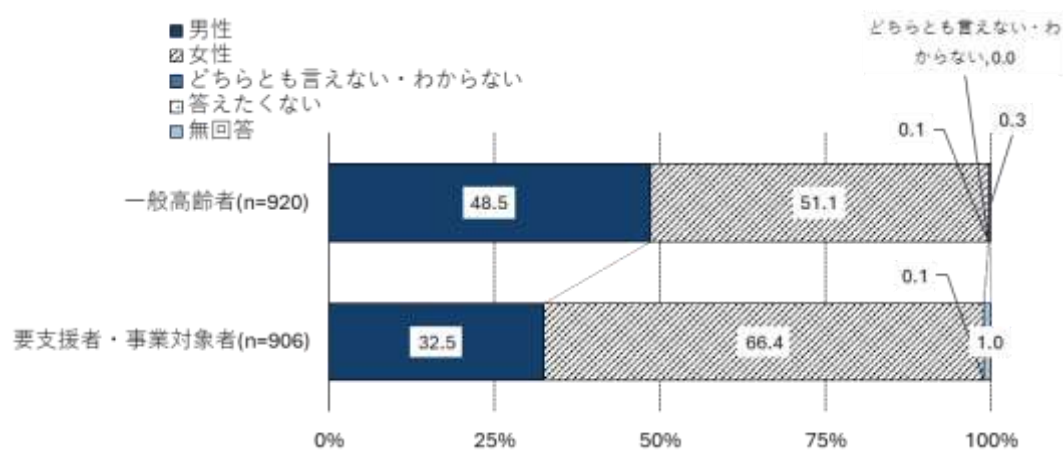


(4) 性別

あなたの性別をお答えください。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「女性」が最も高く、一般高齢者では51.1%、要支援者・事業対象者では66.4%となっている。

一方、「男性」は一般高齢者で48.5%、要支援者・事業対象者で32.5%となっている。「答えたくない」はそれぞれ0.1%である。

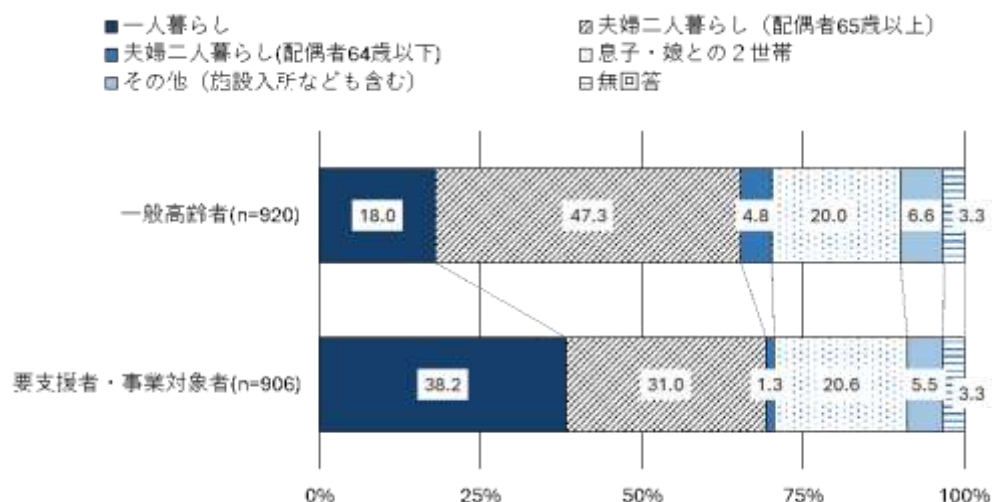


(5) 家族構成

家族構成をお答えください。

一般高齢者では、「夫婦二人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 47.3%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が 20.0%、「一人暮らし」が 18.0%となっている。

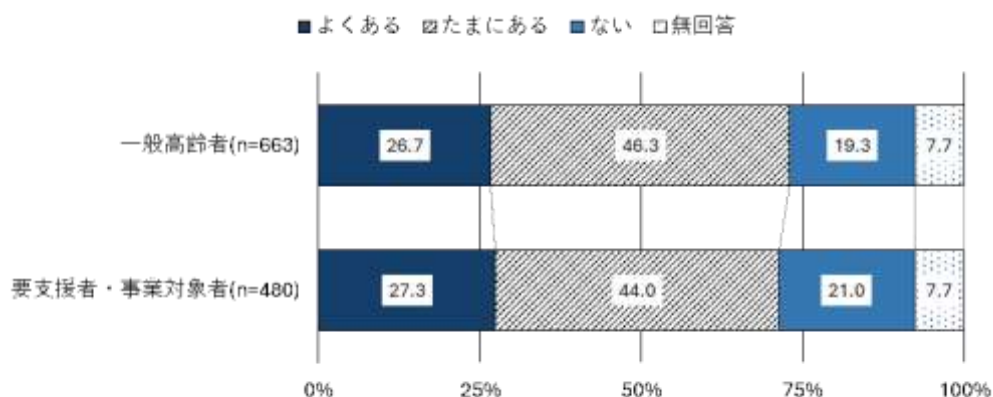
要支援者・事業対象者では、「一人暮らし」が 38.2%と最も高く、次いで「夫婦二人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 31.0%、「息子・娘との2世帯」が 20.6%となっている。



(ご家族と同居されている方)日中、一人になることがありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「たまにある」が最も高く、一般高齢者で 46.3%、要支援者・事業対象者で 44.0%となっている。

次いで「よくある」が一般高齢者で 26.7%、要支援者・事業対象者で 27.3%、「ない」が一般高齢者で 19.3%、要支援者・事業対象者で 21.0%となっている。

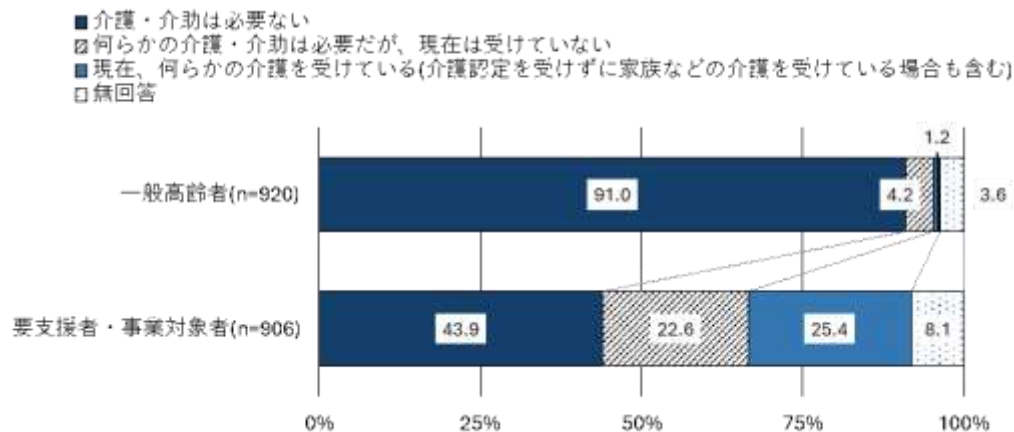


(6) 介護・介助の状況

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

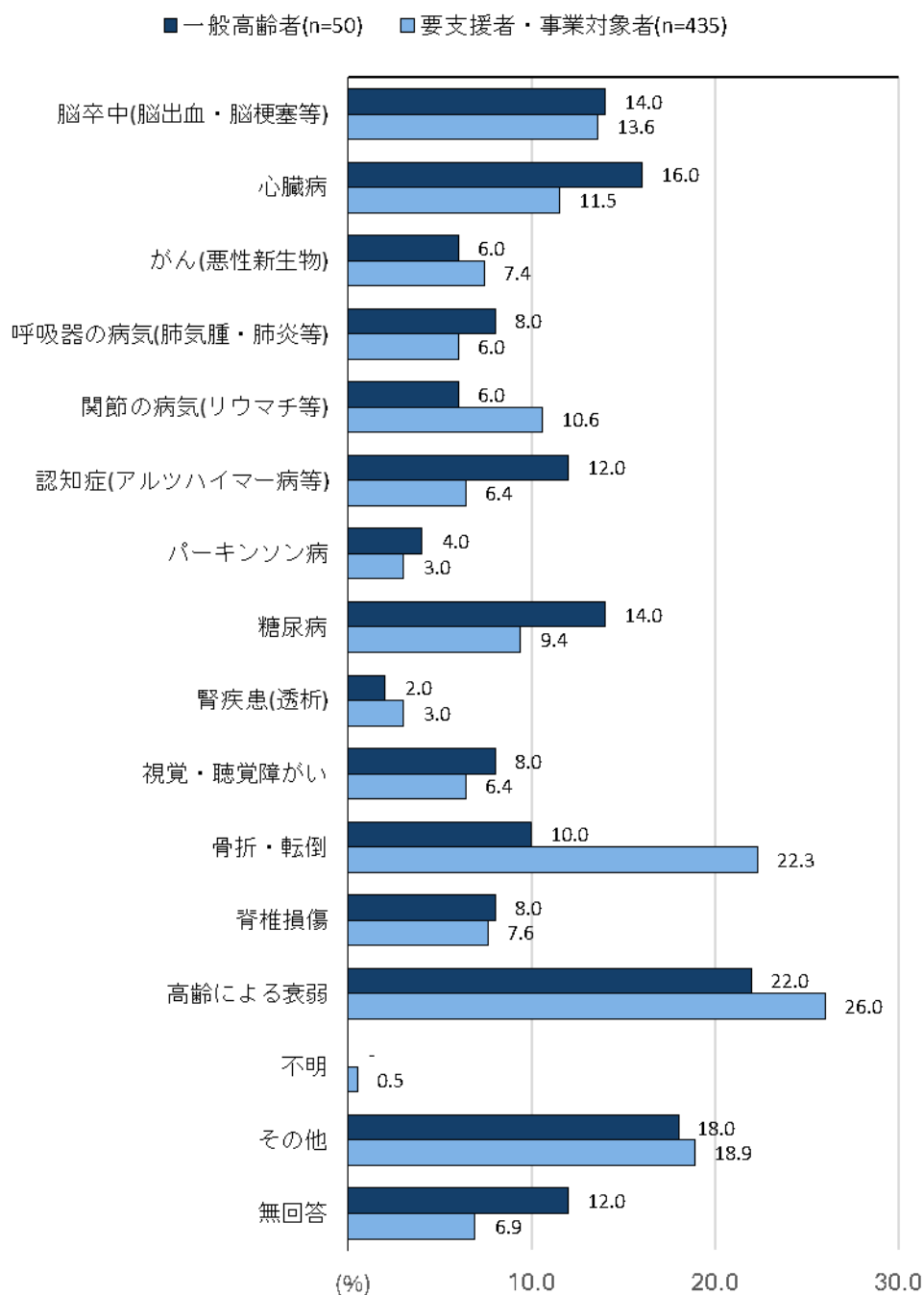
一般高齢者では、「介護・介助は必要ない」が91.0%と最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が4.2%、「現在、何らかの介護を受けている」が1.2%となっている。

要支援者・事業対象者では、「介護・介助は必要ない」が43.9%と最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」が25.4%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が22.6%となっている。



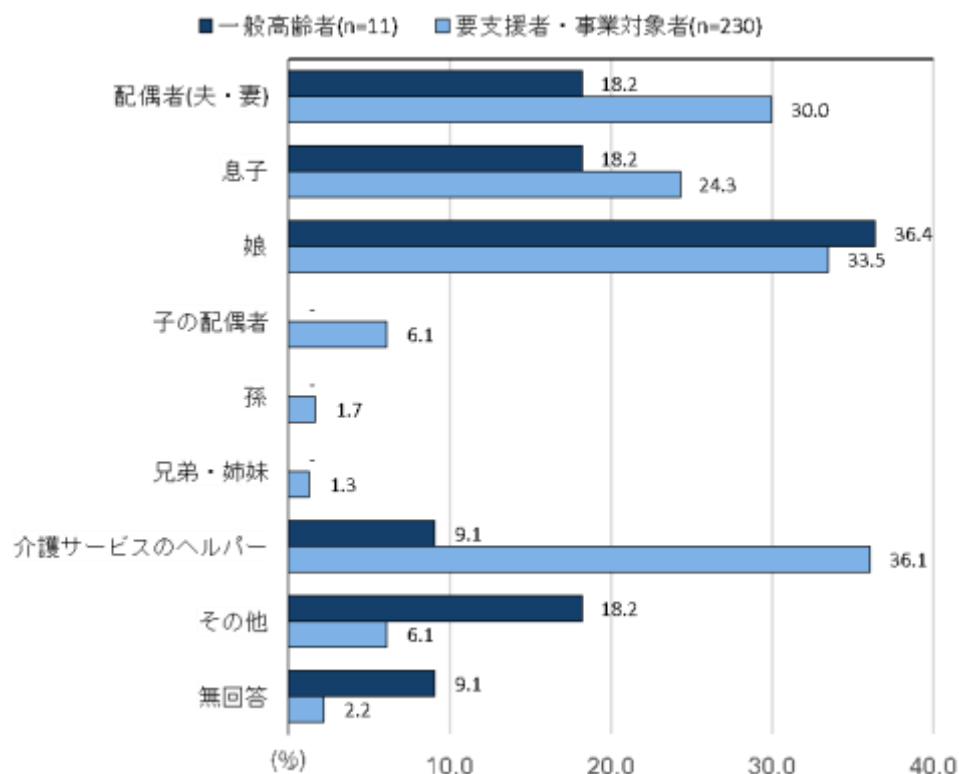
(介護が必要な方)介護・介助が必要となった主な原因は何ですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「高齢による衰弱」が最も高く、一般高齢者で 22.0%、要支援者・事業対象者で 26.0%となっている。次いで、一般高齢者では「心臓病」が 16.0%、要支援者・事業対象者では「骨折・転倒」が 22.3%となっている。



(現在、介護を受けている方)主にどなたの介護・介助を受けていますか。(〇はいくつでも)

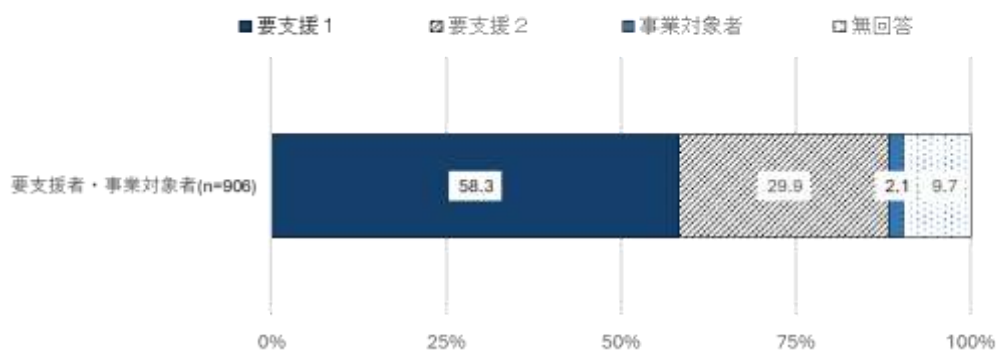
一般高齢者では「娘」が最も高く、36.4%となっており、次いで、「配偶者」、「息子」がともに18.2%となっている。要支援者・事業対象者では「介護サービスのヘルパー」が最も高く、36.1%となっており、次いで、「娘」が33.5%となっている。



(7) 要支援認定区分

(要支援者・事業対象者のみ)あなたの認定区分は次のどれにあたりますか。

「要支援1」が58.3%と最も高く、次いで「要支援2」が29.9%、「事業対象者」が2.1%となっている。

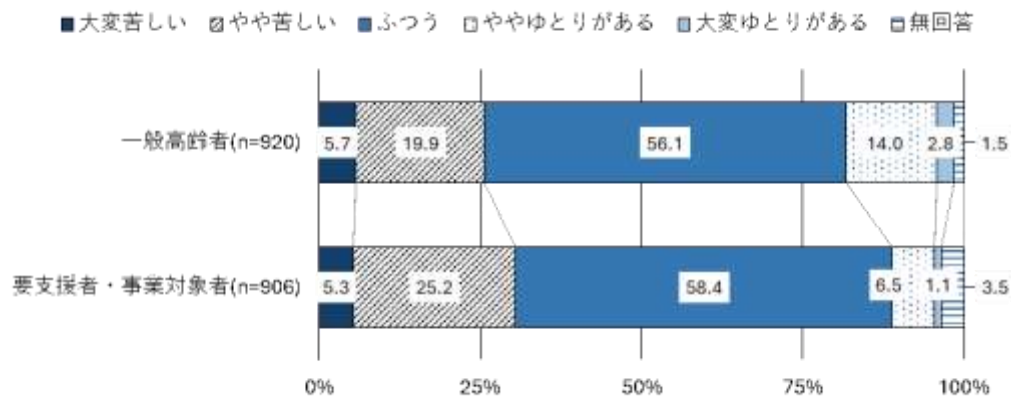


(8) 経済状況

現在の暮らしの状況を経済的に見てどう感じていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「ふつう」が最も高く、一般高齢者で 56.1%、要支援者・事業対象者で 58.4%となっている。

「やや苦しい」は要支援者・事業対象者が 25.2%で、一般高齢者の 19.9%を 5.3 ポイント上回っている。一方で「ややゆとりがある」は要支援・事業対象者が 6.5%で、一般高齢者の 14.0%を 7.5 ポイント下回っている。

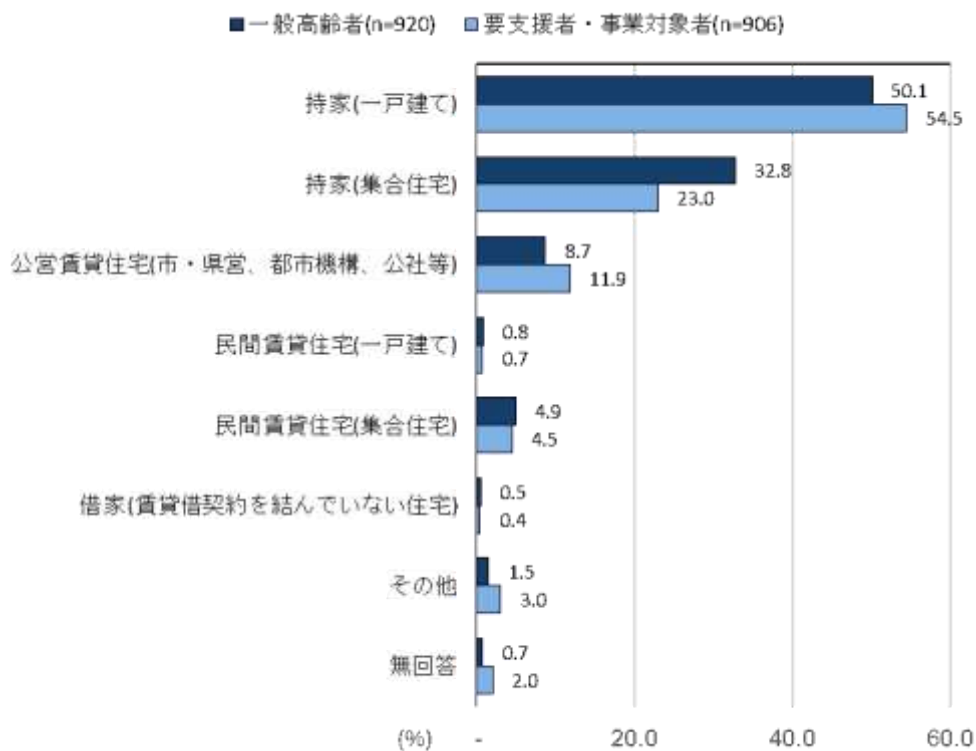


(9) 住まいの形態

お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「持家(一戸建て)」が最も高く、一般高齢者で 50.1%、要支援者・事業対象者で 54.5%となっている。

「持家(集合住宅)」は一般高齢者が 32.8%で、要支援者・事業対象者の 23.0%を 9.8 ポイント上回っている。

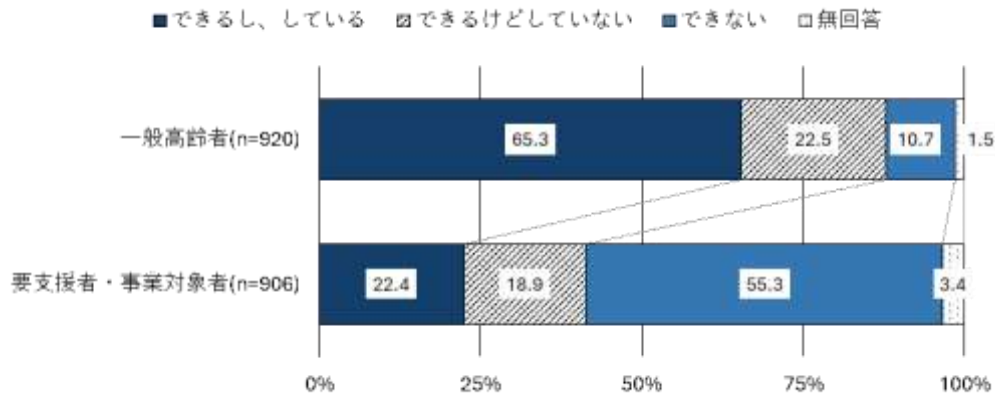


2. からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

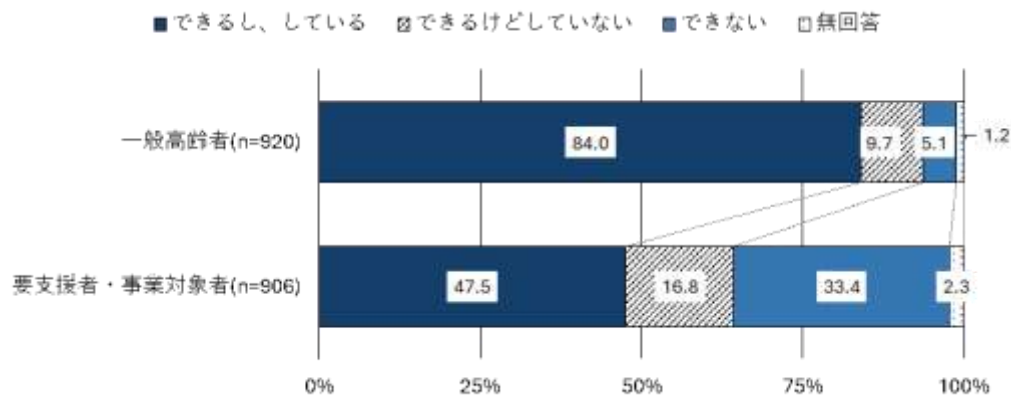
一般高齢者では、「できるし、している」が65.3%と最も高く、要支援者・事業対象者では「できない」が55.3%と最も高くなっている。



椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

「できるし、している」は一般高齢者が84.0%であるのに対し要支援者・事業対象者は47.5%と大幅に下回っている。

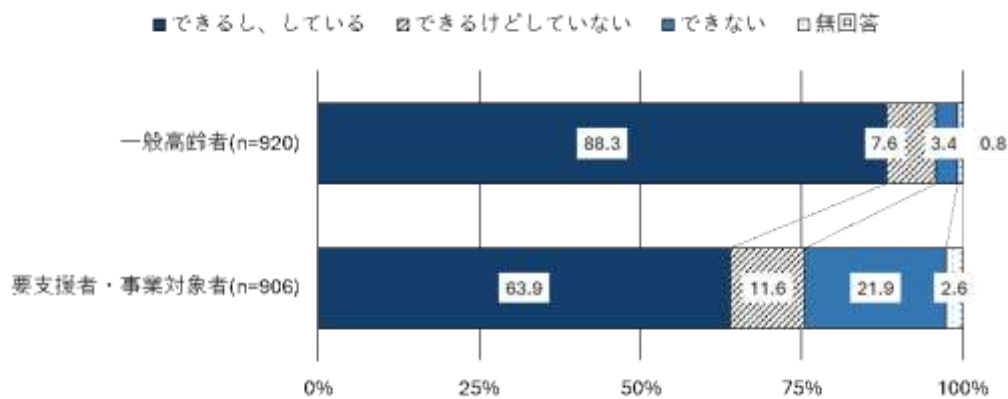
「できない」は要支援者・事業対象者の33.4%で一般高齢者が5.1%を28.3ポイント上回っている。



15 分位続けて歩いていますか。(買い物、散歩など、目的は問いません)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「できるし、している」が最も高く、一般高齢者で 88.3%、要支援者・事業対象者で 63.9%となっている。

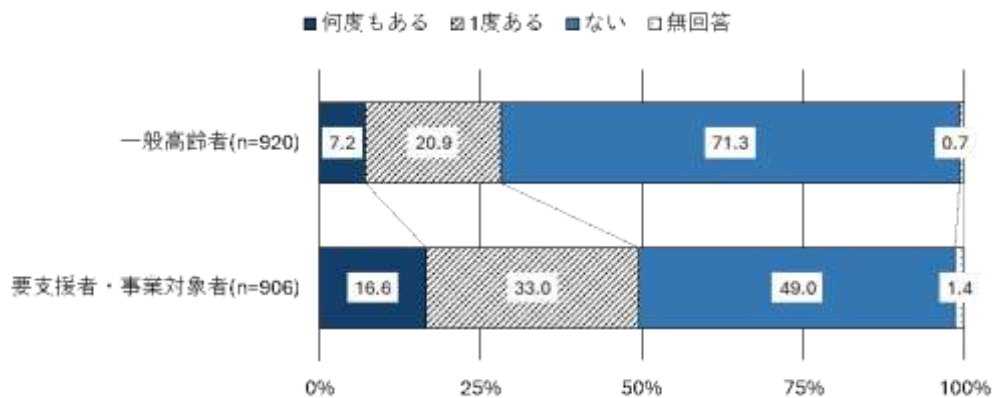
「できない」は要支援者・事業対象者が 21.9%で、一般高齢者の 3.4%を 18.5 ポイント上回っている。



過去1年間に転んだ経験がありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「ない」が最も高く、一般高齢者で 71.3%、要支援者・事業対象者で 49.0%となっている。

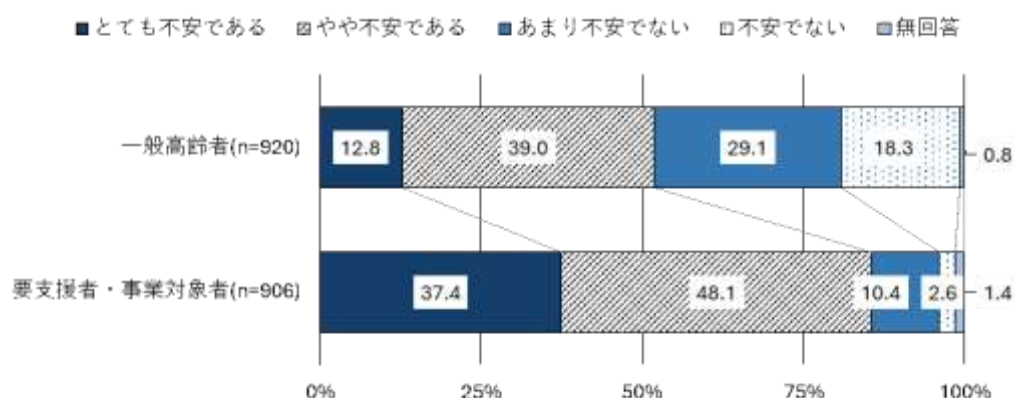
「何度もある」は要支援者・事業対象者が 16.6%で、一般高齢者の 7.2%を 9.4 ポイント上回っている。



転倒に対する不安は大きいですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「やや不安である」が最も高く、一般高齢者で 39.0%、要支援者・事業対象者で 48.1%となっている。

「とても不安である」は要支援者・事業対象者が 37.4%で、一般高齢者の 12.8%を 24.6 ポイント上回っている。

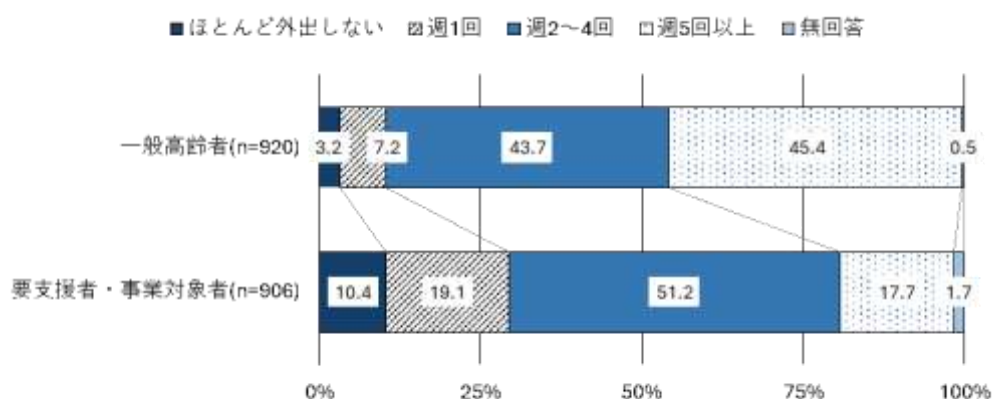


(2) 外出の頻度

週に1回以上は外出していますか。(手段・目的は問いません)

一般高齢者では、「週5回以上」が 45.4%と最も高く、要支援者・事業対象者では「週2～4回」が 51.2%と最も高くなっている。

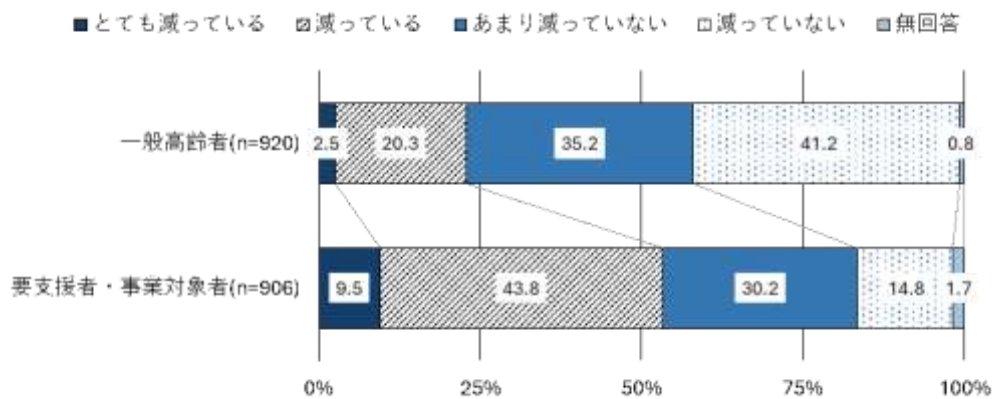
「週5回以上」は一般高齢者が 45.4%で、要支援者・事業対象者の 17.7%を 27.7 ポイント上回っている。



昨年(令和6年)と比べて外出の回数が減っていますか。

一般高齢者では、「減っていない」が41.2%と最も高く、要支援者・事業対象者では「減っている」が43.8%と最も高くなっている。

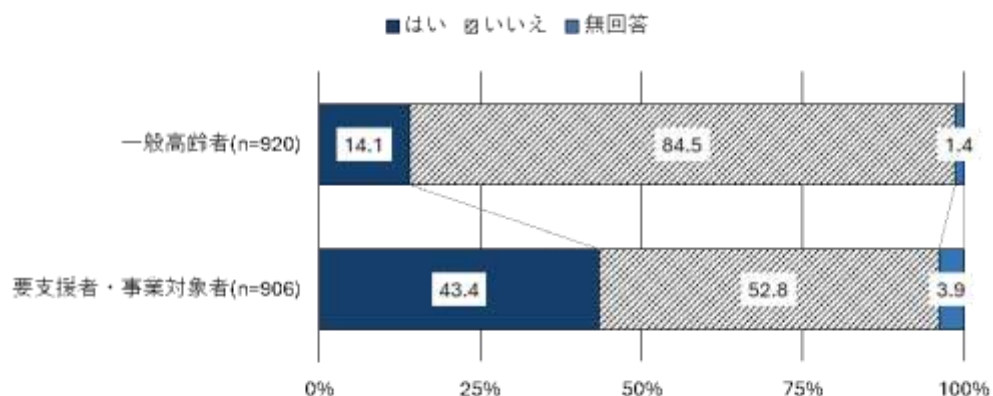
「減っている」は要支援者・事業対象者が43.8%で、一般高齢者の20.3%を23.5ポイント上回っている。



外出を控えていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「いいえ」が最も高く、一般高齢者で84.5%、要支援者・事業対象者で52.8%となっている。

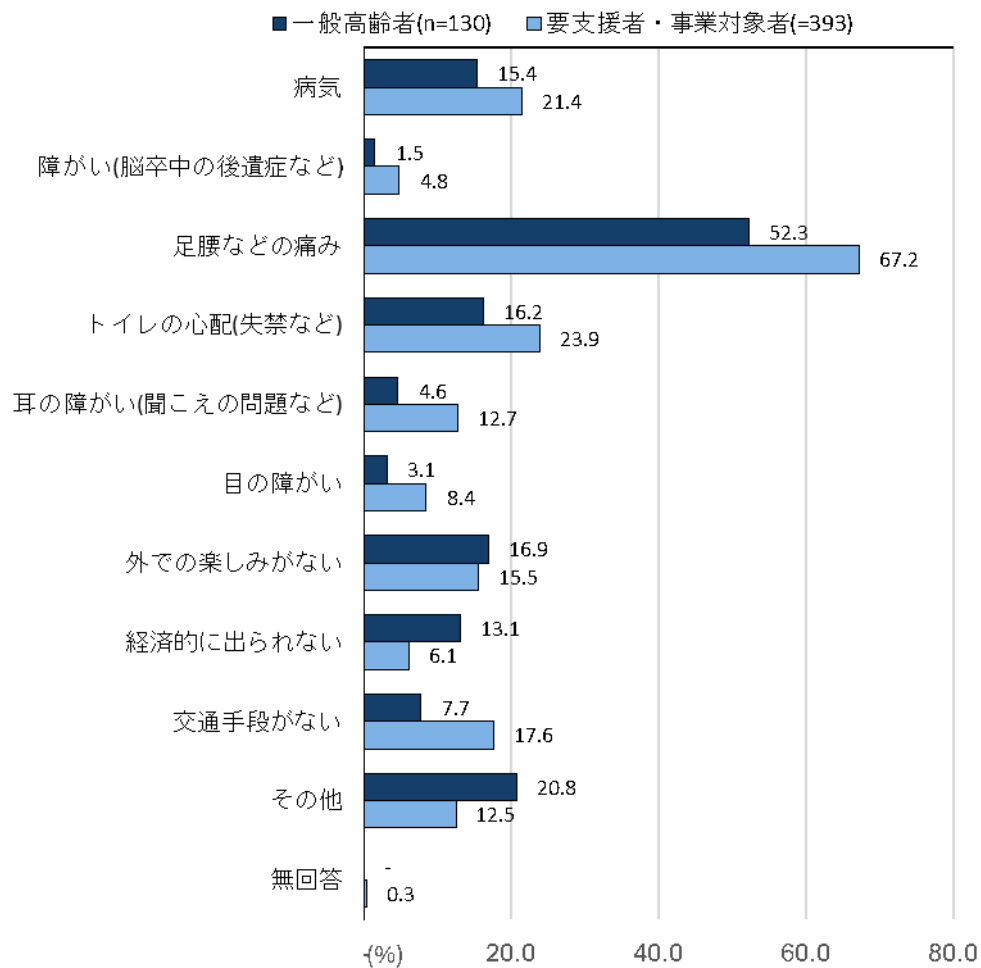
「はい」は要支援者・事業対象者が43.4%で、一般高齢者の14.1%を29.3ポイント上回っている。



(外出を控えている方)外出を控えている理由は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「足腰などの痛み」が最も高く、一般高齢者で 52.3%、要支援者・事業対象者で 67.2%となっている。

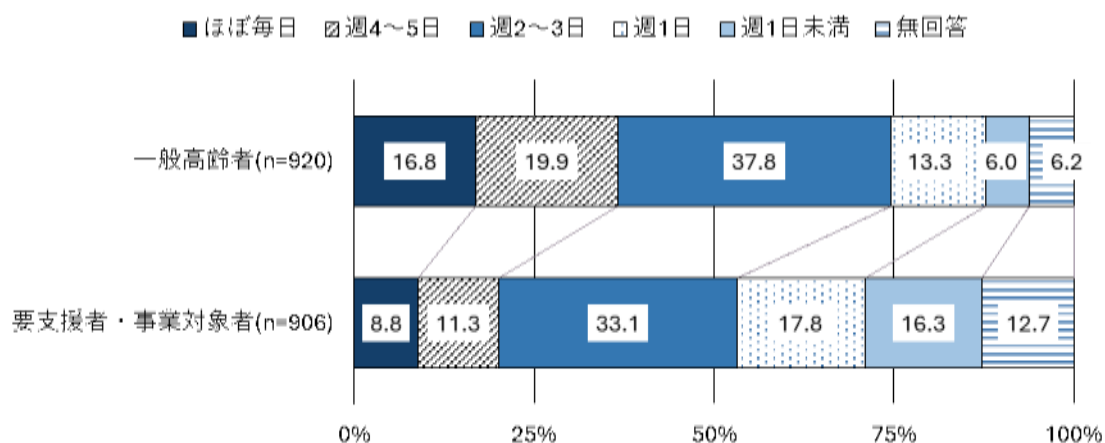
次いで、一般高齢者では「外での楽しみがない」が 16.9%となっており、要支援者・事業対象者では「トイレの心配」が 23.9%となっている。



買い物、散歩で外出する頻度はどのくらいですか。

① 買い物

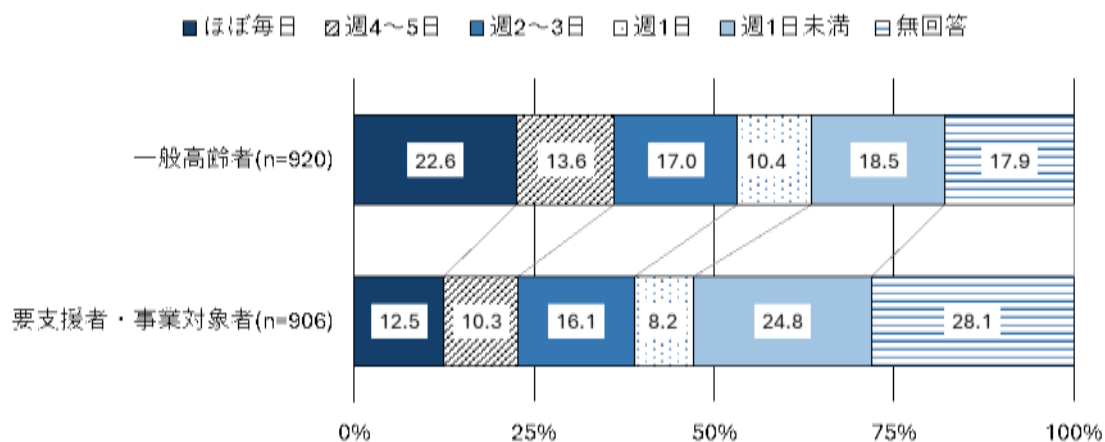
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「週2～3日」が最も高く、一般高齢者で37.8%、要支援者・事業対象者で33.1%となっている。「ほぼ毎日」は一般高齢者が16.8%で、要支援者・事業対象者の8.8%を8.0ポイント上回っている。



② 散歩

一般高齢者では、「ほぼ毎日」が22.6%と最も高く、次いで「週1日未満」が18.5%となっている。

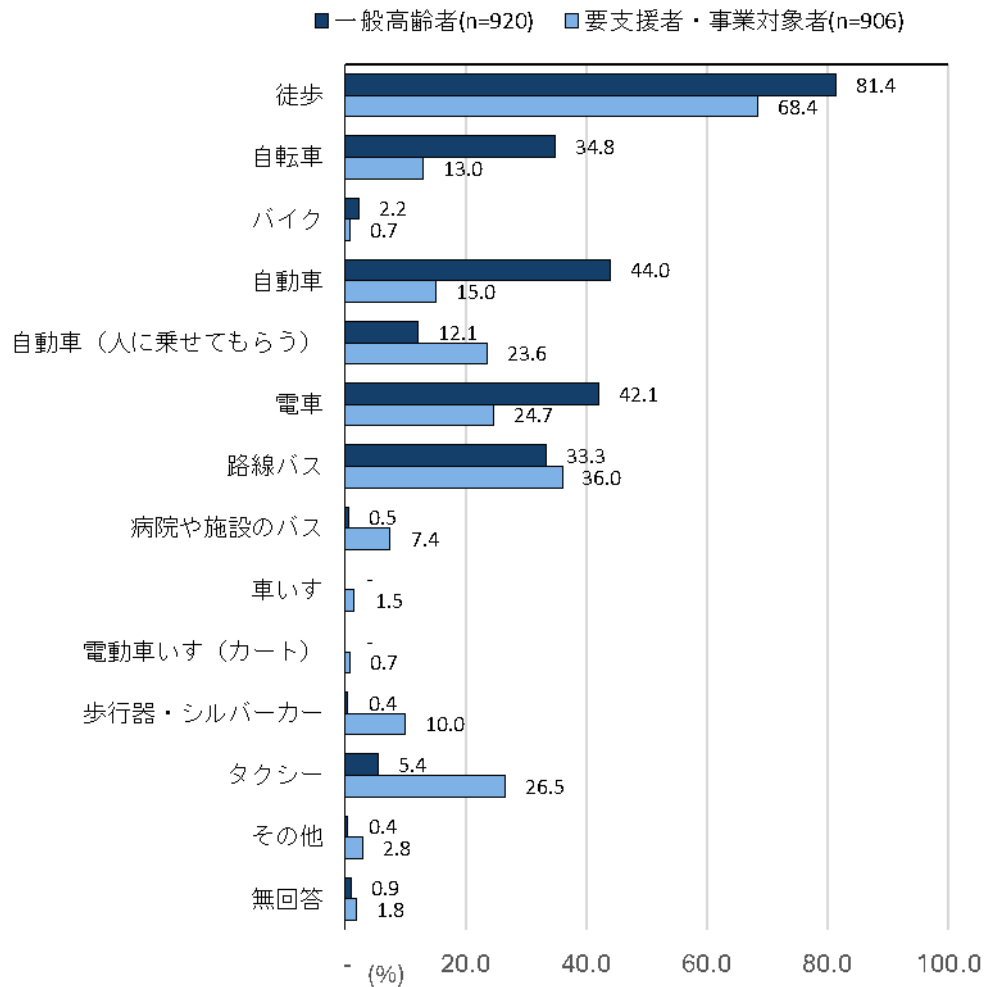
要支援者・事業対象者では、「週1日未満」が24.8%と最も高く、次いで「週2～3日」が16.1%となっている。



(3) 移動手段

外出する際の移動手段は何ですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「徒歩」が最も高く、一般高齢者で 81.4%、要支援者・事業対象者で 68.4%となっている。次いで、一般高齢者では「自動車」が 44.0%、「電車」が 42.1%となっており、要支援者・事業対象者では「路線バス」が 36.0%、「タクシー」が 26.5%となっている。



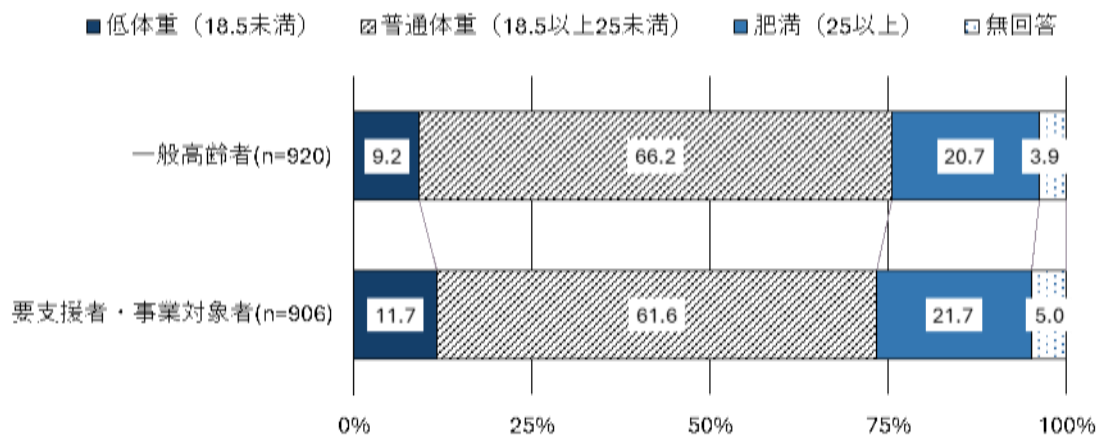
3. 食べることについて

(1) BMI

身長・体重を教えてください。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「普通体重」が最も高く、一般高齢者で 66.2%、要支援者・事業対象者で 61.6%となっている。

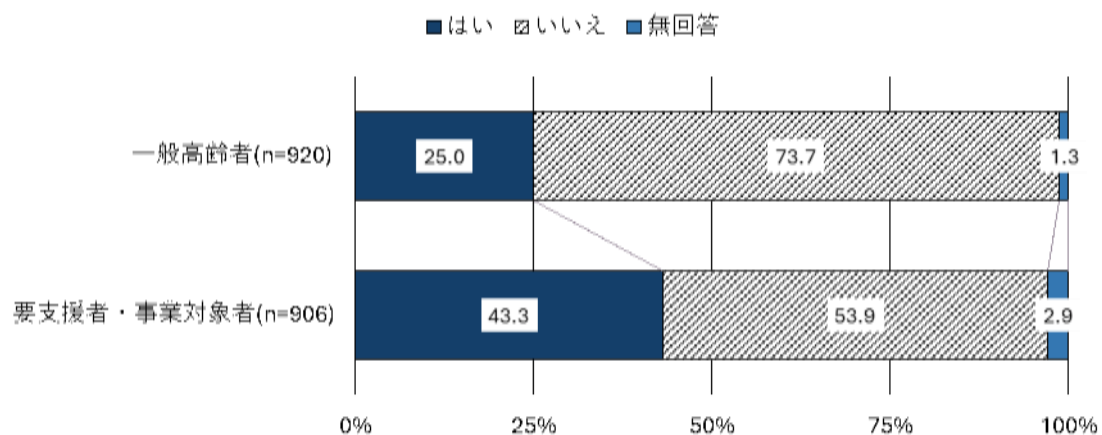
「低体重」は要支援者・事業対象者が 11.7%で、一般高齢者の 9.2%を 2.5 ポイント上回っている。



(2) 口腔機能の状況

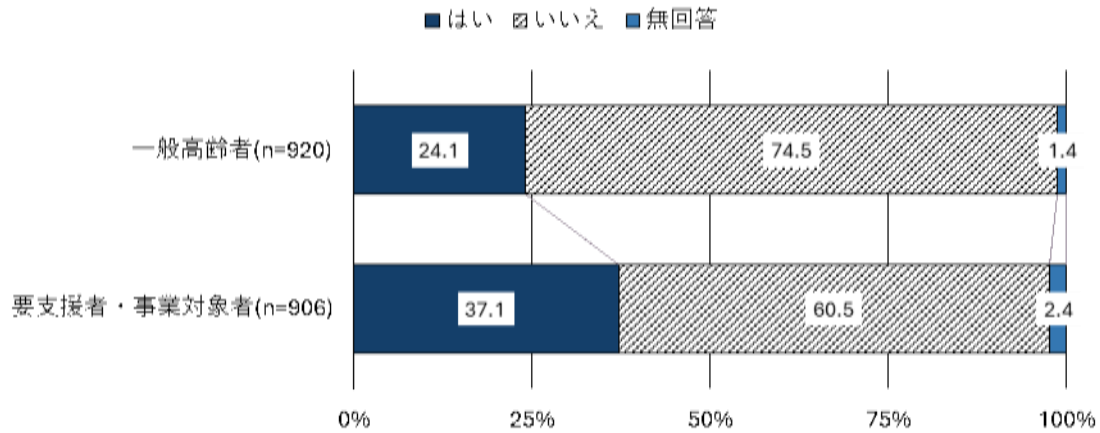
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

要支援者・事業対象者の「はい」が 43.3%で、一般高齢者の 25.0%を 18.3 ポイント上回っている。



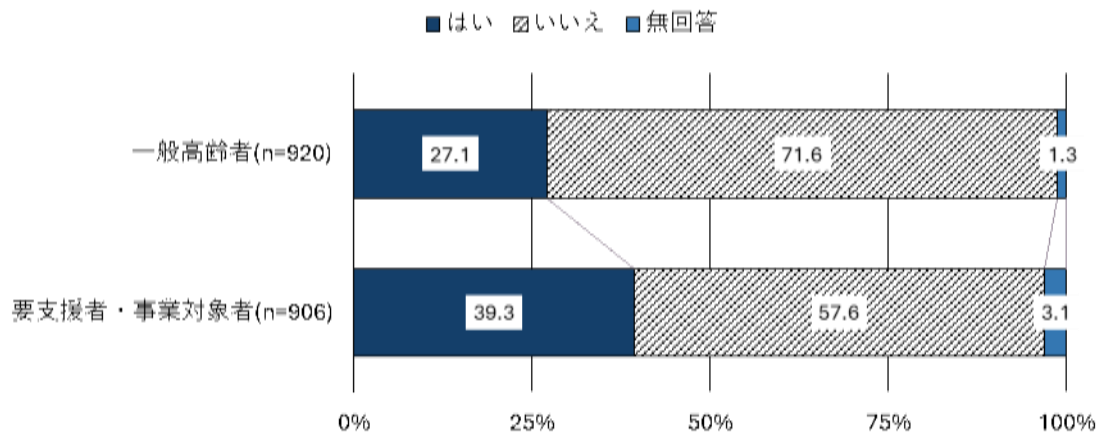
お茶や汁物等でむせることがありますか。

「はい」は要支援者・事業対象者が 37.1%で、一般高齢者の 24.1%を 13.0 ポイント上回っている。



口の渇きが気になりますか。

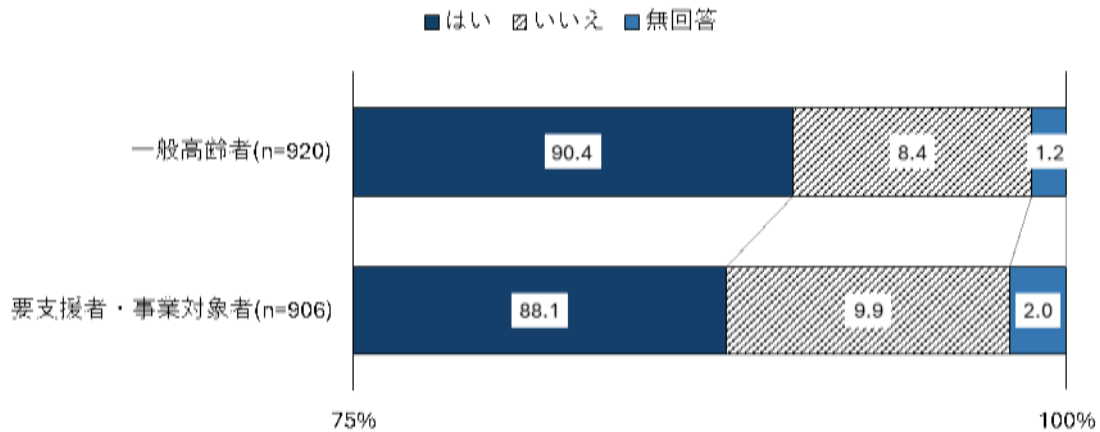
「はい」は要支援者・事業対象者が 39.3%で、一般高齢者の 27.1%を 12.2 ポイント上回っている。



(3) 口腔ケアの状況

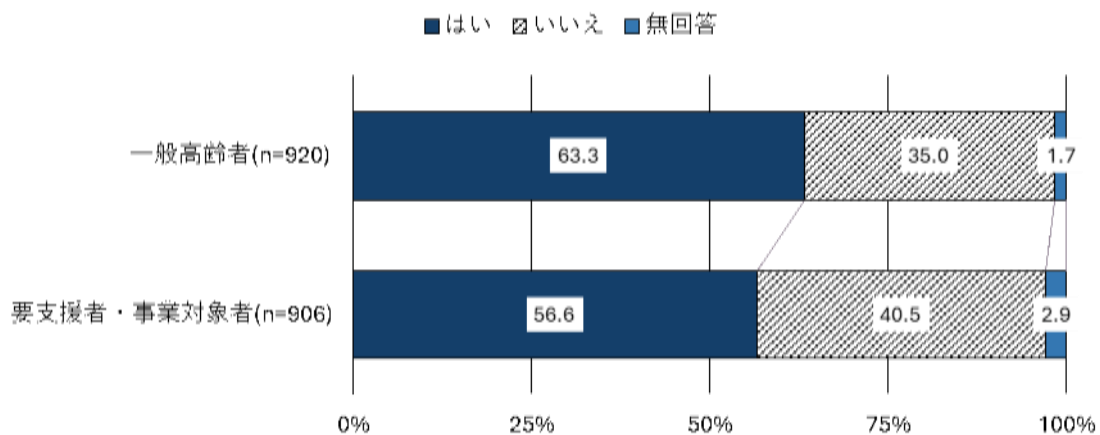
歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が最も高く、一般高齢者で 90.4%、要支援者・事業対象者で 88.1%となっている。



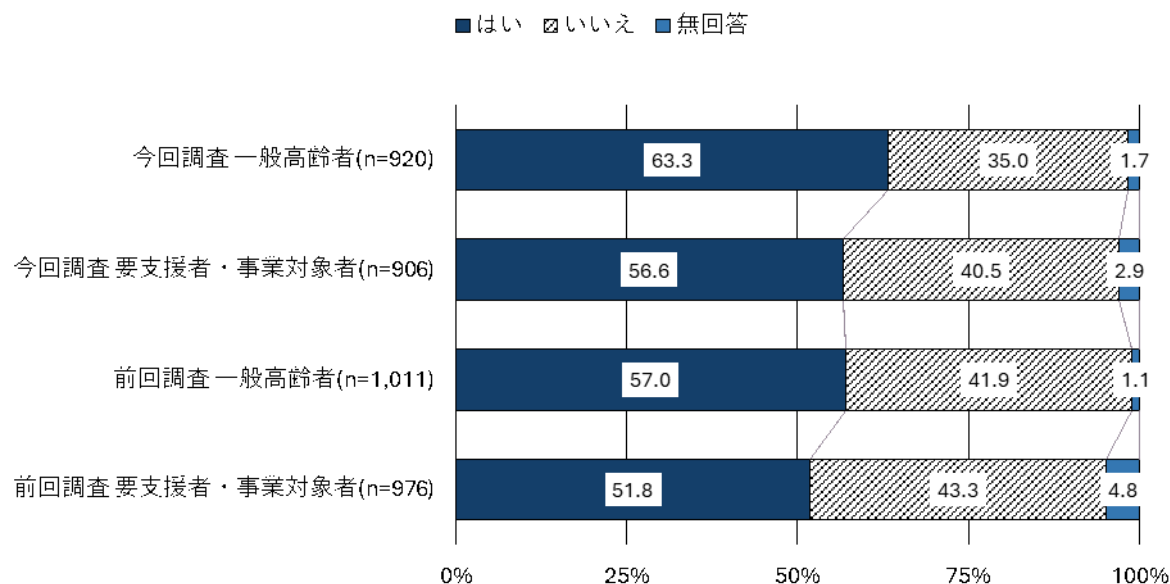
定期的に歯科受診(※健診を含む)をしていますか。

「はい」は一般高齢者が 63.3%で、要支援者・事業対象者の 56.6%を 6.7 ポイント上回っている。



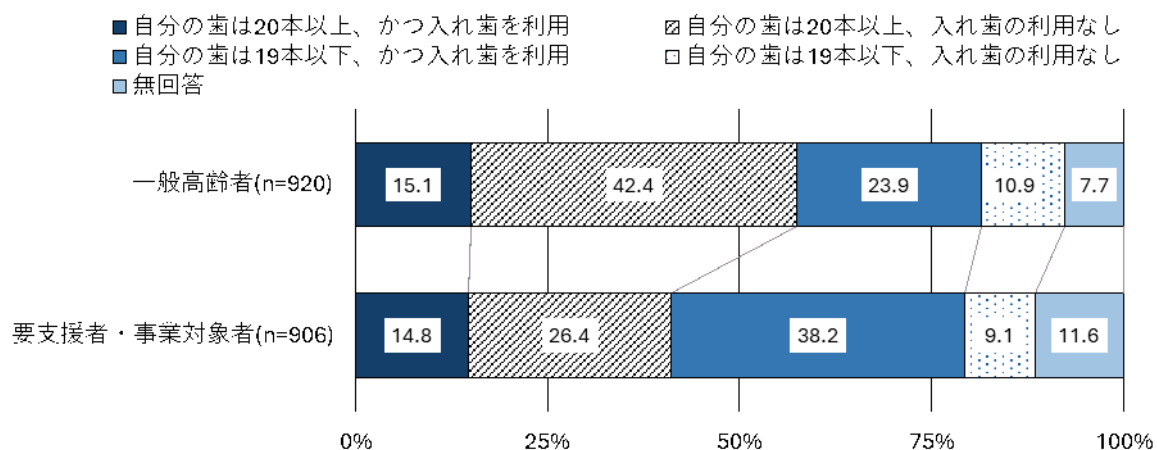
【経年比較】

前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに受診率が5ポイント前後上昇している。



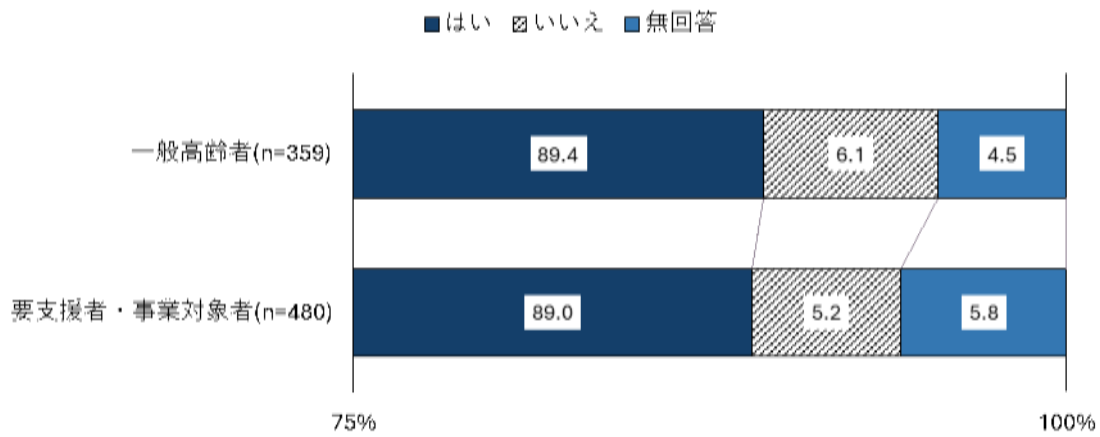
歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

一般高齢者では、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が42.4%と最も高く、要支援者・事業対象者では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が38.2%と最も高くなっている。



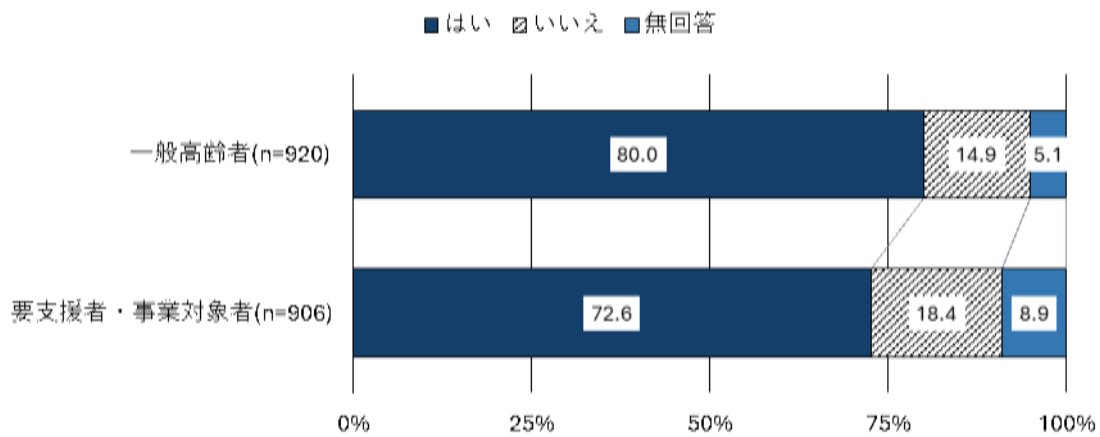
(入れ歯を利用している方)毎日入れ歯の手入れをしていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が約9割となっている。



噛み合わせは良いですか。

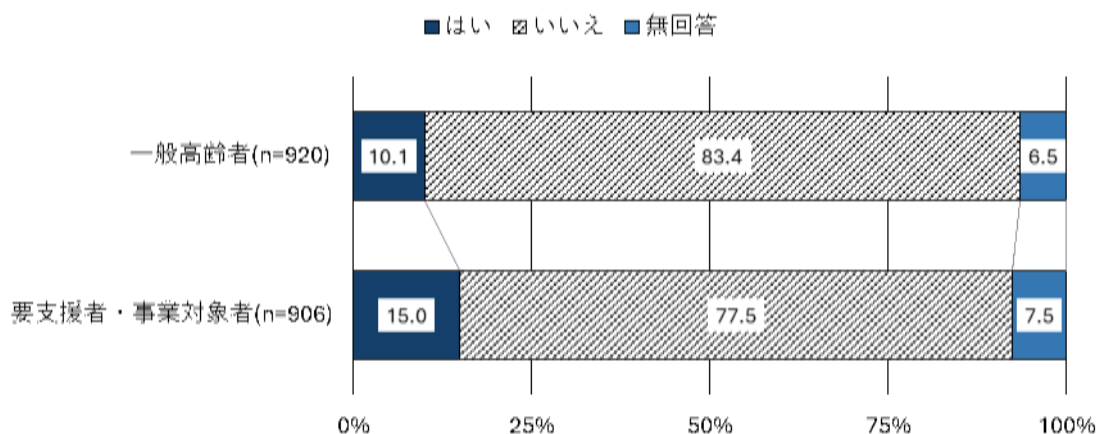
「はい」は一般高齢者が80.0%で、要支援者・事業対象者の72.6%を7.4ポイント上回っている。



(4) 体重減少の状況

6 か月で 2～3kg の体重減少がありましたか。

「はい」は要支援者・事業対象者が 15.0%で、一般高齢者の 10.1%を 4.9 ポイント上回っている。

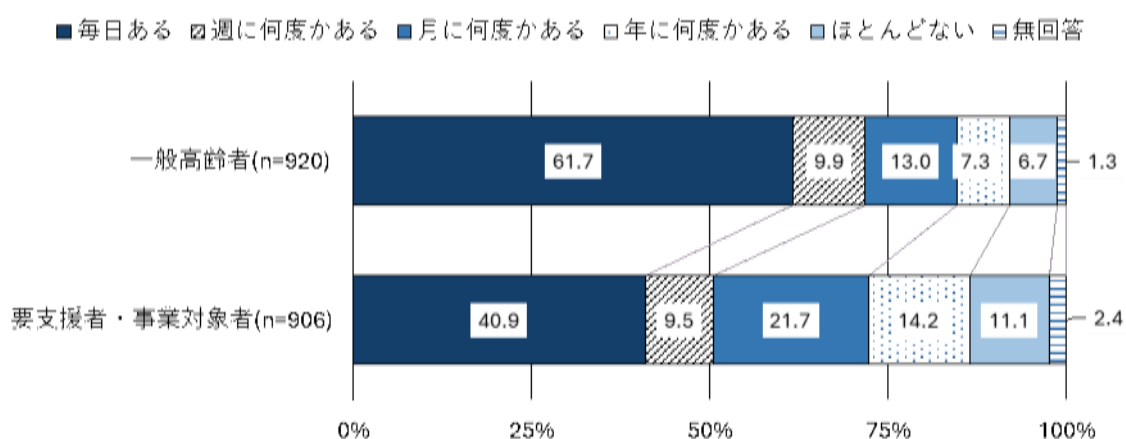


(5) 共食の状況

どなたかと食事をとにもする機会がありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「毎日ある」が最も高く、一般高齢者で 61.7%、要支援者・事業対象者で 40.9%となっている。

「毎日ある」は一般高齢者が 61.7%で、要支援者・事業対象者の 40.9%を 20.8 ポイント上回っている。



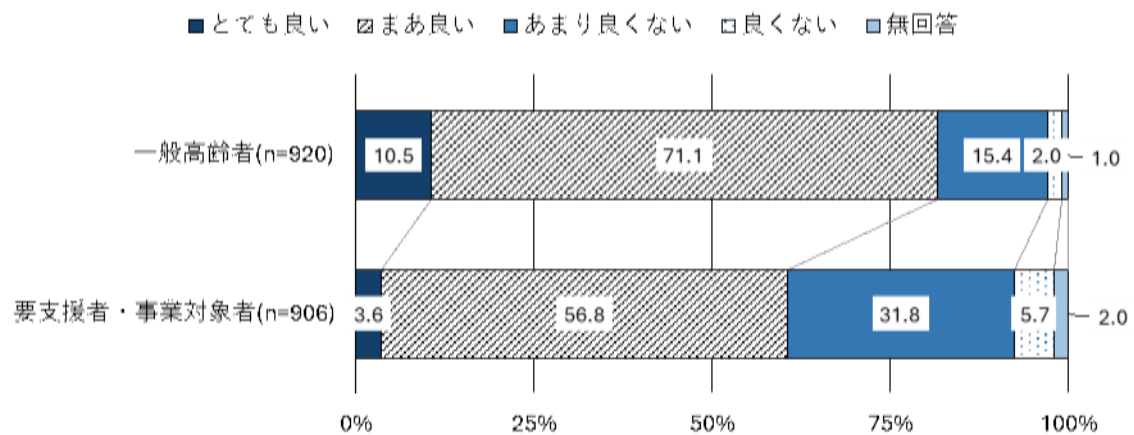
4. 健康について

(1) 主観的健康観

あなたの健康状態はいかがですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「まあ良い」が最も高く、一般高齢者で 71.1%、要支援者・事業対象者で 56.8%となっている。

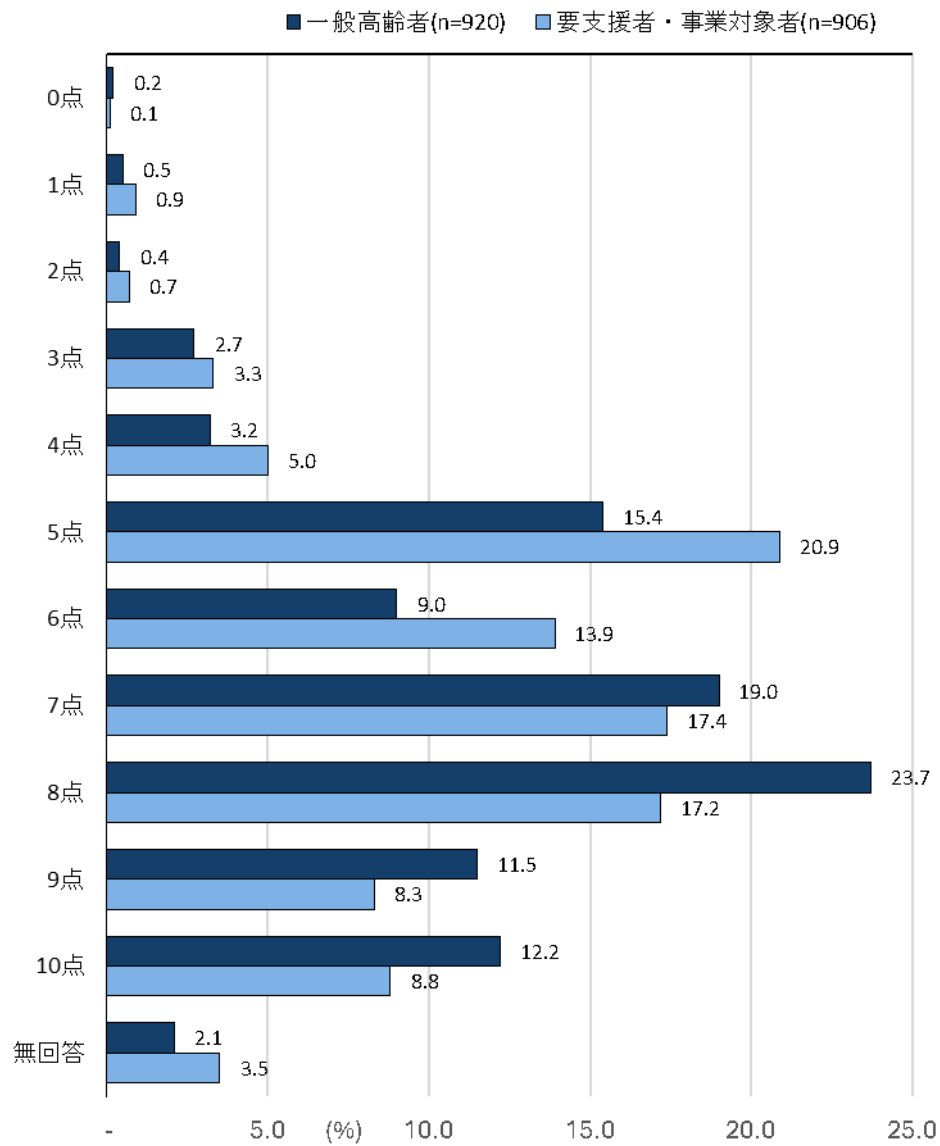
「あまり良くない」は要支援者・事業対象者が 31.8%で、一般高齢者の 15.4%を 16.4 ポイント上回っている。



(2) 主観的幸福感

あなたは、現在どの程度幸せですか。

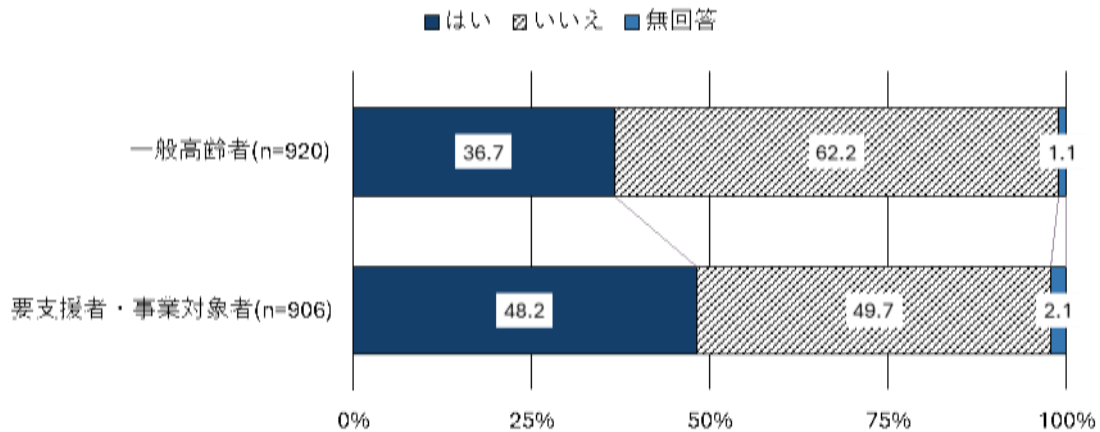
一般高齢者では「8点」が23.7%と最も高く、要支援者・事業対象者では「5点」が20.9%と最も高くなっている。



(3) うつ傾向

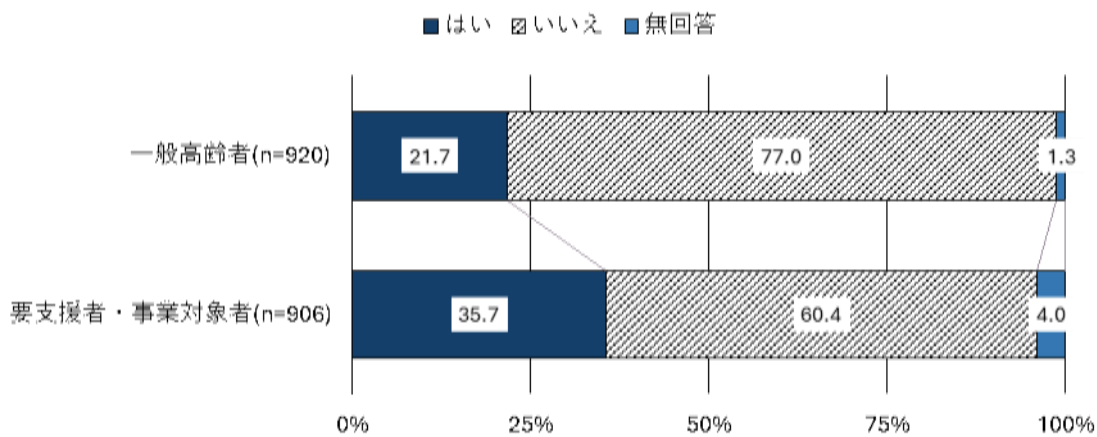
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

「はい」は要支援者・事業対象者が48.2%で、一般高齢者の36.7%を11.5ポイント上回っている。



この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

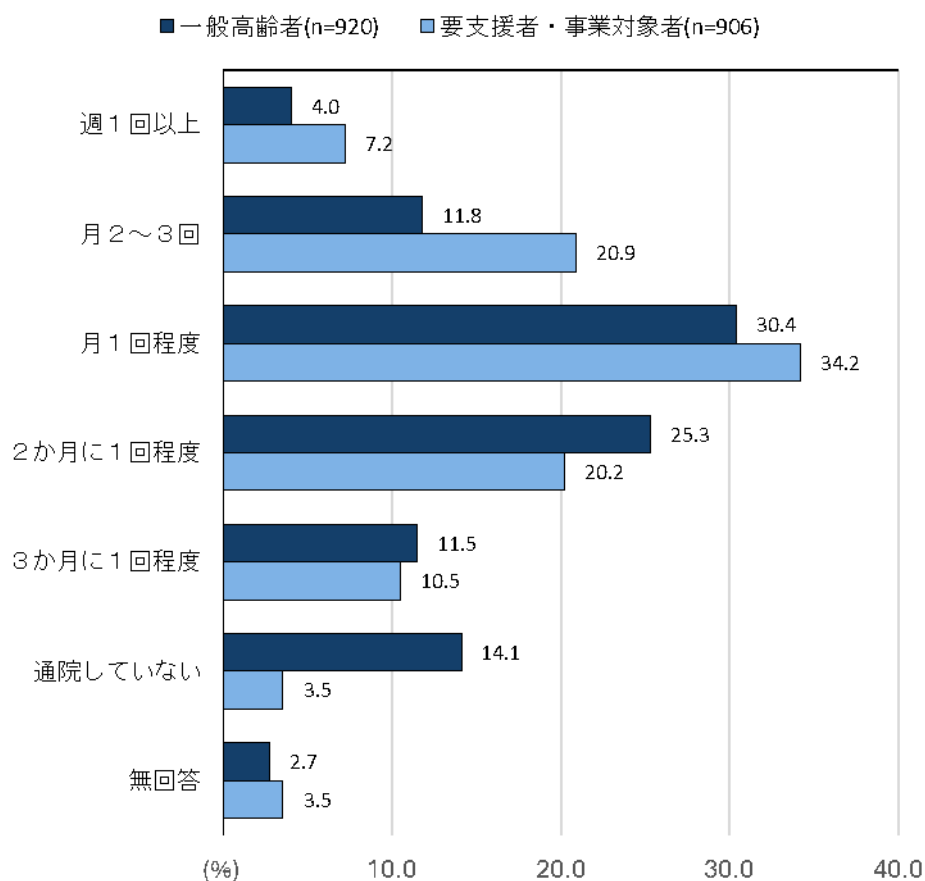
「はい」は要支援者・事業対象者が35.7%で、一般高齢者の21.7%を14.0ポイント上回っている。



(4) 通院の状況

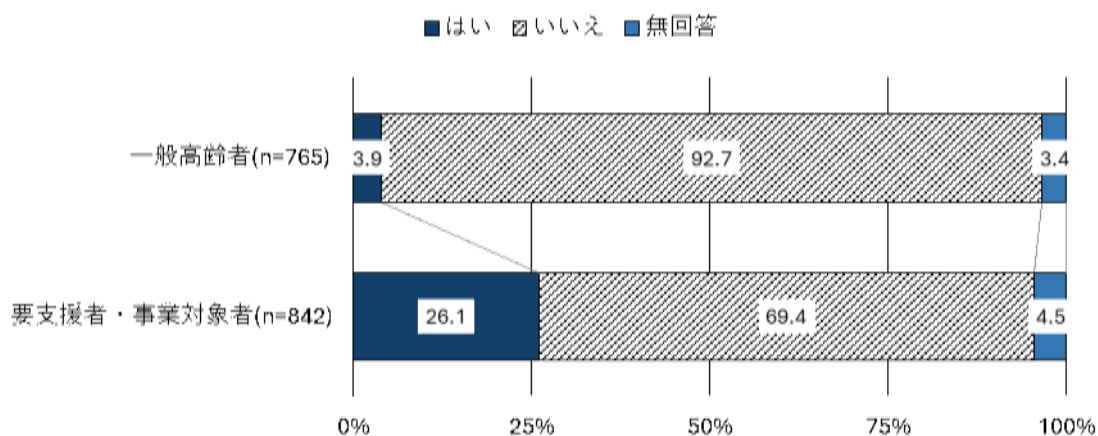
現在、病院・医院(診療所・クリニック)に通院していますか。また、その頻度はどれくらいですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「月1回程度」が最も高く、一般高齢者で30.4%、要支援者・事業対象者で34.2%となっている。



(通院している方)通院に介助が必要ですか。

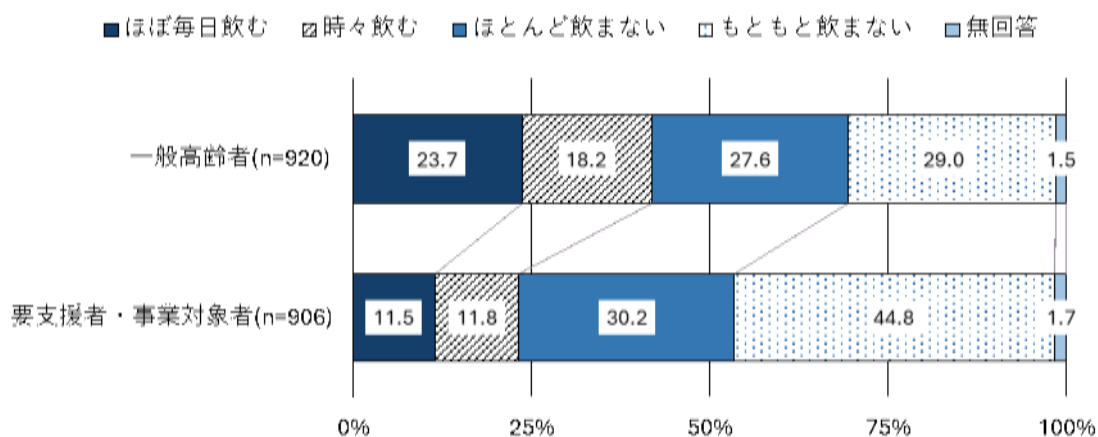
「はい」は要支援者・事業対象者が26.1%で、一般高齢者の3.9%を22.2ポイント上回っている。



(5) 飲酒習慣

お酒は飲みますか。

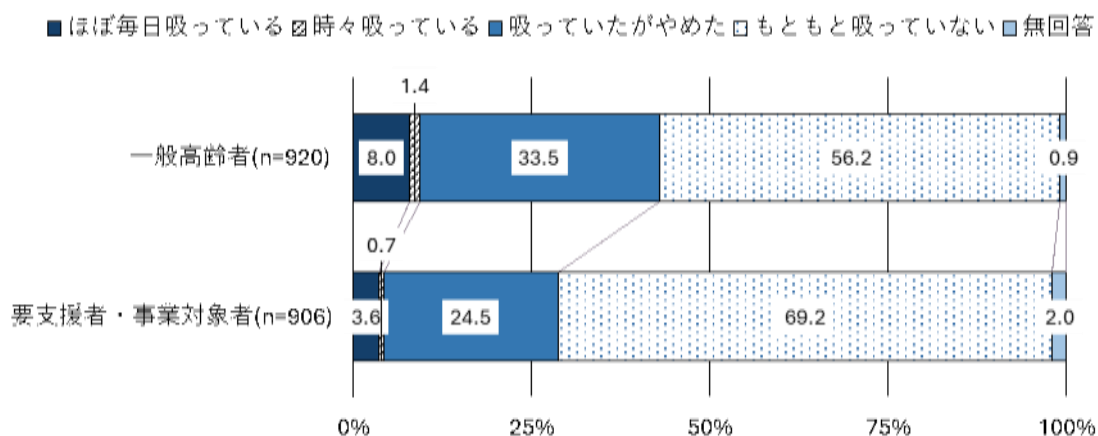
一般高齢者と要支援者・事業対象者でともに「もともと飲まない」が最も高く、一般高齢者では29.0%で要支援者・事業対象者では44.8%となっている。



(6) 喫煙習慣

タバコは吸っていますか。

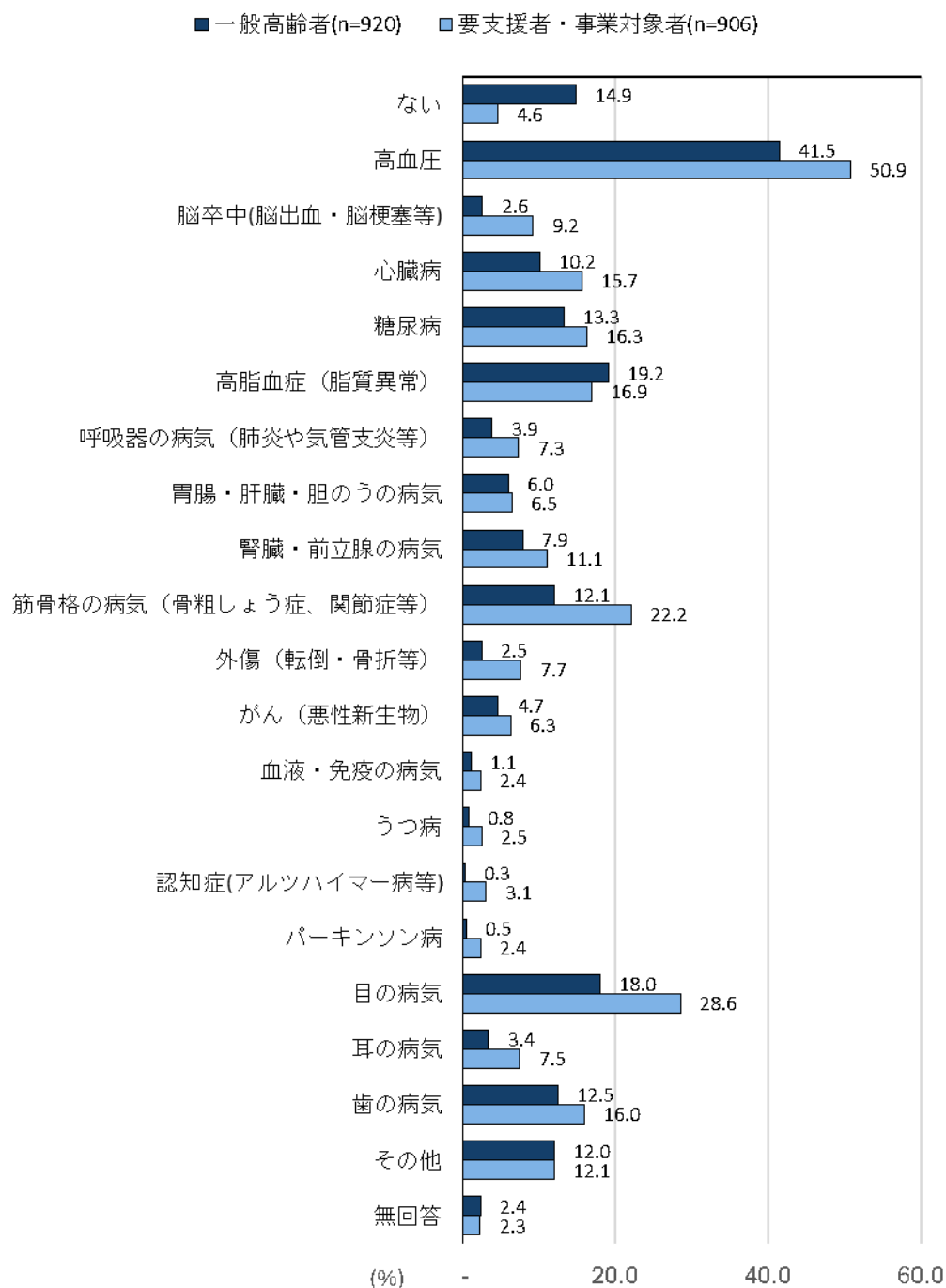
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「もともと吸っていない」が最も高く、一般高齢者で56.2%、要支援者・事業対象者で69.2%となっている。



(7) 治療中や後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(〇はいくつでも)

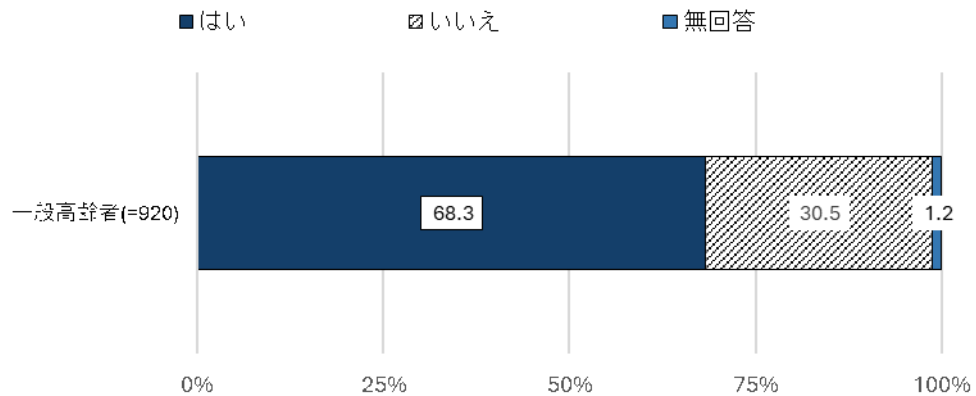
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「高血圧」が最も高く、一般高齢者で 41.5%、要支援者・事業対象者で 50.9%となっており、要支援者・事業対象者が 9.4 ポイント上回っている。次いで、一般高齢者では「高脂血症」が 19.2%、「目の病気」が 18.0%となっており、要支援者・事業対象者では、「目の病気」が 28.6%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が 22.2%となっている。



(8) 健康診査、がん検診の状況(一般高齢者のみ)

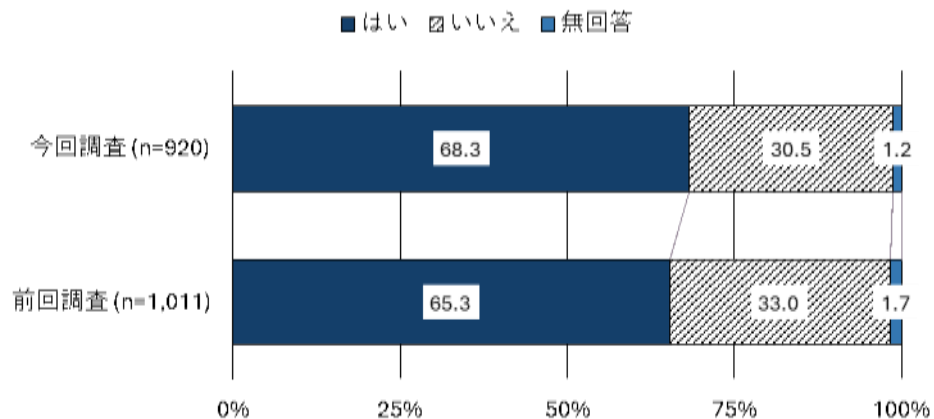
あなたは、1年以内に健康診査を受けましたか。

「はい」が68.3%、「いいえ」が30.5%となっている。



【経年比較】

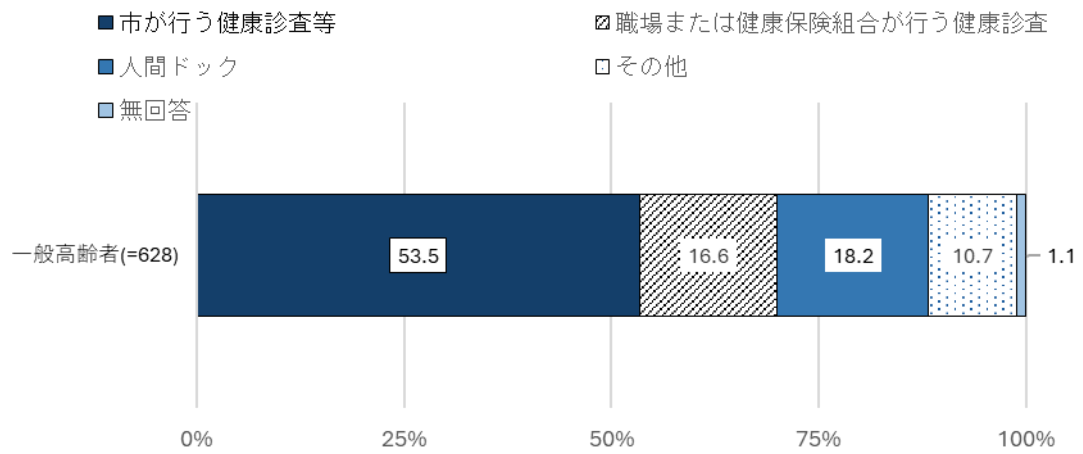
前回調査と比較すると、受診率がわずかに上昇している。



(1年以内に健康診査を受けた方)どちらで健康診査を受けましたか。

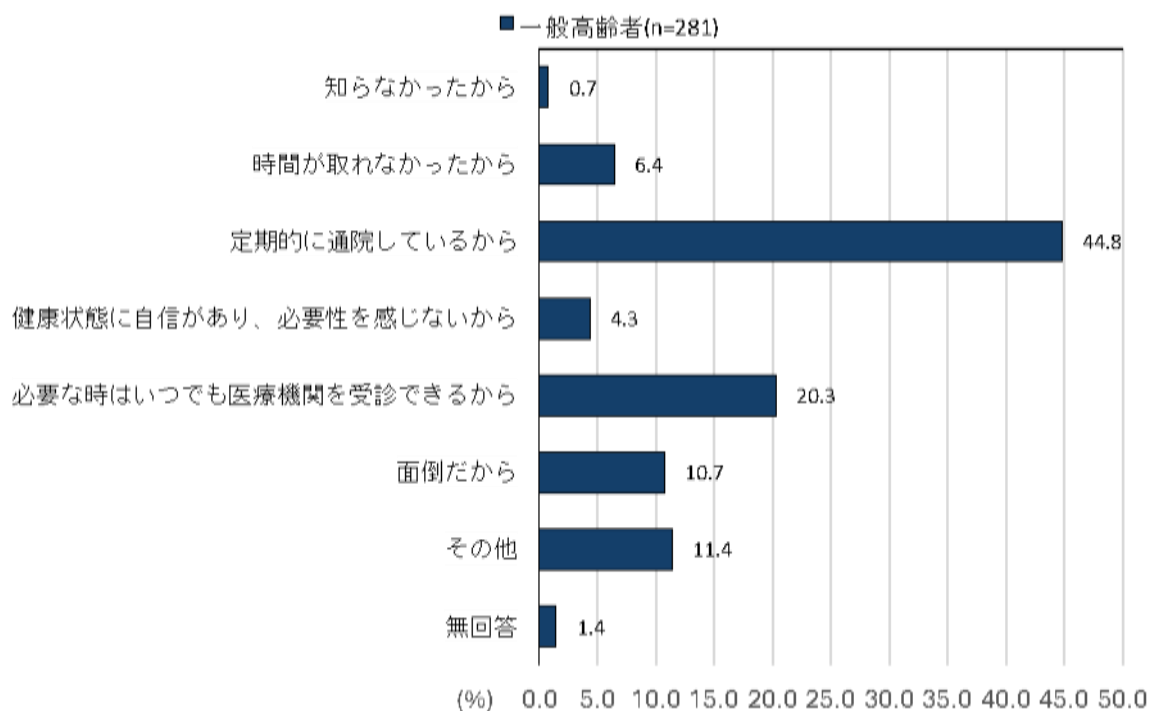
「市が行う健康診査等」が53.5%と最も高く、次いで「人間ドック」18.2%、「職場または健康保険組合」16.6%となっている。

第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果



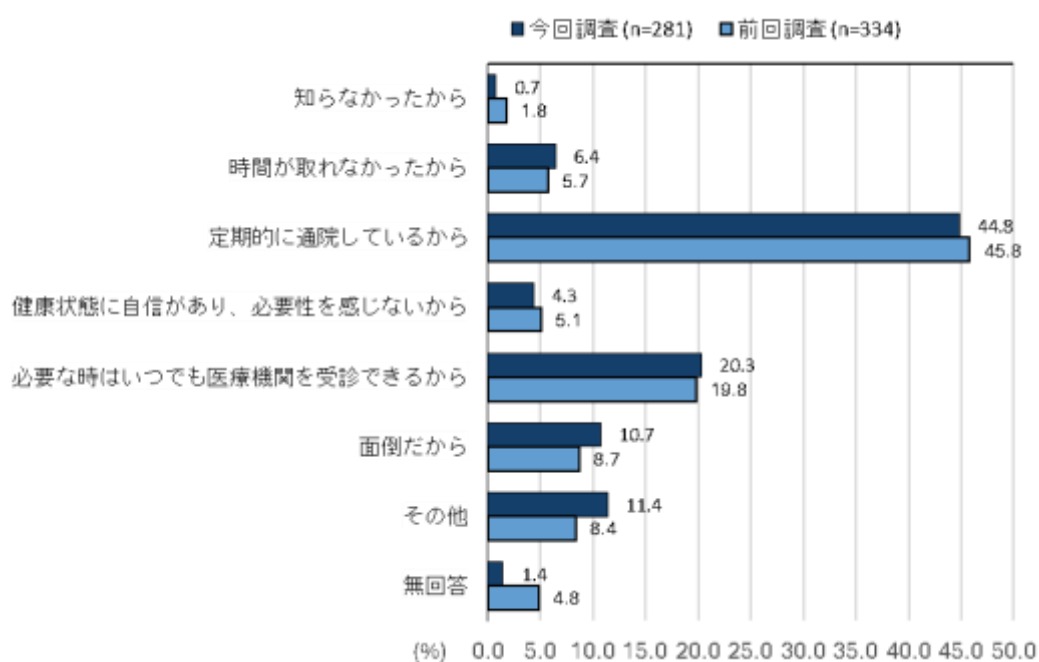
(1年以内に健康診査を受けてない方)健康診査を受けなかった理由は何ですか。

「定期的に通院しているから」が44.8%と最も高く、次いで「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」が20.3%、「面倒だから」が10.7%となっている。



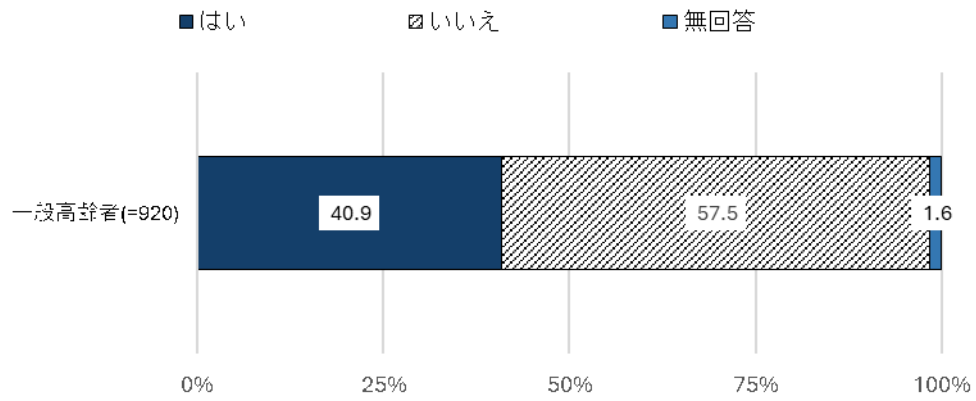
【経年比較】

前回調査と比較しても、大きな差は見られない。



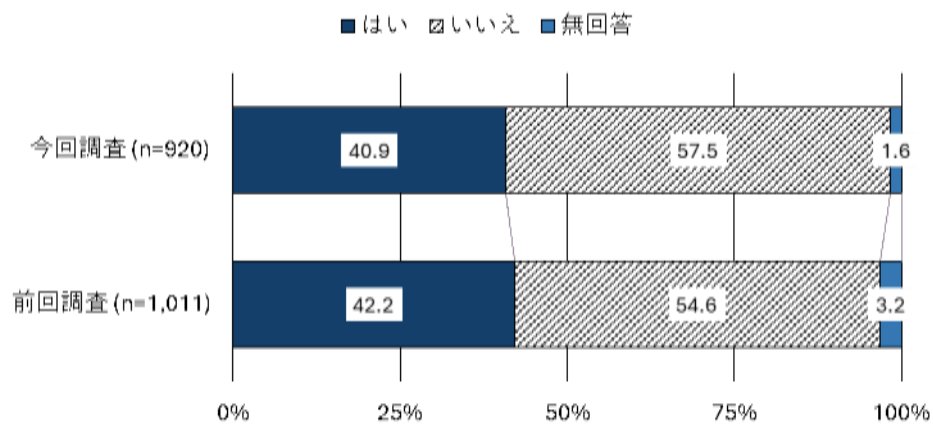
あなたは、1年以内にがん検診を受けましたか。

「受けた」が40.9%、「受けていない」が57.5%となっている。



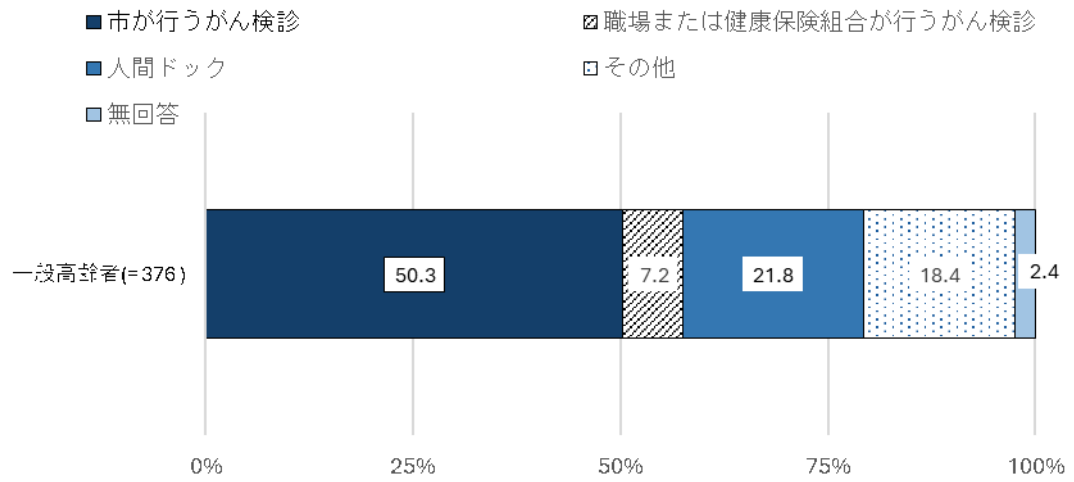
【経年比較】

前回調査と比較すると大きな差は見られないが、受診率がわずかに下がっている。



(1年以内にがん検診を受けた方)どちらでがん検診を受けましたか。

「市が行うがん検診」が50.3%と最も高く、次いで「人間ドック」が21.8%となっている。



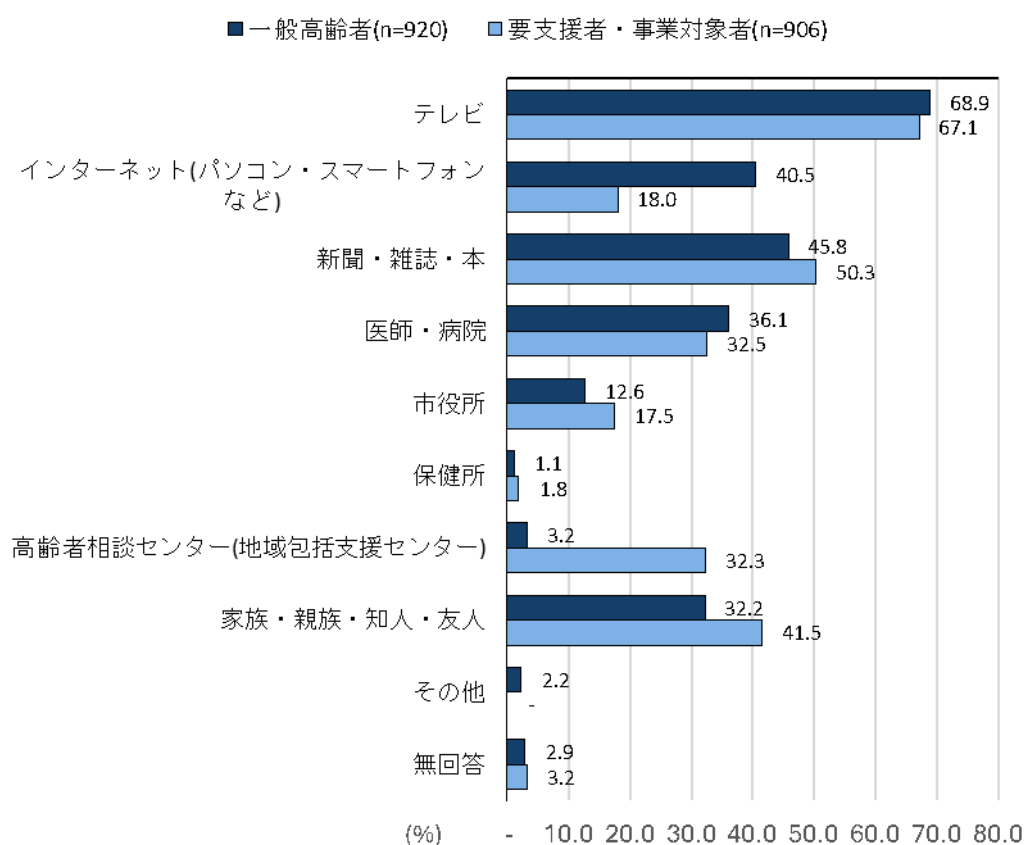
(9) 医療・介護についての知識・情報の入手元

医療や介護についての知識や情報を、何から得ていますか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「テレビ」が最も高く、一般高齢者で 68.9%、要支援者・事業対象者で 67.1%となっている。

また、「インターネット」は一般高齢者で 40.5%、要支援者・事業対象者で 18.0%と、一般高齢者が 22.5 ポイント上回っている。

一方、「高齢者相談センター」は一般高齢者で 3.2%、要支援者・事業対象者で 32.3%と、要支援者・事業対象者が 29.1 ポイント上回っている。

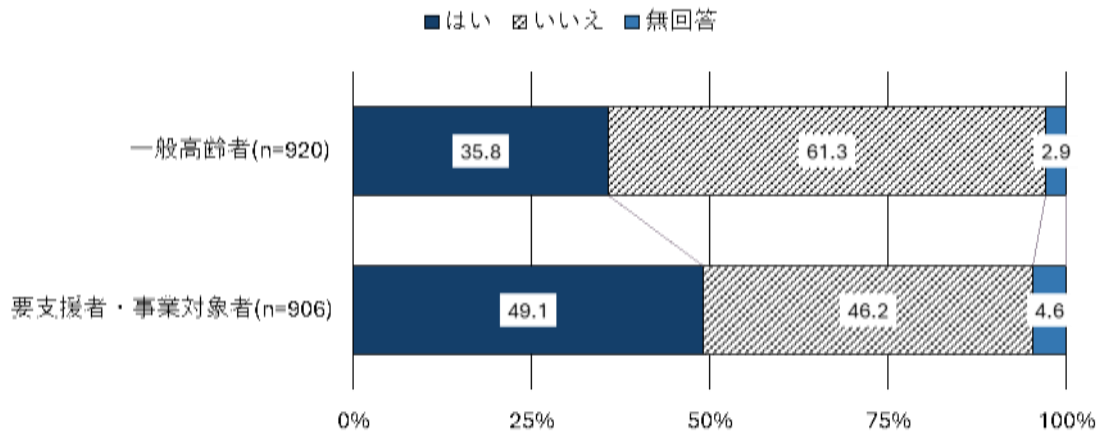


5. 毎日の生活について

(1) 認知機能の状況

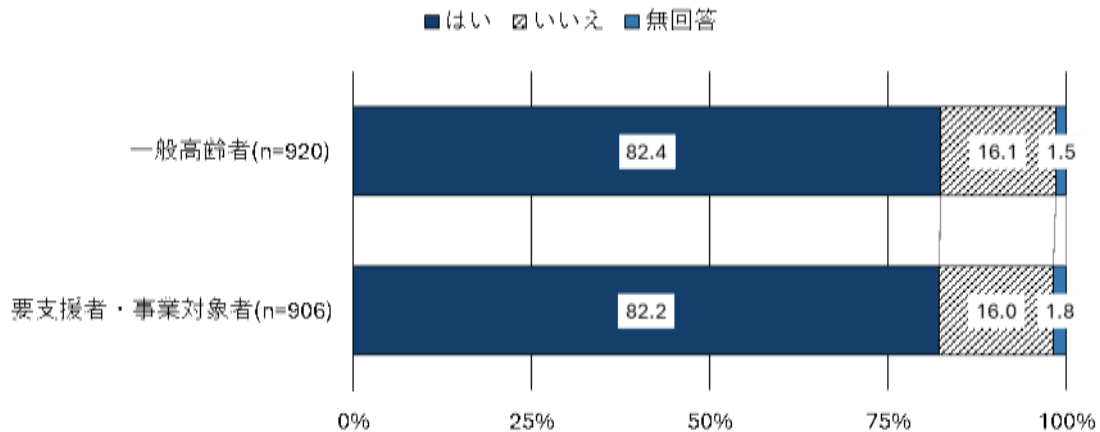
物忘れが多いと感じますか。

一般高齢者では「はい」が35.8%、要支援者・事業対象者では49.1%となっており、要支援者・事業対象者が13.3ポイント上回っている。



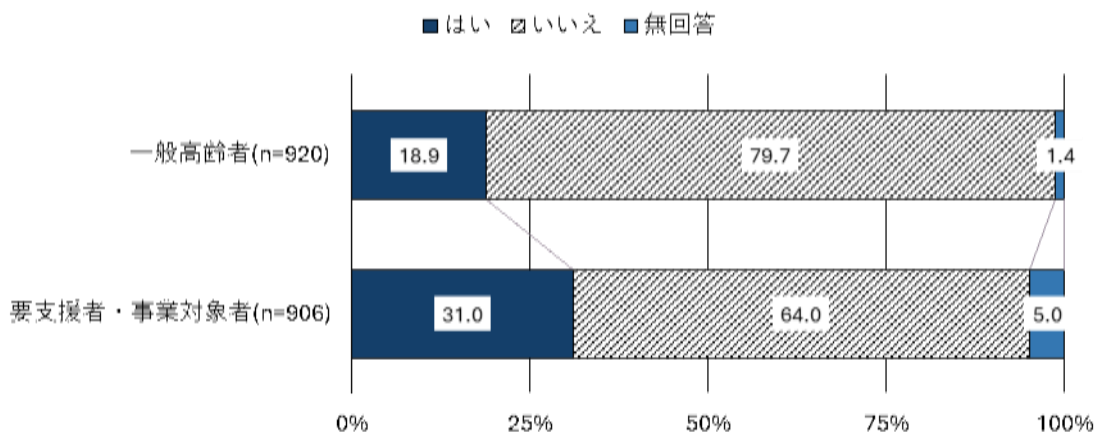
自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が約82%と同程度となっている。



今日が何月何日かわからない時がありますか。

一般高齢者では「はい」が18.9%、要支援者・事業対象者では31.0%となっており、要支援者・事業対象者が12.1ポイント上回っている。

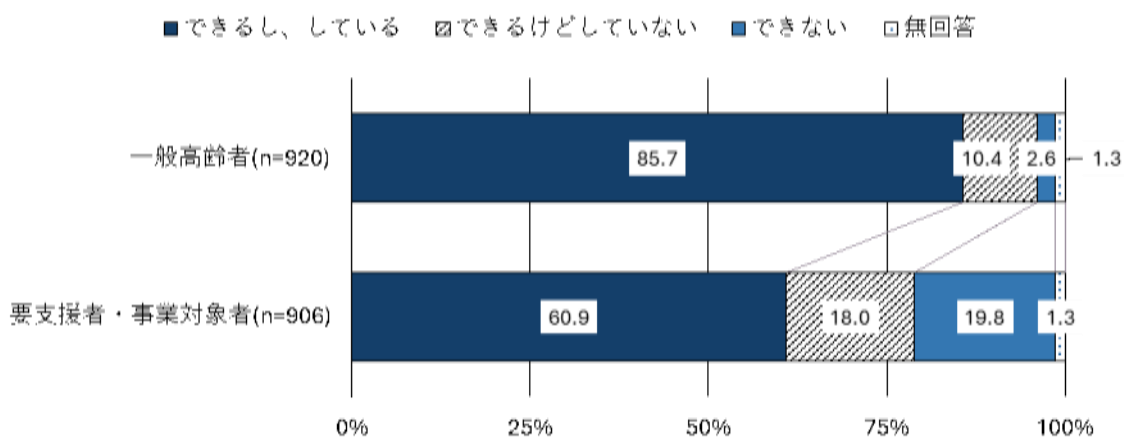


(2) 手段的日常生活動作(IADL)の状況

バスや電車を使って一人で外出していますか(自家用車でも可)。

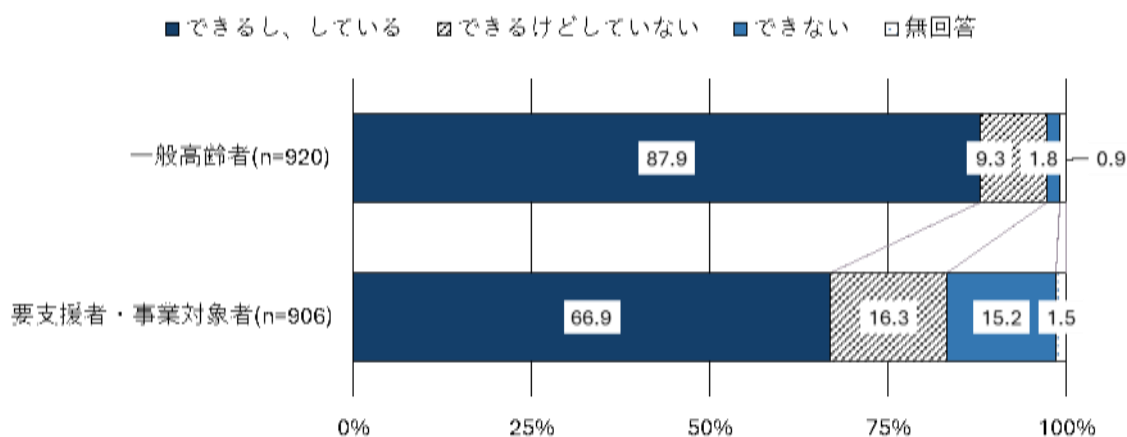
「できるけどしていない」は一般高齢者10.4%に対し、要支援者・事業対象者は18.0%と7.6ポイント上回っている。

一方、「できない」は一般高齢者2.6%に対し、要支援者・事業対象者は19.8%と、17.2ポイント上回っている。



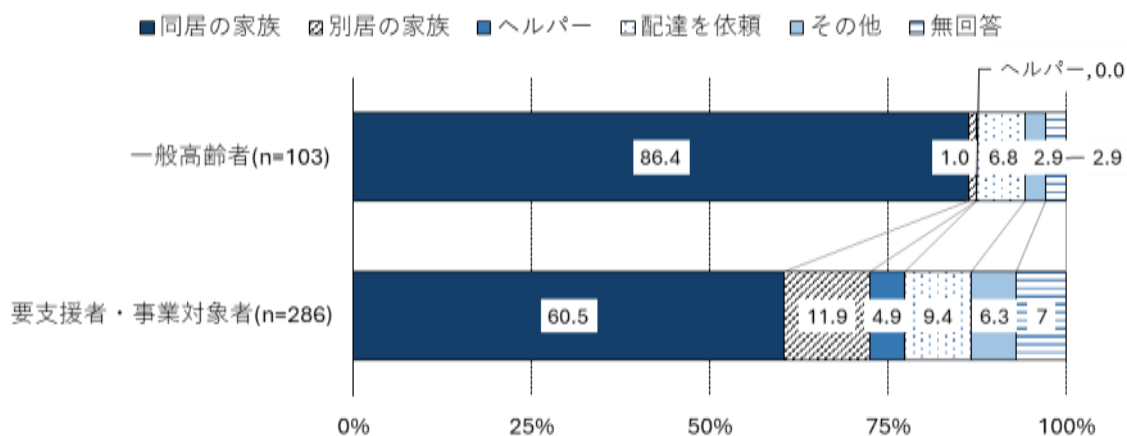
自分で食品・日用品の買い物をしていますか。

「できるけどしていない」は一般高齢者 9.3%に対し要支援者・事業対象者は 16.3%となっており、7 ポイント上回っている。「できない」は一般高齢者 1.8%に対し、要支援者・事業対象者では 15.2%となっており、13.4 ポイント上回っている。



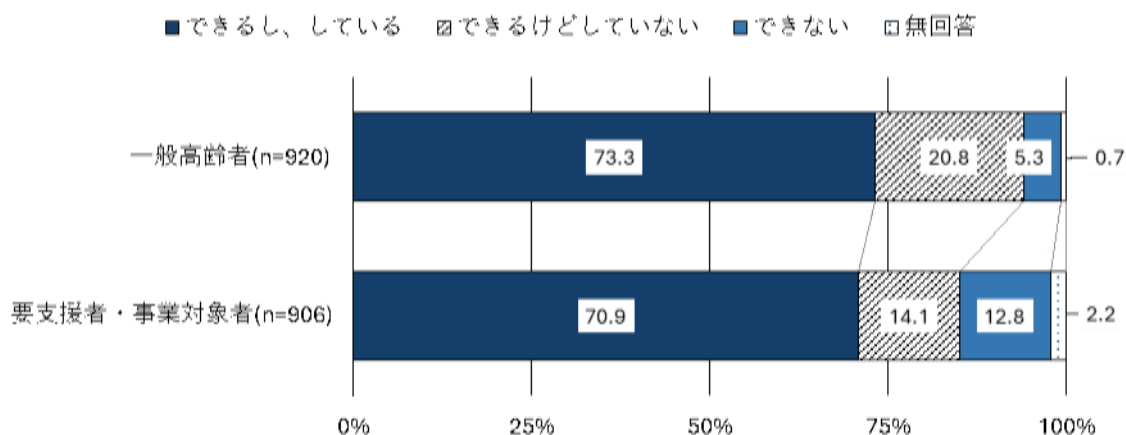
(自分で食品・日用品の買い物をしていない方)食品・日用品の買い物をする人は主にどなたですか。
(○は1つ)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「同居の家族」が最も高く、一般高齢者で 86.4%、要支援者・事業対象者で 60.5%となっており、25.9 ポイントの差がある。要支援者・事業対象者では「別居の家族」、「ヘルパー」、「配達を依頼」の割合が高くなっている。



自分で食事の用意をしていますか。

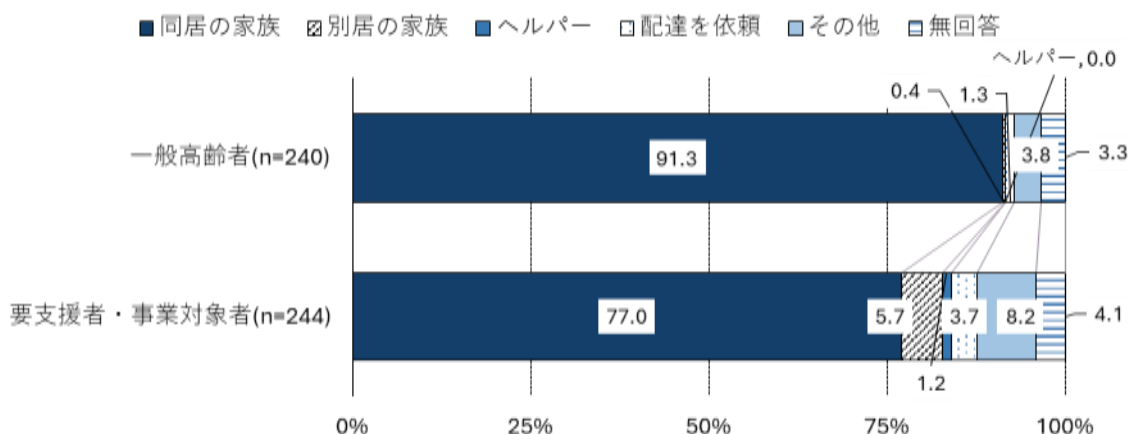
「できるけどしていない」は一般高齢者 20.8%に対し、要支援者・事業対象者は 14.1%と 6.7 ポイントの差がある。「できない」は一般高齢者 5.3%に対し、要支援者・事業対象者では 12.8%となっており、7.5 ポイント上回っている。



(自分で食事の用意をしていない方) 食事の用意をする人は主にどなたですか。

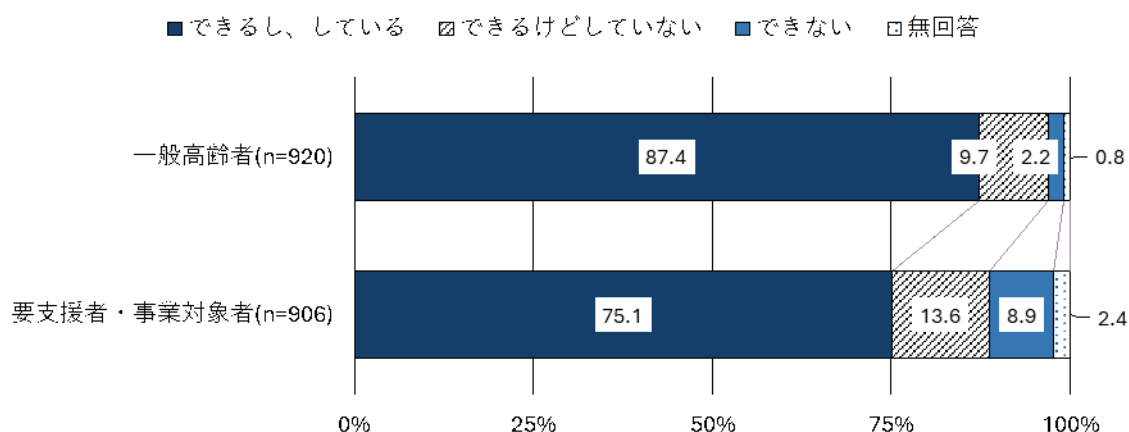
(○はひとつ)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「同居の家族」が最も高く、一般高齢者で 91.3%、要支援者・事業対象者で 77.0%となっている。要支援者・事業対象者は「別居の家族」、「ヘルパー」、「配達を依頼」の割合がそれぞれ高くなっている。



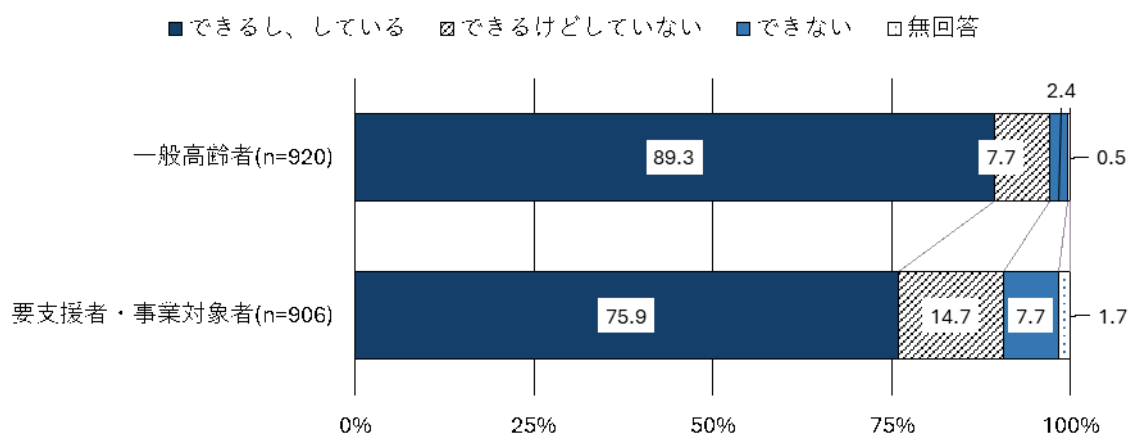
自分で請求書の支払いをしていますか。

「できるけどしていない」は一般高齢者 9.7%に対し要支援者・事業対象者は 13.6%と 3.9 ポイント上回っている。「できない」は一般高齢者 2.2%に対し、要支援者・事業対象者では 8.9%と 6.7 ポイント上回っている。



自分で預貯金の出し入れをしていますか。

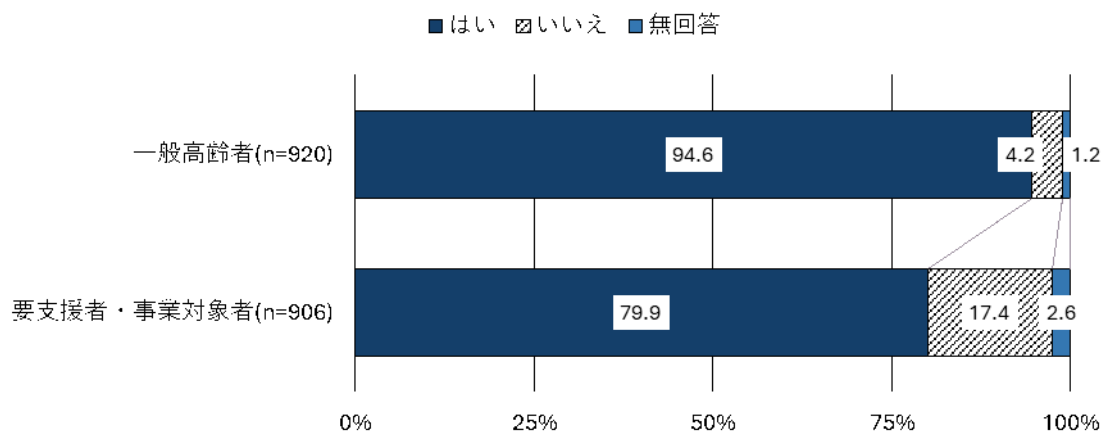
「できるけどしていない」は一般高齢者で 7.7%、要支援者・事業対象者で 14.7%となっており、7 ポイントの差がある。「できない」は一般高齢者 2.4%に対し、要支援者・事業対象者が 7.7%と 5.3 ポイント上回っている。



(3) 知的能動性の状況

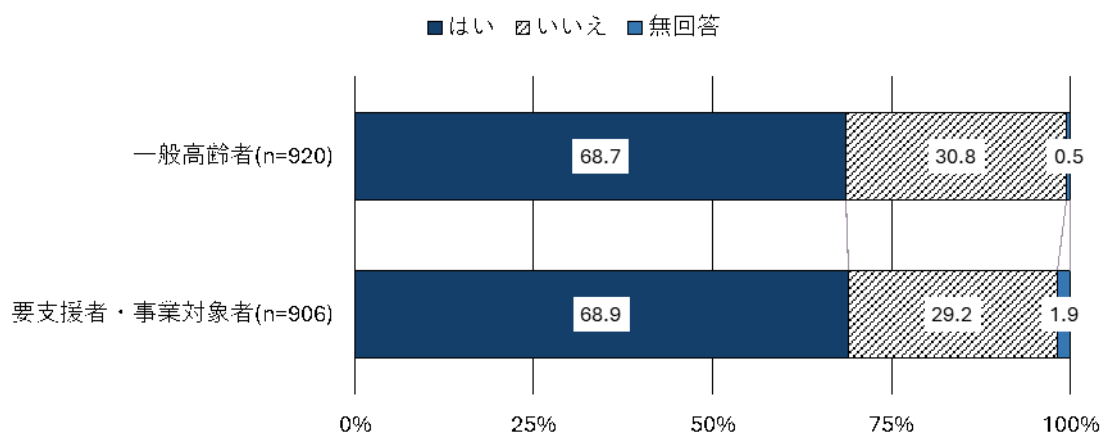
年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「はい」の割合が高い。「いいえ」が一般高齢者 4.2%に対し要支援者・事業対象者が 17.4%と 13.2 ポイント上回っている。



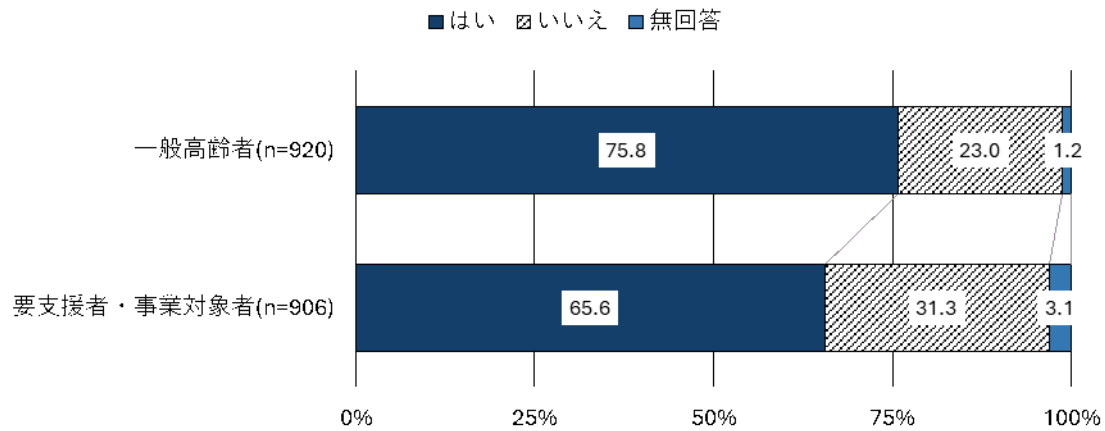
新聞を読んでいますか。

「はい」が一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに 7 割弱となっている。



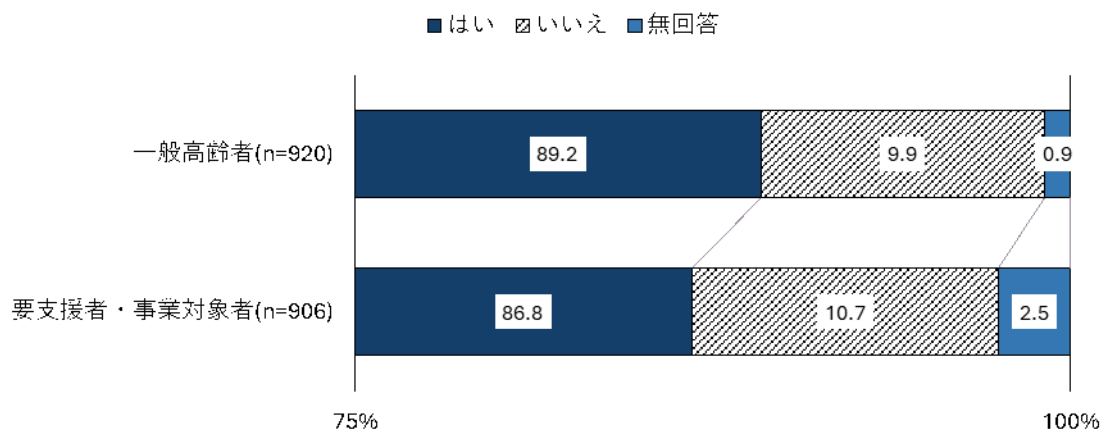
本や雑誌を読んでいますか。

「はい」が一般高齢者で 75.8%、要支援者・事業対象者で 65.6%となっている。



健康についての記事・番組に関心がありますか。

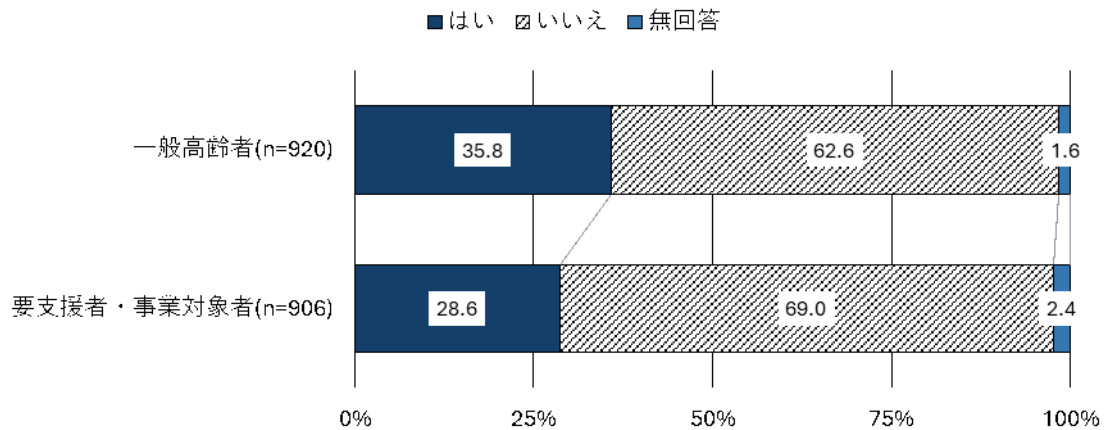
「はい」が一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに 9 割弱となっている。



(4) 他者との関わりの状況

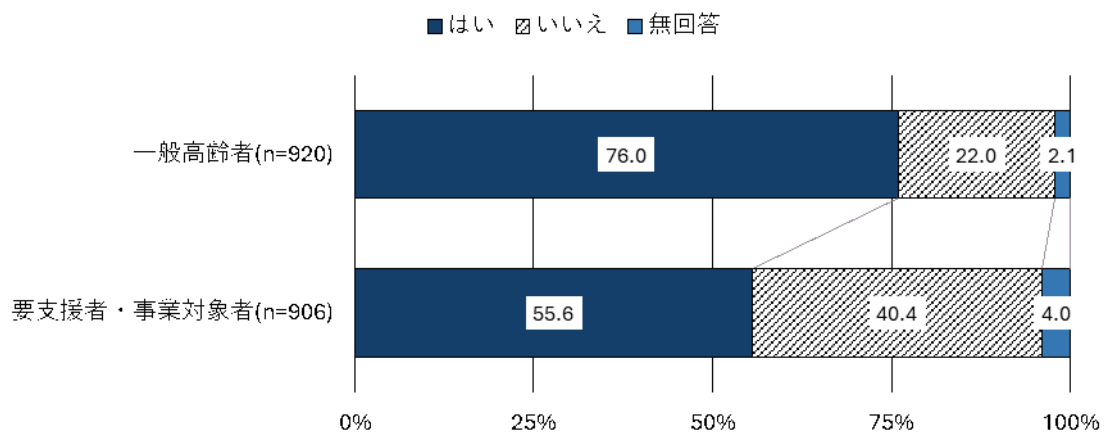
友人の家を訪ねていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「いいえ」が過半数となっており、一般高齢者に対し要支援者・事業対象者が 6.4 ポイント高い。



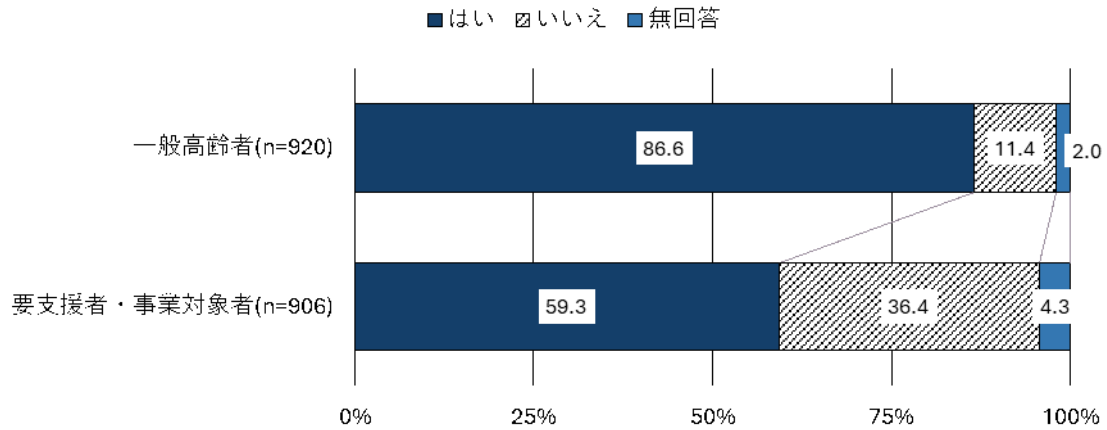
家族や友人の相談にのっていますか。

「はい」が一般高齢者 76.0%に対し要支援者・事業対象者では 55.6%と 20.4 ポイント下回っている。



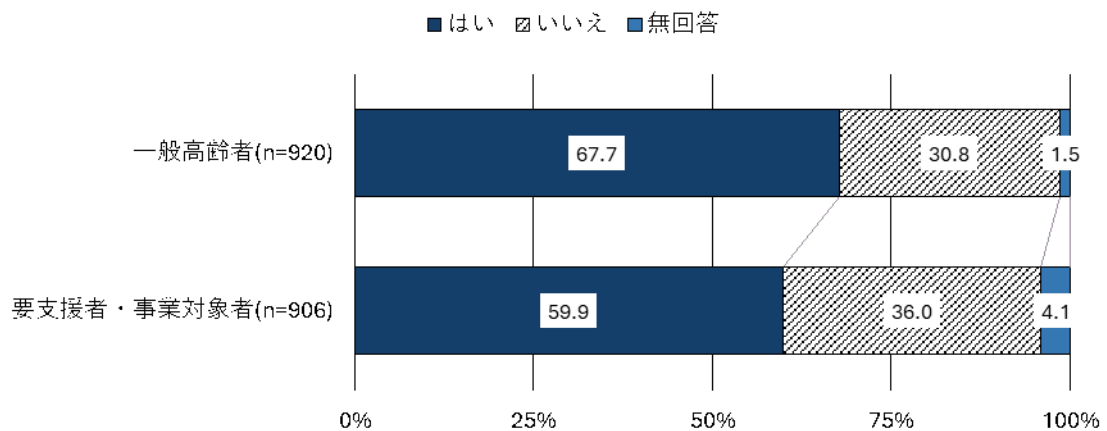
病人を見舞うことができますか。

「はい」が一般高齢者 86.6%に対し、要支援者・事業対象者では 59.3%と 27.3 ポイント下回っている。



若い人に自分から話しかけることがありますか。

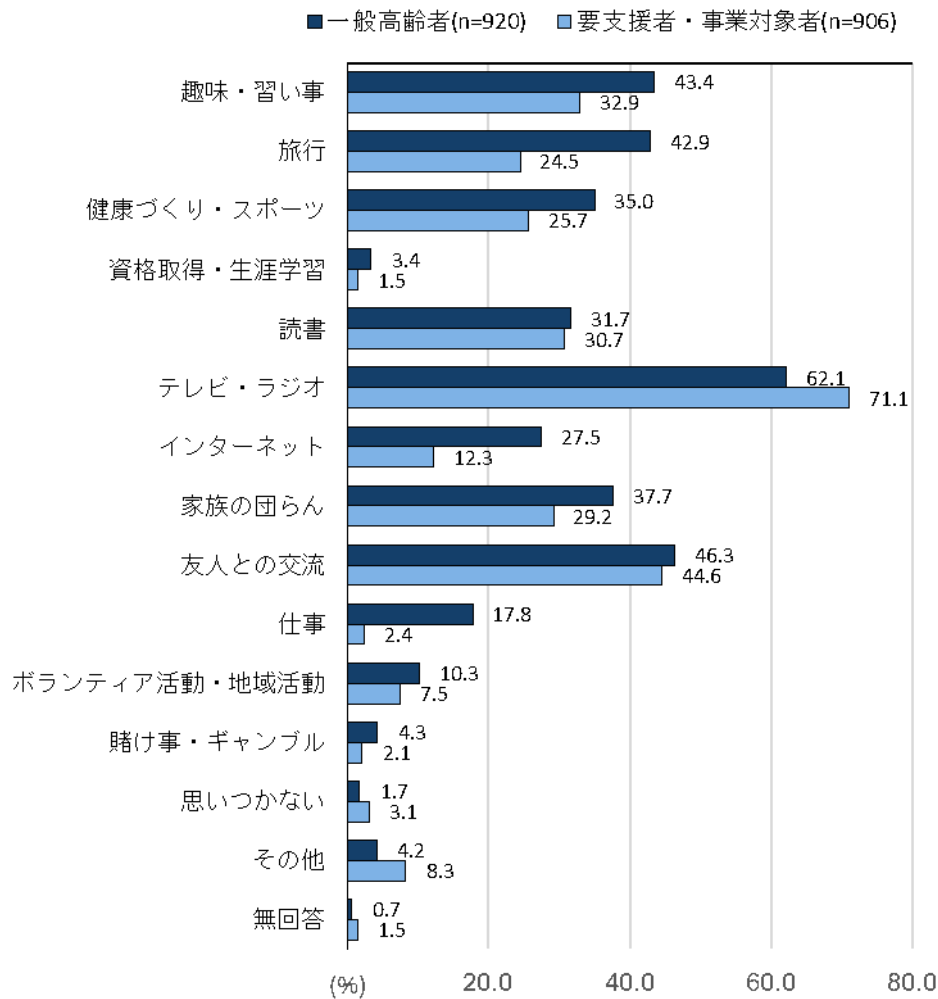
「はい」が一般高齢者 67.7%に対し、要支援者・事業対象者は 59.9%と 7.8 ポイント下回っている。



趣味や生きがいの有無

あなたにとっての楽しみや生きがいはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「テレビ・ラジオ」が最も高く、一般高齢者で 62.1%、要支援者・事業対象者で 71.1%となっている。次いで、「友人との交流」が一般高齢者 46.3%、要支援者・事業対象者は 44.6%となっている。



6. 地域での活動・ボランティアについて

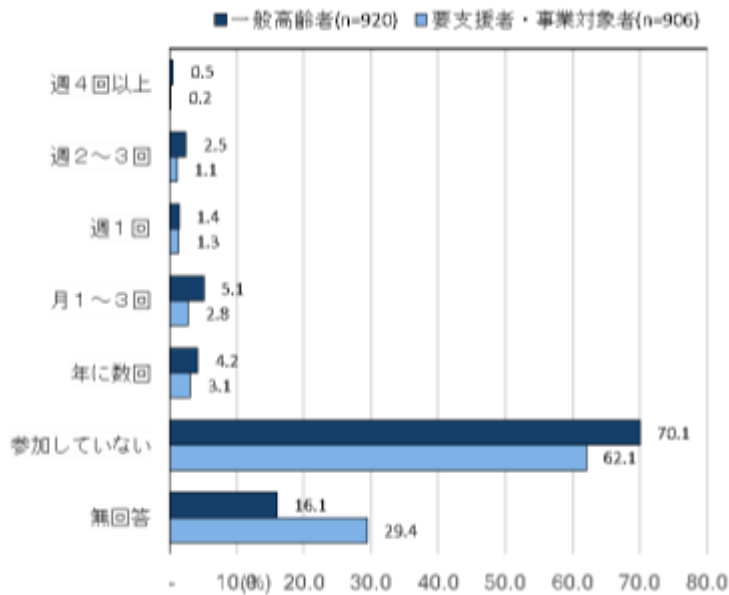
(1) 地域の会・グループ等への参加状況

以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか(個人の活動も含みます)。

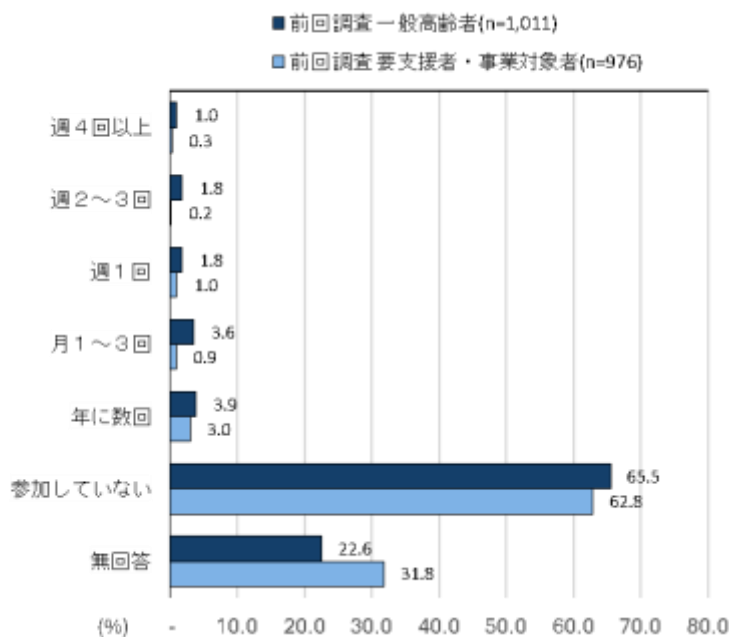
①～⑩のすべての活動で、「参加していない」が過半数を占めている。

① ボランティア

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では13.7%、要支援者・事業対象者は8.5%となっている。

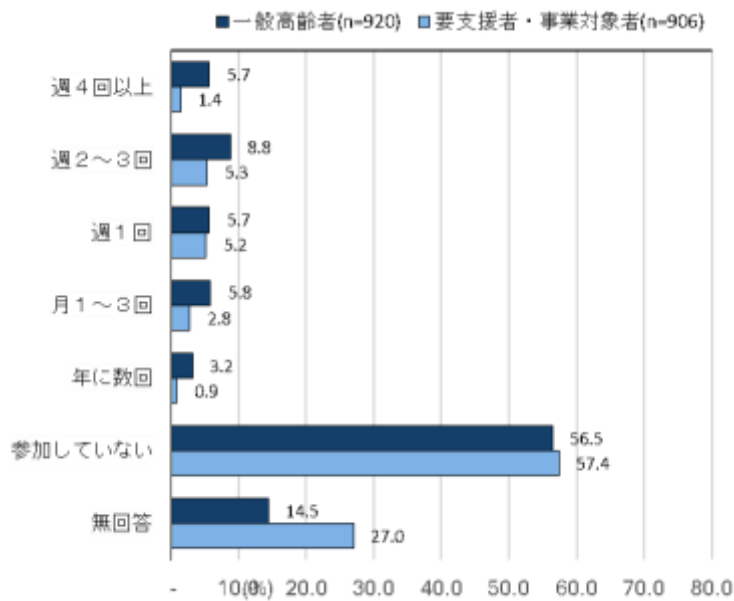


【前回調査】

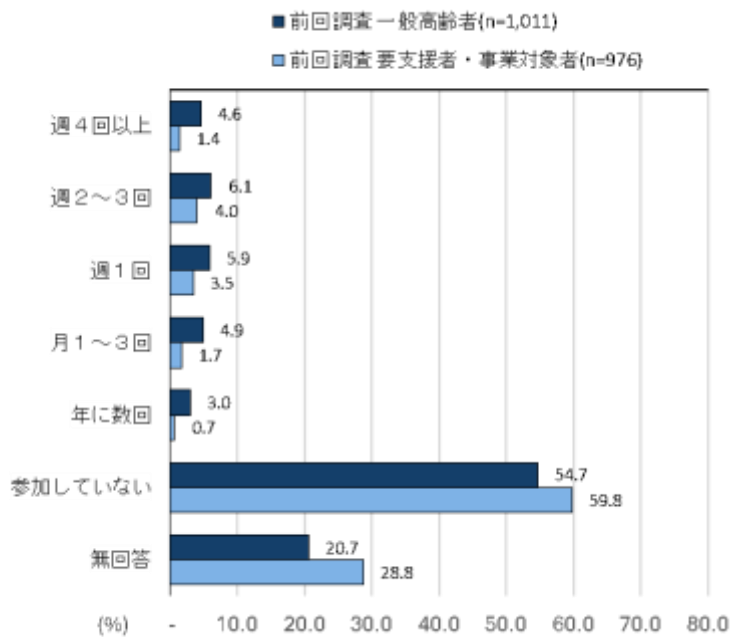


② スポーツ

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では29.2%、要支援者・事業対象者は15.6%となっている。

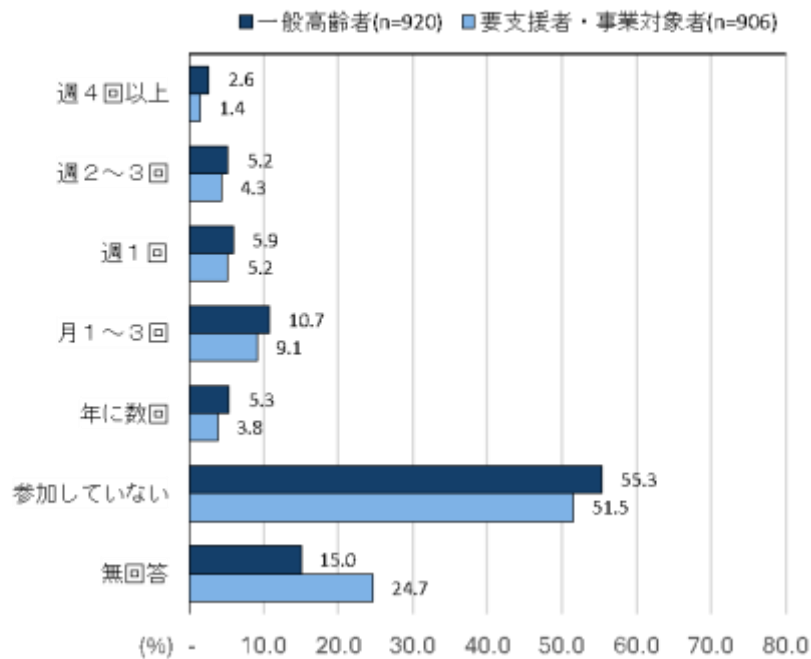


【前回調査】

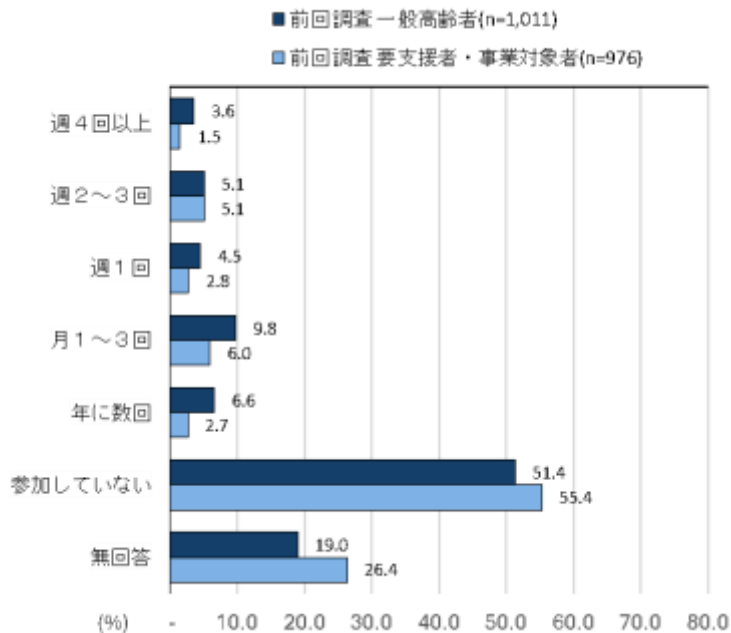


③ 趣味

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では29.7%、要支援者・事業対象者は23.8%となっている。

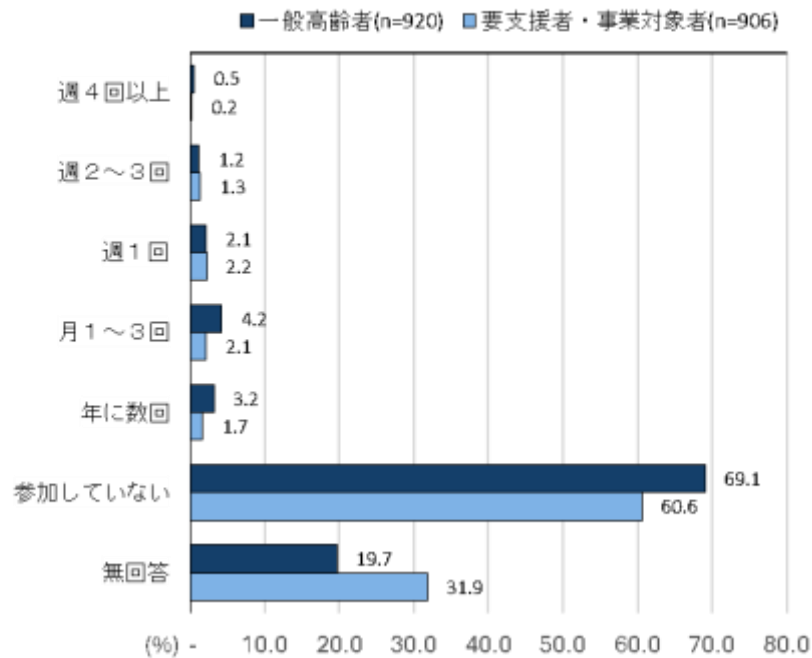


【前回調査】

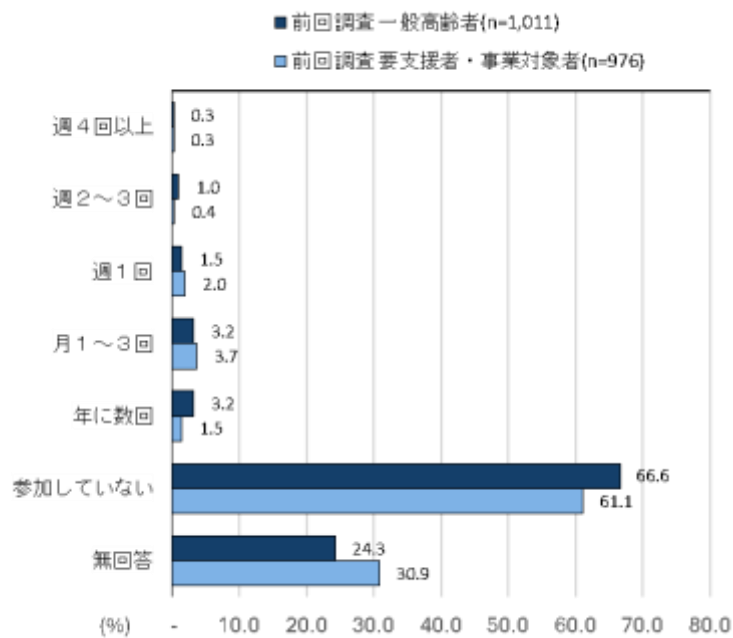


④ 学習・教養サークル

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では11.2%、要支援者・事業対象者は7.5%となっている。

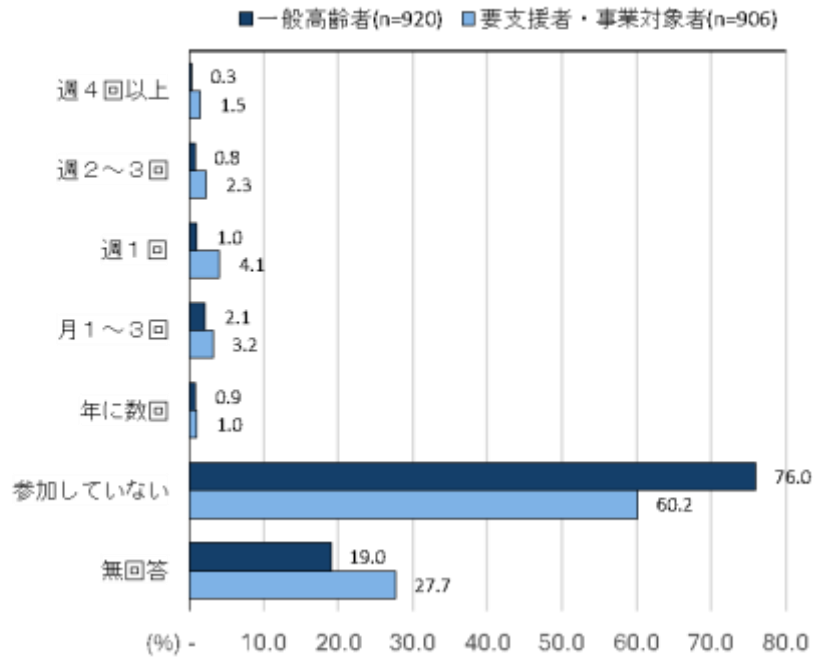


【前回調査】

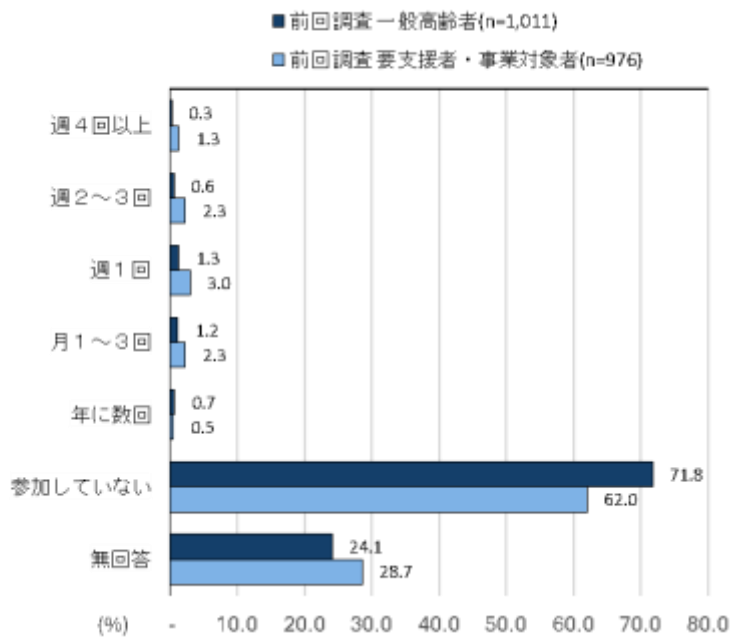


⑤ てんとう虫体操

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では5.1%、要支援者・事業対象者は12.1%となっている。

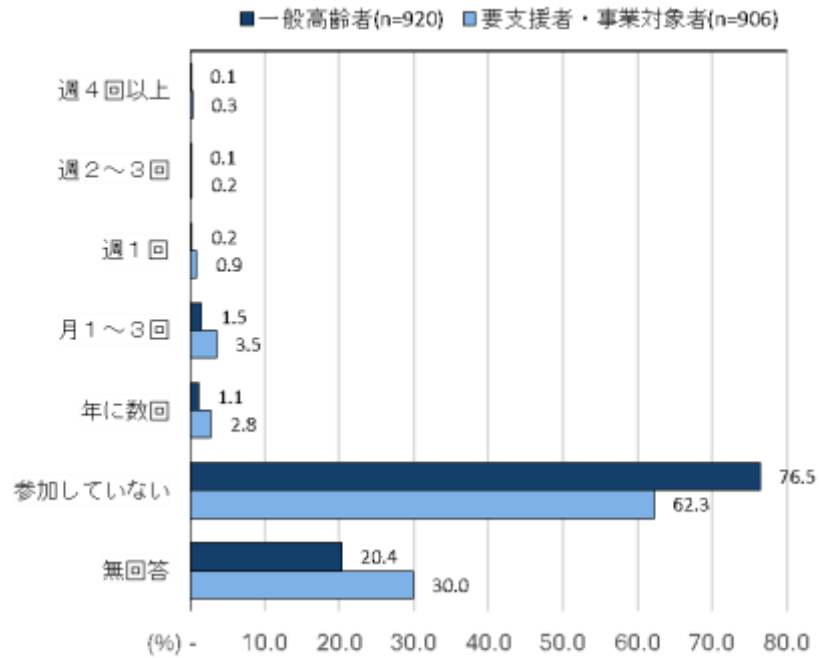


【前回調査】

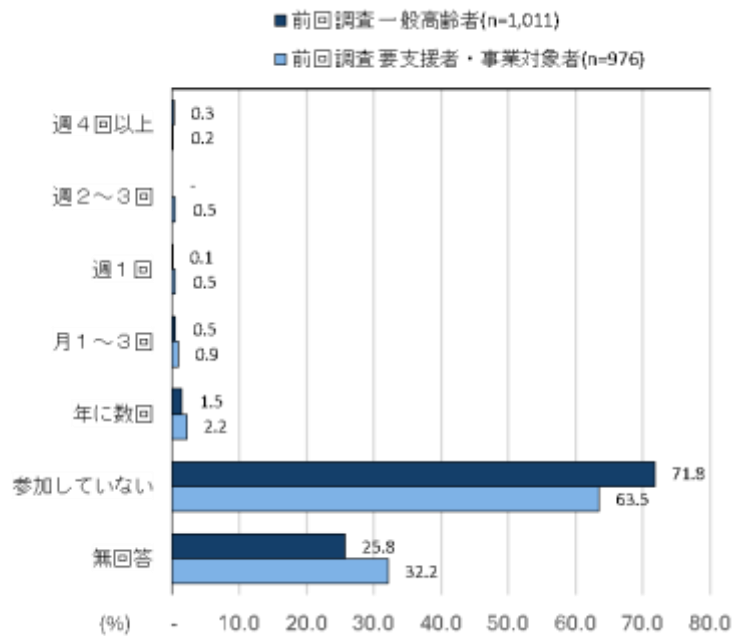


⑥ 地域サロン

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では3.0%、要支援者・事業対象者は7.7%となっている。

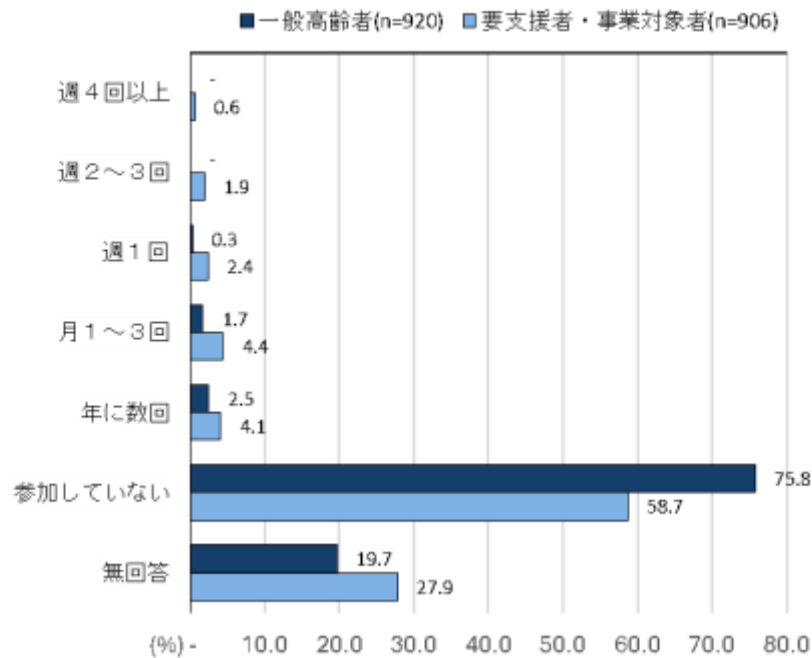


【前回調査】

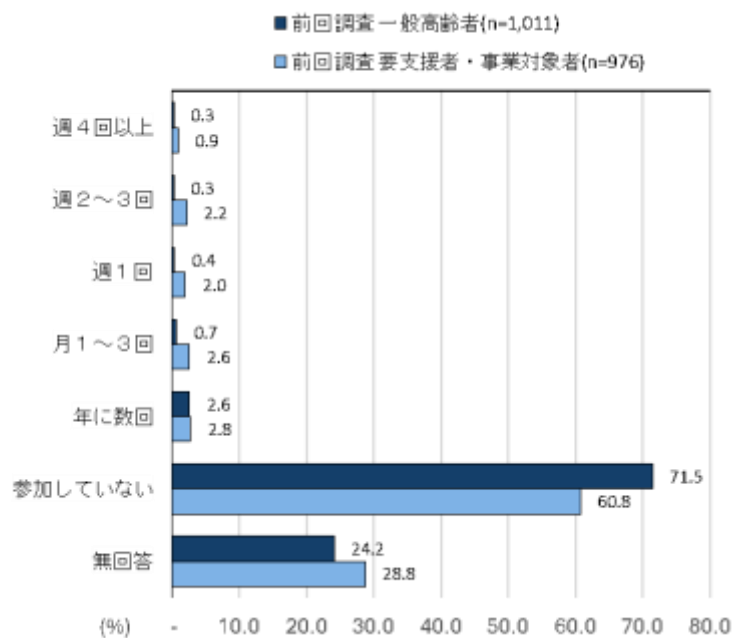


⑦ 高齢者のつどい

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では4.5%、要支援者・事業対象者は13.4%となっている。

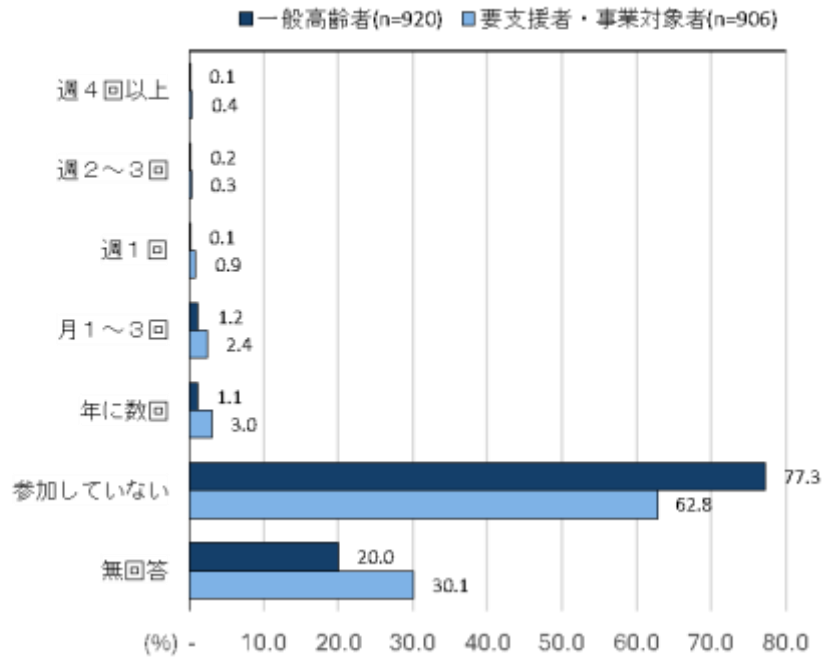


【前回調査】

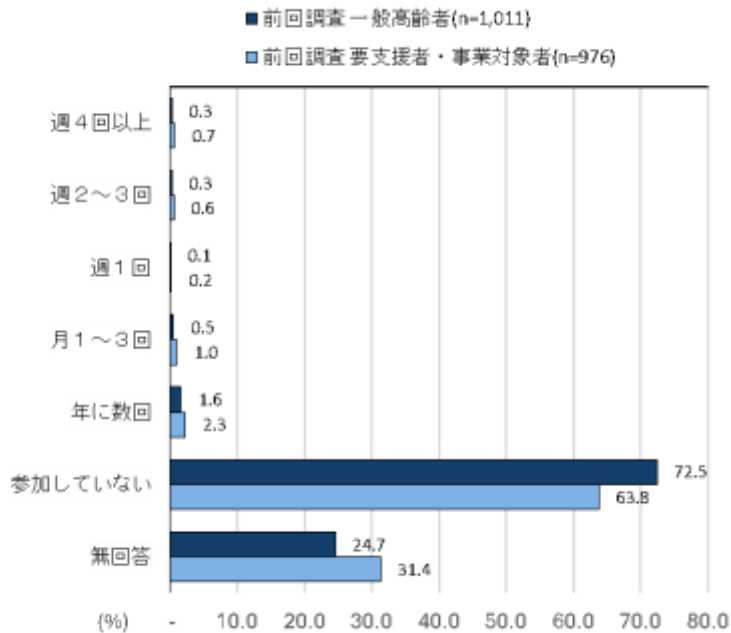


⑧ 老人クラブ

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では2.7%、要支援者・事業対象者は7.0%となっている。

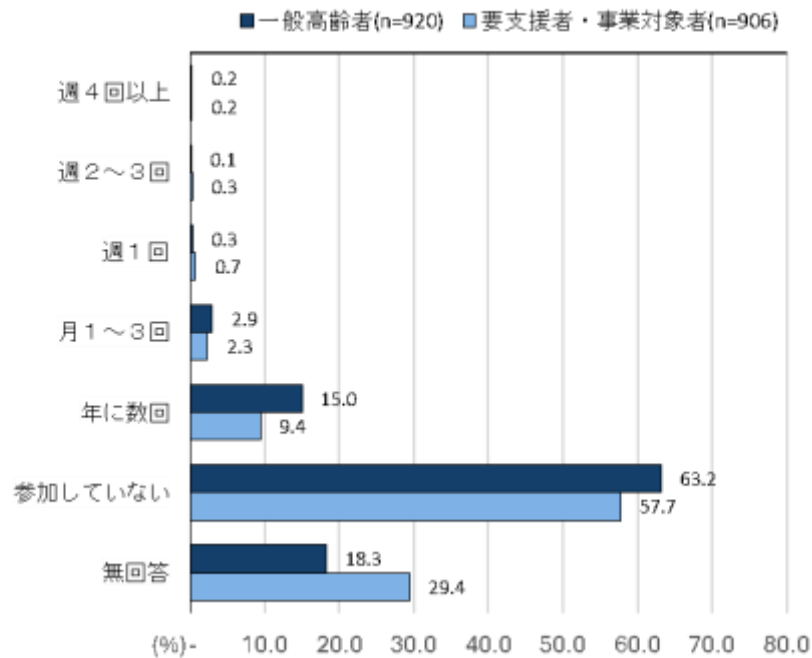


【前回調査】

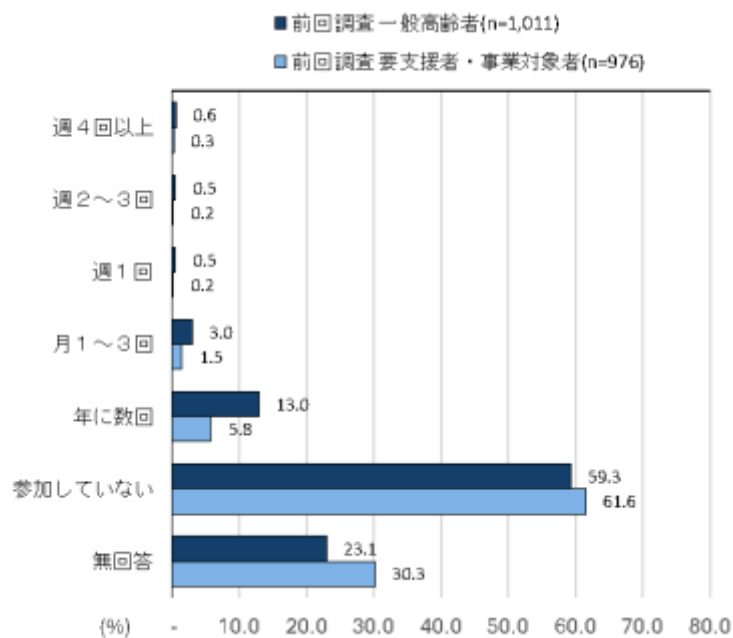


⑨ 町内会・自治会

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では18.5%、要支援者・事業対象者は12.9%となっている。

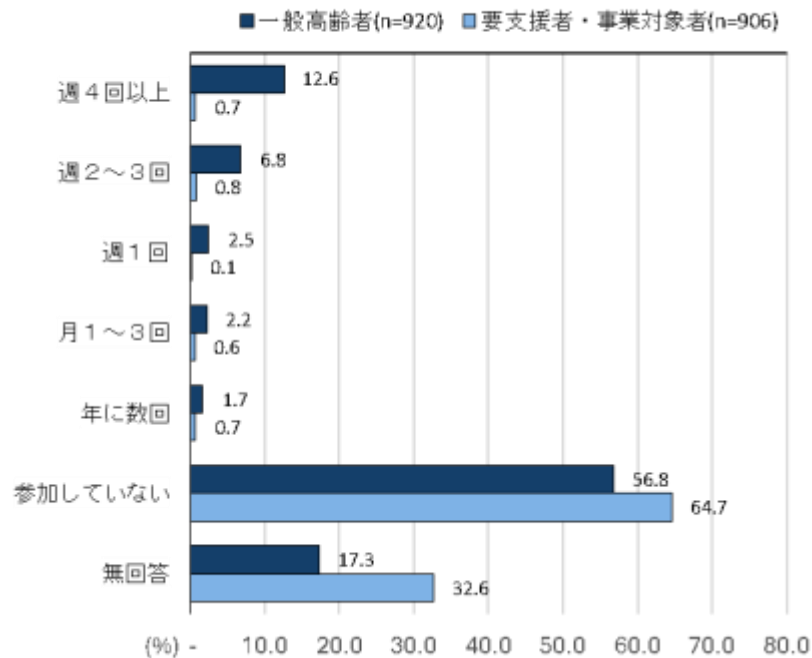


【前回調査】

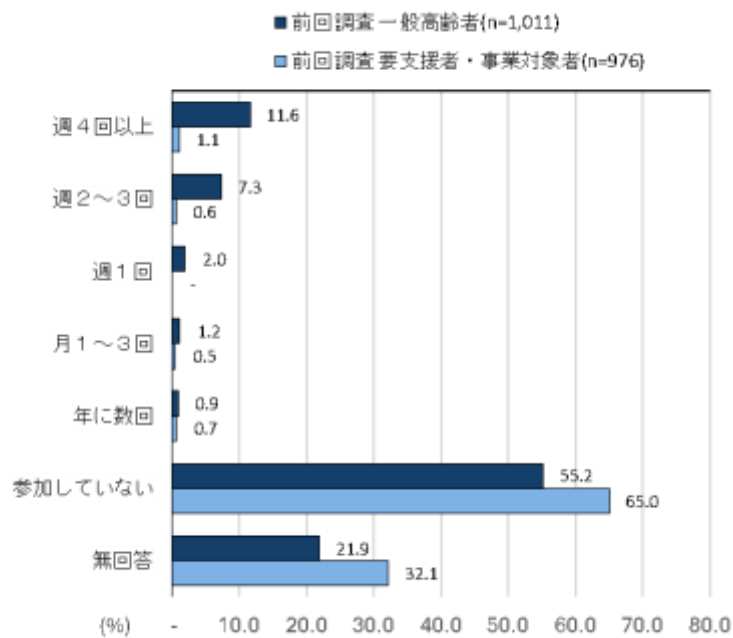


⑩ 収入のある仕事

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では25.8%、要支援者・事業対象者は2.9%となっている。

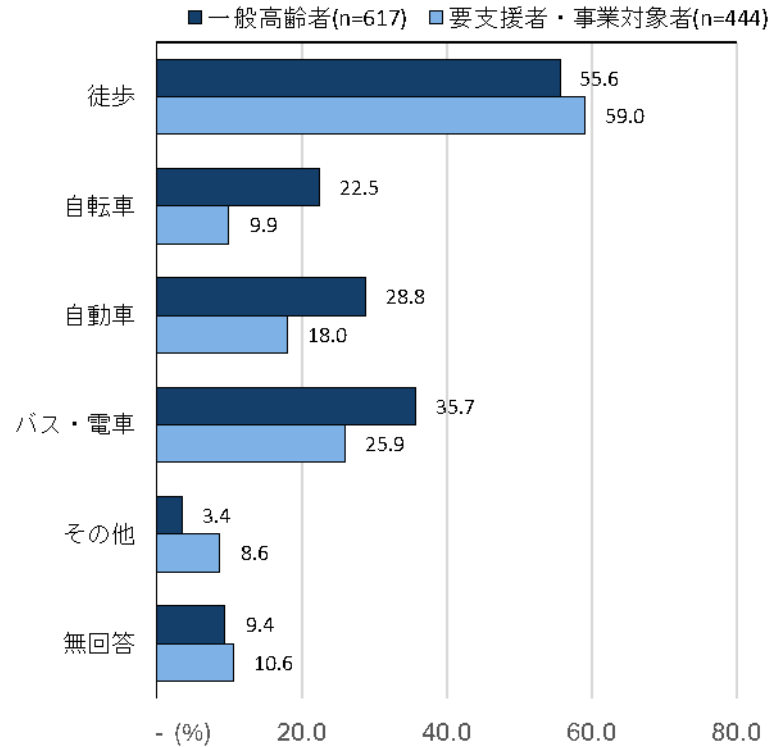


【前回調査】



(上記の会・グループに参加している方)活動場所までの交通手段をお教えてください。(〇はいくつでも)

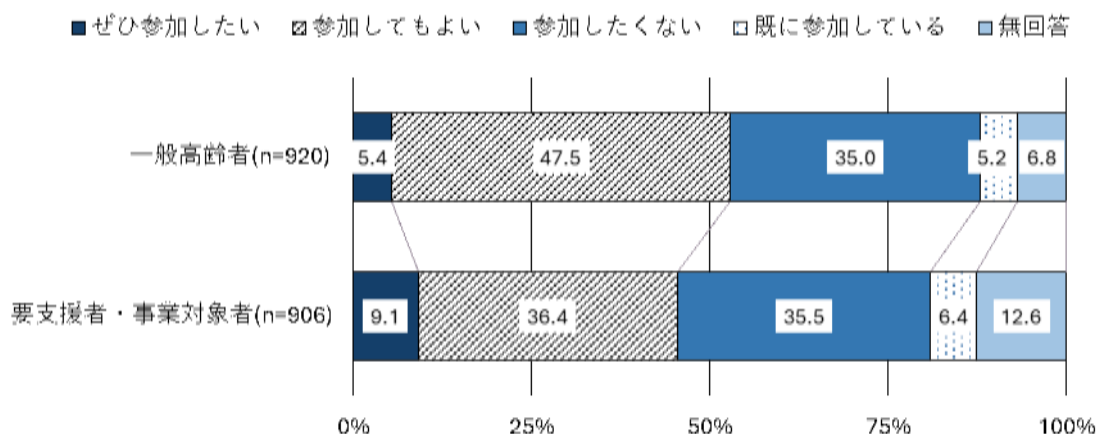
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「徒歩」が最も高く、一般高齢者で 55.6%、要支援者・事業対象者で 59.0%となっている。次いで「バス・電車」が一般高齢者で 35.7%、要支援者・事業対象者は 25.9%となっている。



(2) 地域の会・グループ等への参加意向

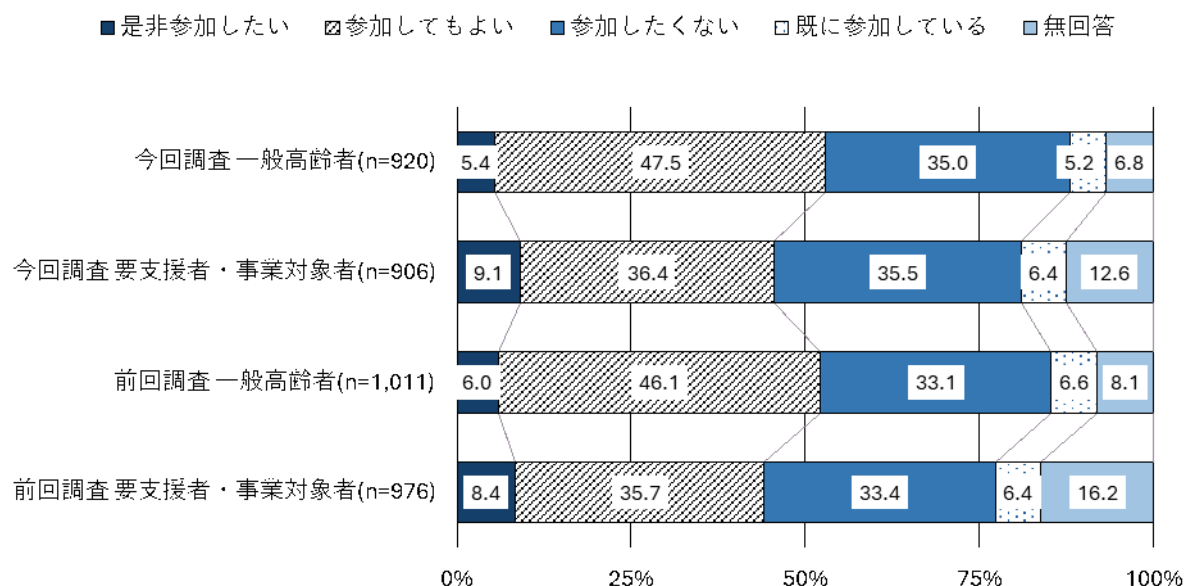
地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「すでに参加している」を「参加意向あり」とすると、一般高齢者では58.1%、要支援者・事業対象者は51.9%が「参加意向あり」となった。



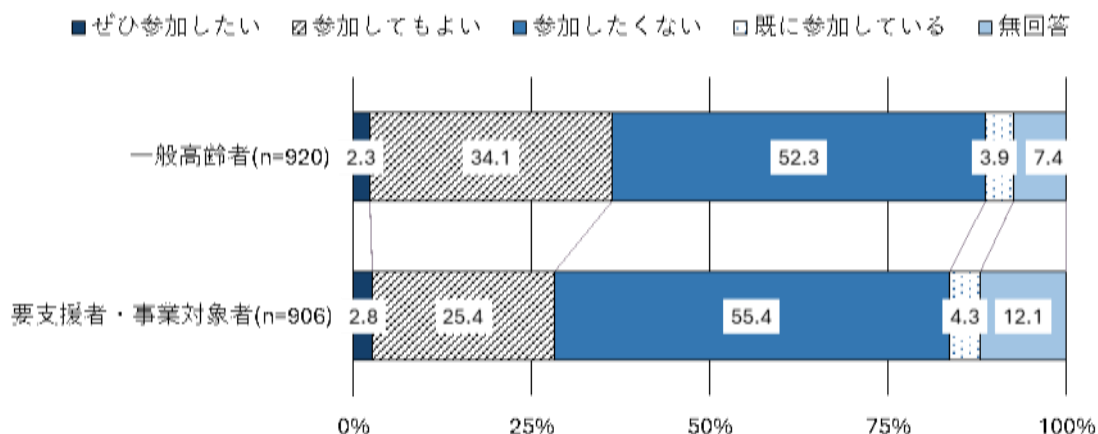
【経年比較】

前回調査と比較しても、大きな差は見られない。



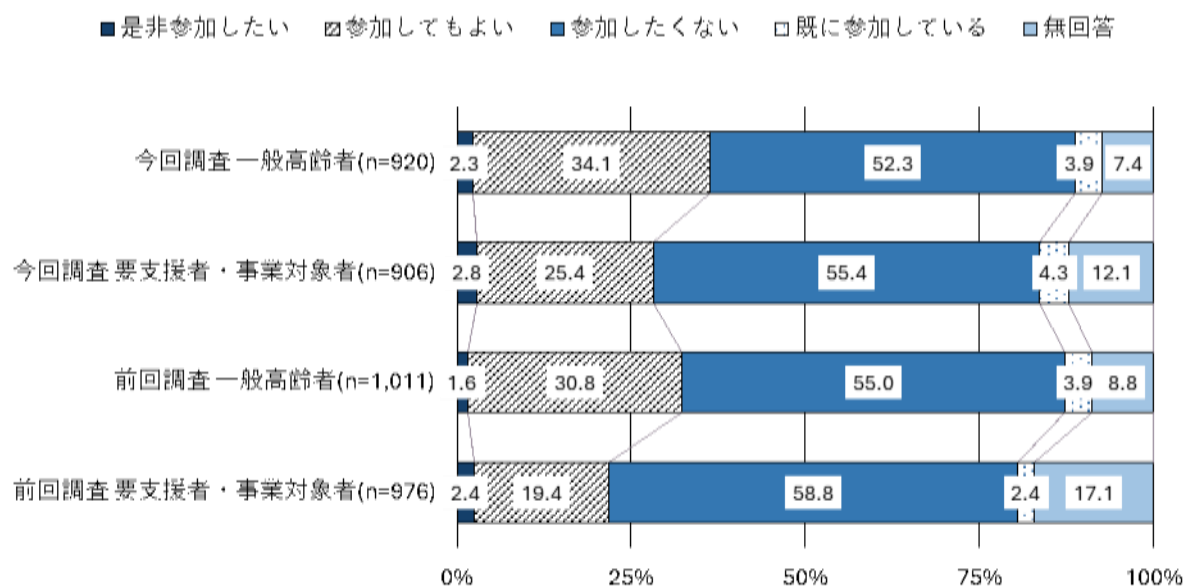
地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。

「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「すでに参加している」を「参加意向あり」とすると、一般高齢者では40.3%、要支援者・事業対象者は32.5%が「参加意向あり」となった。



【経年比較】

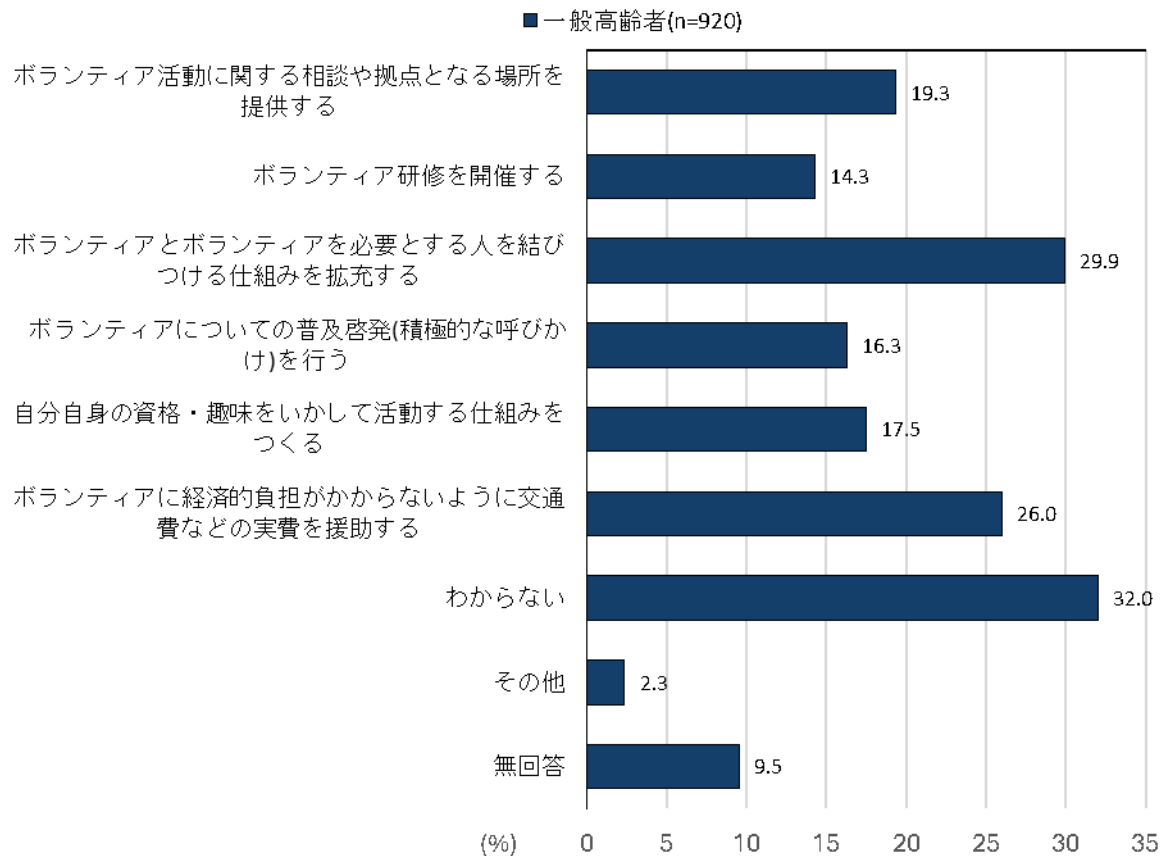
前回調査においては、一般高齢者の「参加意向あり」が36.3%、要支援者・事業対象者で24.2%となっており、今回調査ではやや上昇している。



(3) 地域における支え合いの意識

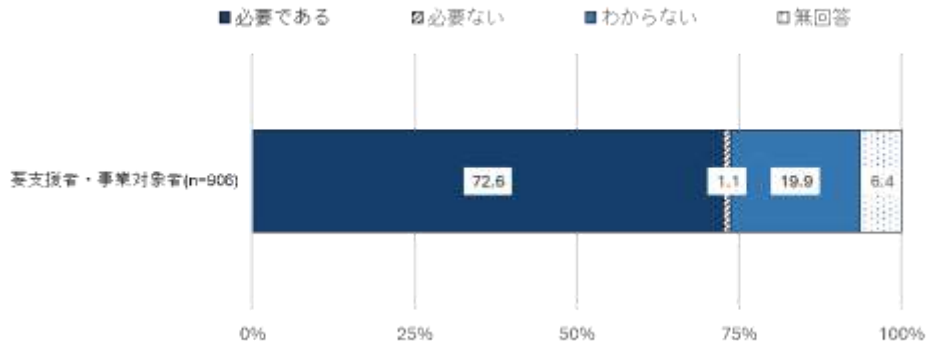
(一般高齢者のみ) 今後、ボランティア活動の輪を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「わからない」を除き、「ボランティアとボランティアを必要とする人を結びつける仕組みを拡充する」が29.9%と最も高く、次いで「ボランティアに経済的負担がかからないように交通費などの実費を援助する」が26.0%となっている。



(要支援者・事業対象者のみ)独身世帯や高齢者世帯が近年増えていますが、隣近所や地域で高齢者を支えることが必要だと思いますか。

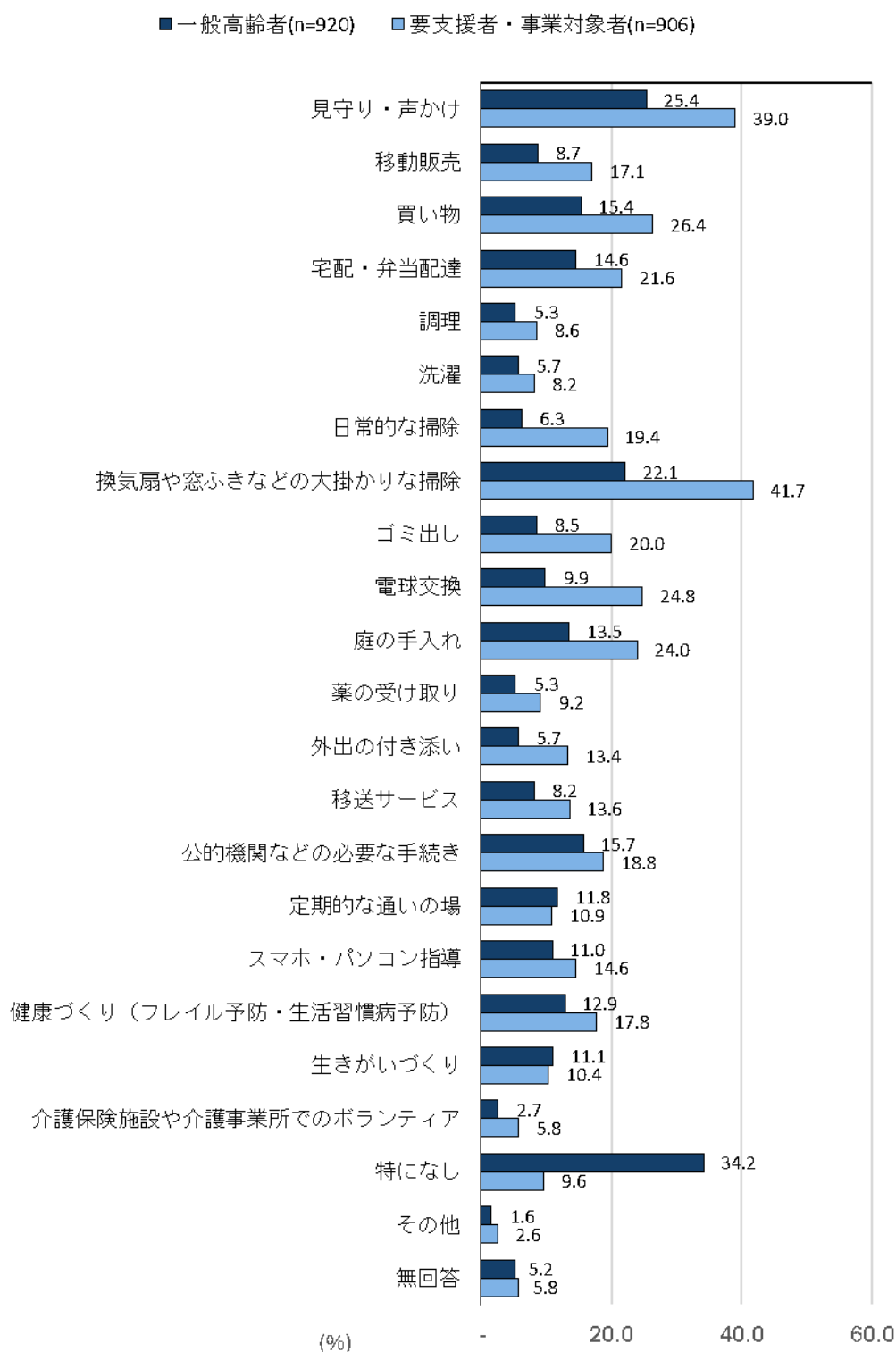
「必要である」が72.6%と最も高く、「必要ない」は1.1%程度となっている。



あなたは自宅での生活続けるために、どのようなサービスが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

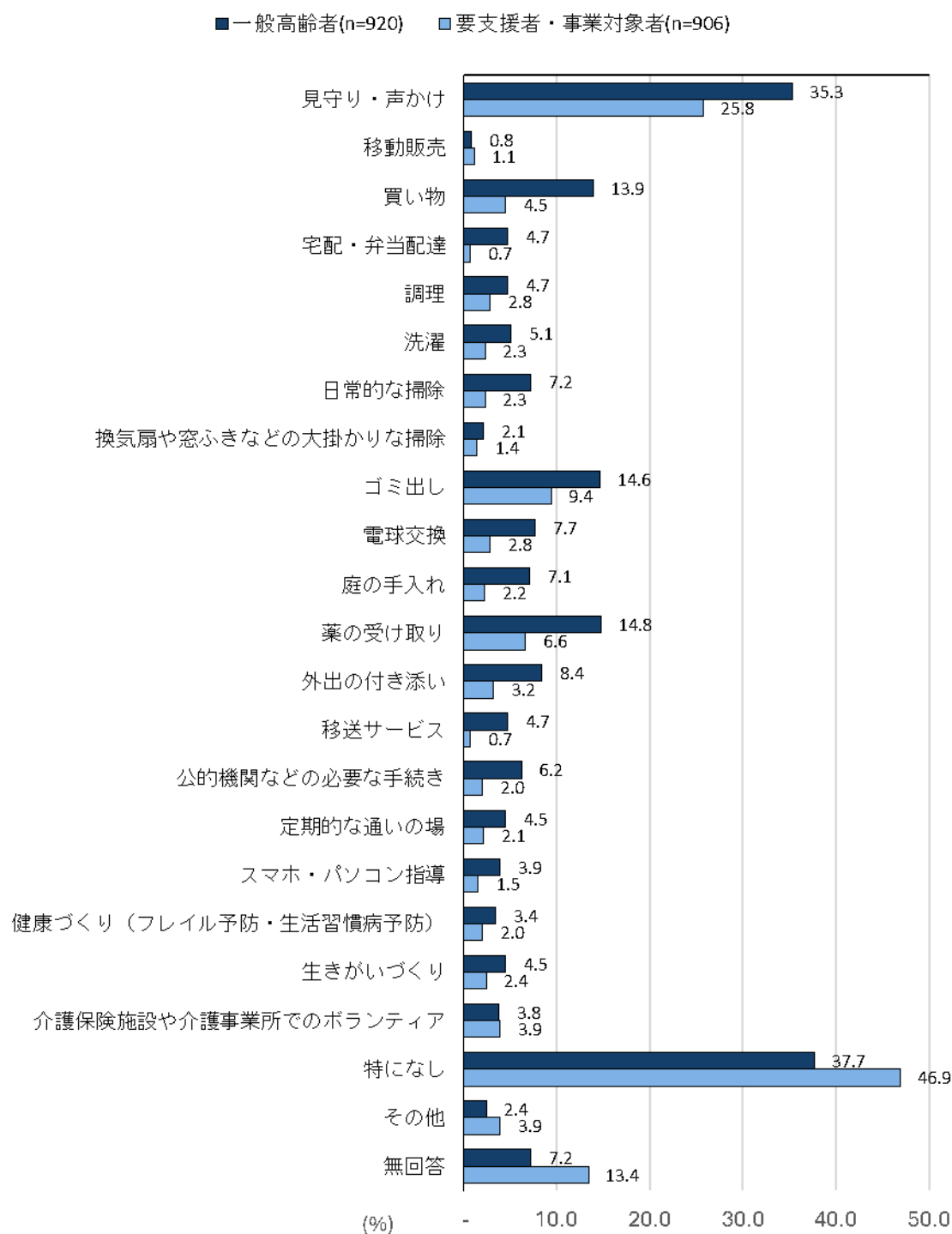
一般高齢者では「特になし」が最も高く、34.2%となっている。次いで「見守り・声かけ」が25.4%となっている。

要支援者・事業対象者においては「換気扇や窓ふきなどの大掛かりな掃除」が41.7%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」が39.0%となっている。



あなたがボランティア(無償もしくは有償)として活動するとしたら、協力できる内容がありますか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「特になし」が最も高く、一般高齢者で 37.7%、要支援者・事業対象者で 46.9%となっている。次いで「見守り・声かけ」が一般高齢者で 35.3%、要支援者・事業対象者で 25.8%となっている。



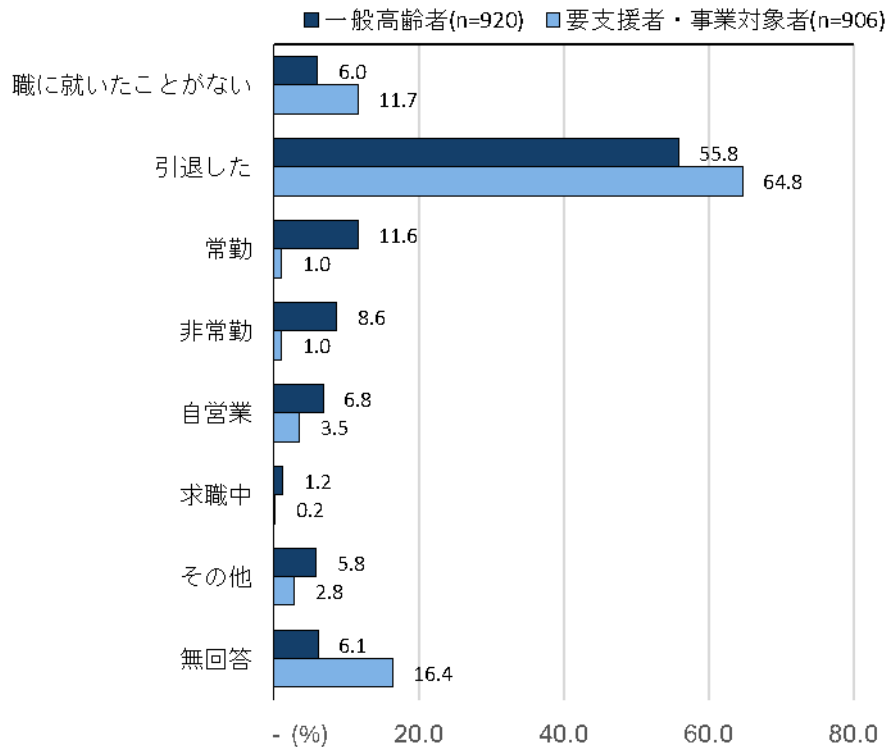
7. 就労について

(1) 就労状況

現在のあなたの就労状態はどれですか。(いくつでも)

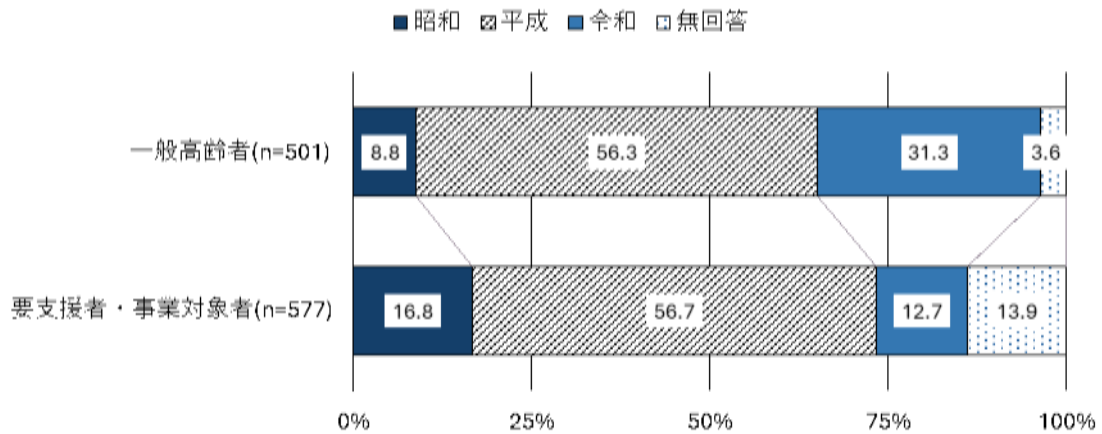
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「引退した」が最も高く、一般高齢者で 55.8%、要支援者・事業対象者で 64.8%となっており、要支援者・事業対象者が 9.0 ポイント上回っている。

一般高齢者では要支援者・事業対象者と比較して、「常勤」「非常勤」「自営業」の割合が高い。要支援者・事業対象者においては「職についたことがない」が 11.7%となっている。



(「引退した」を選択された方)あなたはいつ引退しましたか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「平成」が最も高く、半数以上を占めている。「昭和」が一般高齢者 8.8%に対し、要支援者・事業対象者では 16.8%と 8 ポイント上回っている。「令和」は一般高齢者が 31.3%に対し、要支援者・事業対象者が 12.7%と 18.6 ポイント下回っている。



8. 「たすけあい」について

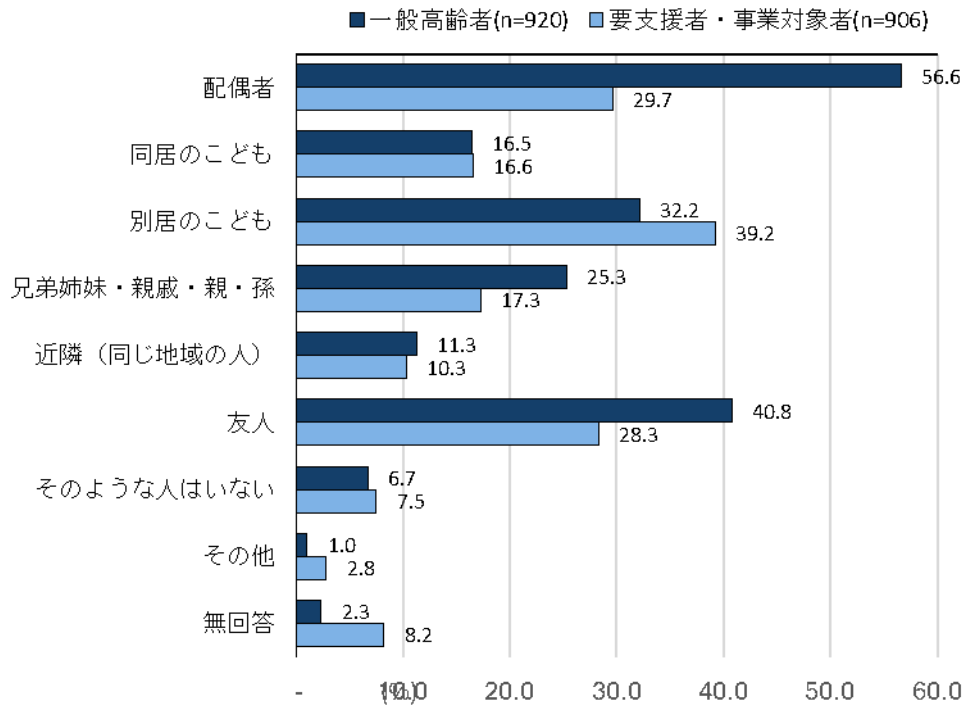
(1) 「たすけあい」の状況

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。以下に挙げる人について、あてはまる欄に○をつけてください。(それぞれ○はいくつでも)

「その他」の場合は具体的にご記入ください。

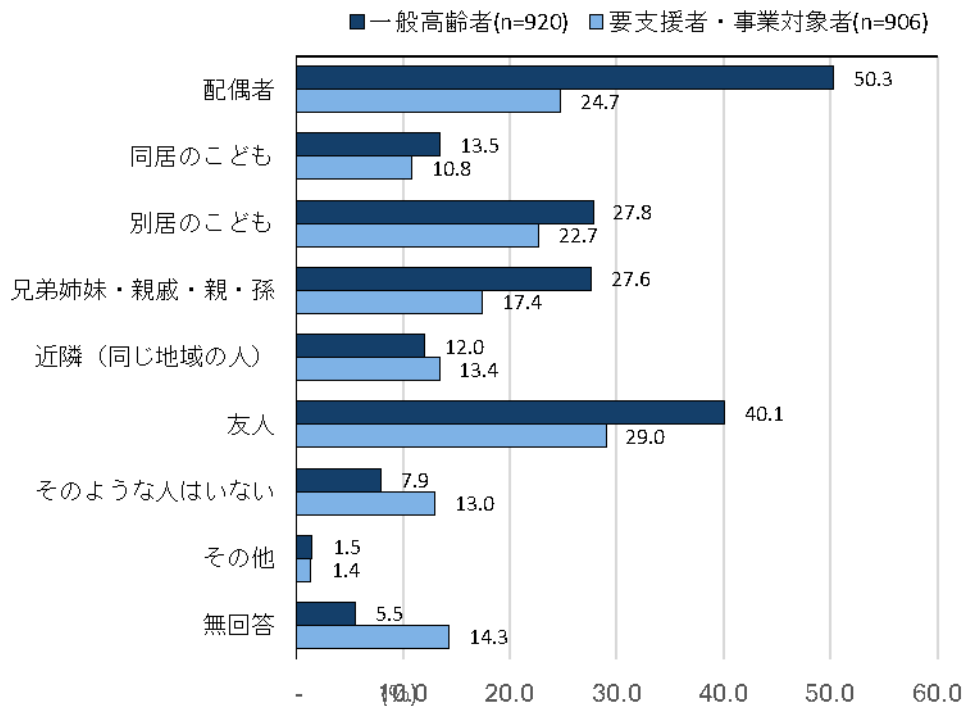
① 心配事や愚痴を聞いてくれる人

一般高齢者では「配偶者」が56.6%と最も高く、次いで「友人」が40.8%である。要支援者・事業対象者では「別居のこども」が39.2%と最も高く、次いで「配偶者」が29.7%である。



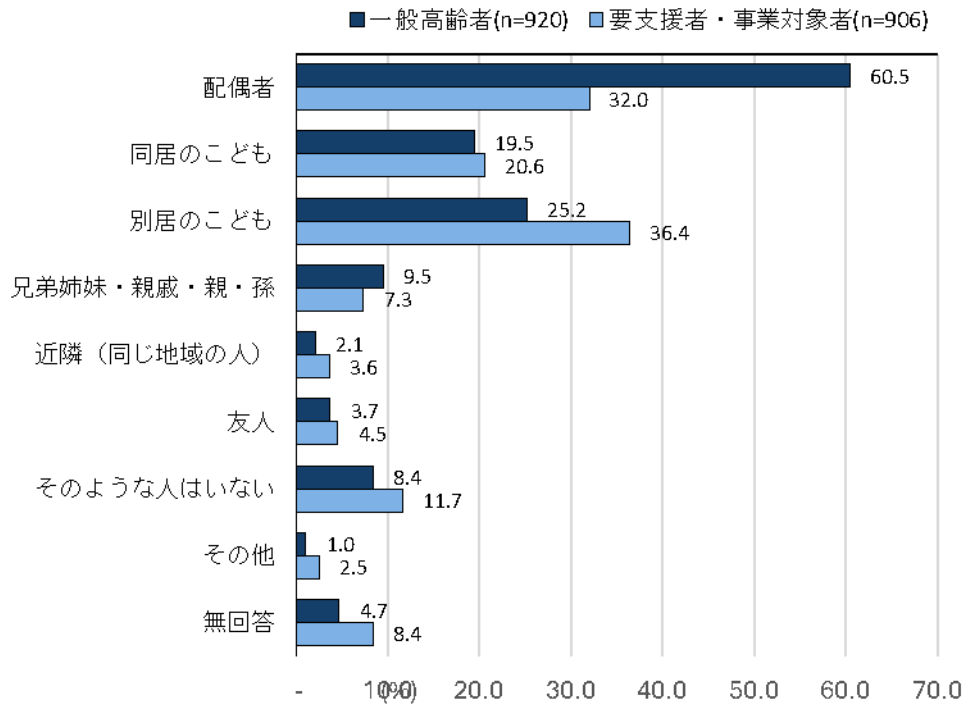
② 心配事や愚痴を聞いてあげる人

一般高齢者では「配偶者」が50.3%と最も高く、次いで「友人」が40.1%である。要支援者・事業対象者では「友人」が29.0%と最も高く、次いで「配偶者」が24.7%である。



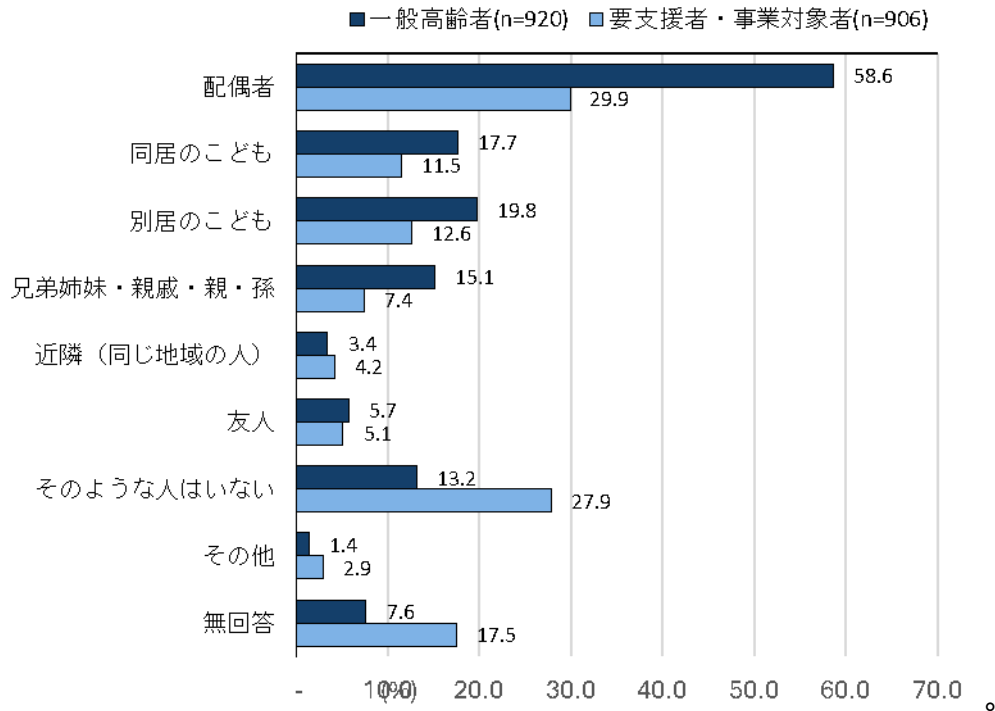
③ 病気で数日間寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人

一般高齢者では「配偶者」が60.5%と最も高く、次いで「別居のこども」が25.2%である。
要支援者・事業対象者では、「別居のこども」が36.4%と最も高く、次いで「配偶者」が32.0%である。



④ 看病や世話をしあける人

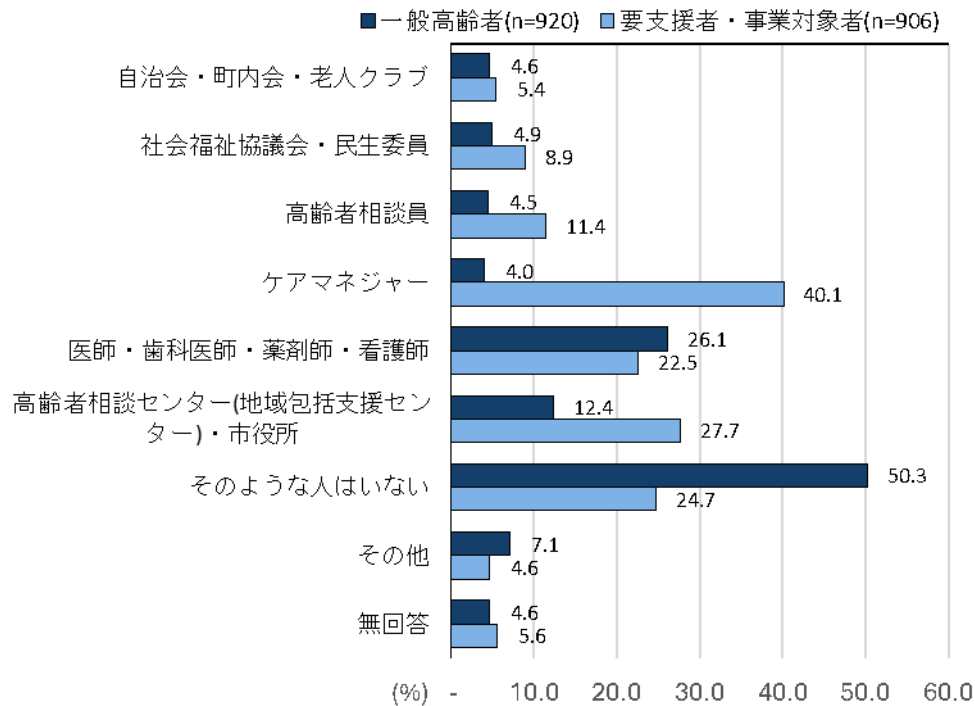
一般高齢者では「配偶者」が58.6%と最も高く、次いで「別居のこども」が19.8%である。
要支援者・事業対象者では「配偶者」が29.9%と最も高く、次いで「そのような人はいない」が27.9%である



(2) 相談相手

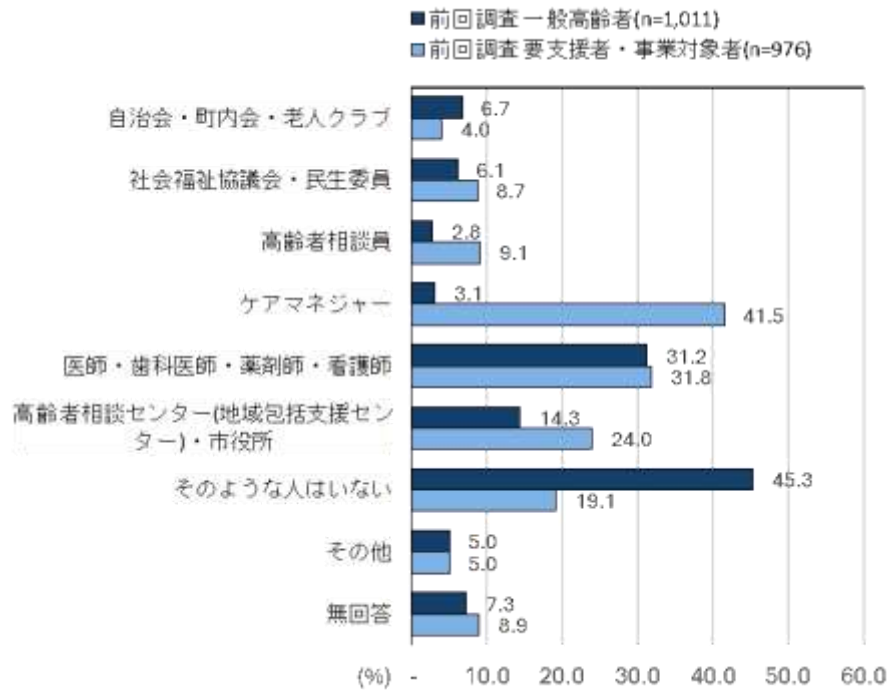
家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(〇はいくつでも)

一般高齢者では「そのような人はいない」が50.3%と最も高い。一方、要支援者・事業対象者では「ケアマネジャー」が40.1%と最も高くなっている。



【前回調査】

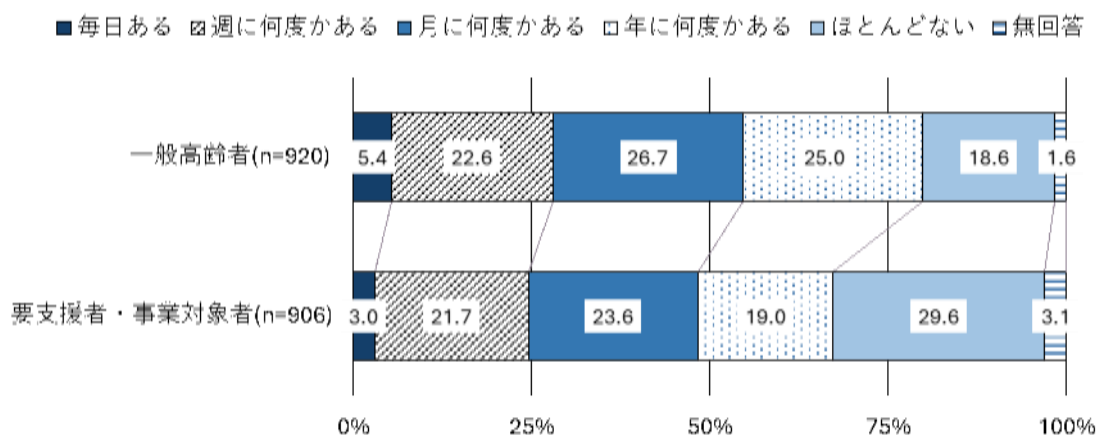
前回調査においても、一般高齢者で「そのような人はいない」が最も高く、要支援者・事業対象者では「ケアマネジャー」が最も高い点で同様の傾向にあるものの、一般高齢者における「そのような人はいない」は前回調査と比較すると5ポイント上昇している。



(3) 友人・知人との交流状況

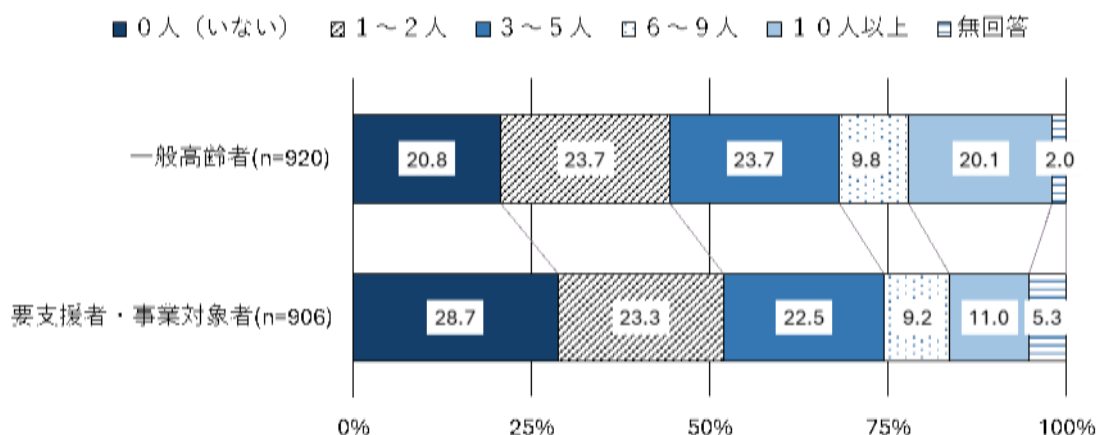
友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

一般高齢者では「月に何度かある」が26.7%と最も高い。一方、要支援者・事業対象者で「ほとんどない」が29.6%となっている。



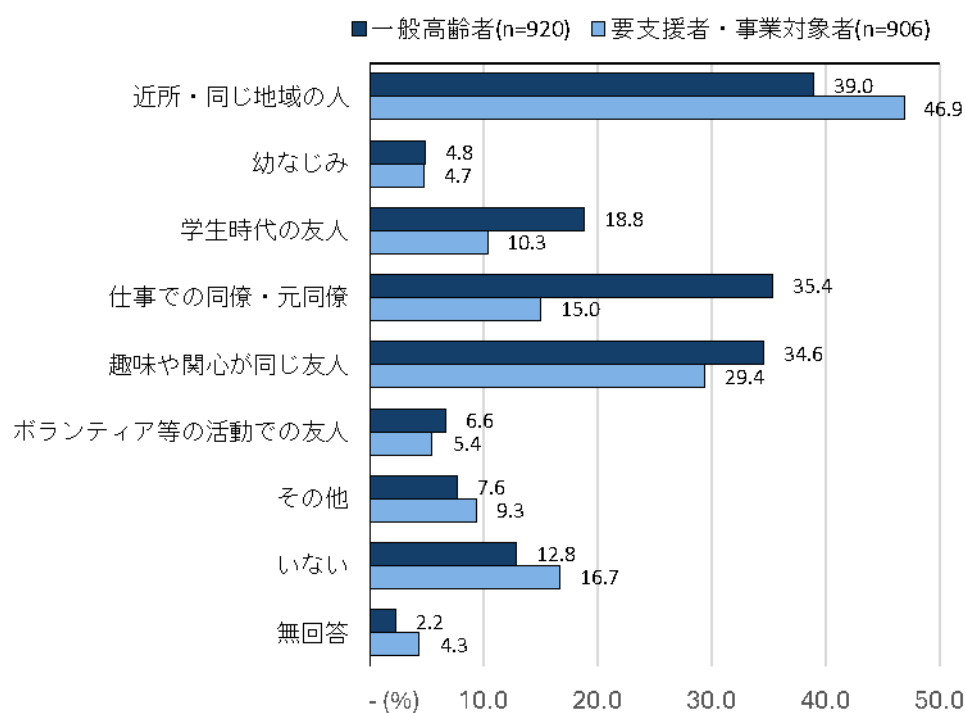
この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。

一般高齢者においては「1～2人」「3～5人」が最も高く、どちらも23.7%であり、要支援者・事業対象者においても同程度の割合である。「0人」の割合が一般高齢者の20.8%に対し要支援者・事業対象者は28.7%と7.9ポイント上回っている。



よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「近所・同じ地域の人」が最も高く、一般高齢者で39.0%、要支援者・事業対象者で46.9%である。一般高齢者においては「仕事の同僚・元同僚」(35.4%)「趣味や関心が同じ友人」(34.6%)も同程度であった。要支援者・事業対象者では「趣味や関心が同じ友人」が29.4%である。「いない」は一般高齢者で12.8%、要支援者・事業対象者で16.9%となっている。



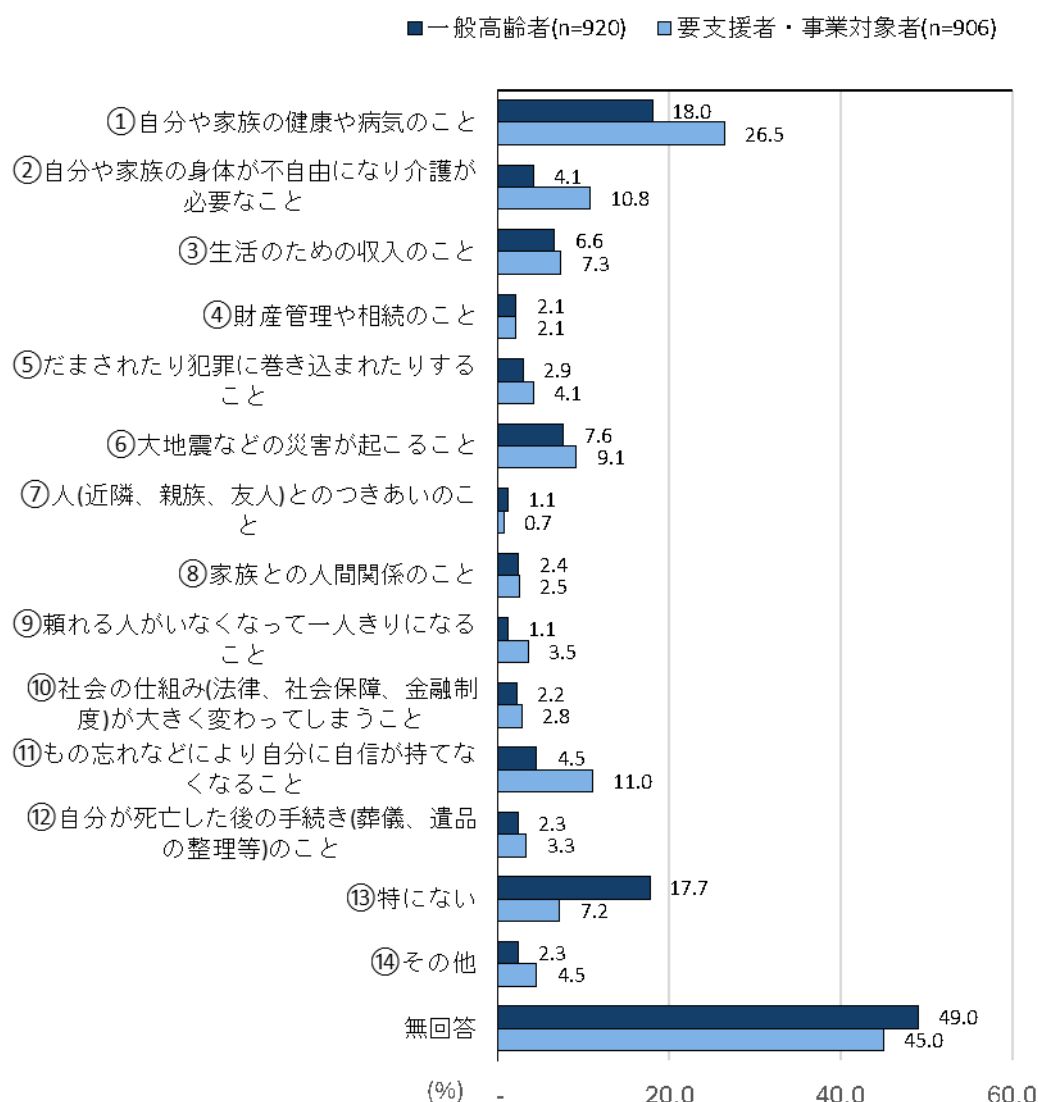
9. 日常生活で困っていることや将来の不安について

(1) 現在困っていることや将来の不安

現在困っていることと、将来についての不安はありますか。(〇はそれぞれ3つまで)

① 現在困っていること

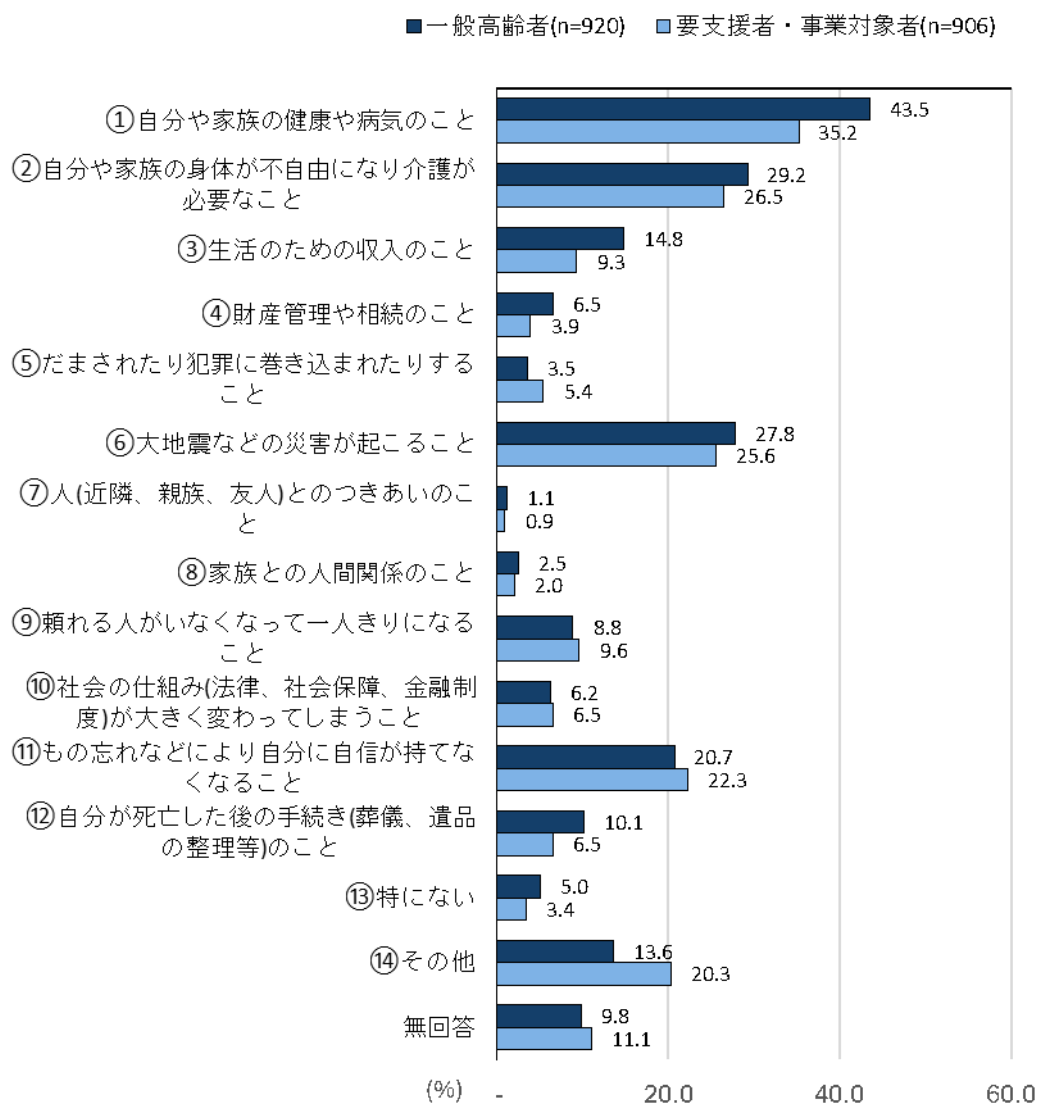
一般高齢者では、「自分の家族や健康のこと」が18.0%と最も高い。次いで「特にない」が17.7%となっている。要支援者・事業対象者では、「自分や家族の健康や病気のこと」が26.5%と最も高く、一般高齢者よりも8.8ポイント上回っている。次いで「物忘れなどにより自分に自信が持てなくなること」が11.0%となっている。



② 将来についての不安

「自分の家族の健康や病気のこと」が一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに最も高く、一般高齢者で43.5%、要支援者・事業対象者で35.2%となっている。

次いで「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要なこと」が、一般高齢者で29.2%、要支援者・事業対象者で26.5%となっている。また、「大地震などの災害が起こること」もそれぞれ比較的割合が高くなっている。

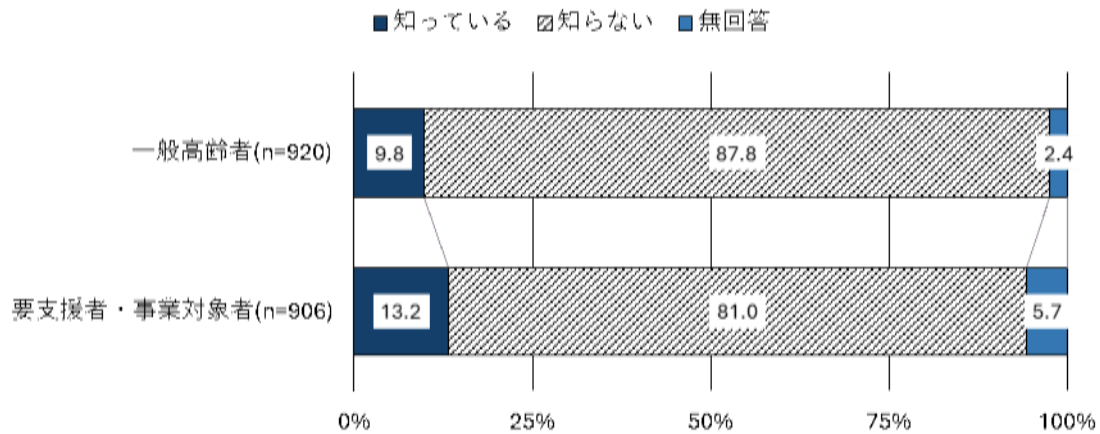


10. 将来への備えについて

(1) 人生会議・ACP の認知度

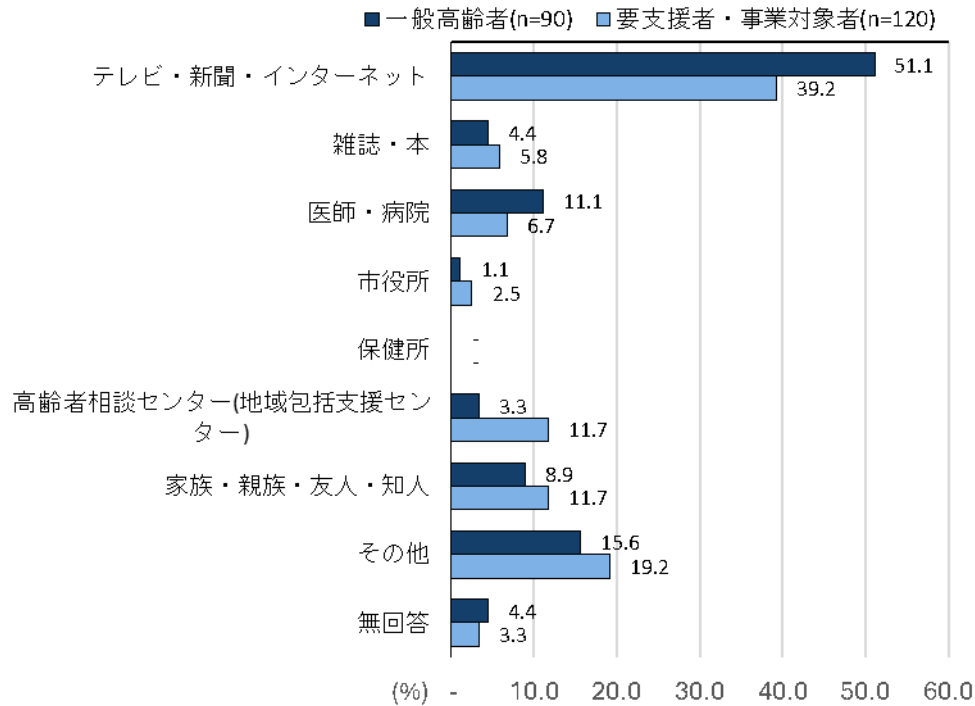
人生会議またはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)という言葉を知っていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「知らない」が8割台となっている。



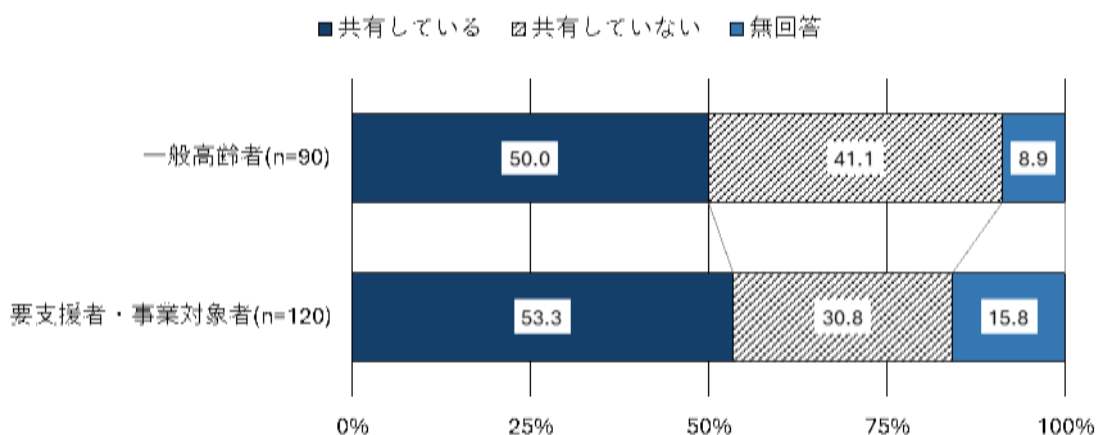
(「知っている」を選択された方)ACPという言葉はどこで知りましたか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「テレビ・新聞・インターネット」が最も高く、一般高齢者で51.1%、要支援者・事業対象者で39.2%となっている。次いで、一般高齢者では「医師・病院」が11.1%、要支援者・事業対象者では「高齢者相談センター(地域包括支援センター)」、「家族・親族・友人・知人」がそれぞれ11.7%となっている。



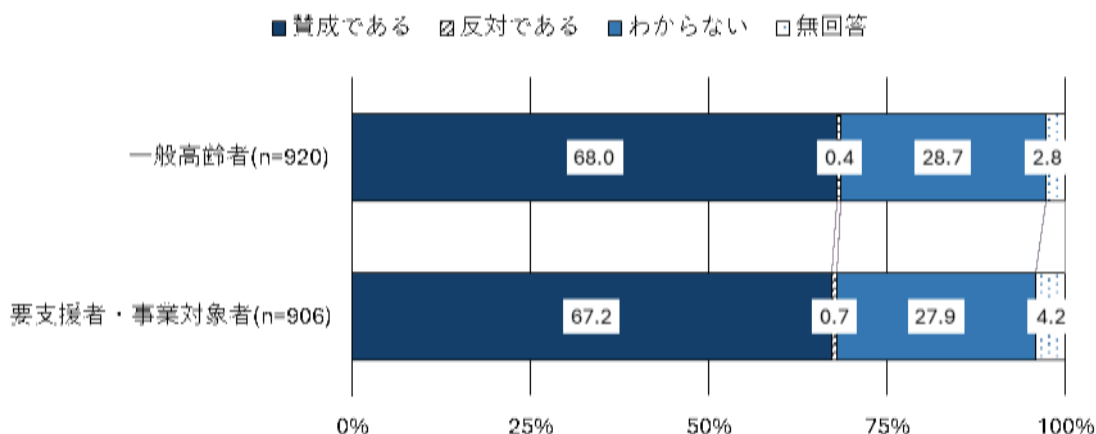
(「知っている」を選択された方)実際に家族や信頼する人たちと自分の考えを話し合ったり、共有していますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「共有している」が半数以上となっている。一般高齢者の「共有していない」は41.1%で要支援者・事業対象者の30.8%を10.3ポイント上回っている。



人生の最終段階の医療・療養について、あなたの意思に沿った医療・療養を受けるためには、家族等や医療・ケアチームとあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うことが重要といわれています。このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「賛成である」が7割弱、「反対である」は1%未満、「わからない」が3割弱となっている。



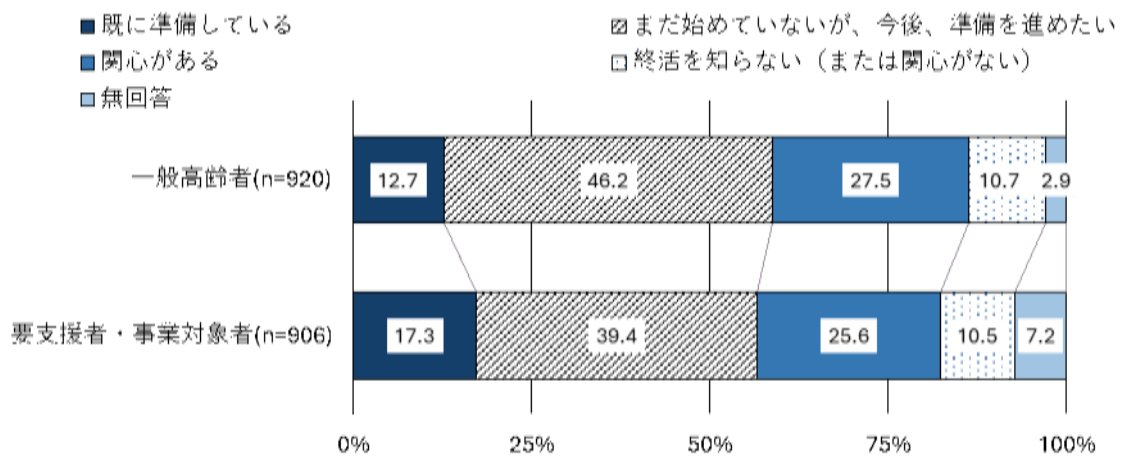
(2) 終活の準備状況

終活についておうかがいします。あなたは、終活に向けて何か準備していますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「まだ始めていないが、今後準備を進めたい」が最も高く、一般高齢者で46.2%、要支援者・事業対象者で39.4%となっている。

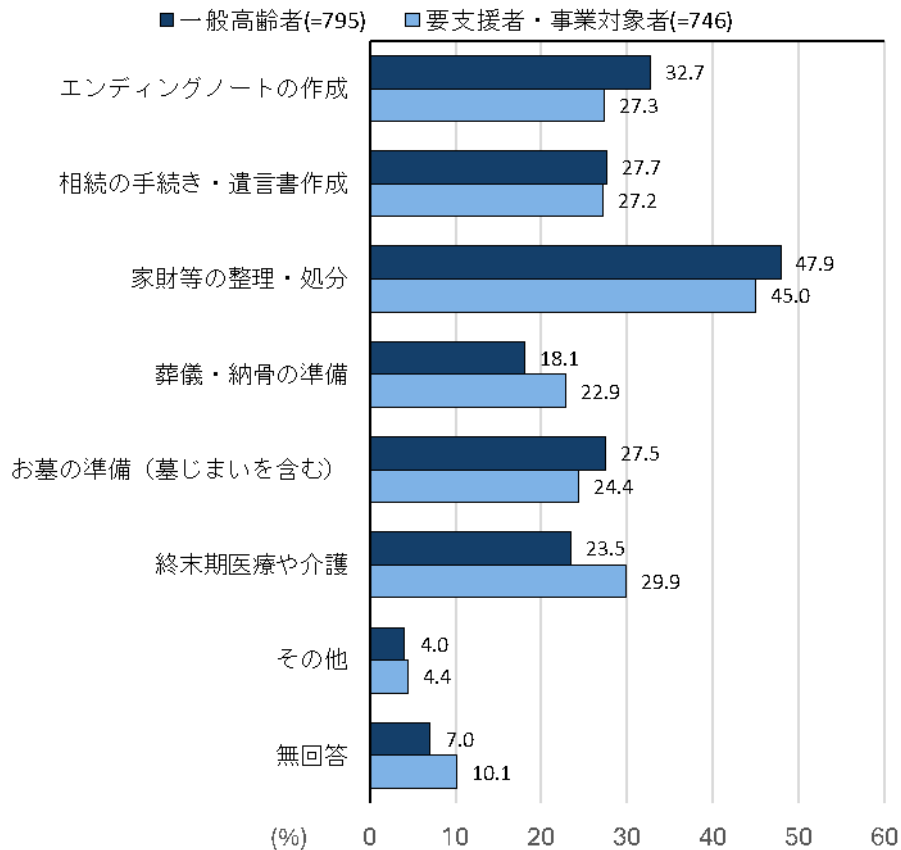
「既に準備している」が一般高齢者の12.7%に対し、要支援者・事業対象者で17.3%と4.6ポイント上回っている。

「既に準備している」「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」「関心がある」を合わせると、一般高齢者で86.4%、要支援者・事業対象者で82.3%とそれぞれ同程度が「関心あり」となっている。



(「既に準備している」「今後準備する」「関心がある」を選択された方)終活のために準備している(または準備を進めたい)ことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「家財等の整理・処分」が最も高く、一般高齢者で47.9%、要支援者・事業対象者で45.0%となっている。次いで、一般高齢者では「エンディングノートの作成」が32.7%、要支援・事業対象者で「終末期医療や介護」が29.9%となっている。

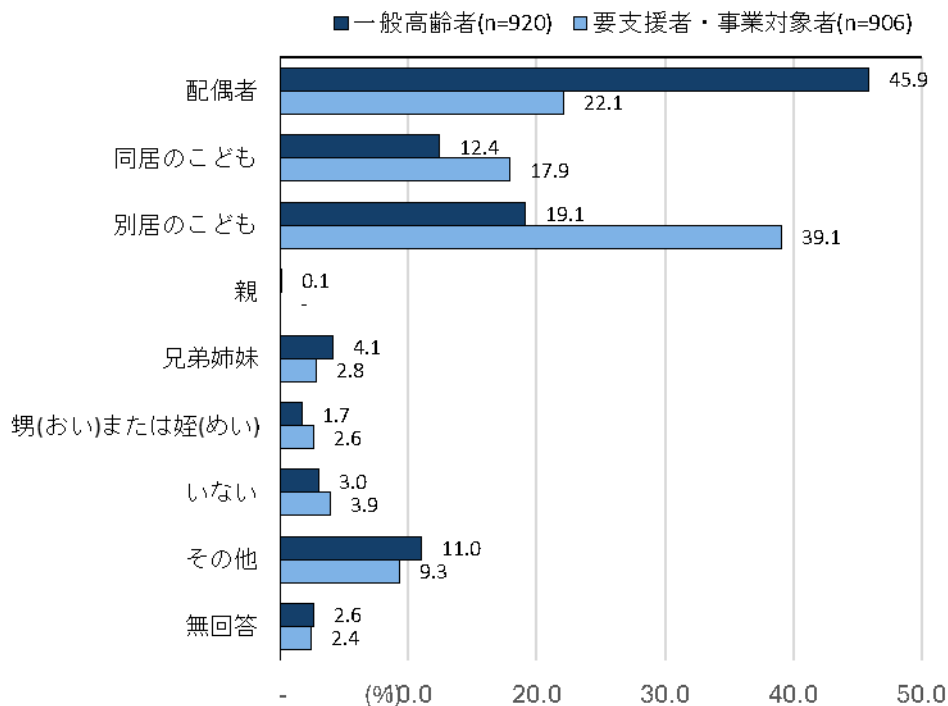


(3) 緊急事態が起きた時について

あなたの身に緊急事態が起きた時(事故等による介護を要する状態、認知症など)のことについておうかがいします。

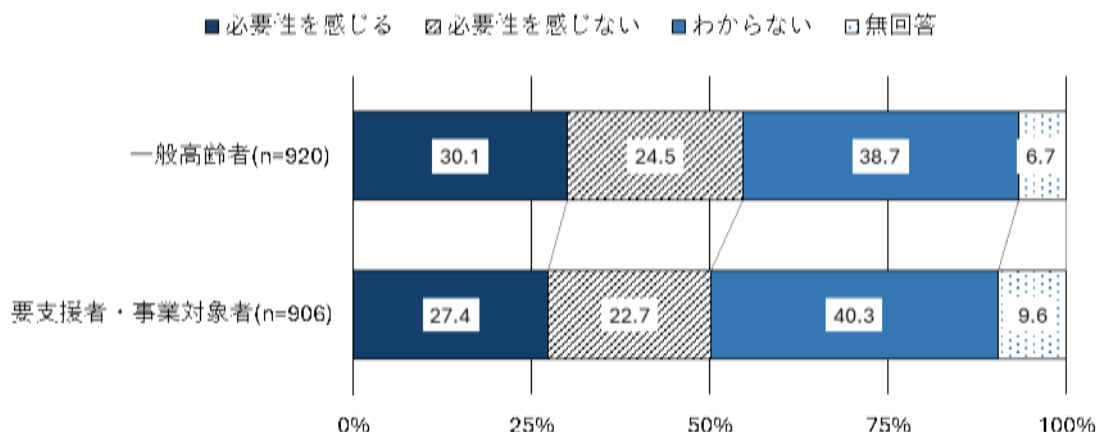
治療の方針の決定や介護サービスの利用に必要な手続き、金銭管理をしてくれる身内の方はいませんか。いる場合は、主にどなたですか。(○は1つ)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「配偶者」と「別居のこども」が高いが、両者で順位が逆転しており、一般高齢者では「配偶者」が45.9%と最も高く、要支援者・事業対象者では「別居のこども」が39.1%と最も高くなっている。



親族以外が身元保証等を行ってくれる制度は必要であると思いますか。

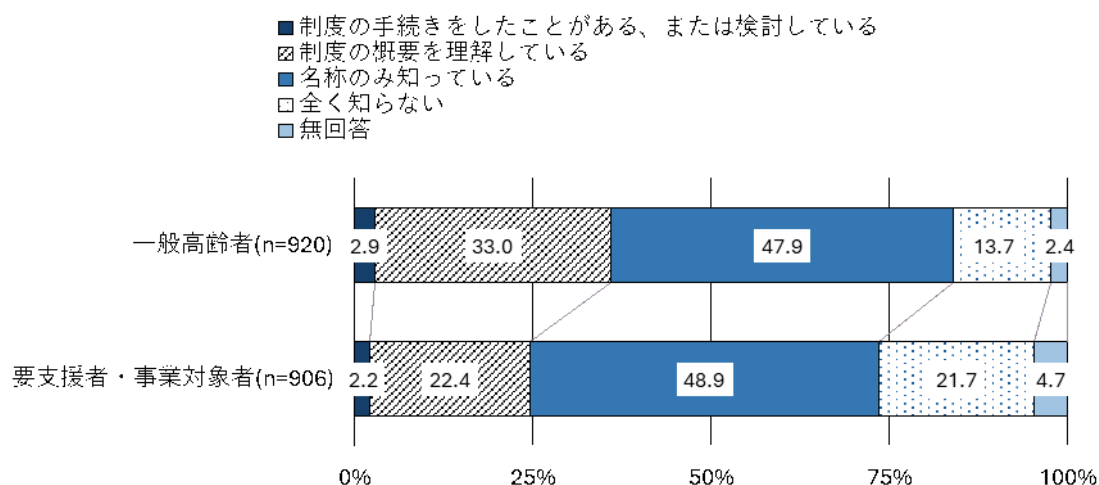
一般高齢者・要支援者・事業対象者ともに「わからない」が最も高く、一般高齢者で 38.7%、要支援者・事業対象者で 40.3%となっている。各選択肢の割合に両者で大きな差は見られない。



(4) 成年後見制度の認知度

あなたは「成年後見制度」について、どの程度ご存知ですか。

一般高齢者・要支援者・事業対象者ともに、「名称のみ知っている」が最も高く、一般高齢者で 47.9%、要支援者・事業対象者で 48.9%となっている。「制度の概要を理解している」は一般高齢者 33.0%に対し、要支援者・事業対象者では 22.4%と、一般高齢者が 10.6 ポイント上回っている。

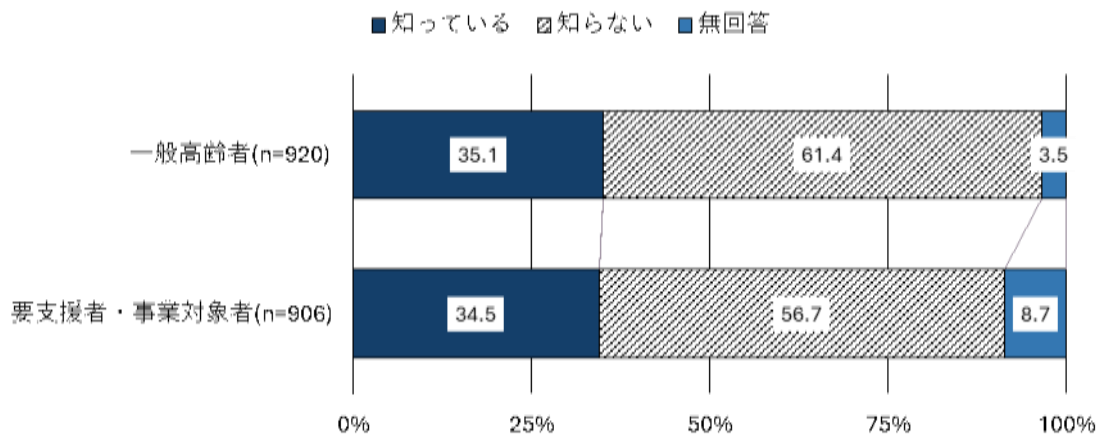


11. 認知症について

(1) 「新しい認知症観」の認知度

令和6年1月に認知症基本法が策定され、その中の考え方として「新しい認知症観」の普及を推進しています。「新しい認知症観」を知っていますか。

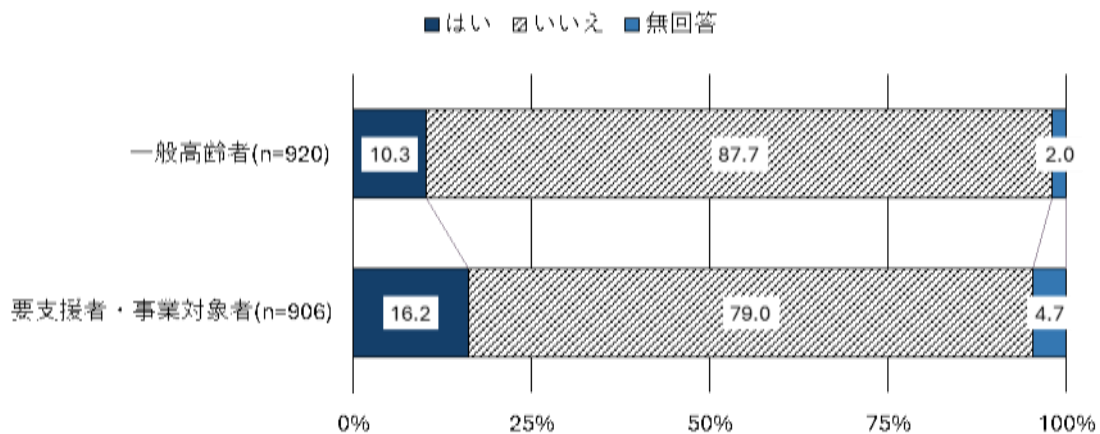
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「知らない」が最も高く、一般高齢者で61.4%、要支援者・事業対象者で56.7%となっている。各選択肢の割合に両者で大きな差は見られない。



(2) 認知症の症状の有無

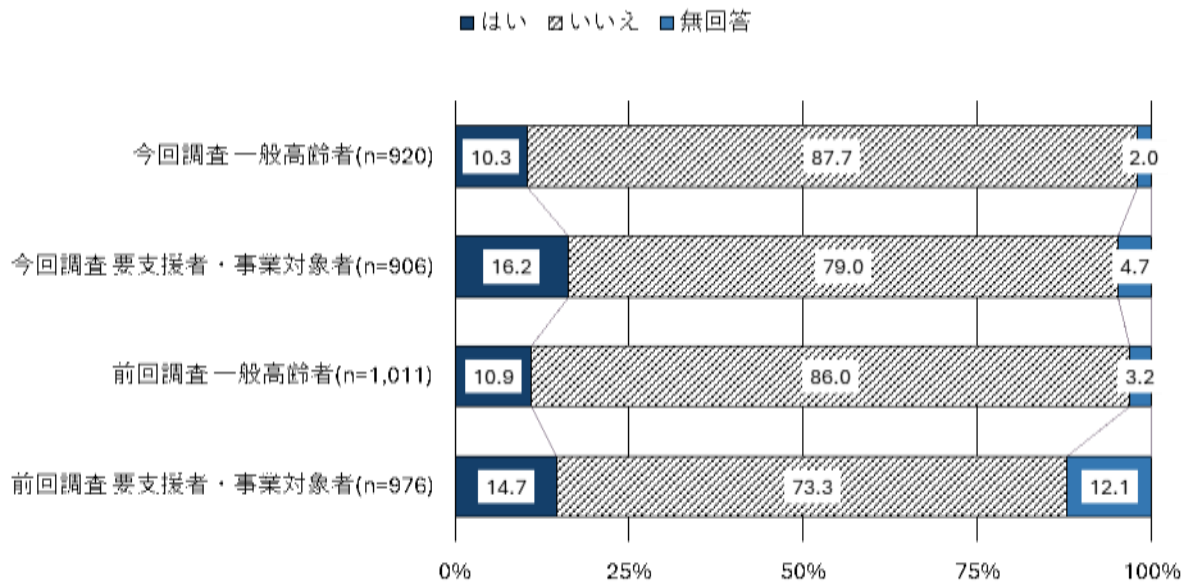
認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。

「はい」は要支援者・事業対象者が16.2%で、一般高齢者の10.3%を5.9ポイント上回っている。



【経年比較】

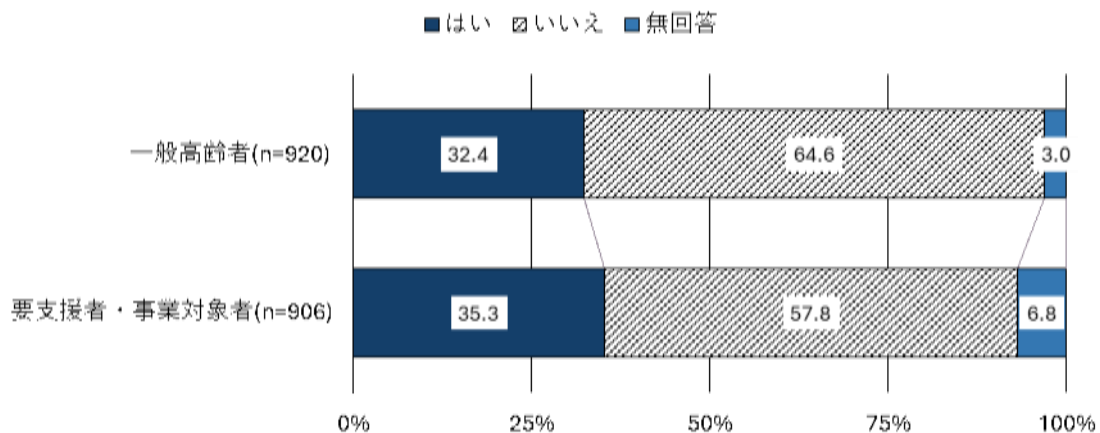
前回調査と比較しても大きな差は見られない。



(3) 認知症に関する相談窓口の認知度

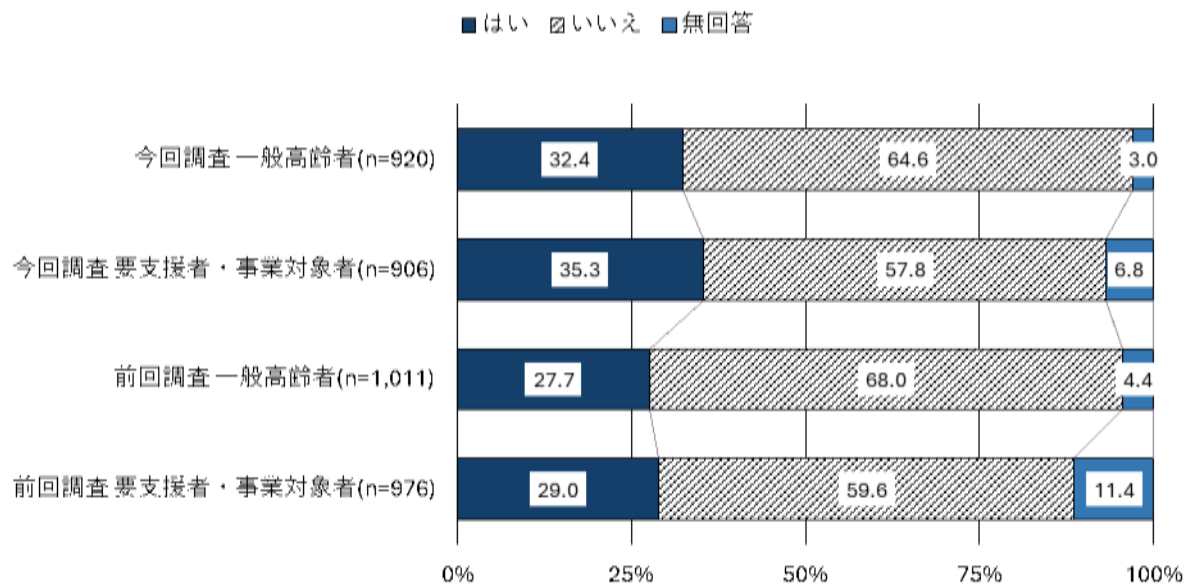
認知症に関する相談窓口を知っていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「いいえ」が最も高く、一般高齢者で 64.6%、要支援者・事業対象者で 57.8%となっており、一般高齢者が 6.8 ポイント上回っている。



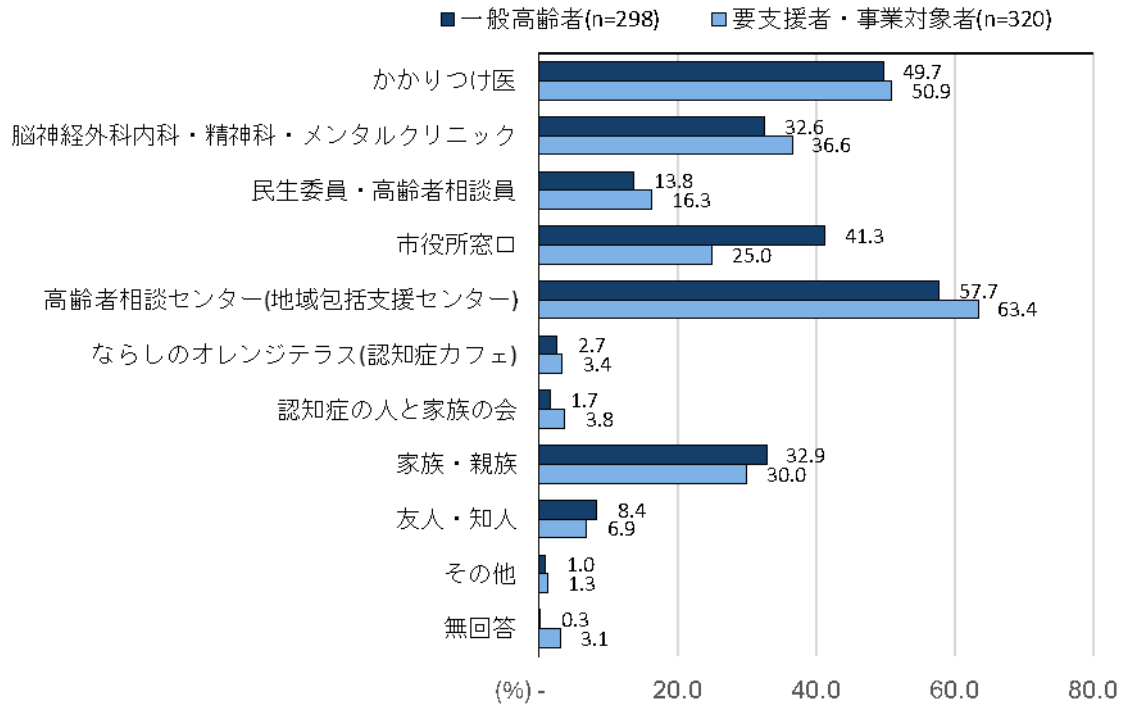
【経年比較】

前回調査と比較すると、相談窓口の認知度がやや上昇している。



（「認知症相談窓口を知っている」と答えた方）どこに相談すると思いますか、または相談しましたか。
（〇はいくつでも）

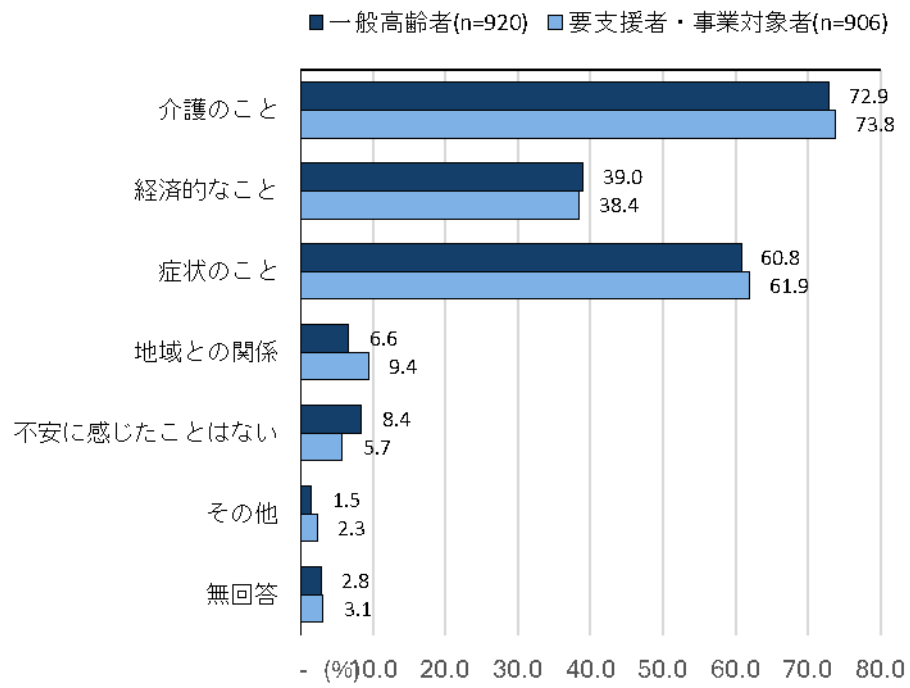
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」が最も高く、一般高齢者で 57.7%、要支援者・事業対象者で 63.4%となっている。次いで、「かかりつけ医」が一般高齢者で 49.7%、要支援者・事業対象者で 50.9%となっている。



(4) 自分や家族が認知症になった場合について

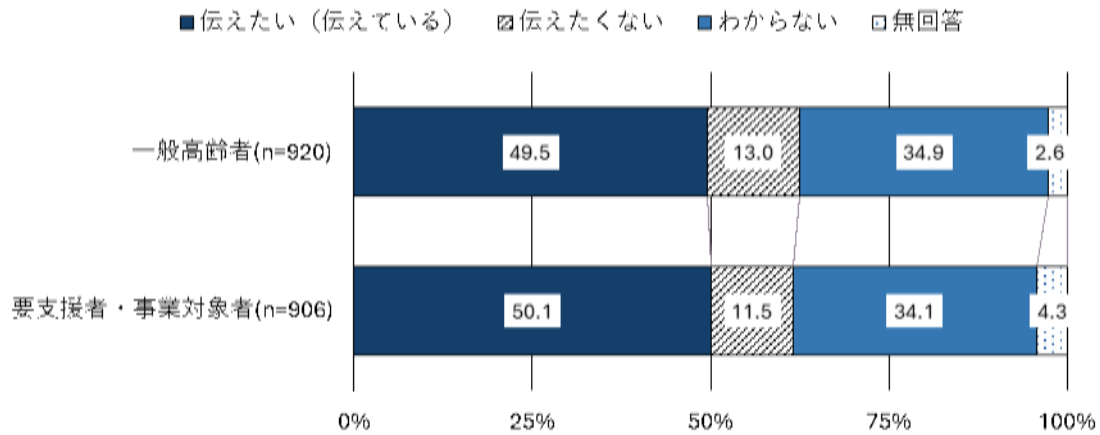
自分自身が認知症になったときにどうしたらいいのか、不安に感じることは何ですか。(○はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「介護のこと」が最も高く、一般高齢者で 72.9%、要支援者・事業対象者で 73.8%、次いで「症状のこと」は一般高齢者で 60.8%、要支援者・事業対象者で 61.9%となっている。各選択肢の割合に両者で大きな差は見られない。



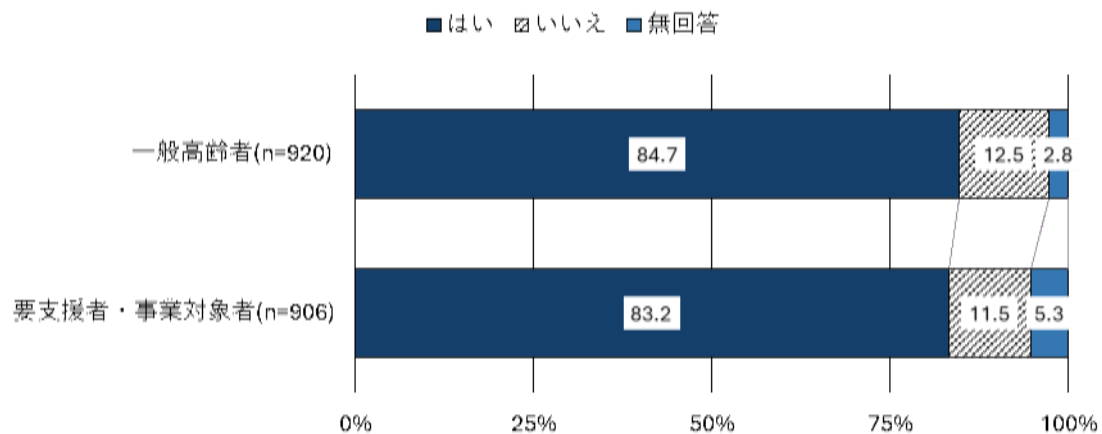
自分や家族が認知症になった場合、周囲に認知症であることを伝えたいと思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「伝えたい(伝えている)」が最も高く、一般高齢者で49.5%、要支援者・事業対象者で50.1%となっている。各選択肢の割合に大きな差はみられない。



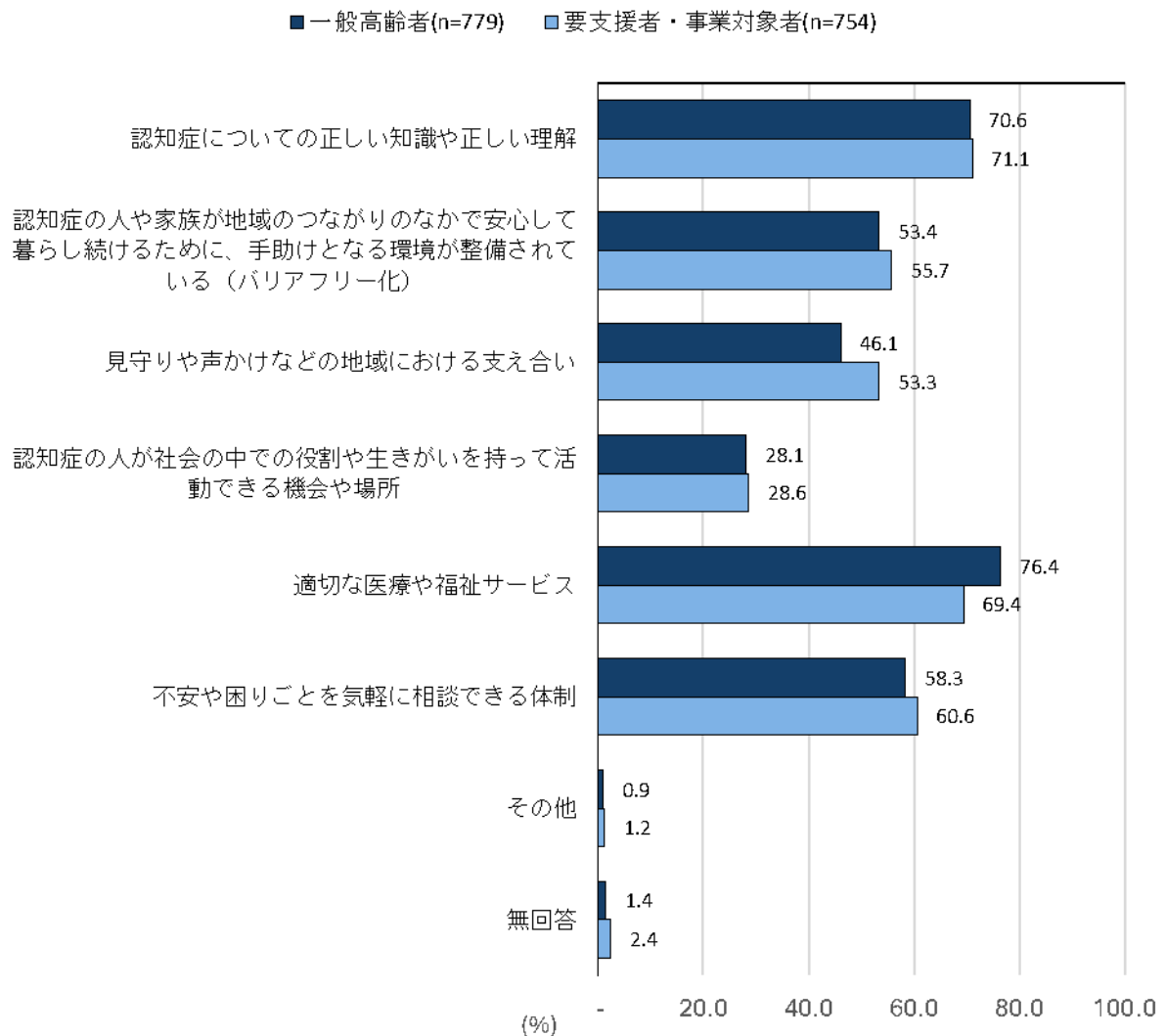
認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が最も高く、両者8割以上となった。各選択肢の割合に大きな差はみられない。



(暮らし続けたいと答えた方)認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる地域を作っていくために必要であると思うことは何ですか。
(〇はいくつでも)

一般高齢者では「適切な医療や福祉サービス」が76.4%と最も高く、次いで「認知症についての正しい知識や正しい理解」が70.6%となっている。要支援者・事業対象者では、「認知症についての正しい知識や理解」が71.1%と最も高く、次いで「適切な医療やサービス」が69.4%となっている。

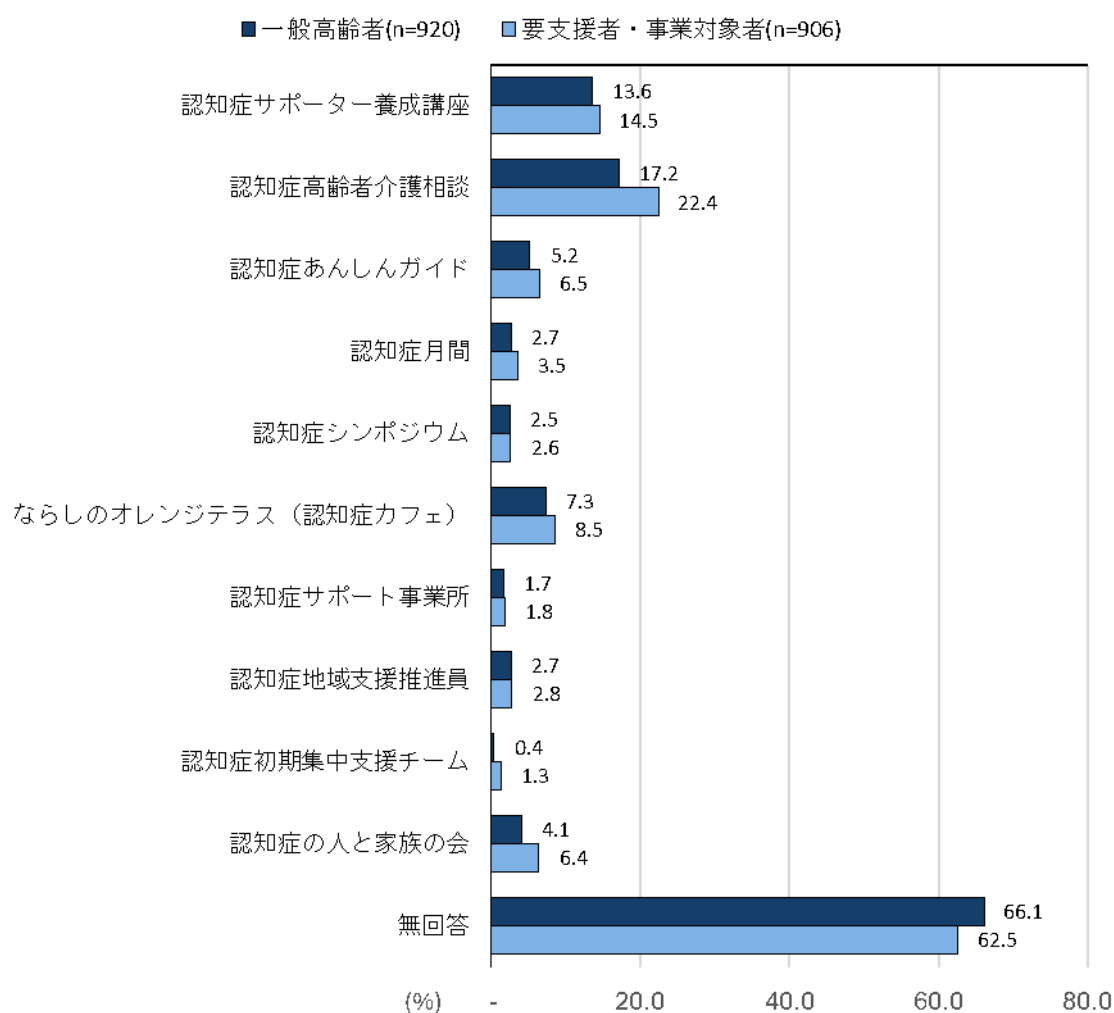


(5) 市の認知症施策の認知度

市が取り組んでいる認知症施策等で知っているものはありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「認知症高齢者介護相談」が最も高く、一般高齢者が17.2%、要支援者・事業対象者が22.4%となっている。次いで、「認知症サポーター養成講座」が一般高齢者で13.6%、要支援者・事業対象者で14.5%となっている。

なお、本設問では「知っているものはない」の選択肢が設けられていないため、「無回答」が多くなっている可能性がある。全体のうち、知っている認知症施策がある人の割合は一般高齢者で312人(33.9%)、要支援者・事業対象者で340人(37.5%)となっており、それぞれ3割台にとどまっている。

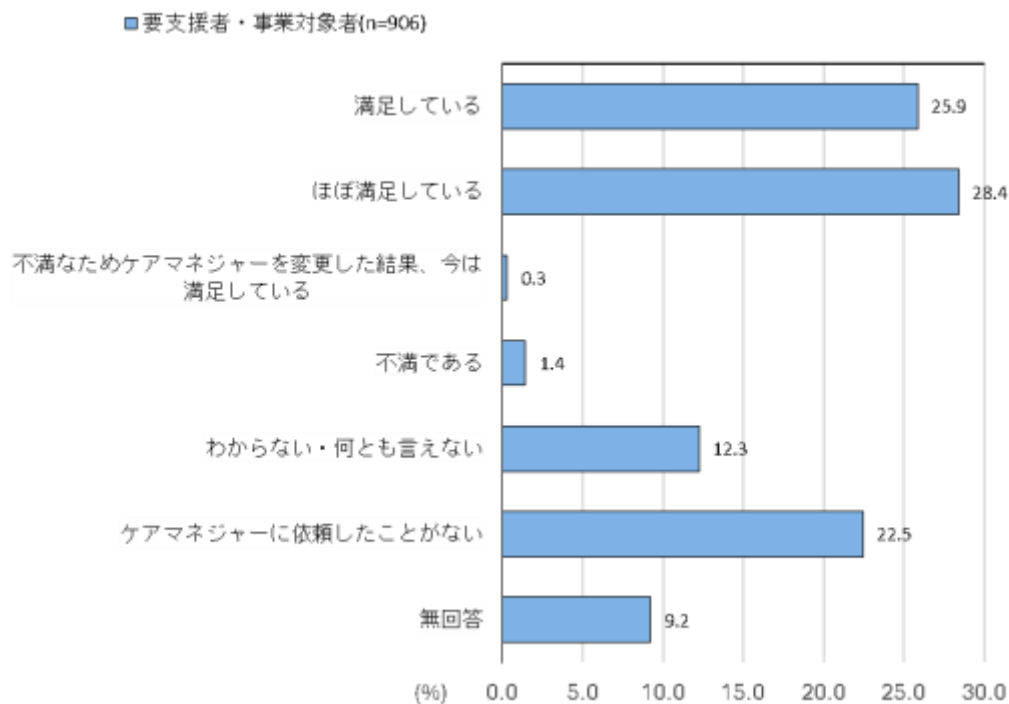


12. 介護保険の利用について

(1) ケアマネジャーに対する満足度

ケアマネジャーの対応に満足していますか。

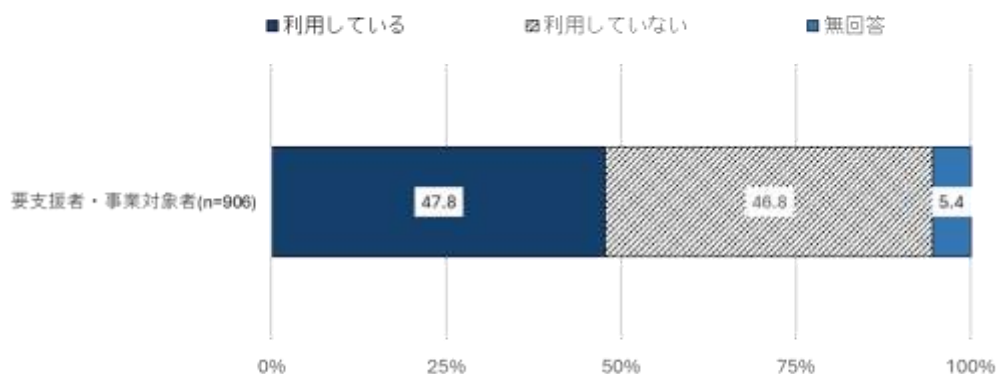
「満足している」「ほぼ満足している」「不満なためケアマネジャーを変更した結果、今は満足している」が合わせて 54.3%と半数以上が現状の対応に満足している。「不満である」は 1.4%となっている。



(2) 介護保険サービスの利用状況

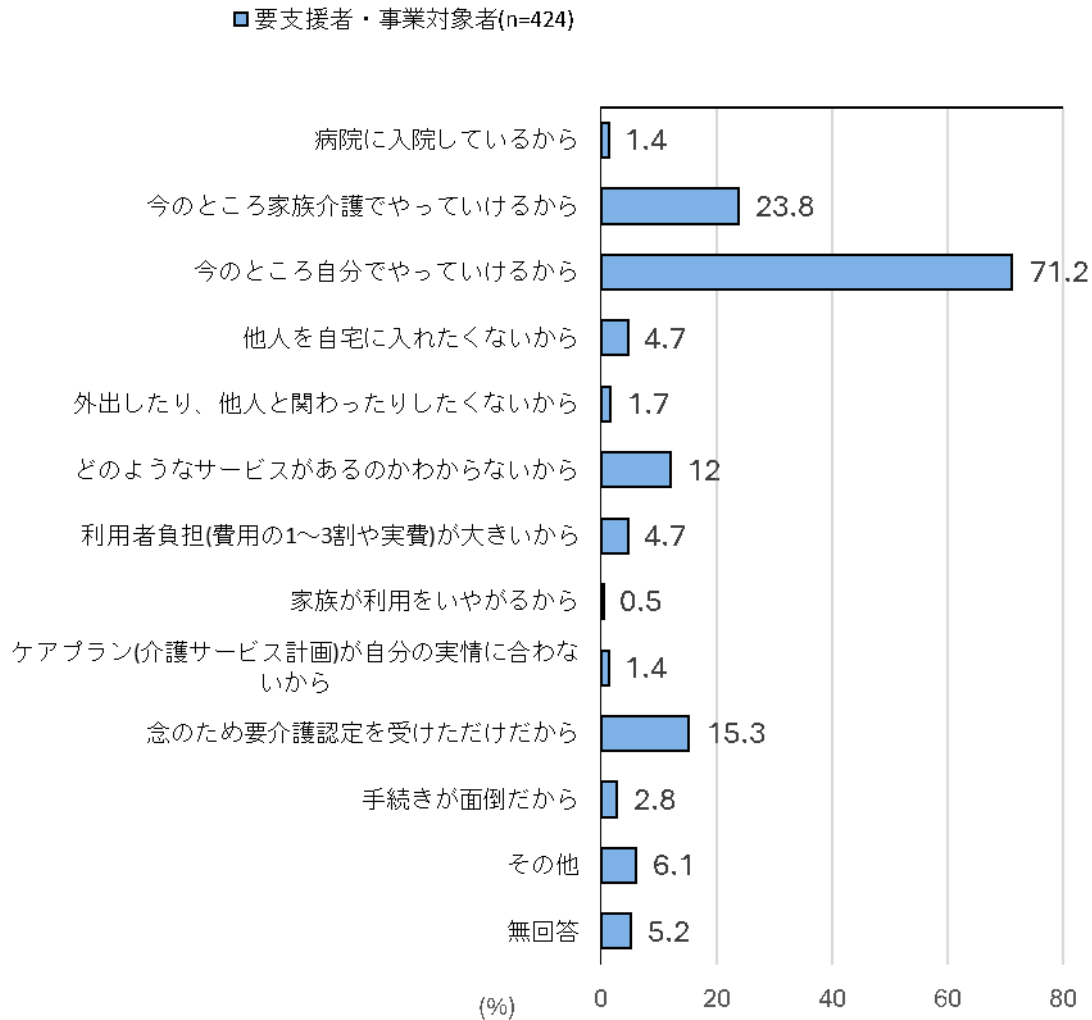
あなたは、この1か月に介護保険のサービスを利用しましたか。

「利用している」が 47.8%、「利用していない」が 46.8%と大きな差は見られない。



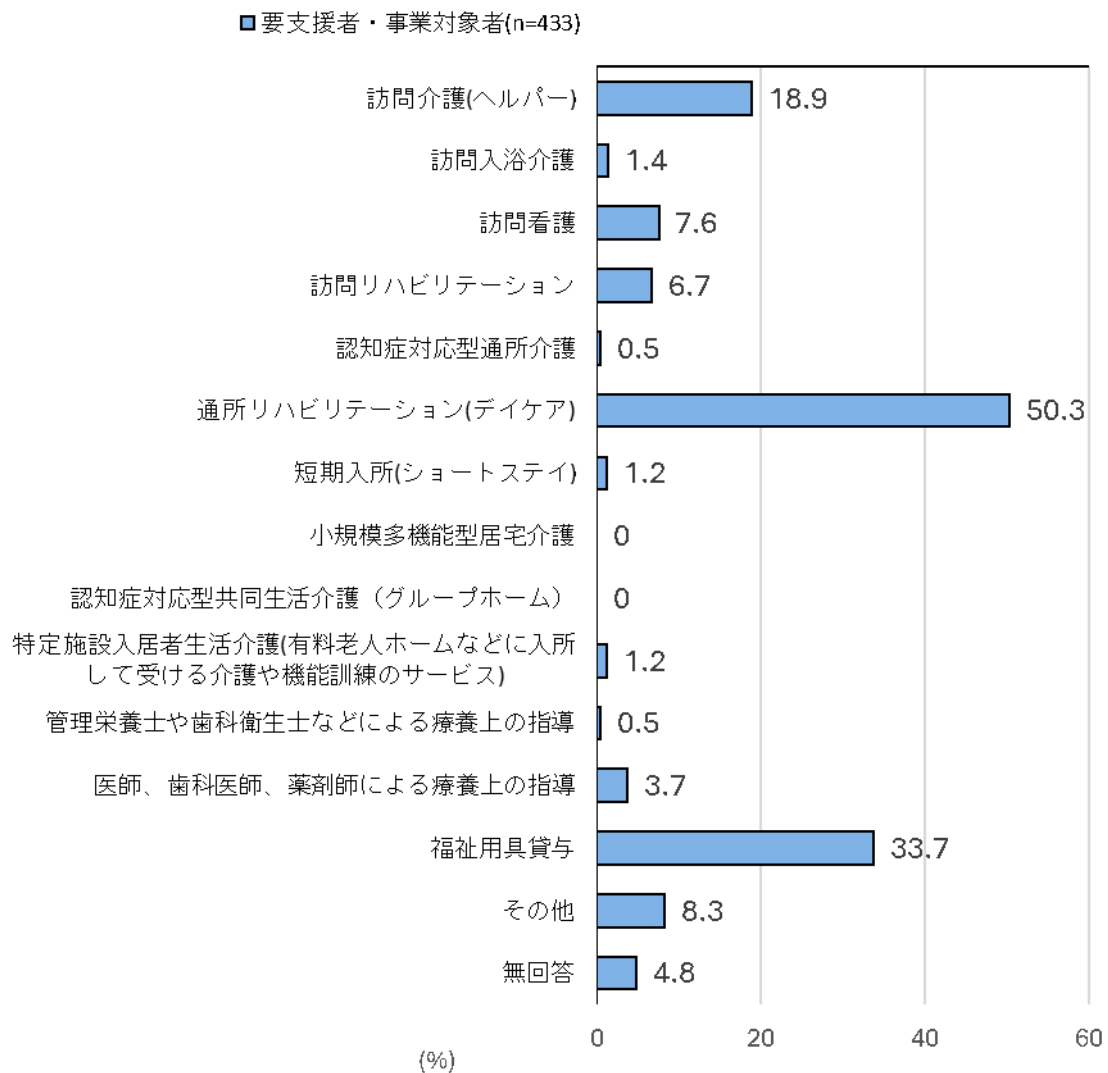
(利用していない人)利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「今のところ自分でやっていけるから」が71.2%と最も高く、次いで「今のところ家族介護でやっていけるから」が23.8%となっている。



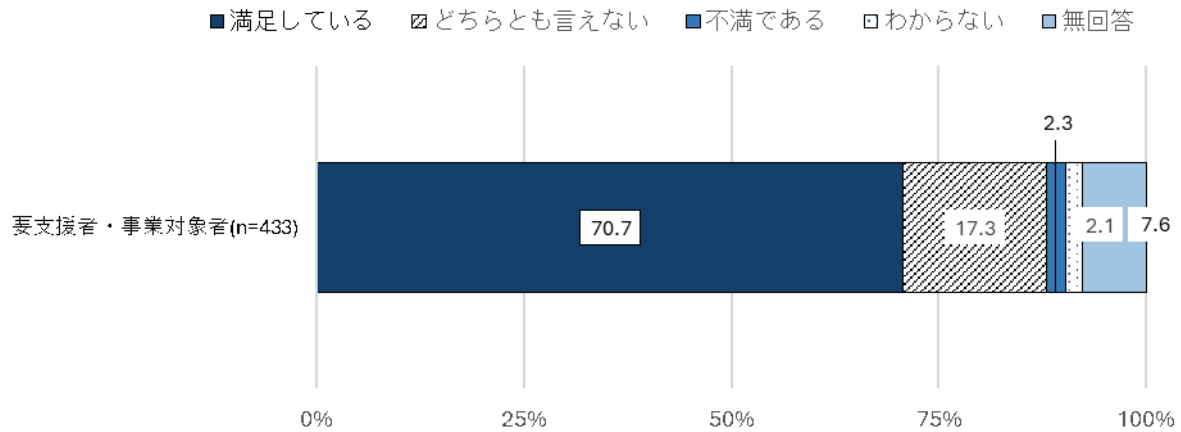
(利用している人)以下のサービスを利用していますか。(〇はいくつでも)

「通所リハビリテーション(デイケア)」が 50.3%と最も高く、次いで「福祉用具貸与」が 33.7%、「訪問介護(ヘルパー)」が 18.9%となっている。



(利用している人)利用しているサービスに満足していますか。

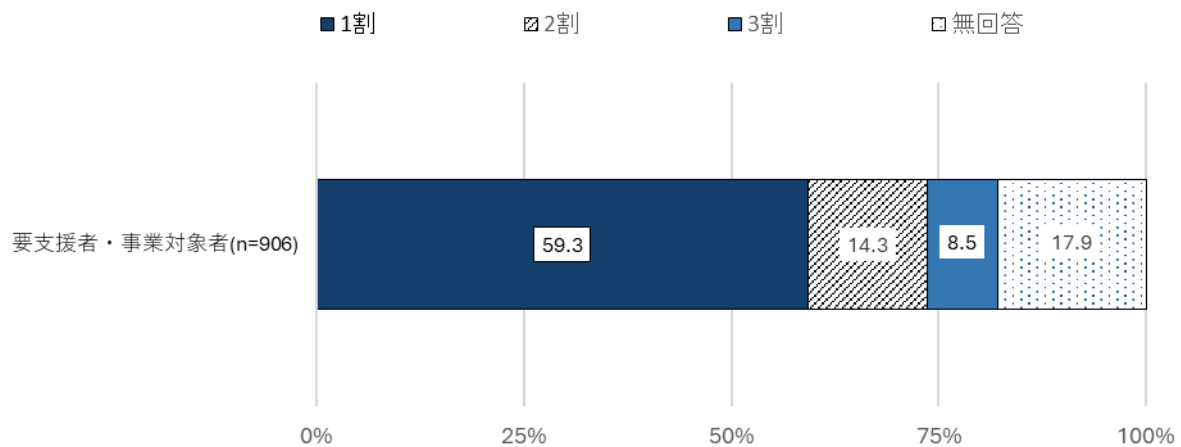
「満足している」が70.7%と最も高く、「どちらとも言えない」が17.3%、「不満である」が2.3%となっている。



(3) 介護サービスの自己負担割合と負担感

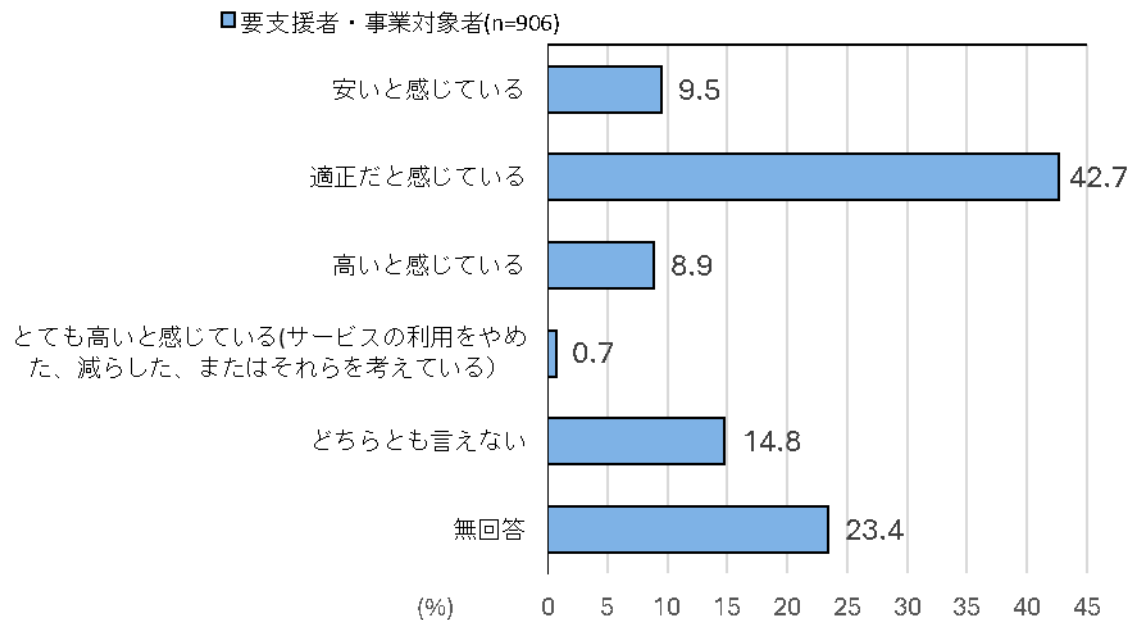
あなたの自己負担割合をお答えください。

「1割」が59.3%と最も高く、「2割」が14.3%、「3割」が8.5%となっている。



お答えいただいた費用(自己負担分)について、どのように感じていますか。

「適正だと感じている」が42.7%と最も高い。「安いと感じている」「高いと感じている」は同程度となっている。



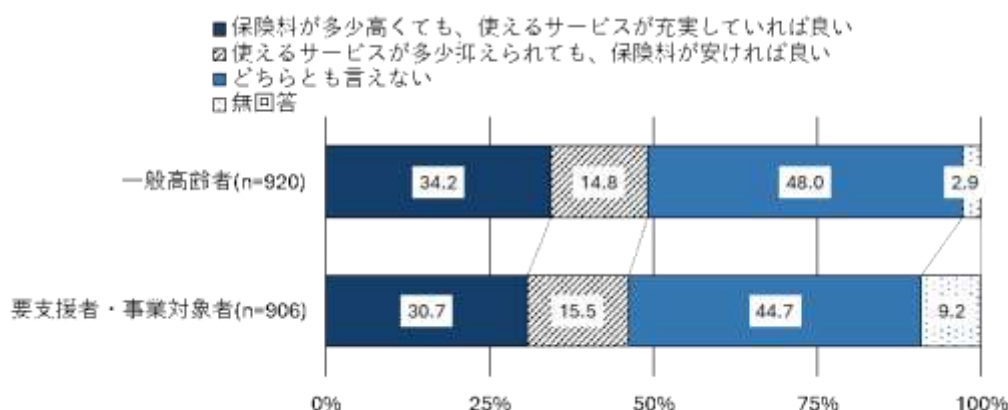
13. 介護保険制度・高齢者施策について

(1) 介護保険料と介護サービスのあり方について

介護保険制度は、40歳以上の方から保険料を徴収して介護が必要な方にサービスを提供する費用にあてていますが、保険料と介護サービスのあり方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。

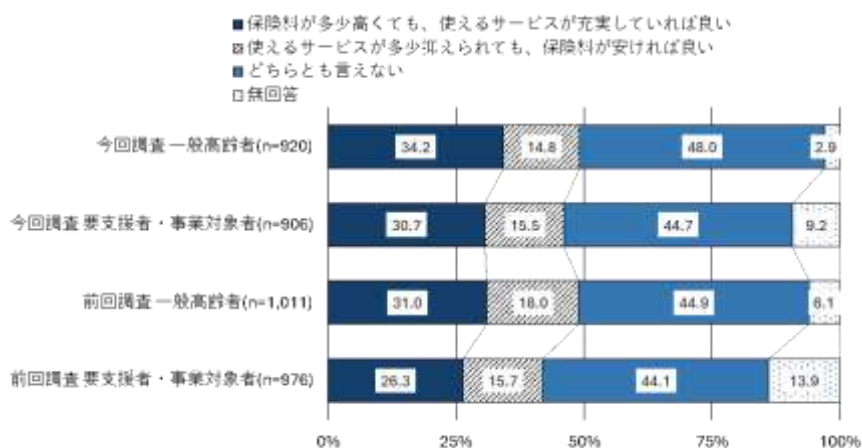
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「どちらとも言えない」が最も高く、一般高齢者で48.0%、要支援者・事業対象者で44.7%と、いずれも半数近くを占めている。

次いで、「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」が一般高齢者で34.2%、要支援者・事業対象者で30.7%、「使えるサービスが多少抑えられても、保険料が安ければ良い」がそれぞれ15%前後となっている。



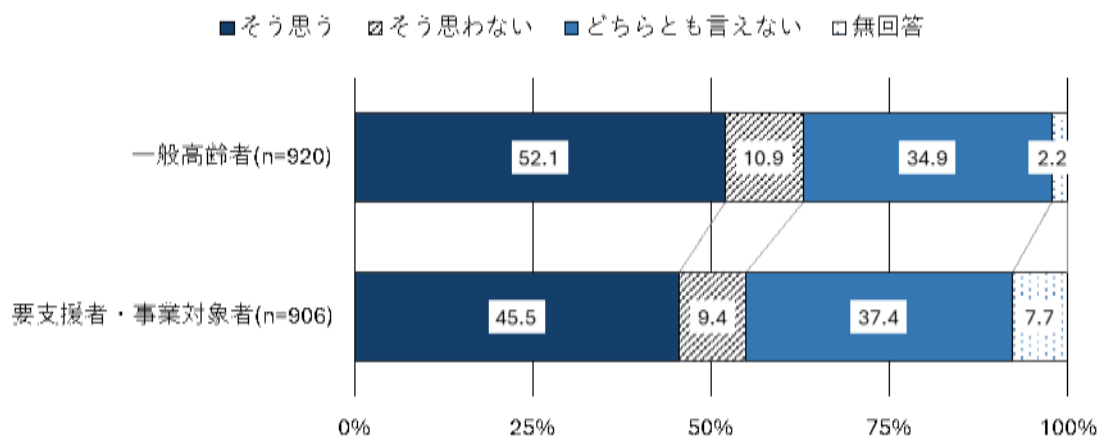
【経年比較】

前回調査と比較すると、大きな差はないものの、保険料が高くてもサービス充実を重視する割合がわずかに上昇し、サービス抑制でも保険料の低さを重視する割合がわずかに下がっている。



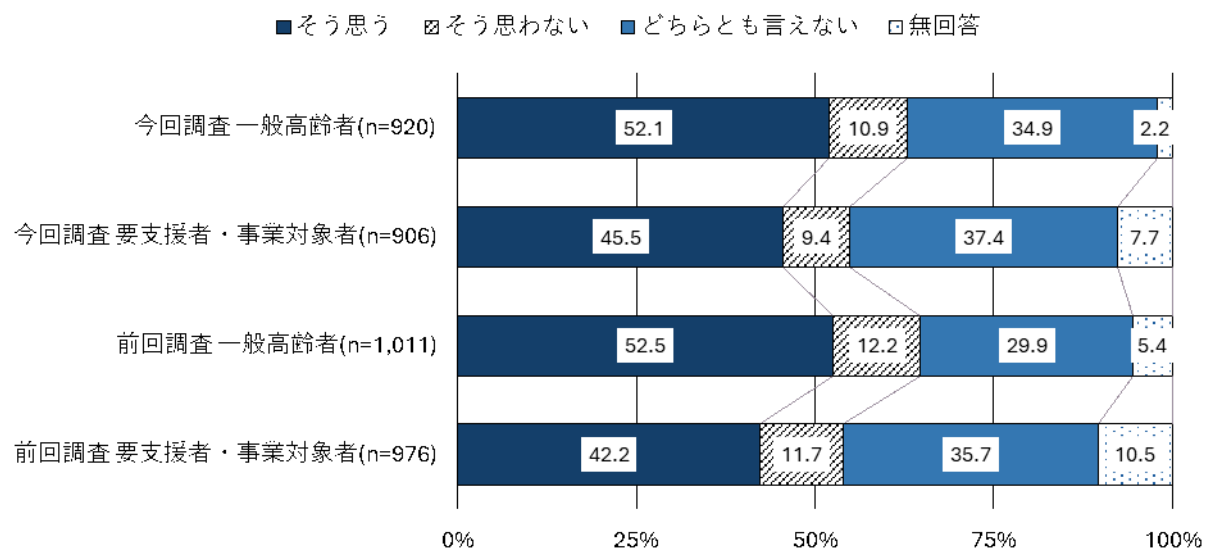
65歳以上の方の保険料に関して「低所得者に配慮するために、高所得者の負担を多少増やすのもやむを得ない」ということについて、あなたはどのようにお考えですか。

一般高齢者・要支援者・事業対象者ともに「そう思う」が最も高く、一般高齢者で52.1%、要支援者・事業対象者で45.5%となっており、一般高齢者が6.6ポイント上回っている。「そう思わない」は両者1割程度、「どちらとも言えない」は両者3割台となっている。



【経年比較】

前回調査と比較しても大きな差は見られない。

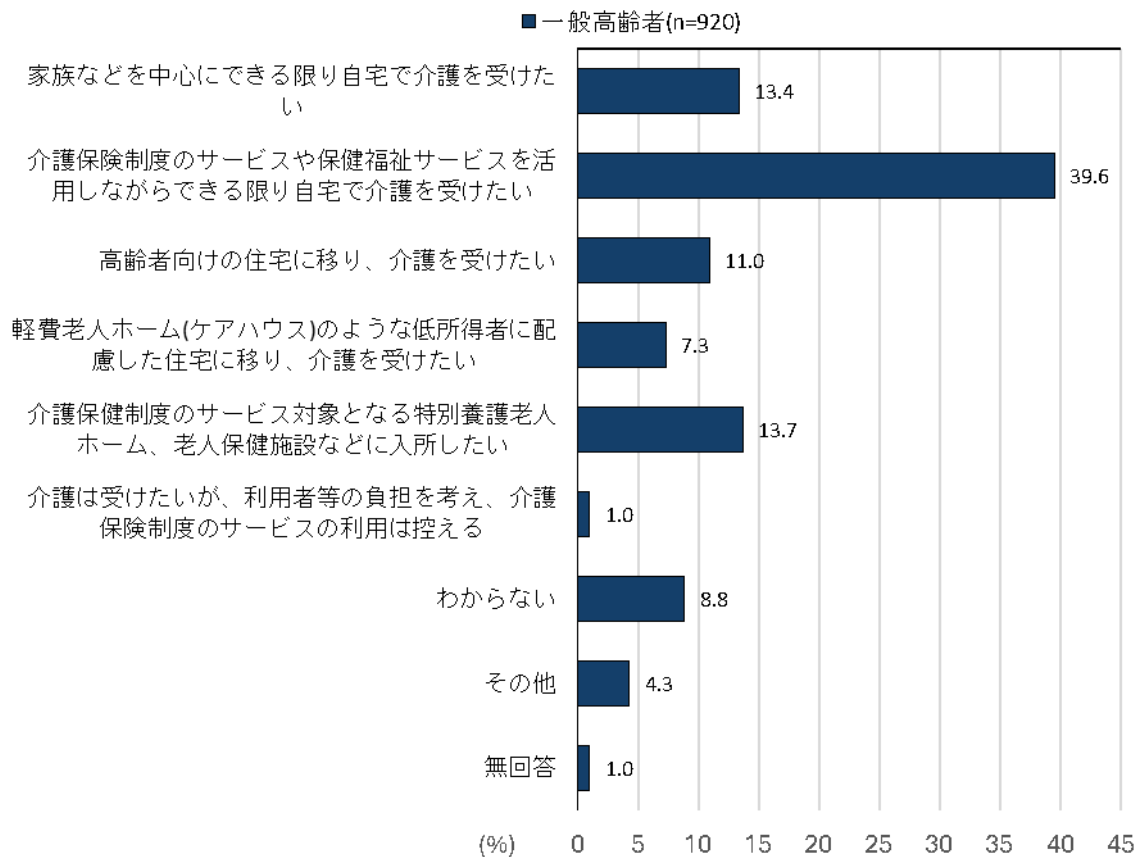


(2) 将来の生活と介護予防について

(一般高齢者のみ) 今後、もしあなたご自身が介護が必要となった場合、どのようにしたいとお考えですか。

「介護保険制度のサービスや保健福祉サービスを活用しながらできる限り自宅で介護を受けたい」が39.6%と最も高くなっている。

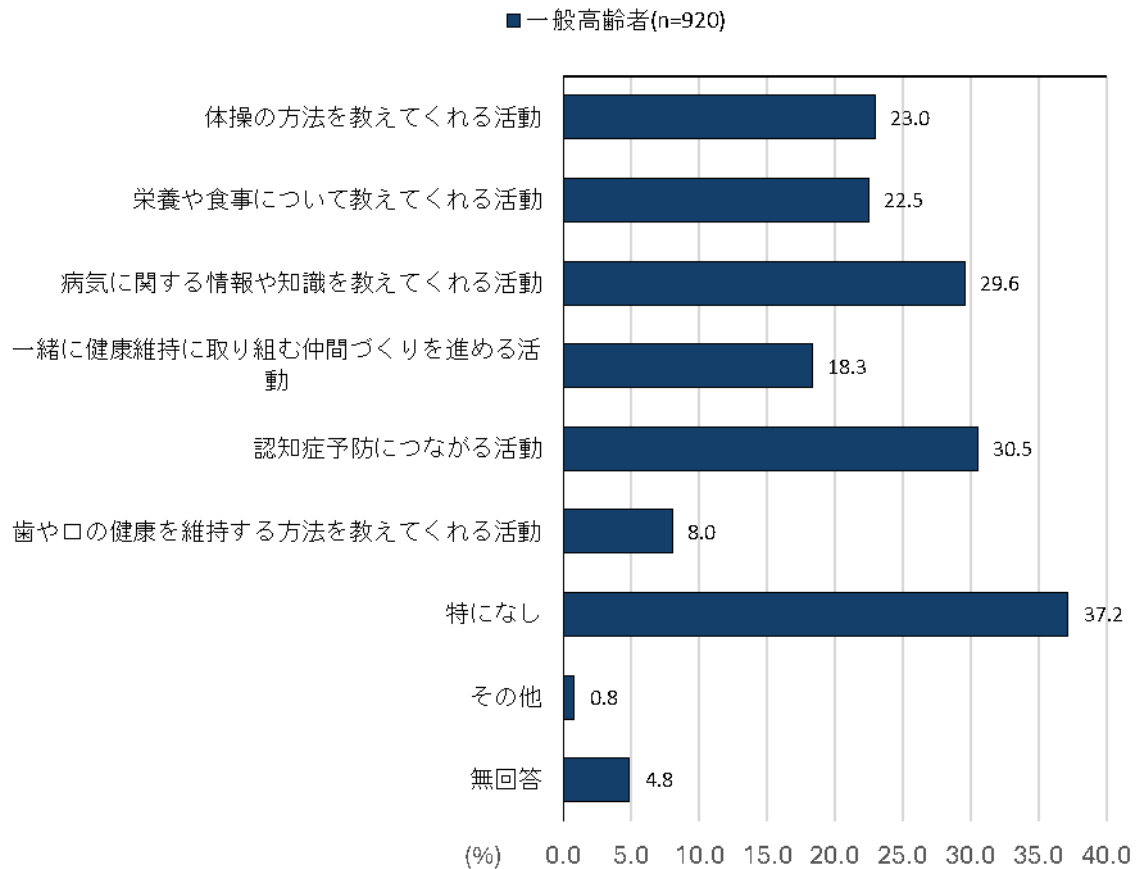
次いで、「介護保険制度のサービス対象となる特別養護老人ホーム、老人保健施設などに入所したい」が13.7%、「家族などを中心にできる限り自宅で介護を受けたい」が13.4%となっている。



(一般高齢者のみ)介護予防のために参加したい活動はありますか。

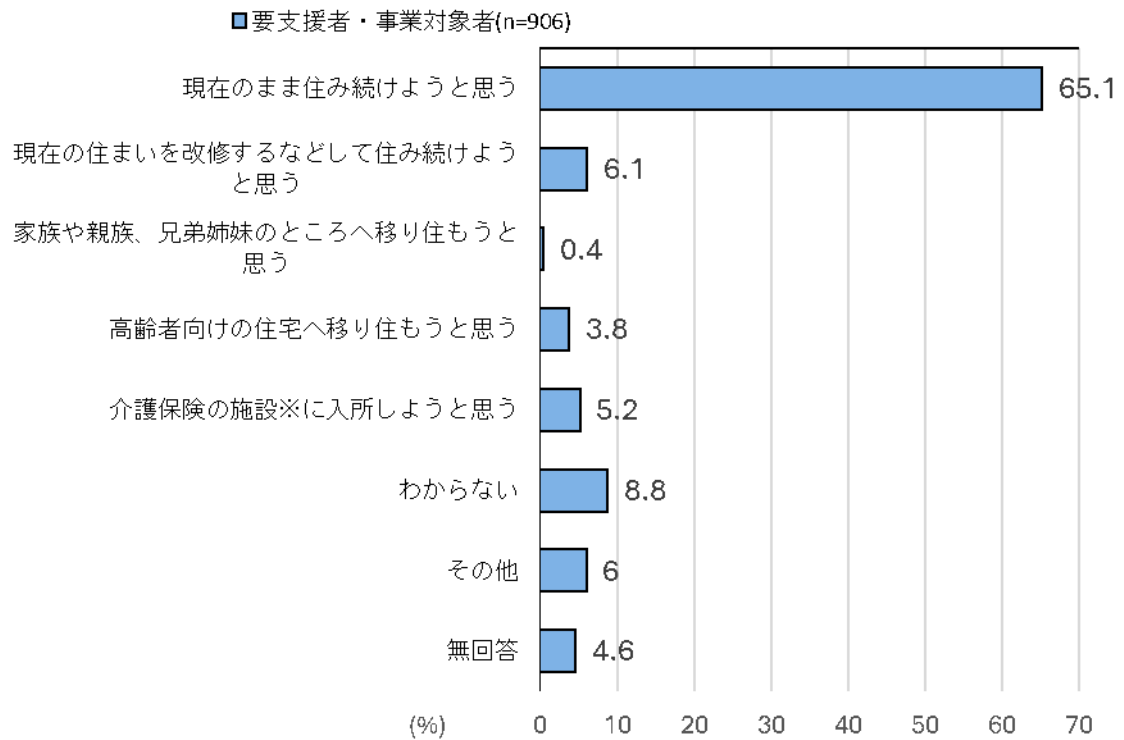
「特になし」が37.2%と最も高くなっている。

次いで、「認知症予防につながる活動」が30.5%、「病気に関する情報や知識を教えてくれる活動」が29.6%、「体操の方法を教えてくれる活動」が23.0%となっている。



(要支援者・事業対象者のみ)今後希望する生活場所についてうかがいます。

「現在のまま住み続けようと思う」が65.1%と最も高い。

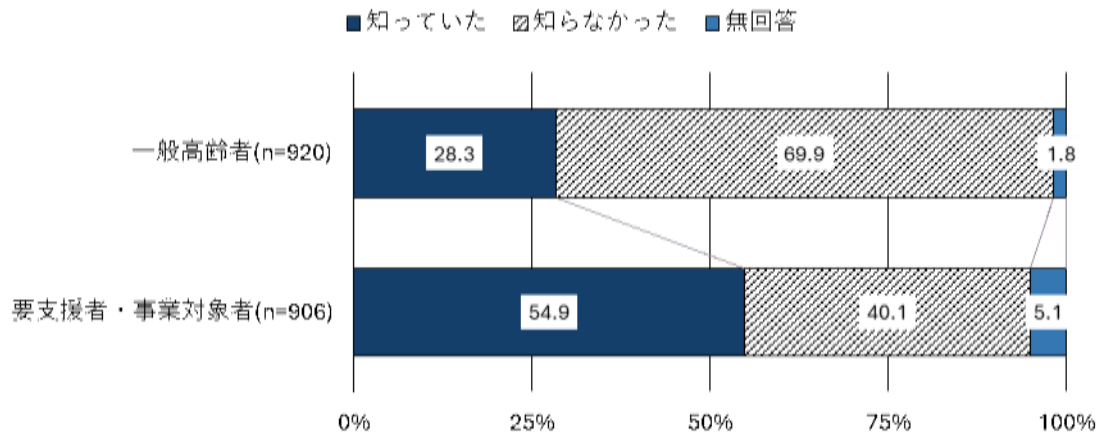


(3) 高齢者外出支援事業について

高齢者外出支援事業(タクシー券の支給)を知っていますか。

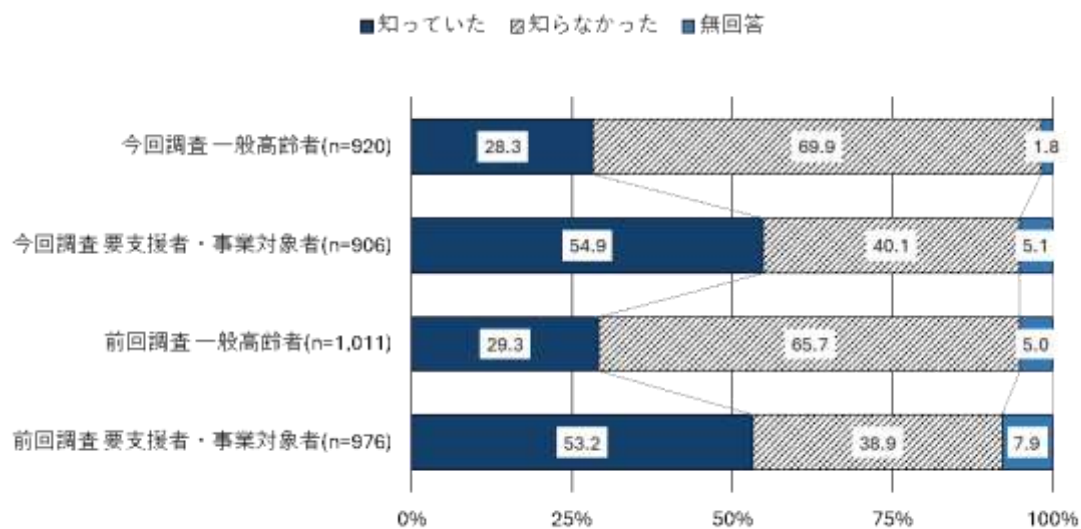
一般高齢者では「知らなかった」が69.9%と高く、「知っていた」は28.3%にとどまっている。

一方、要支援者・事業対象者では「知っていた」が54.9%で、「知らなかった」の40.1%を上回っており、一般高齢者と比べて26.6ポイント高くなっている。



【経年比較】

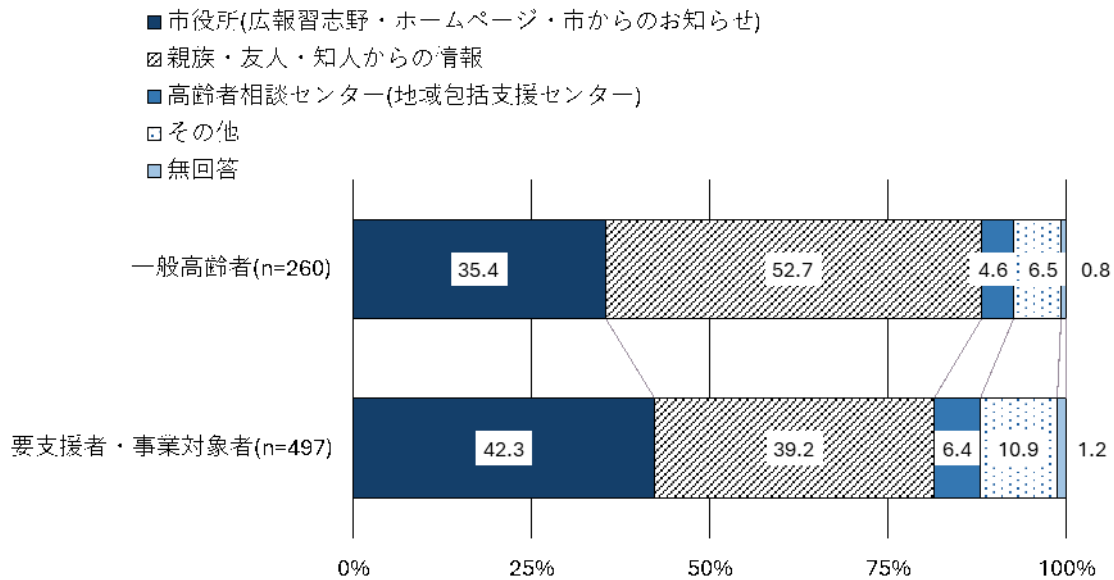
前回調査と比較しても大きな差は見られない。



(知っている方)本事業を何で知りましたか。

一般高齢者では「親族・友人・知人からの情報」が52.7%と最も高く、要支援者・事業対象者の39.2%を13.5ポイント上回っている。

一方、要支援者・事業対象者では「市役所(広報・ホームページ等)」が42.3%で最も高く、一般高齢者の35.4%を6.9ポイント上回っている。



より良い高齢者の外出支援策とするには、今後どのような事業の見直しを行うのが良いと思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「一般高齢者では「タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい」が最も高い。一般高齢者においては69.3%で、要支援者・事業対象者の49.7%を19.6ポイント上回っている。

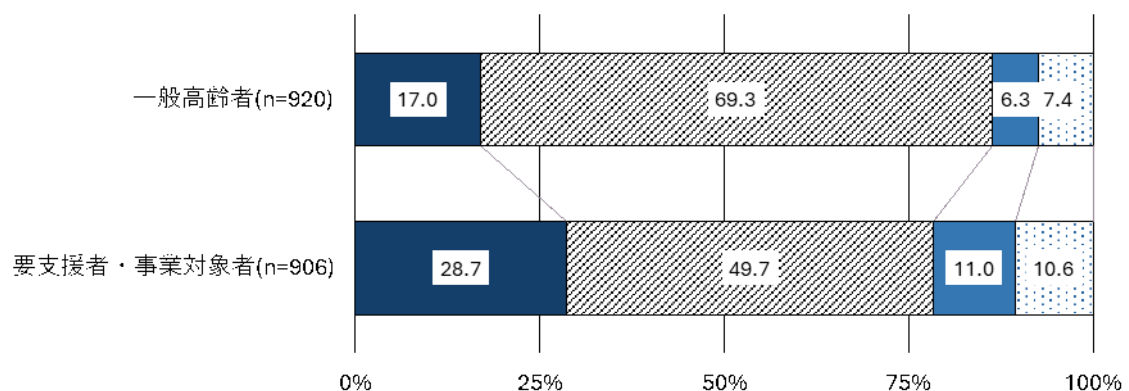
一方、「現状のタクシー券のまま継続してほしい」は要支援者・事業対象者が28.7%で、一般高齢者の17.0%を11.7ポイント上回っている。

■ 現状のタクシー券のまま継続してほしい

▨ タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい

■ その他

□ 無回答

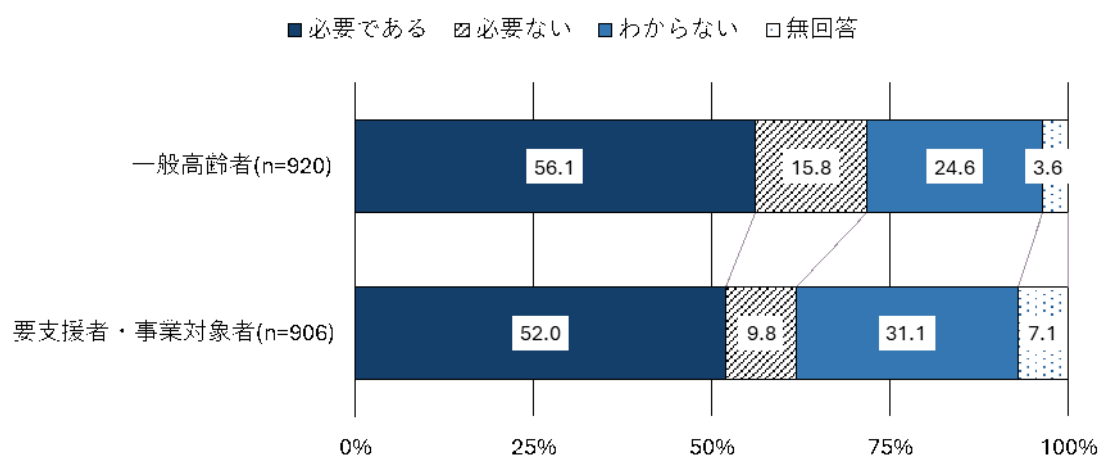


(4) 運転免許証自主返納者への支援について

近年、高齢者ドライバーが当事者となる痛ましい事故が多発し、運転免許証の自主返納に大きな関心が集まっています。本市の公共交通は比較的充実していることから、現時点でタクシー券等の支給は行っていないですが、今後、運転免許証を自主返納した方に対する税金を使った支援は必要であると思いますか。

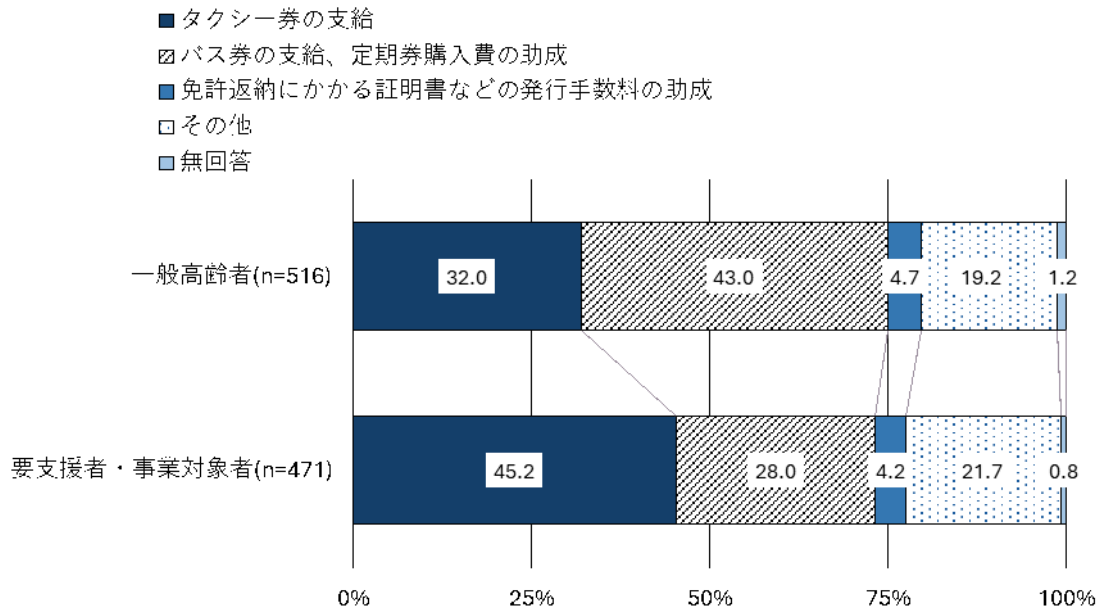
一般高齢者、要支援者・事業者ともに「必要である」が最も高く、一般高齢者で56.1%、要支援者・事業対象者で52.0%となっている。

一方、「必要ない」は一般高齢者で15.8%であり、要支援者・事業対象者の9.8%を6.1ポイント上回っている。「わからない」は要支援者・事業対象者で31.1%と、一般高齢者の24.6%を6.5ポイント上回っている。



(「必要である」を選択された方)どのような支援が必要だと思いますか。

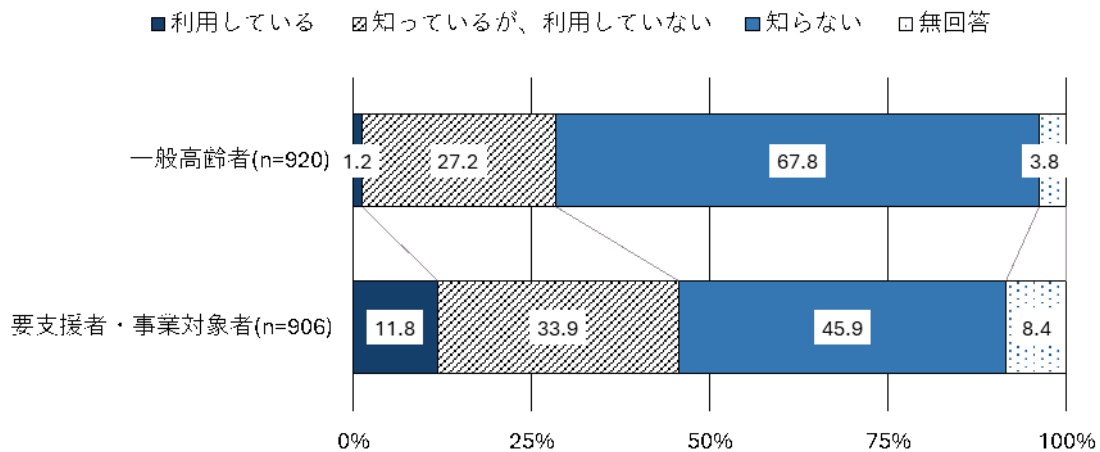
一般高齢者では「バス券の支給、定期券購入費の助成」が43.0%と最も高くなっている一方、要支援者・事業対象者では「タクシー券の支給」が45.2%と最も高くなっている。



(5) 高齢者相談センターの相談窓口の認知度

高齢者相談センターで、センター内での生活支援や介護予防についての相談ができることをご存じですか。もしくは利用していますか。

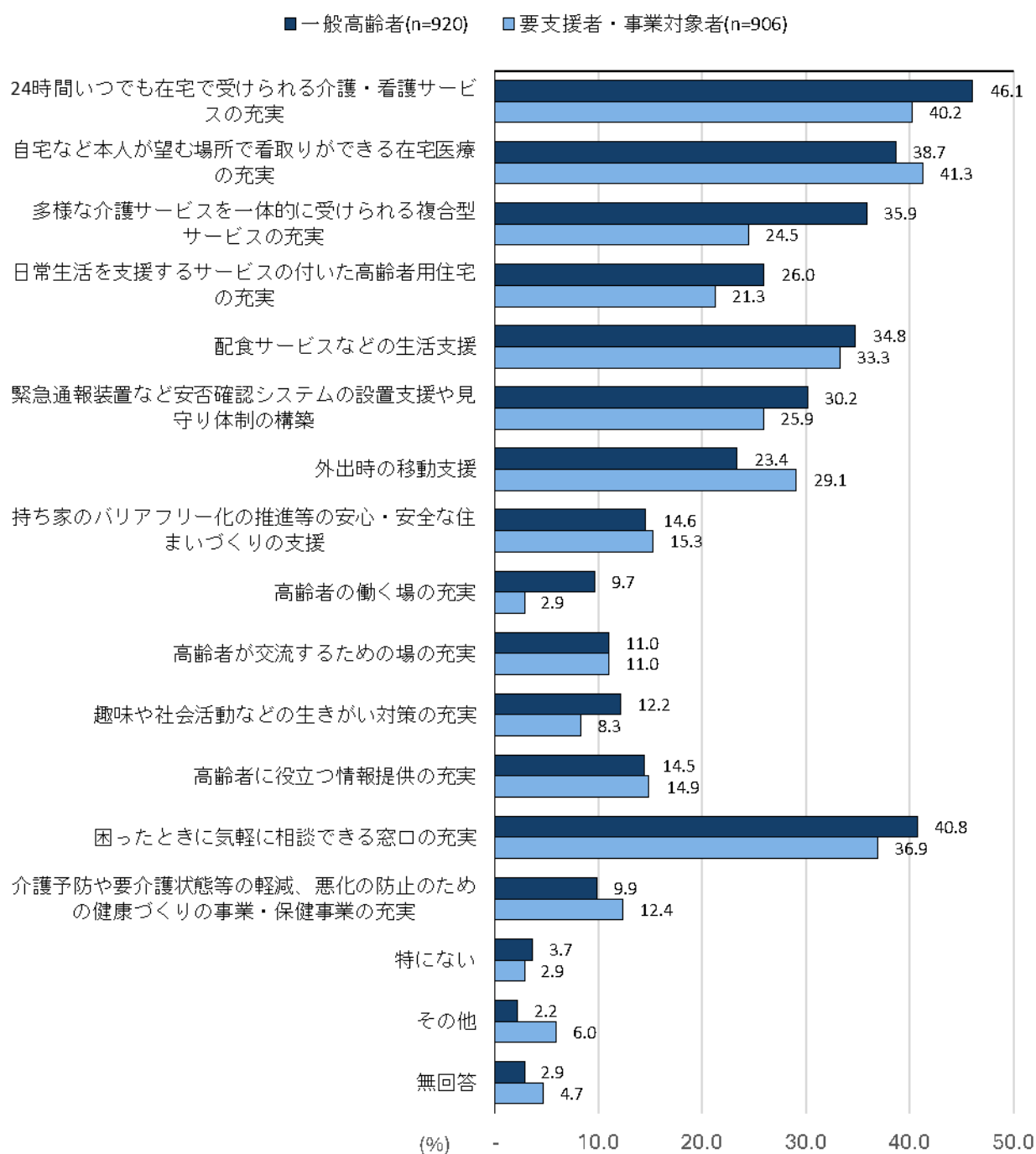
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「知らない」が最も高い。一般高齢者が 67.8%で、要支援者・事業対象者の 45.9%を 21.9 ポイント上回っている。「利用している」は要支援者・事業対象者で 11.8%となっており、一般高齢者の 1.2%を 10.6 ポイント上回っている。「知っているが、利用していない」は両者 3 割程度である。



(6) 高齢者が地域で在宅を続けるために必要な施策

あなたは、高齢者が住み慣れた地域で在宅生活を続けていくために、主としてどのような施策が必要であると考えますか。(〇は5つまで)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「24時間在宅サービスの充実」が最も高く、一般高齢者では46.1%、要支援者・事業対象者で40.2%となっている。次いで、一般高齢者では「困ったときに気軽に相談できる窓口の充実」が40.8%となっている。要支援者・事業対象者では「自宅など本人が望む場所で看取りができる在宅医療の充実」が41.3%となっている。

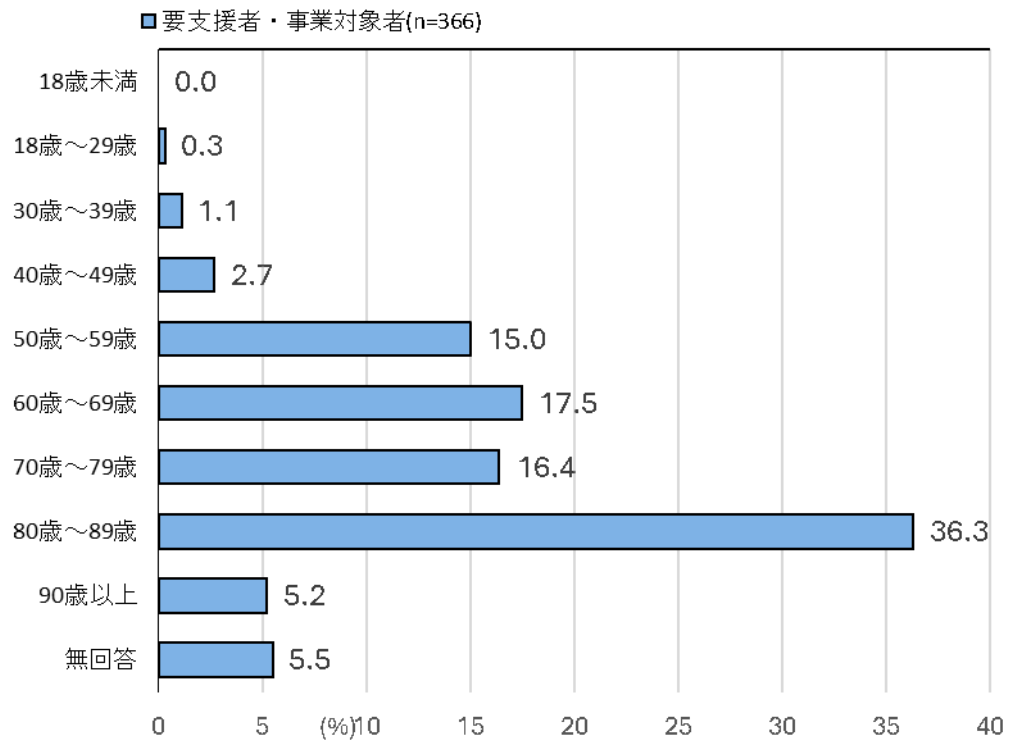


14. 主な介護者の方への質問

(1) 介護者の年齢

あなたの年齢をお答えください。

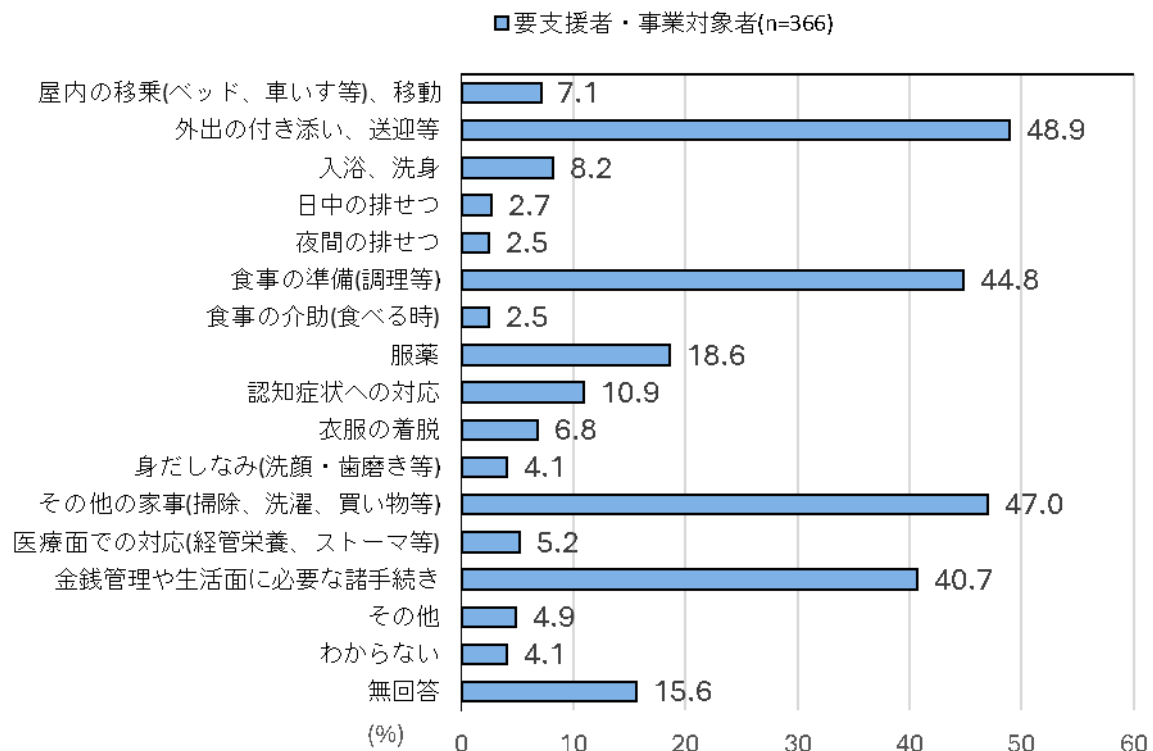
80代が36.3%と最も高く、次いで60代が17.5%、70代が16.4%となっている。



(2) 介護の種類

現在、主な介護者の方が行っている介護等は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

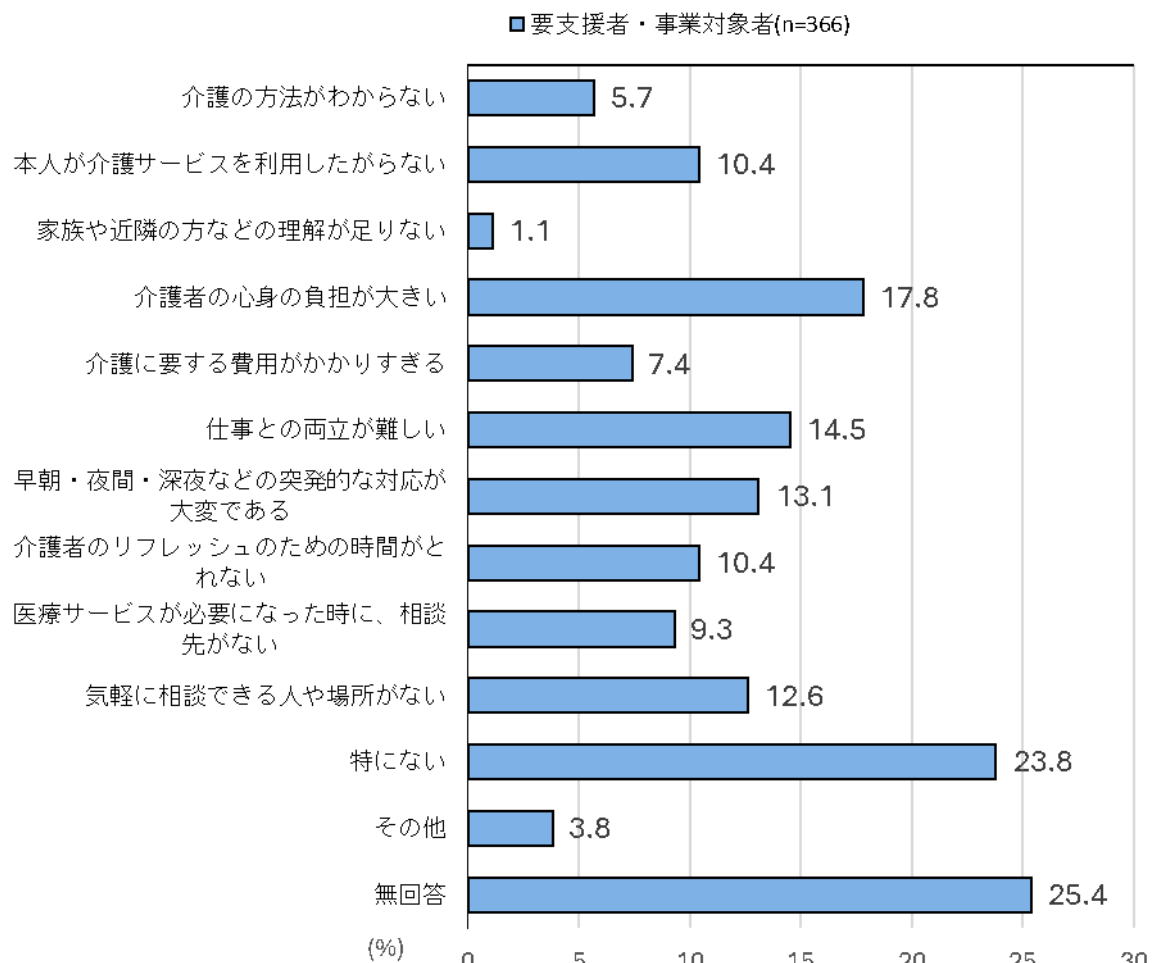
「外出の付き添い」が最も高く、48.9%となっている。その他、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」「食事の準備(調理等)」「(44.8%)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(40.7%)が同程度に割合が高い。



(3) 介護者の現状

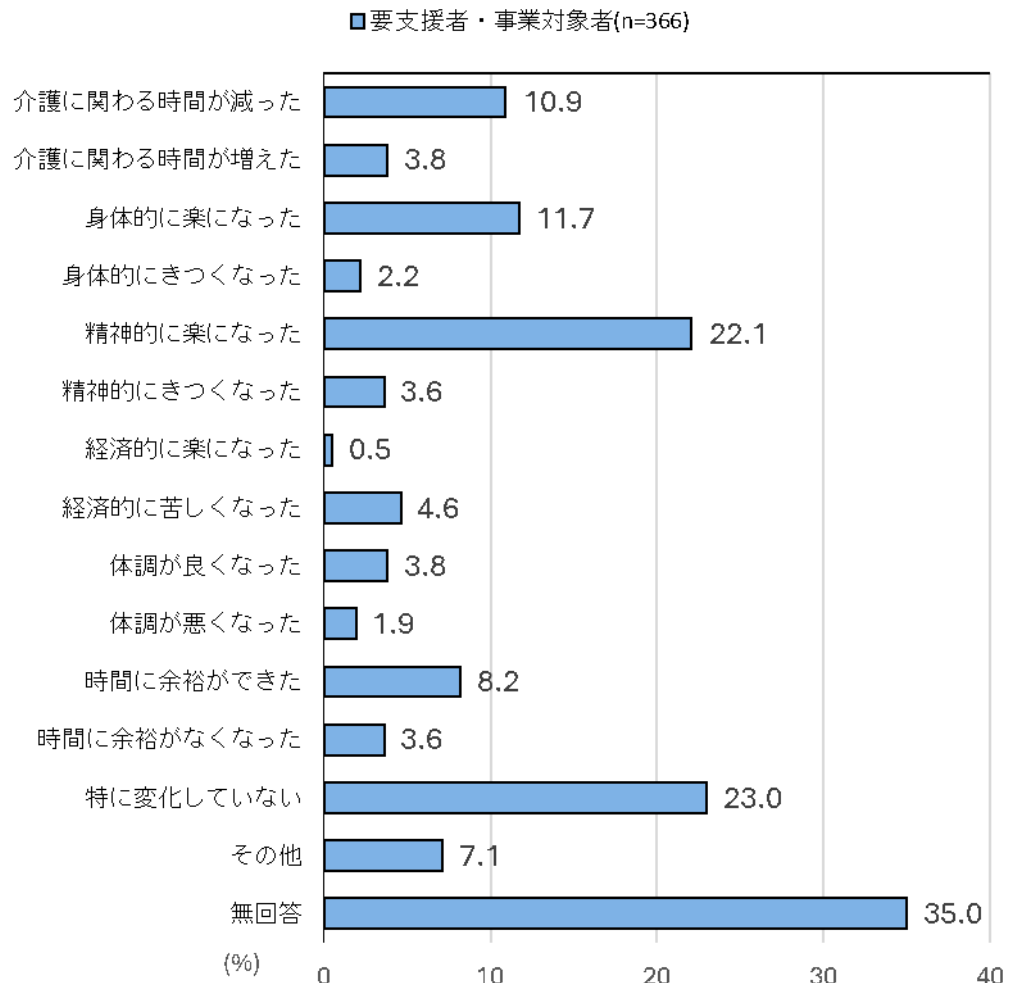
介護を行う上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

「特にない」が23.8%と最も高く、次いで「介護者の心身の負担が大きい」が17.8%、「仕事との両立が難しい」が14.5%となっている。



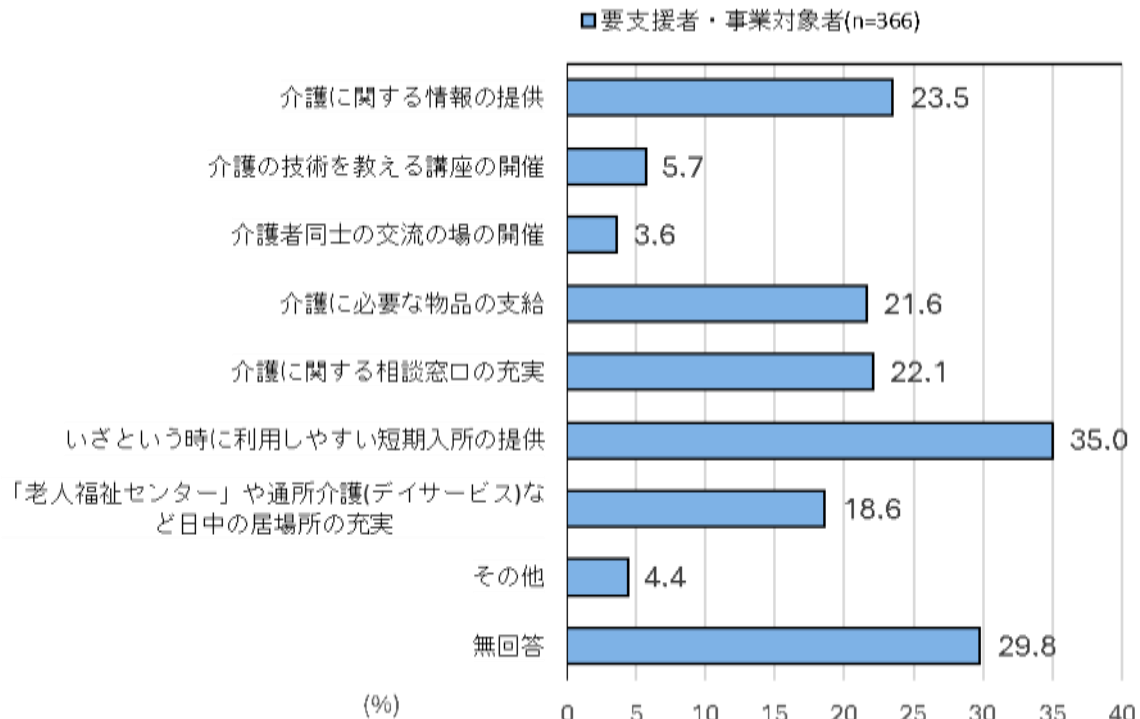
介護サービスを利用することによって、介護している方はどのように変化しましたか。(〇はいくつでも)

「特に変わっていない」が23.0%と最も高く、次いで「精神的に楽になった」が22.1%、「身体的に楽になった」が11.7%となっている。



介護者として、介護に関してどのような支援があったらいいと思いますか。(〇は3つまで)

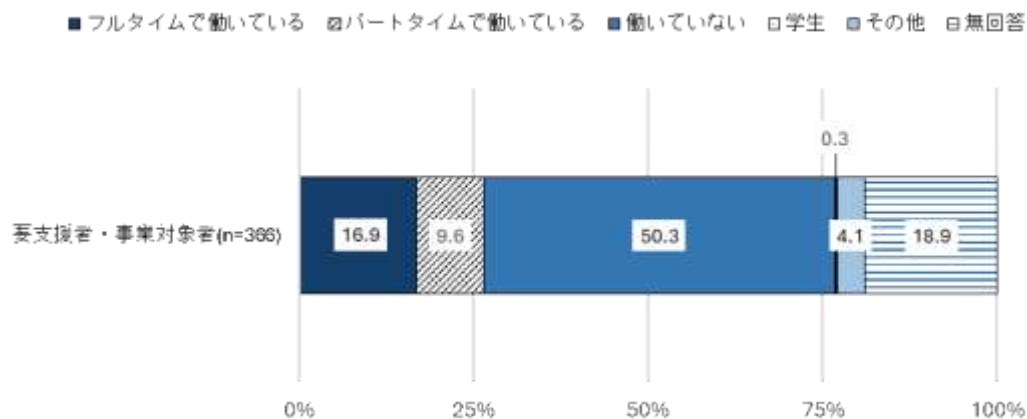
「いざという時に利用しやすい短期入所の提供」が35.0%と最も高く、次いで「介護に関する情報の提供」が23.5%、「介護に関する相談窓口の充実」が22.1%となっている。



(4) 介護者の仕事と介護の両立について

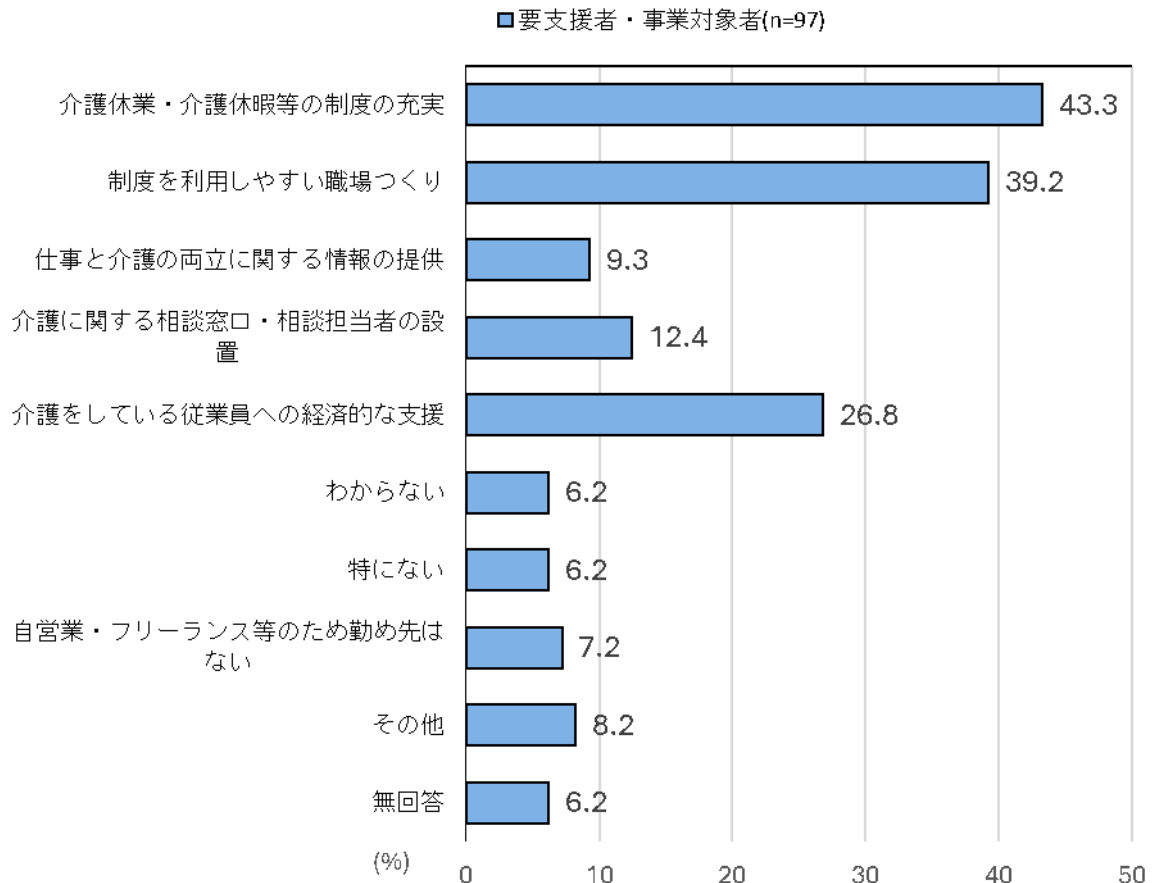
あなたの現在の勤務形態についてお答えください。

「働いていない」が50.3%と半数を占めており、「フルタイムで働いている」が16.9%、「パートタイムで働いている」が9.6%となっている。



(フルタイム・パートタイムで働いている方)あなたは、勤め先からどのような支援があれば仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(〇は3つまで)

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が43.3%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が39.2%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が26.8%となっている。



15. ご意見・ご要望

市の高齢者保健福祉施策についてご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

① 情報提供・周知の充実

【一般高齢者】

- ・市の施設や高齢者施策について、内容を分かりやすくまとめた冊子や一覧などで周知してほしい。
- ・制度や介護サービスの仕組み・利用方法について、詳しく説明してほしい。
- ・高齢者施策や支援制度の情報発信を強化してほしい。
- ・介護や支援制度について、本人だけでなく家族世代にも周知してほしい。

【要支援・事業対象者】

- ・スマートフォンが使えない人にも配慮し、紙媒体など分かりやすい方法で情報提供してほしい。
- ・高齢者施策や医療・介護サービスの内容や利用方法を分かりやすく周知してほしい。
- ・相談窓口や連絡先を事前に分かるようにしてほしい。

② 交通・外出支援

【一般高齢者】

- ・タクシーがつかまりにくく不足しているため、利用しやすい環境を整えてほしい。
- ・交通手段への補助(タクシー券・バス料金等)を拡充し、外出しやすくしてほしい。
- ・バスの本数増加やルート改善など、公共交通の利便性を向上してほしい。
- ・移動手段が不足しており外出や活動参加が難しいため、交通網の整備を進めてほしい。
- ・高齢者全体を対象とした交通支援制度を導入してほしい。
- ・近隣に店舗や休憩場所が少なく、外出や生活が不便である。

【要支援・事業対象者】

- ・タクシーがつかまりにくく、外出や通院に支障があるため改善してほしい。
- ・バスの本数やルートが不足しており不便なため、公共交通の利便性を向上してほしい。
- ・バス料金の負担軽減や割引制度の導入をしてほしい。

- ・タクシー券や交通補助制度を拡充してほしい。
- ・同居世帯でも交通支援制度を利用できるようにしてほしい。
- ・バス乗降時の配慮など、高齢者や身体状況に応じた対応をしてほしい。

③ 医療・介護

【一般高齢者】

- ・在宅医療や介護サービスを充実させ、自宅で生活を継続できる環境を整えてほしい。
- ・認知症や介護に関する相談体制や支援を充実してほしい。
- ・医療費や治療費の負担軽減を図ってほしい。
- ・特別養護老人ホームなど介護施設を増やし、入所しやすくしてほしい。
- ・年金の範囲で利用できる介護サービスや施設を充実してほしい。
- ・高齢者の健康維持や介護予防に関する取組を強化してほしい。

【要支援・事業対象者】

- ・どんな小さなことでも相談できる窓口や支援体制を整備してほしい。
- ・医療や介護にかかる費用負担が大きく、軽減してほしい。
- ・年金内で入居できる施設やサービスを充実してほしい。
- ・日常生活の支援(支払い代行等)を充実してほしい。
- ・民生委員など地域支援体制を強化してほしい。

④ 施設・住まい

【一般高齢者】

- ・高齢者向け施設(入所・通所・交流施設)を充実してほしい。
- ・単身高齢者向け住宅や低価格で入居できる住宅を増やしてほしい。
- ・高齢者の住まいに関する支援(耐震・終活・死後事務等)を充実してほしい。

【要支援・事業対象者】

- ・公営高齢者住宅や独居高齢者向け住宅を整備してほしい。

- ・高齢者向け住宅や施設を充実してほしい。

⑤ 経済的支援

【一般高齢者】

- ・年金だけでは生活が厳しく、経済的支援を充実してほしい。
- ・医療費・介護費・施設費などの負担を軽減してほしい。
- ・保険料や税負担の軽減を図ってほしい。
- ・高齢期の生活費や住宅費に対する支援を求める。

【要支援・事業対象者】

- ・医療・介護費などの経済的負担を軽減してほしい。
- ・市民税などの負担軽減や、納税者にも支援が受けられる制度にしてほしい。

⑥ 交流・居場所

【一般高齢者】

- ・高齢者が気軽に集まり交流できる場や居場所を増やしてほしい。
- ・体操教室や地域活動に交流要素を取り入れてほしい。
- ・地域での見守りや支え合いの仕組みを強化してほしい。
- ・ボランティアや社会参加の機会を充実してほしい。
- ・多世代が交流できる環境づくりを進めてほしい。

【要支援・事業対象者】

- ・地域に交流の場があったらうれしい。

⑦ 制度・運用への不満

【一般高齢者】

- ・支援制度の対象基準や運用に不公平感があるため見直してほしい。
- ・行政の施策や調査の進め方・運用方法に改善が必要。

- ・制度内容や給付の説明が不足している。
- ・行政へ意見を伝えやすい仕組みを整えてほしい。
- ・サービスは個人の状況に応じて選択できる仕組みにしてほしい。

【要支援・事業対象者】

- ・支援制度は申請手続きなしでも利用できる仕組みにしてほしい。
- ・同居世帯でも支援が受けられるよう制度を見直してほしい。
- ・個人情報の取扱いや情報管理に不安がある。

⑧ アンケートへの意見

【一般高齢者】

- ・アンケートの設問数が多く負担が大きい。
- ・設問内容や対象設定、調査方法に改善が必要。
- ・回答方法(Web 等)の案内や仕組みに不備がある。

【要支援・事業対象者】

- ・アンケートの設問数が多く負担が大きいため簡潔にしてほしい。

第3章 在宅要介護認定者調査

1. 回答者属性

(1) 回答者

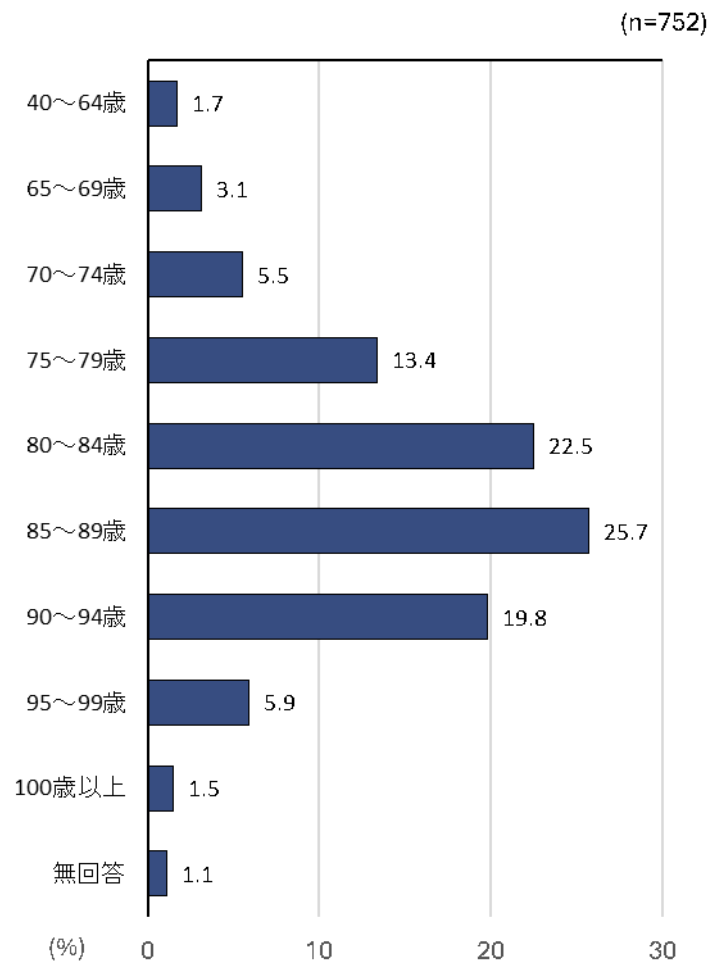
(単位:%)

	あて名 のご本人	あて名 の方の配偶 者(夫・ 妻)	あて名 の方の こども	あて名 の方の 親族	友人・知 人	ケア マネ ジャー	施設 の職 員	ホー ムヘル パー	その 他	無回 答
在宅要介護認定者 (回答者数 752)	36.3	16.2	31.9	6.8	0.0	0.8	1.6	0.0	2.5	3.9

(2) 年齢

あなたの年齢をお答えください。

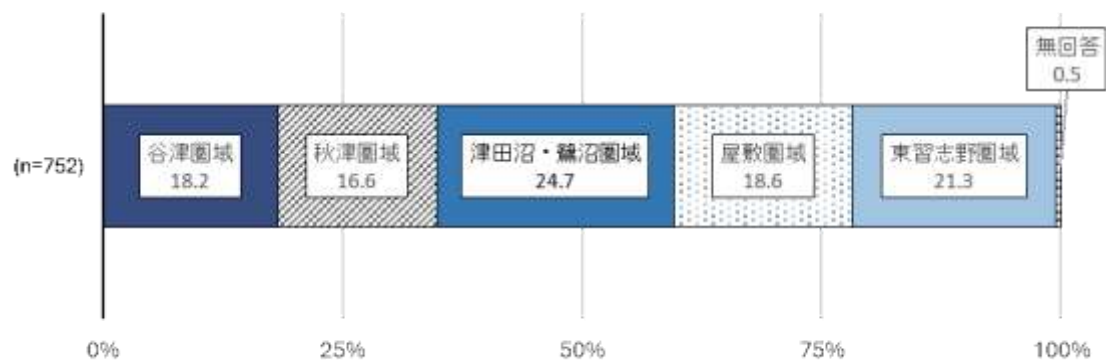
85～89 歳が 25.7%と最も高く、次いで 80～84 歳が 22.5%、90～94 歳が 19.8%となっている。



(3) 居住地区

お住まいの地区名を教えてください。

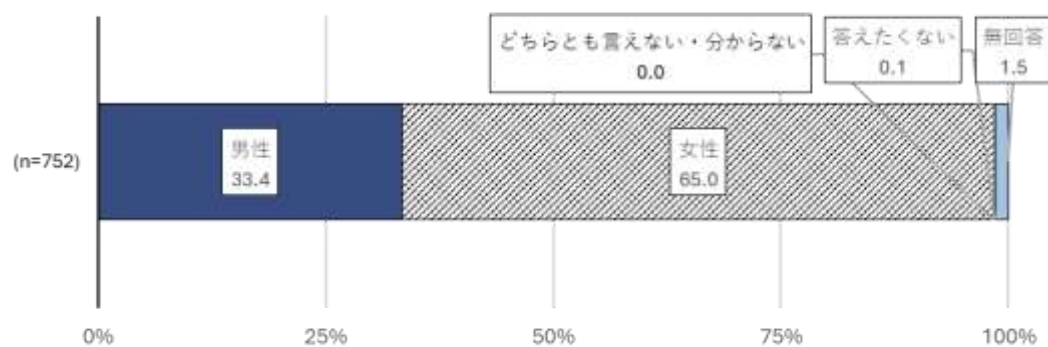
津田沼・鷺沼圏域が24.7%、東習志野圏域が21.3%と比較的高くなっている。



(4) 性別

あなたの性別をお答えください。

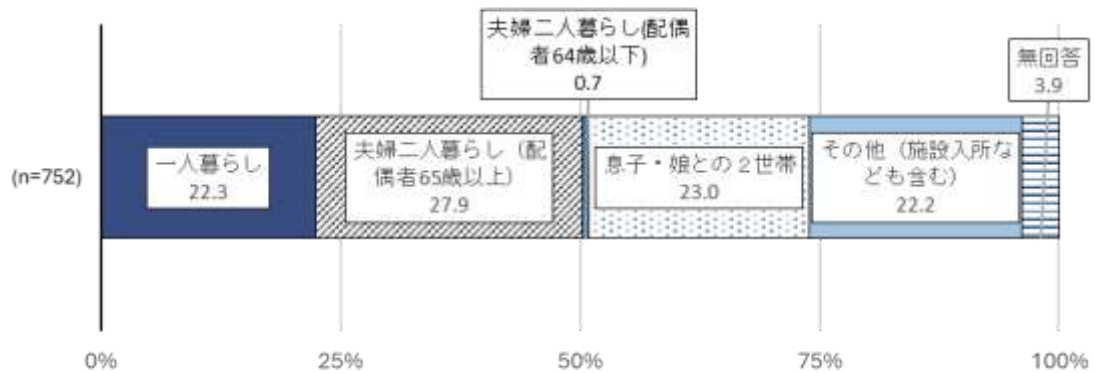
男性が33.4%、女性が65.0%で女性が多い。



(5) 家族構成

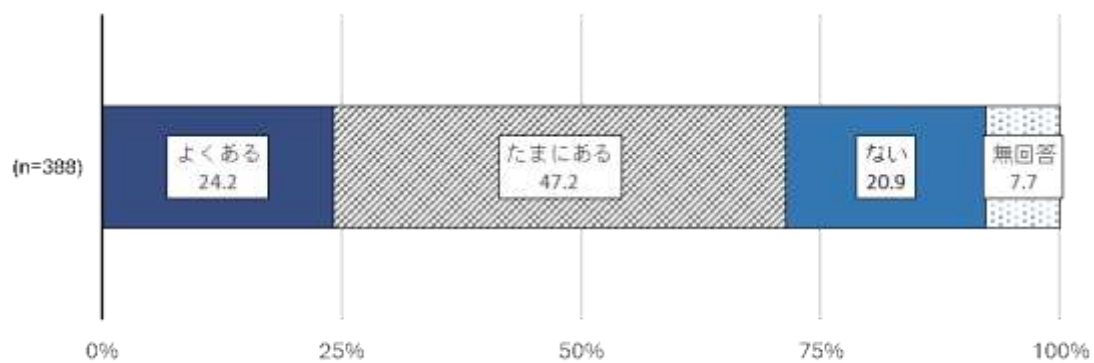
家族構成をお答えください。

「夫婦二人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 27.9%と最も高い。次いで、「息子・娘との2世帯」が 23.0%、「一人暮らし」が 22.3%となっている。



(ご家族と同居されている方)日中、一人になることがありますか。

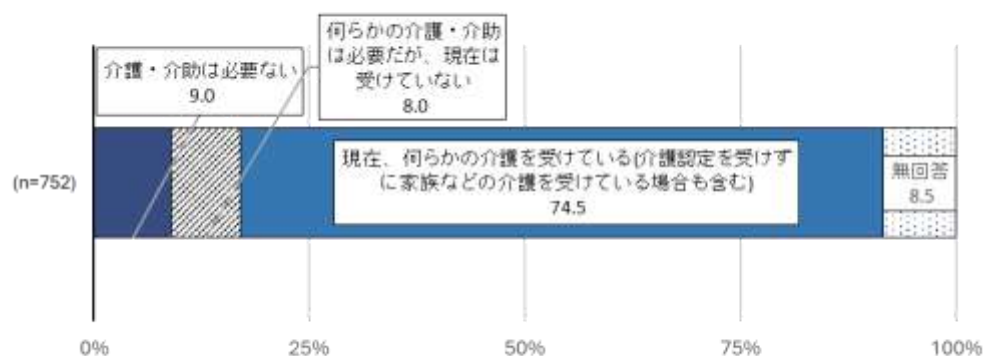
「たまにある」が 47.2%と最も高く、次いで「よくある」が 24.2%となっている。



(6) 介護・介助の状況

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

「現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」が74.5%で最も多く、次いで「介護・介助は必要ない」が9.0%となっている。



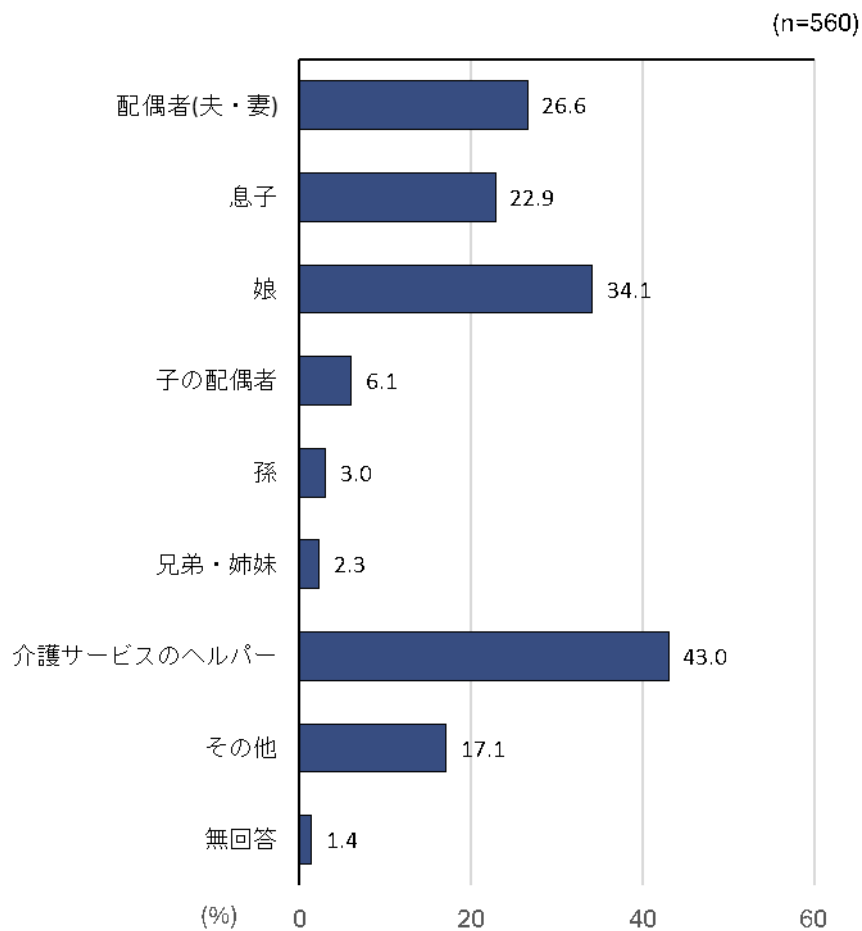
(介護・介助が必要な方)介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(○はいくつでも)

「認知症(アルツハイマー病等)」が36.0%で最も多く、次いで「高齢による衰弱」が23.7%となっている。その他、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(20.0%)、「骨折・転倒」(22.3%)も比較的高くなっている。



(介護・介助が必要な方)主にどなたの介護・介助を受けていますか。(〇はいくつでも)

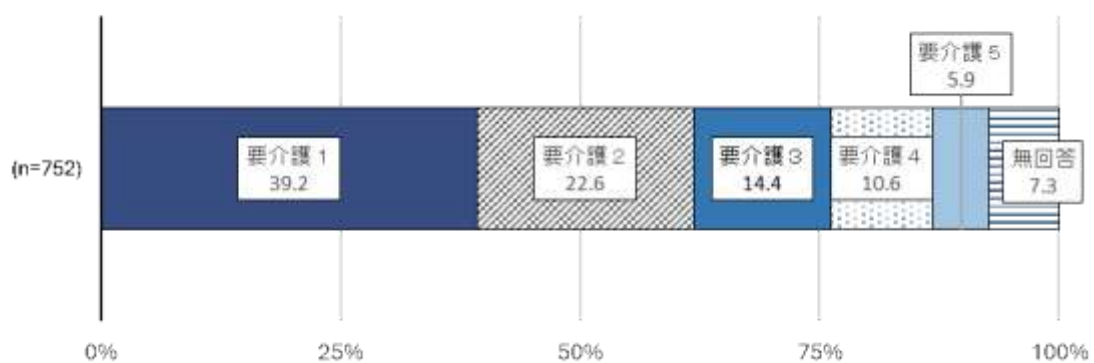
「介護サービスのヘルパー」が43.0%で最も多く、次いで「娘」が34.1%となっている。



(7) 認定区分

あなたの認定区分は次のどれにあたりますか。

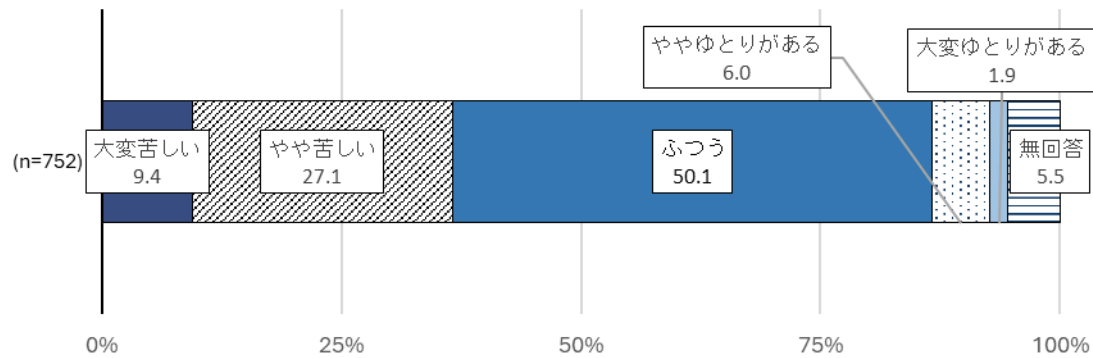
「要介護1」が39.2%で最も多く、次いで「要介護2」が22.6%となっている。



(8) 経済状況

現在の暮らしの状況を経済的に見てどう感じていますか。

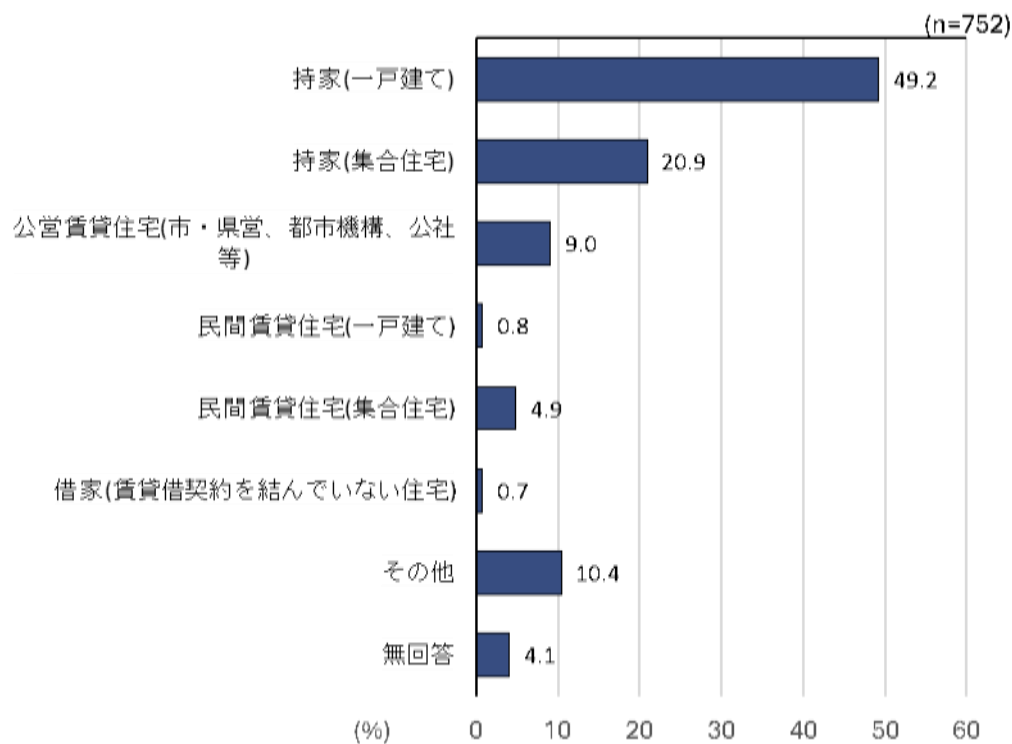
「ふつう」が50.1%で最も多く、次いで「やや苦しい」が27.1%となっている。



(9) 住まいの形態

お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

「持家(一戸建て)」が49.2%で最も多く、次いで「持家(集合住宅)」が20.9%となっている。

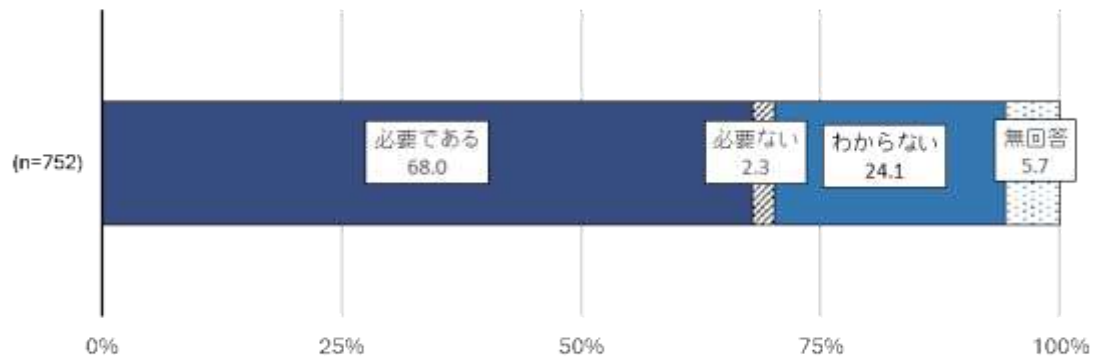


2. 地域交流・ボランティアについて

(1) 地域における支え合いの意識

独居世帯や高齢者世帯が近年増えていますが、隣近所や地域で高齢者を支えることが必要だと思いますか。

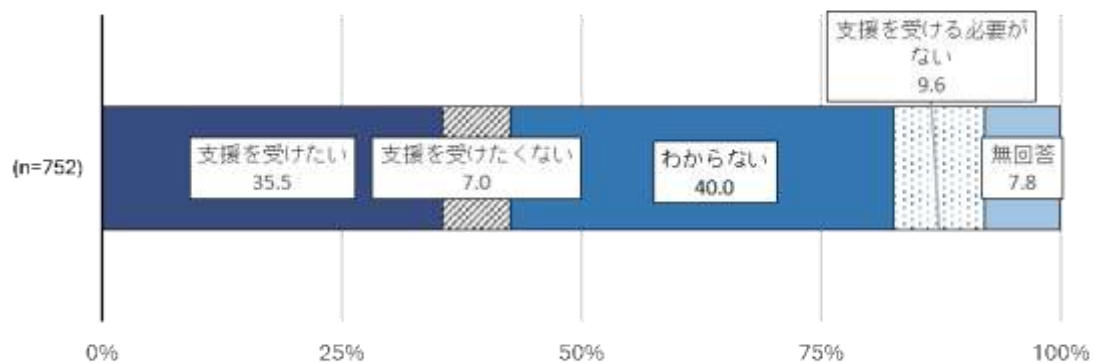
「必要である」が68.0%で最も多く、次いで「わからない」が24.1%となっている。



(2) ボランティア支援の利用意向

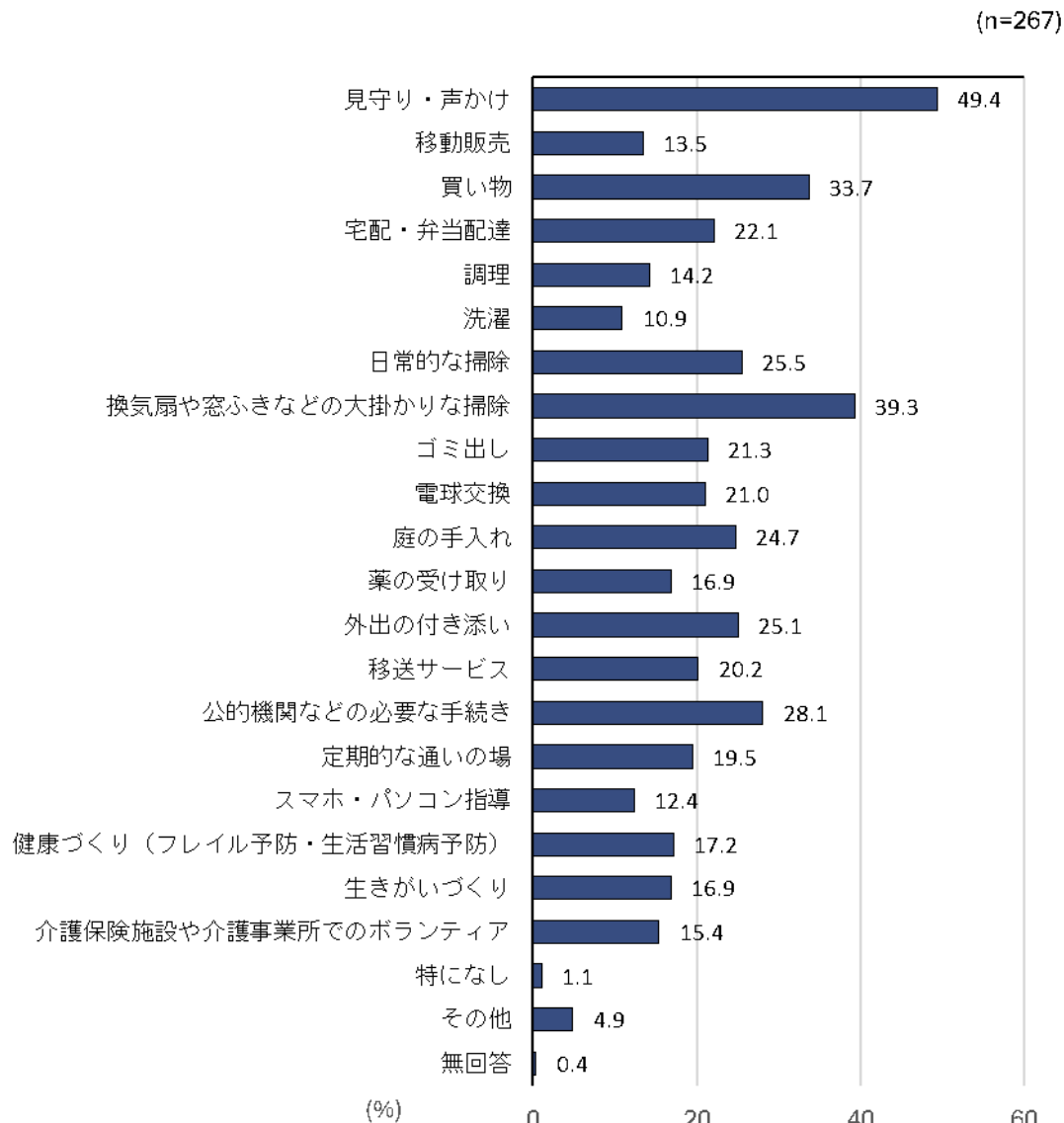
高齢者を支える地域のボランティア活動があれば、支援を受けてみたいと思いますか。

「わからない」が40.0%で最も多く、次いで「支援を受けたい」が35.5%となっている。



(「支援を受けたい」を選択)高齢者を支える地域のボランティア活動で、どの支援を利用したいですか。
(○はいくつでも)

「見守り・声かけ」が49.4%で最も多く、次いで「換気扇や窓ふきなどの大掛かりな掃除」が39.3%となっている。その他、「買い物」(33.7%)、「公的機関などの必要な手続き」(28.1%)が比較的高くなっている。

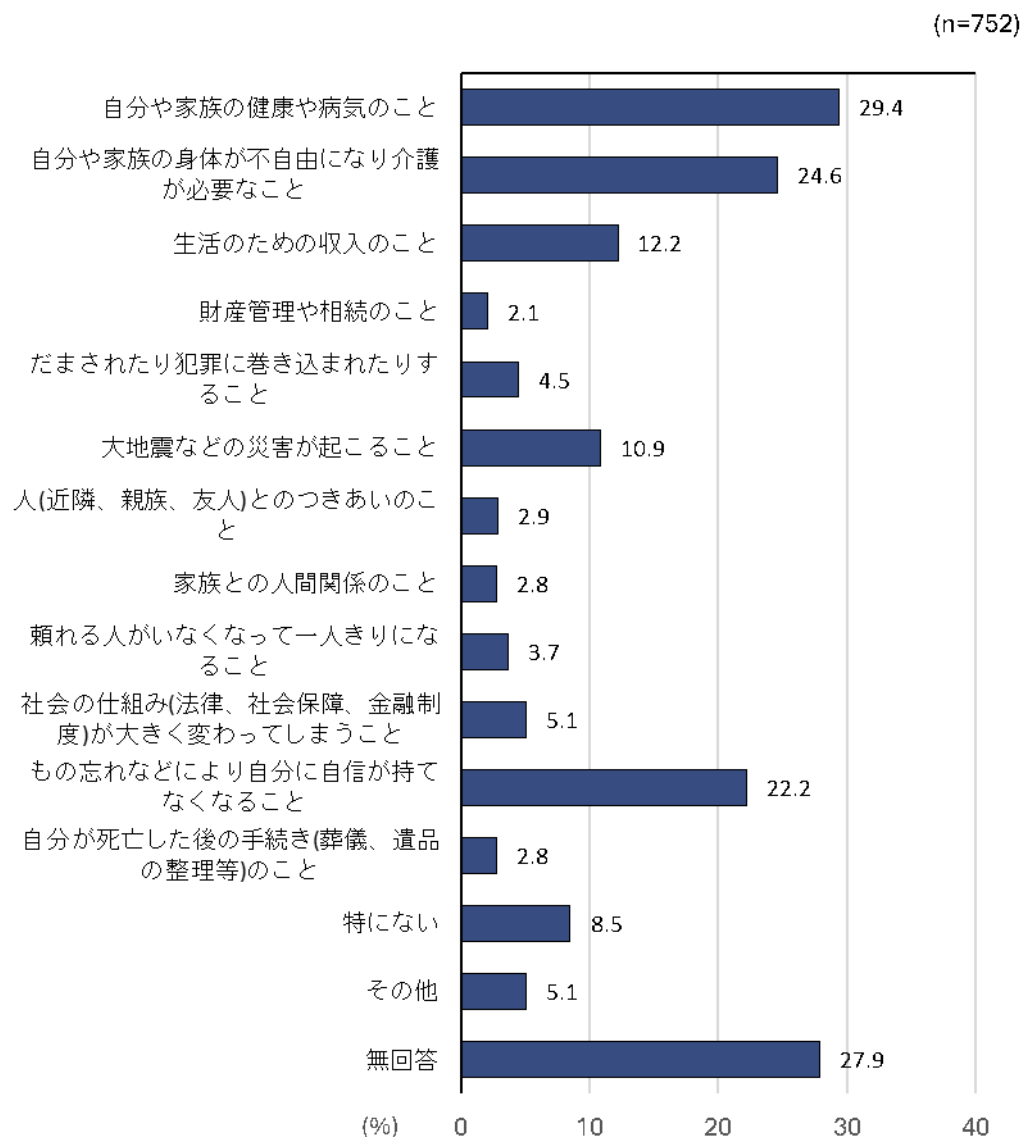


3. 日常生活で困っていることや将来の不安について

現在困っていることと将来についての不安はありますか。あてはまる欄に○を付けてください。(それぞれ○は3つまで)

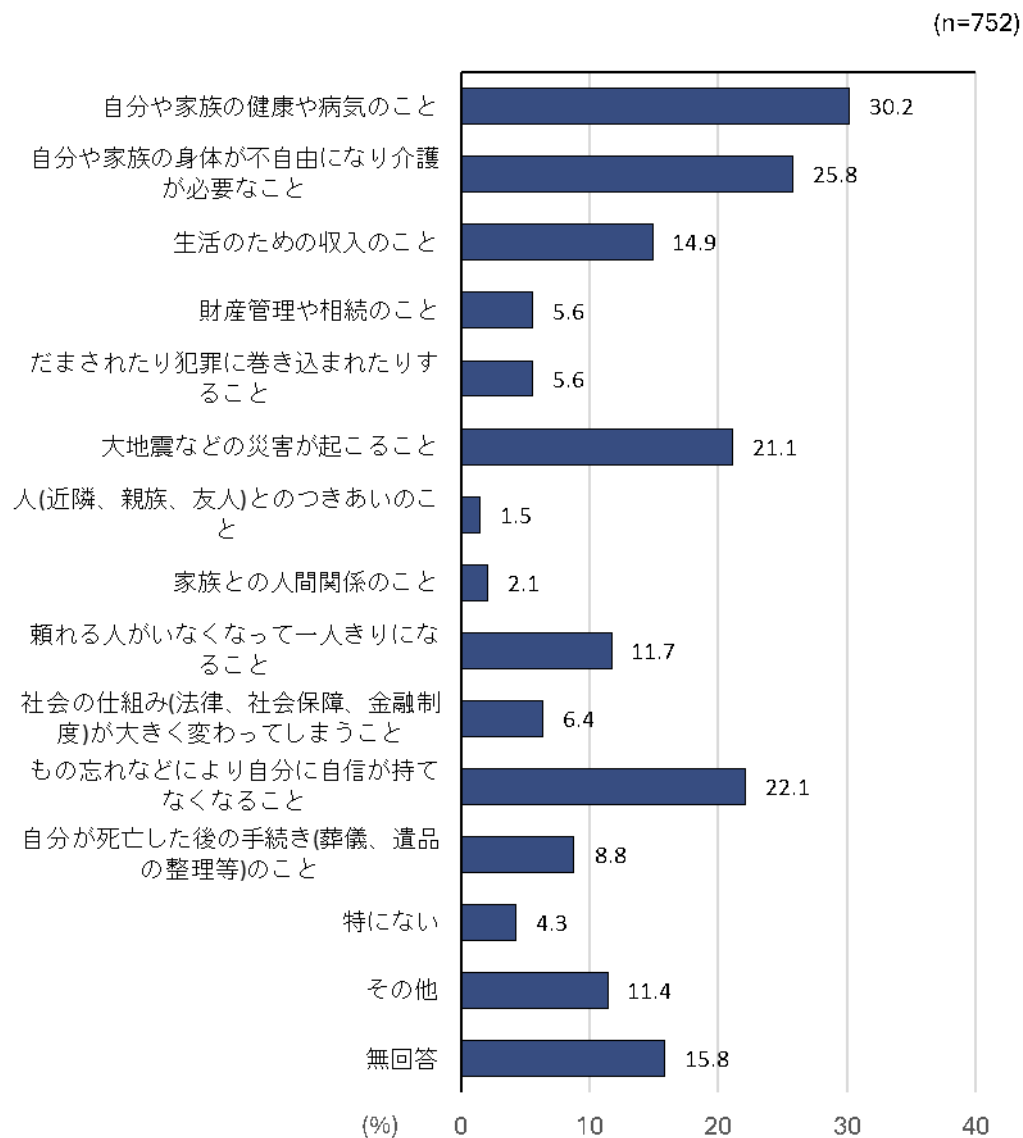
(1) 困っていること

「自分や家族の健康や病気のこと」が29.4%で最も多く、次いで「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要なこと」が24.6%となっている。その他、「もの忘れなどにより自分に自信が持てなくなること」(22.2%)が比較的高くなっている。



(2) 将来についての不安

「自分や家族の健康や病気のこと」が30.2%で最も多く、次いで「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要なこと」が25.8%となっている。その他、「もの忘れなどにより自分に自信が持てなくなること」(22.1%)、「大地震などの災害が起こること」(21.1%)が比較的高くなっている。

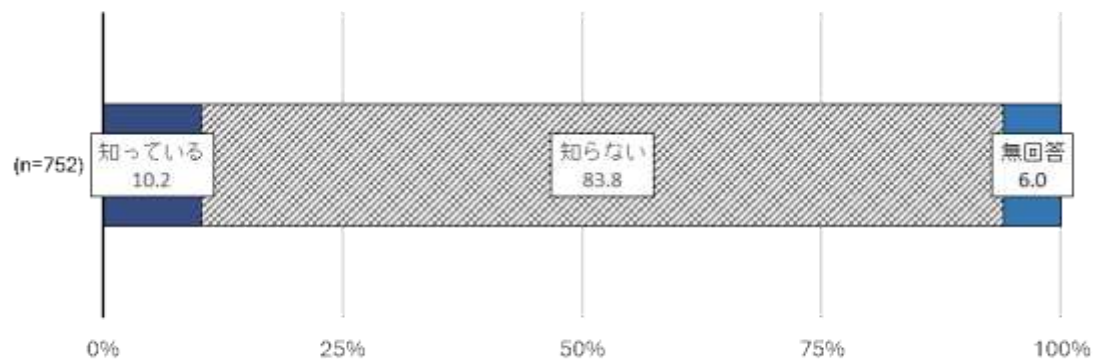


4. 将来への備え等について

(1) 人生会議・ACP の認知度

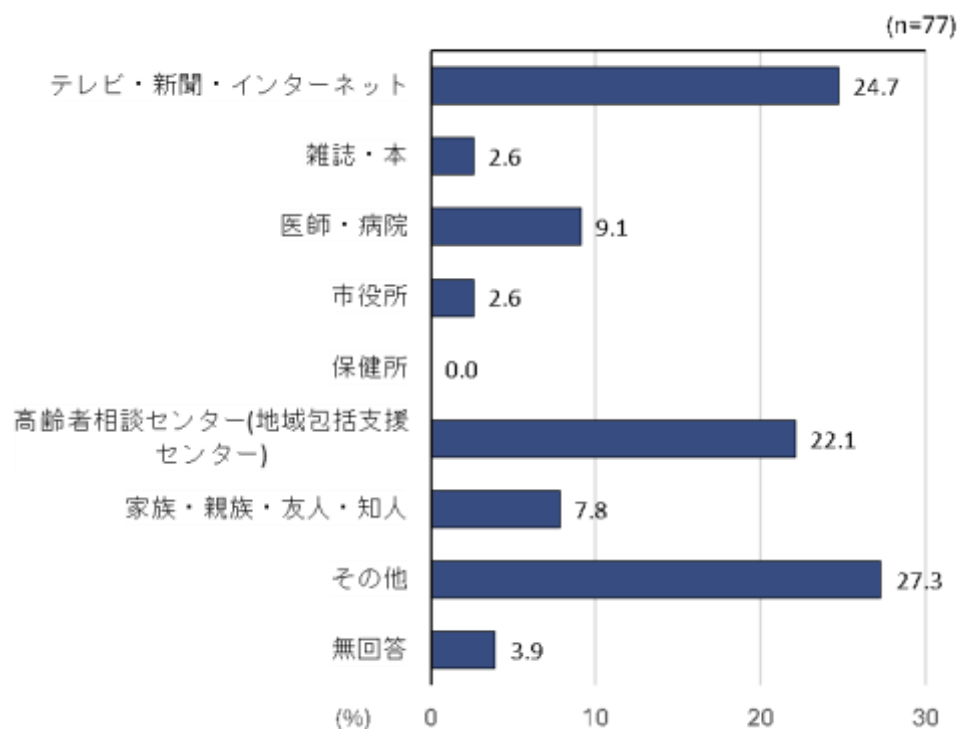
人生会議またはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)という言葉を知っていますか。

「知らない」が 83.8%で最も多く、次いで「知っている」が 10.2%となっている。



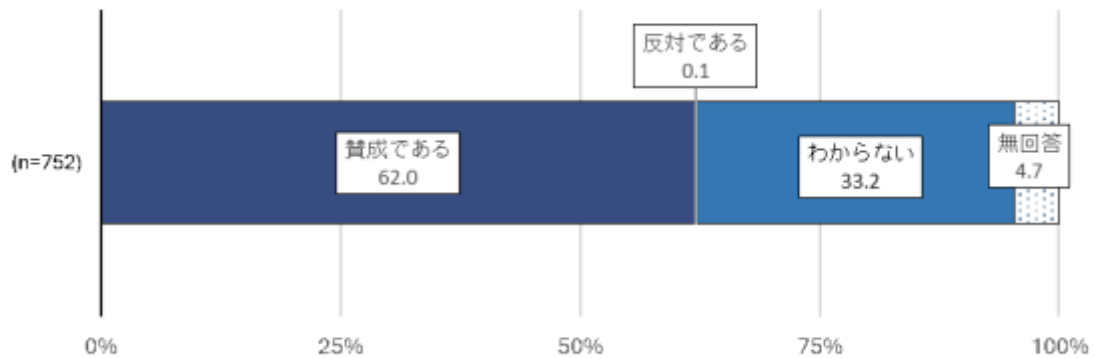
(「知っている」を選択)(1)ー1 ACP という言葉をどこで知りましたか。

「テレビ・新聞・インターネット」が 24.7%と最も高く、次いで「高齢者相談センター(地域包括支援センター)」が 22.1%となっている。



人生の最終段階の医療・療養について、あなたの意思に沿った医療・療養を受けるためには、家族等や医療・ケアチームとあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うことが重要といわれています。このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。

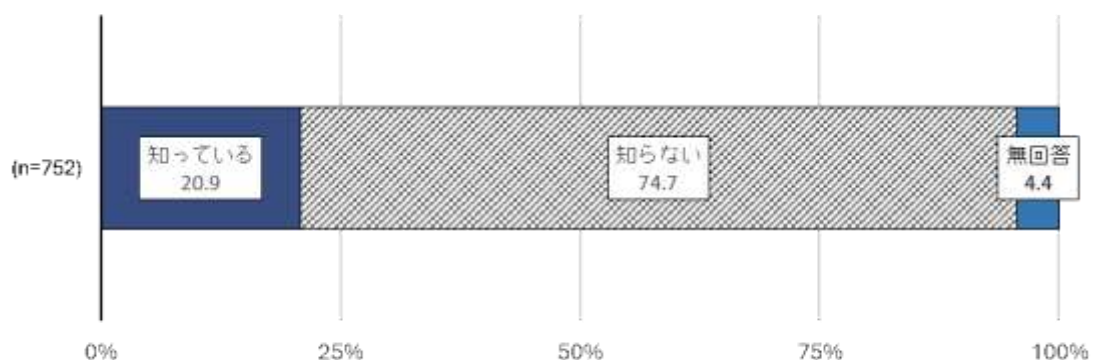
「賛成である」が62.0%で最も多く、次いで「わからない」が33.2%となっている。



(2) 新しい認知症観の認知度

令和6年1月に認知症基本法が策定され、その中の考え方として「新しい認知症観」の普及を推進しています。「新しい認知症観」を知っていますか。

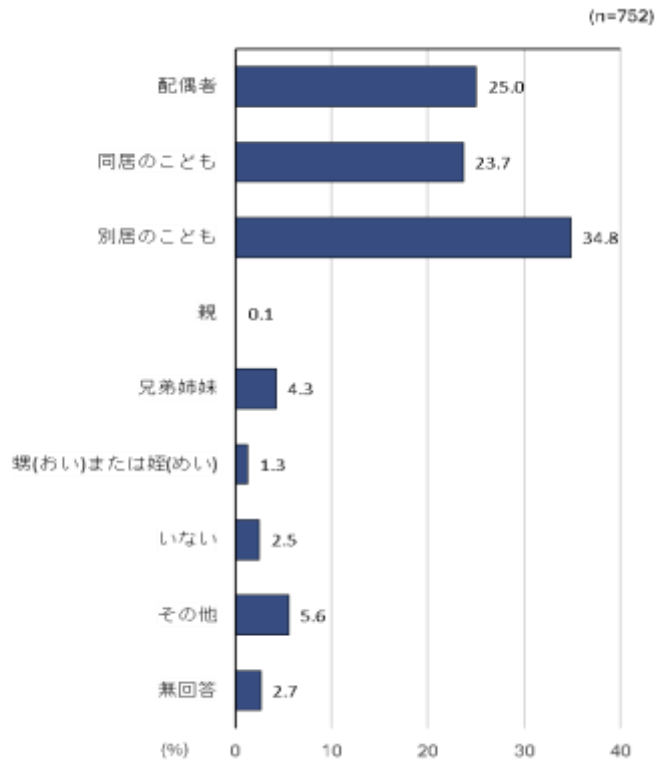
「知らない」が74.7%で最も多く、次いで「知っている」が20.9%となっている。



(3) 緊急時の意思決定・金銭管理を担う人の有無

・あなたの身に緊急事態が起きた時(事故等による介護を要する状態、認知症など)、治療の方針の決定や介護サービスの利用に必要な手続き、金銭管理をしてくれる身内の方はいますか。いる場合は、主にどなたですか。(〇は1つ)

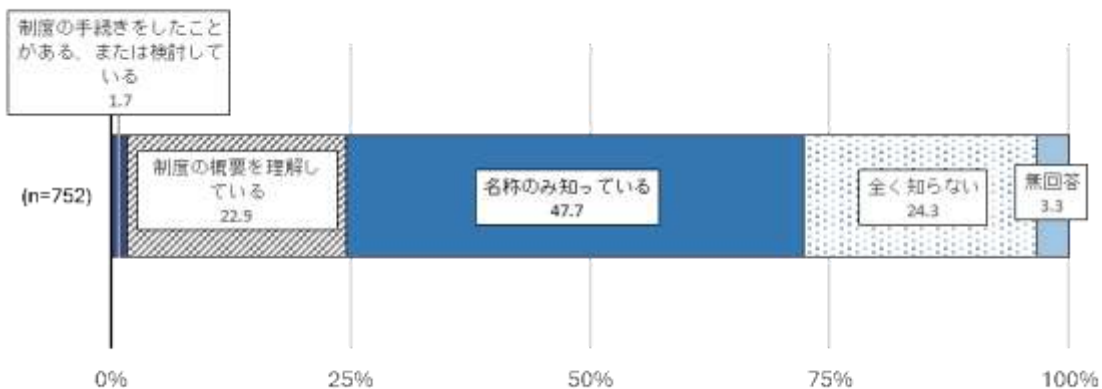
「別居のこども」が34.8%で最も多く、次いで「配偶者」が25.0%となっている。



(4) 成年後見制度の認知度

あなたは「成年後見制度」※について、どの程度ご存知ですか。(〇は1つ)

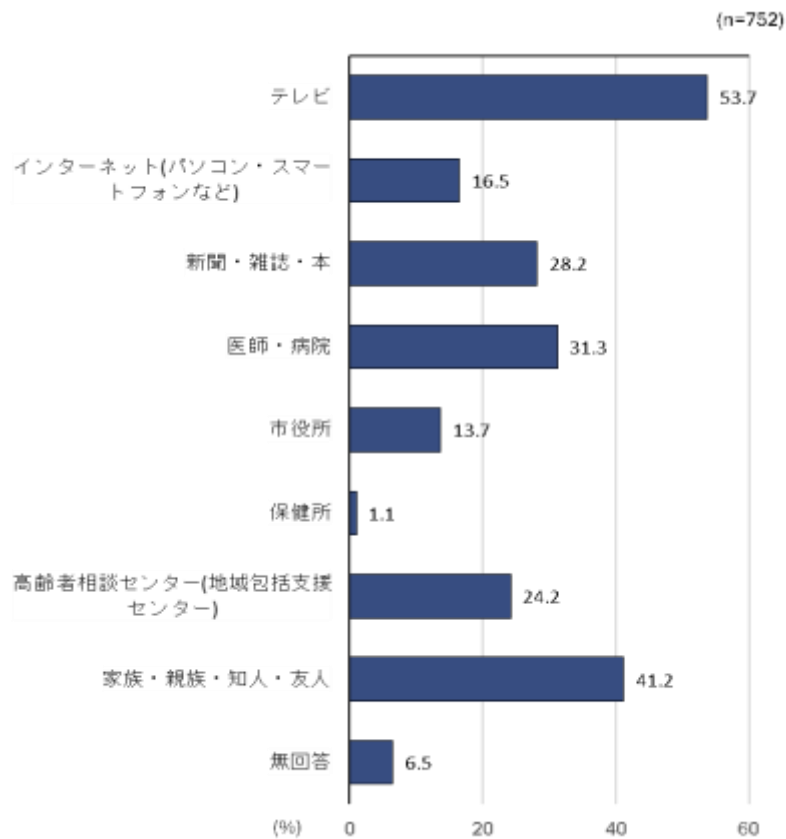
「名称のみ知っている」が47.7%で最も多く、次いで「全く知らない」が24.3%となっている。



(5) 医療・介護情報の入手先

医療や介護についての知識や情報を、何から得ていますか。(〇はいくつでも)

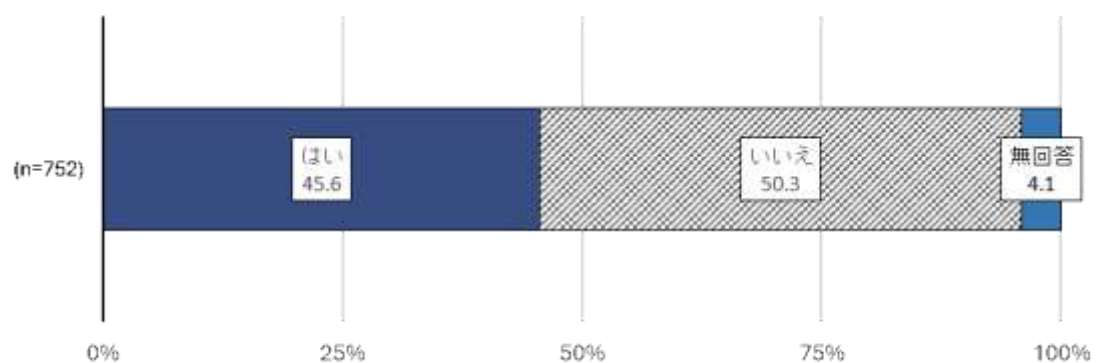
「テレビ」が53.7%で最も多く、次いで「家族・親族・知人・友人」が41.2%となっている。その他、「医師・病院」(31.3%)、「新聞・雑誌・本」(28.2%)が比較的高くなっている。



(6) 認知症の有無(本人・家族)

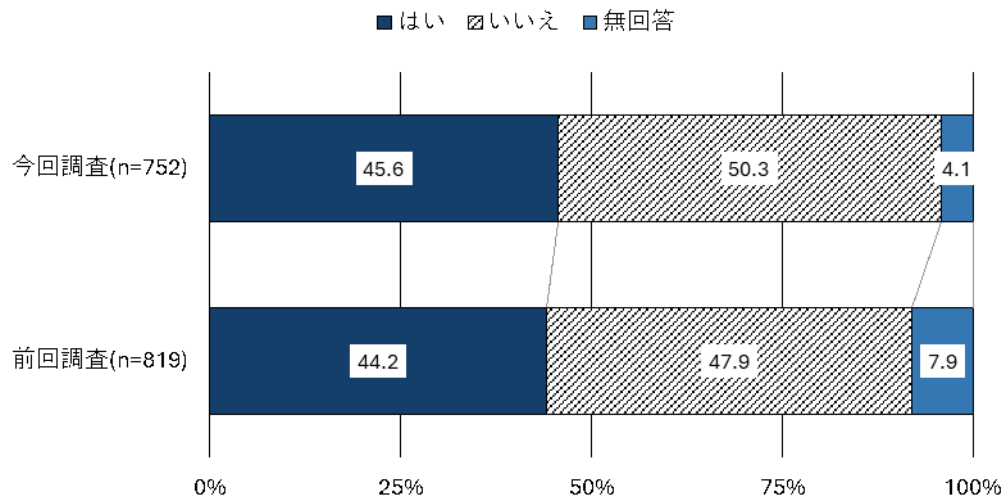
認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。

「いいえ」が50.3%で最も多く、次いで「はい」が45.6%となっている。



【経年比較】

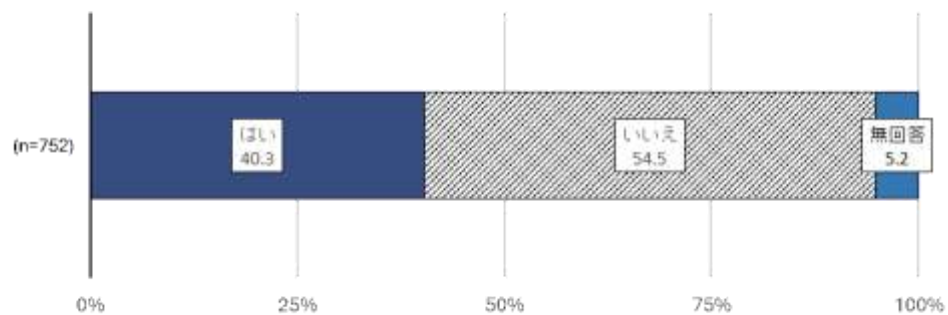
前回調査と比較しても大きな差は見られない。



(7) 認知症相談窓口の認知度

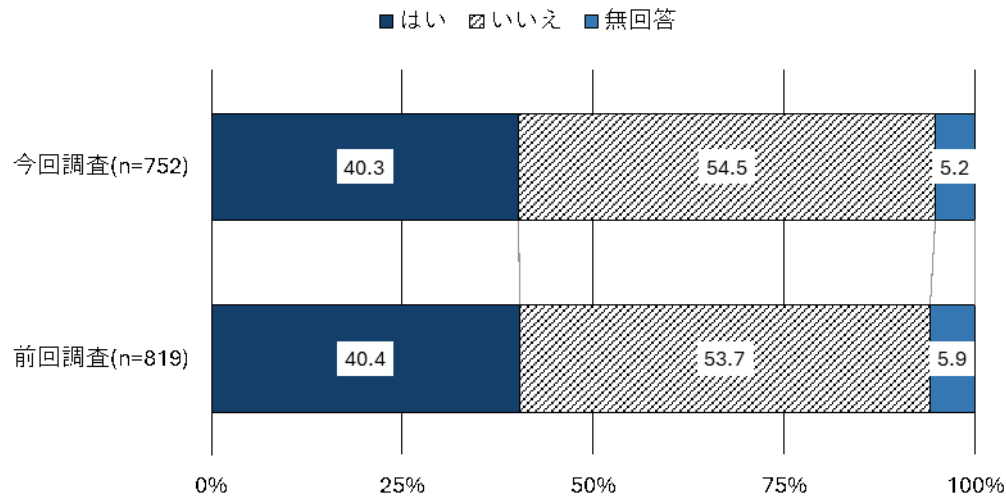
認知症に関する相談窓口を知っていますか。

「いいえ」が 54.5%で最も多く、次いで「はい」が 40.3%となっている。



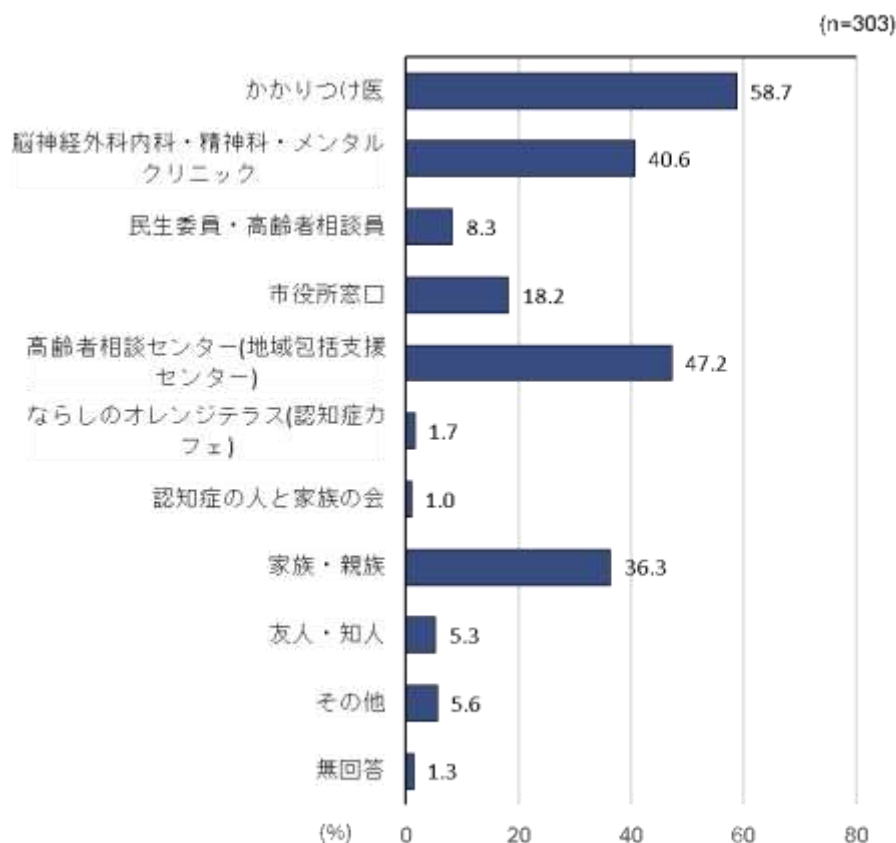
【経年比較】

前回調査もほぼ同様の結果となっている。



（「はい」を選択された方）（8）－1 どこに相談すると思いますか、または相談しましたか。（○はいくつでも）

「かかりつけ医」が 58.7%で最も多く、次いで「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」が 47.2%となっている。その他、「脳神経外科内科・精神科・メンタルクリニック」（40.6%）、「家族・親族」（36.3%）が比較的高くなっている。

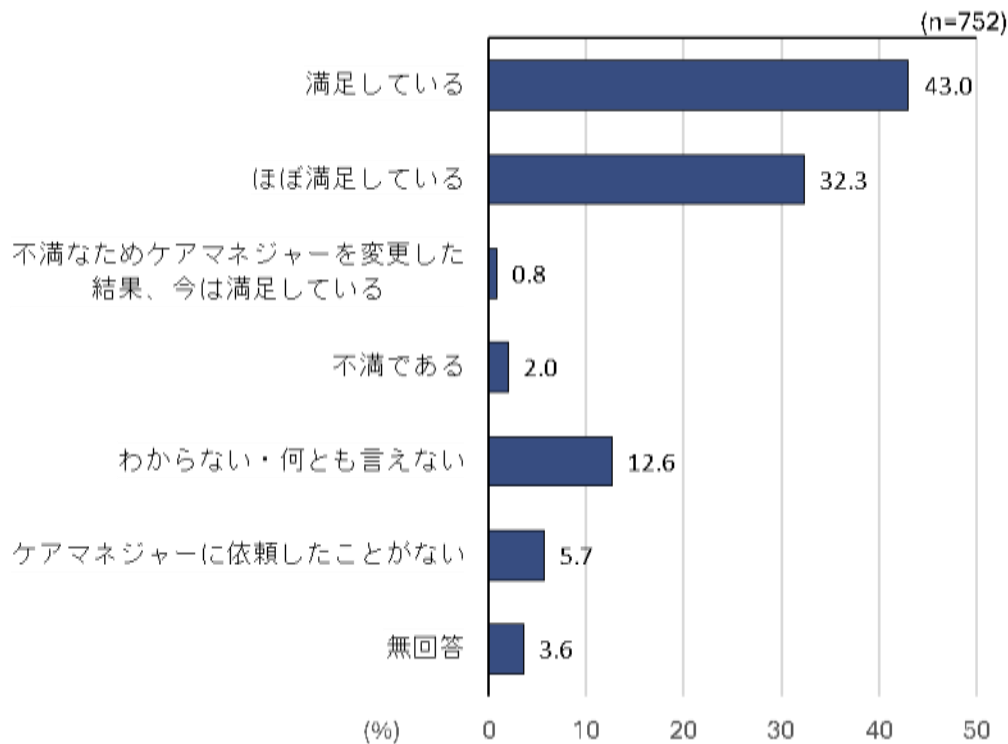


5. 介護保険の利用について

(1) ケアマネ対応の満足度

ケアマネジャーの対応に満足していますか。

「満足している」が43.0%で最も多く、次いで「ほぼ満足している」が32.3%となっている。



(2) 介護保険サービス利用状況

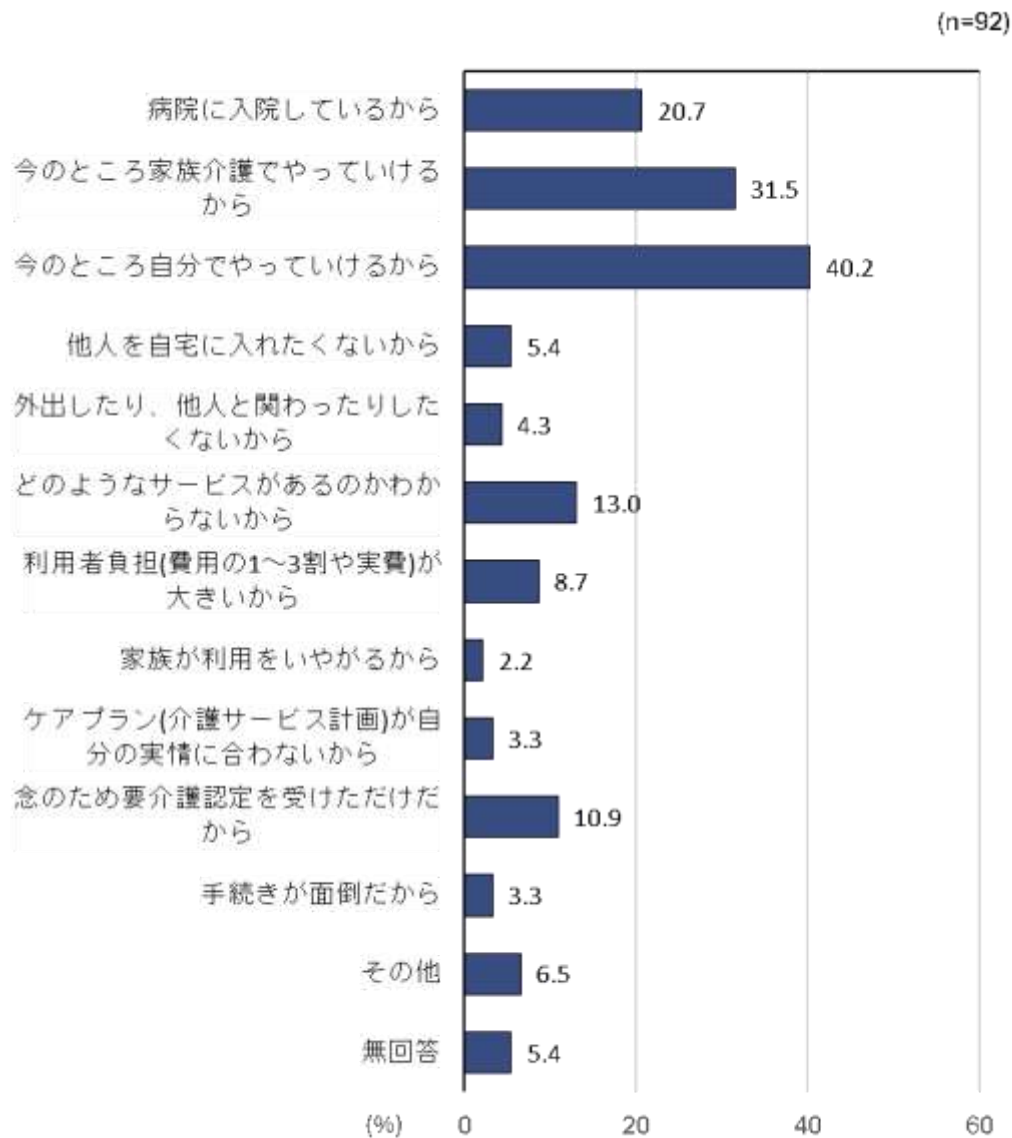
あなたは、この1か月に介護保険のサービスを利用しましたか。

「利用している」が85.1%で最も多く、次いで「利用していない」が12.2%となっている。



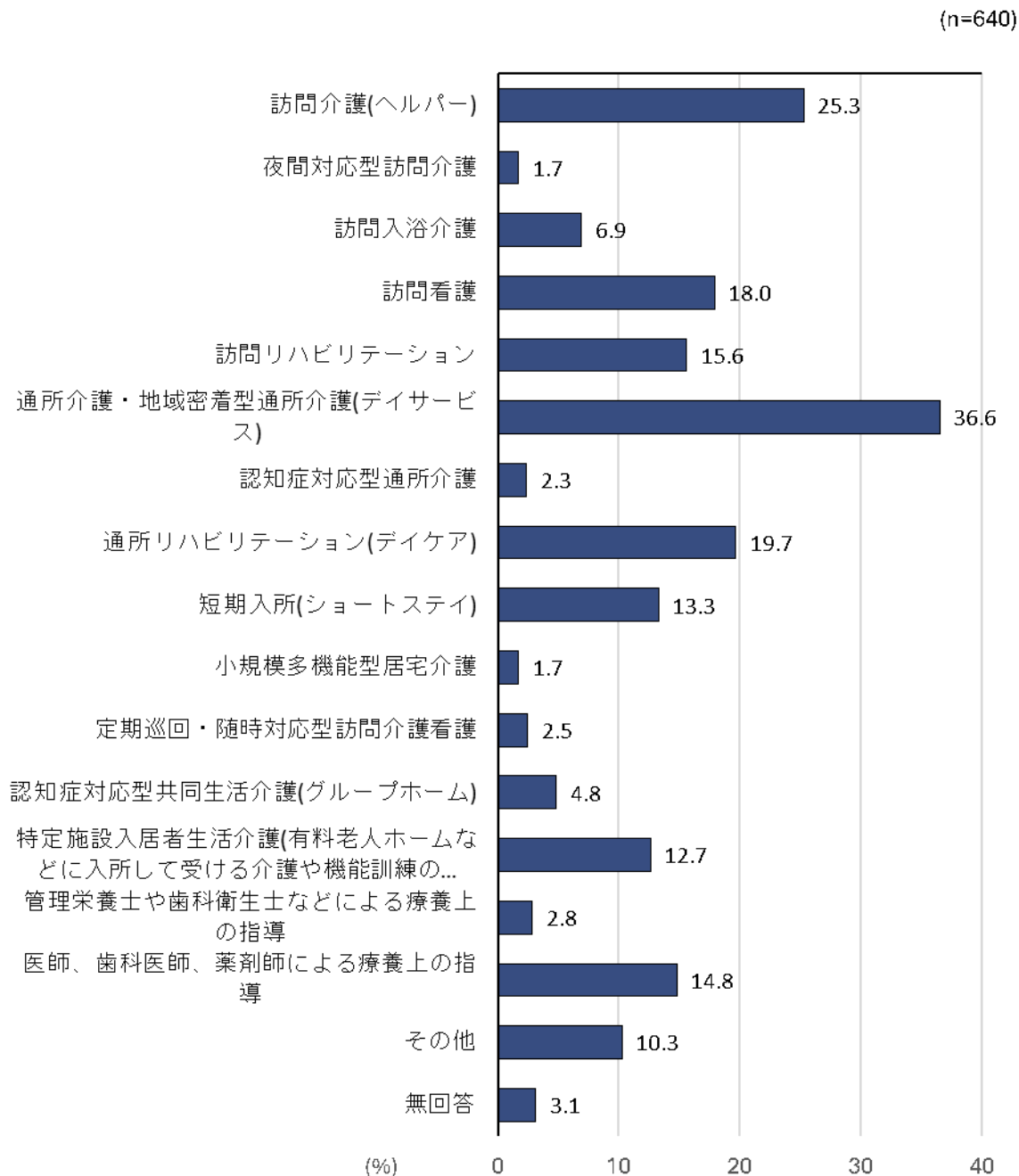
（「利用していない」を選択された方）利用していない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

「今のところ自分でやっていけるから」が40.2%で最も多く、次いで「今のところ家族介護でやっていけるから」が31.5%となっている。その他、「病院に入院しているから」（20.7%）が比較的高くなっている。



(「利用している」を選択された方)以下のサービスを利用していますか。(〇はいくつでも)

「通所介護・地域密着型通所介護(デイサービス)」が36.6%で最も多く、次いで「訪問介護(ヘルパー)」が25.3%となっている。その他、「通所リハビリテーション(デイケア)」(19.7%)、「訪問看護」(18.0%)、「訪問リハビリテーション」(15.6%)が比較的高くなっている。



(「利用している」を選択された方)利用しているサービスに満足していますか。

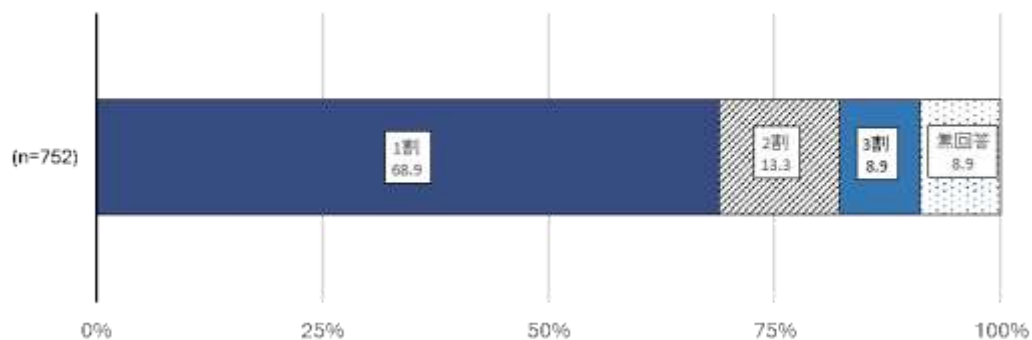
「満足している」が70.5%で最も多く、次いで「どちらとも言えない」が18.3%となっている。



介護サービスを受けるためには、所得に応じてサービス利用費用(※食費・居住費を除く)を自己負担していただく必要があります。

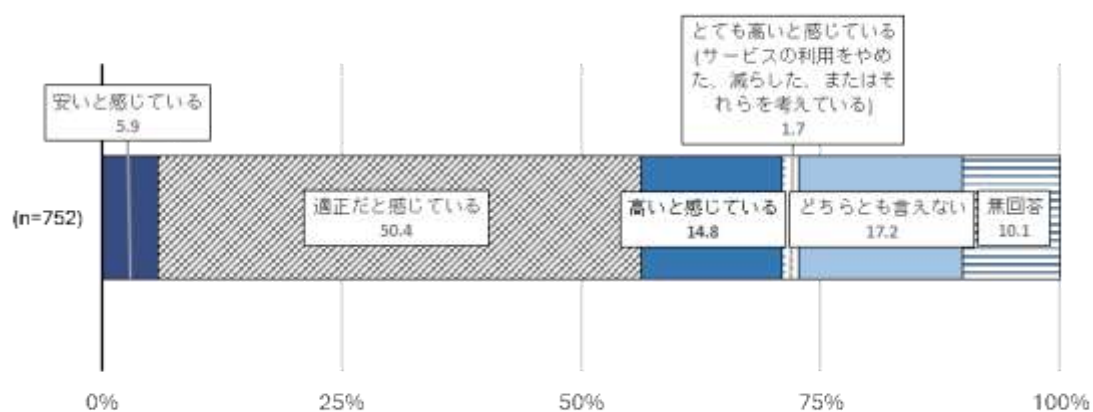
あなたの自己負担割合をお答えください。

「1割」が68.9%で最も多く、次いで「2割」が13.3%となっている。



お答えいただいた費用(自己負担分)について、どのように感じていますか。

「適正だと感じている」が50.4%で最も多く、次いで「どちらとも言えない」が17.2%となっている。

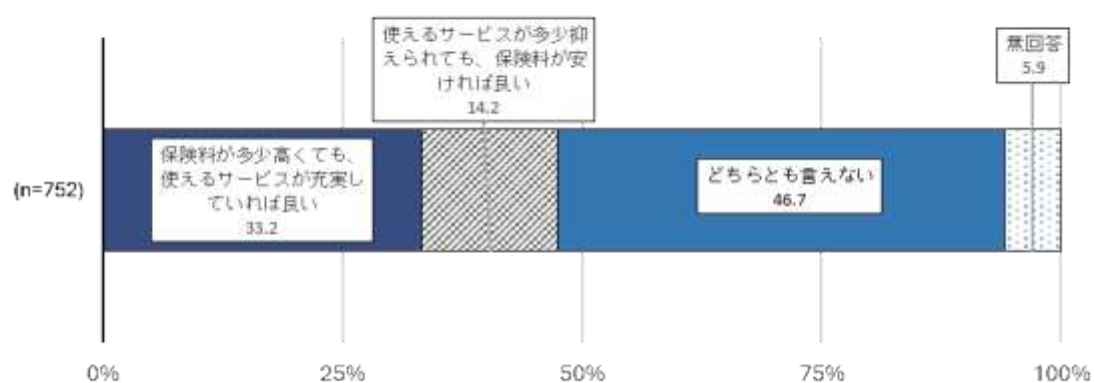


6. 介護保険制度・高齢者施策について

(1) 介護保険料と介護サービスのあり方について

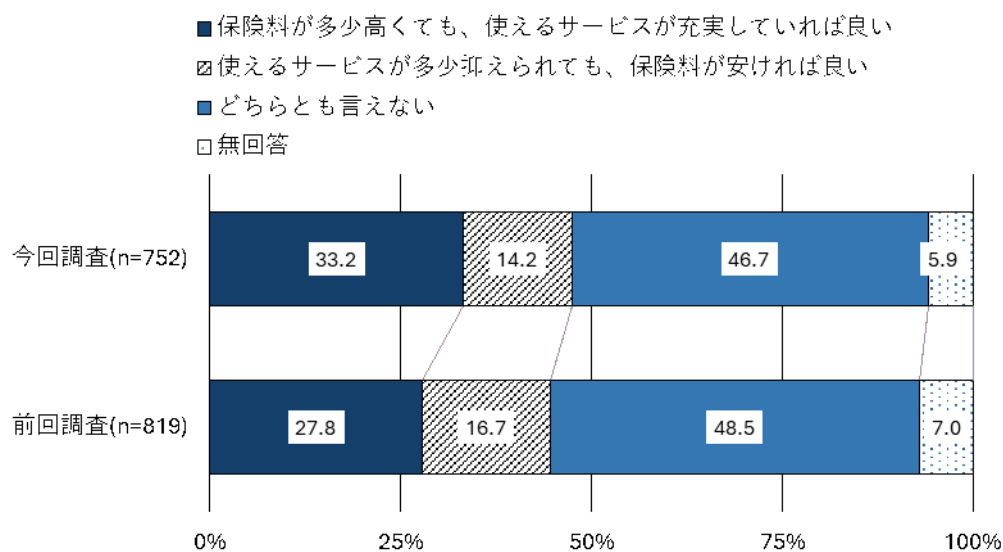
介護保険制度は、40歳以上の方から保険料を徴収して介護が必要な方にサービスを提供する費用にあてていますが、保険料と介護サービスのあり方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。

「どちらとも言えない」が46.7%で最も多く、次いで「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」が33.2%となっている。



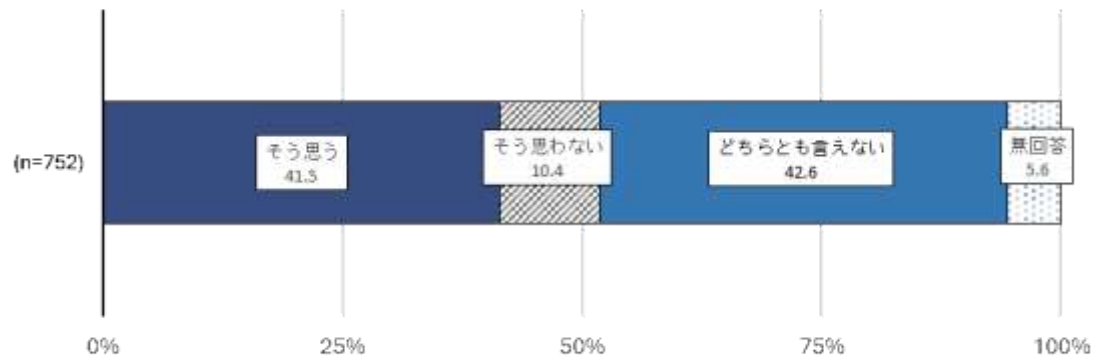
【経年比較】

前回調査と比較すると、保険料が高くてもサービス充実を重視する割合がわずかに上昇している。



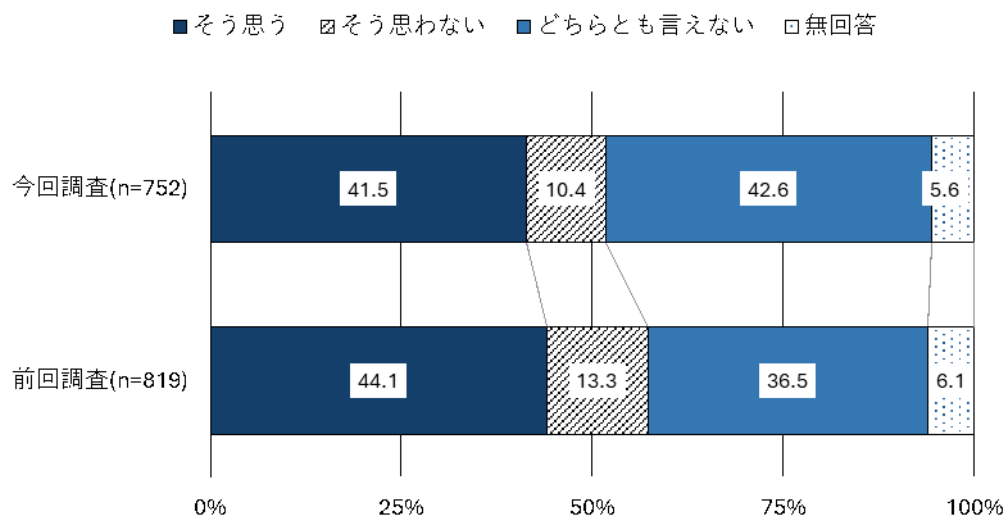
65歳以上の方の保険料に関して「低所得者に配慮するために、高所得者の負担を多少増やすのもやむを得ない」ということについて、あなたはどのようにお考えですか。

「どちらとも言えない」が42.6%で最も多く、次いで「そう思う」が41.5%となっている。



【経年比較】

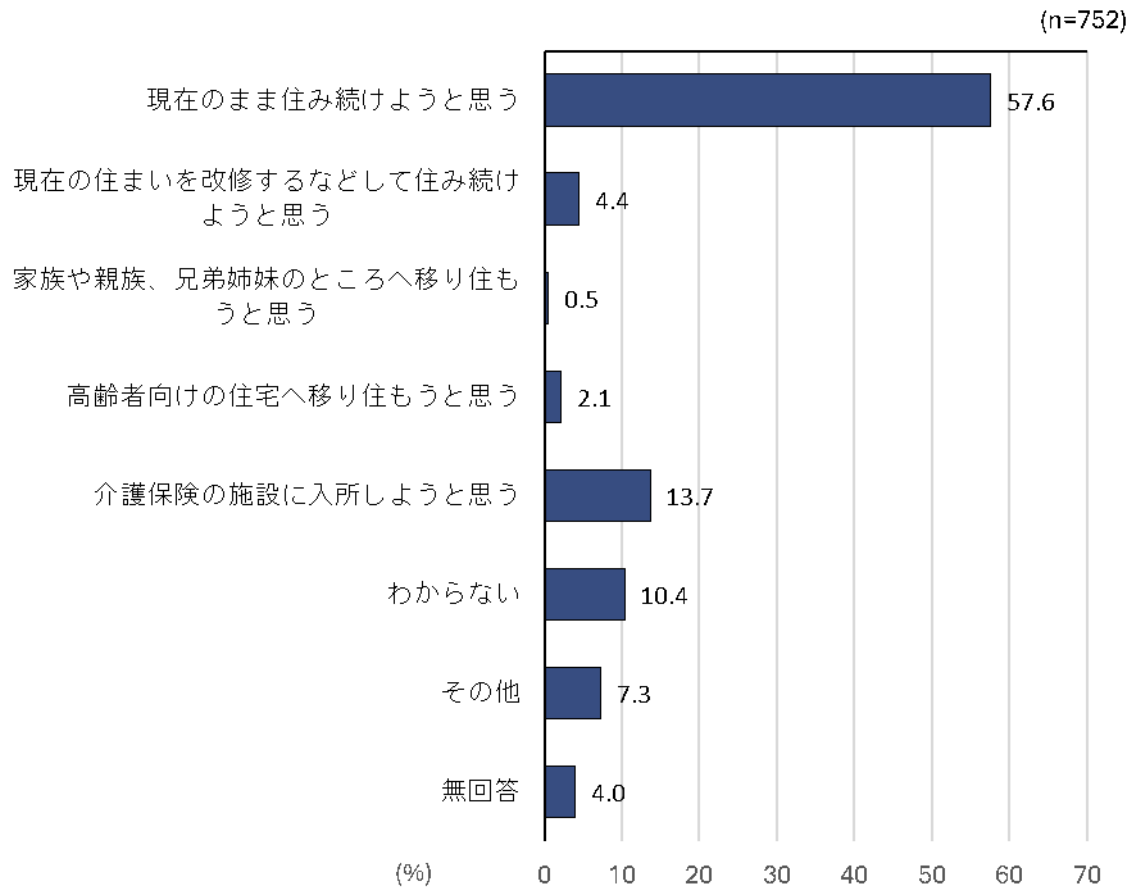
前回調査と比較すると、「どちらとも言えない」がわずかに上昇している。



(2) 今後希望する生活場所

今後希望する生活場所についてうかがいます。

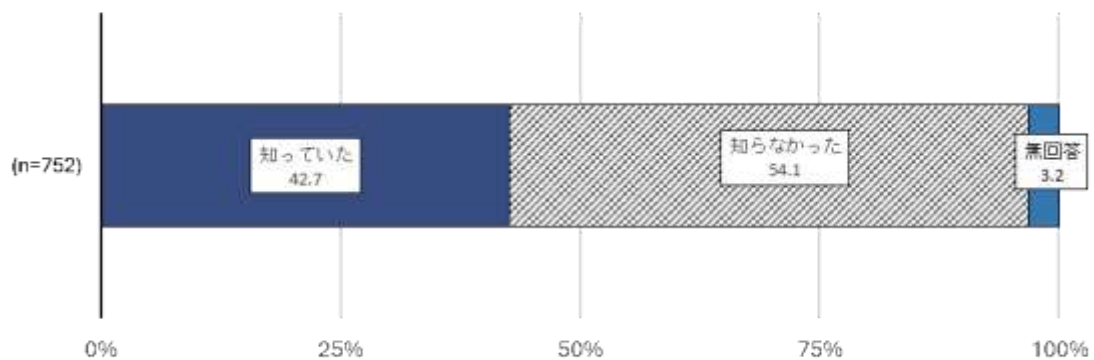
「現在のまま住み続けようと思う」が57.6%で最も高く、他の項目と比べて大きく上回っている。



(3) 高齢者外出支援事業

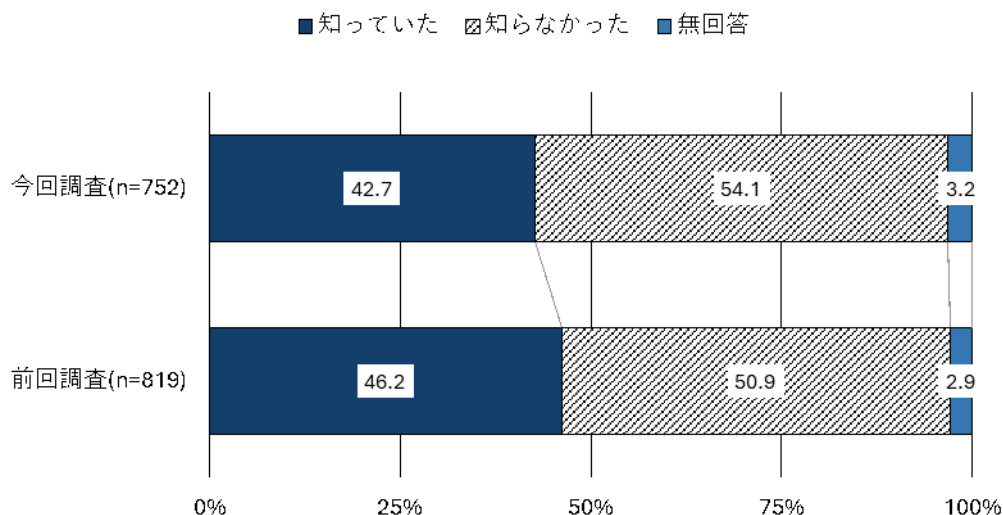
高齢者外出支援事業についてうかがいます。市では、高齢者が自宅にひきこもらず気軽に外出し、健康で自分らしい生活を送っていただくこと、また、経済的負担の軽減を目的として在宅で生活する75歳以上の非課税世帯に対して、高齢者外出支援事業として、1枚500円のタクシー券を月3枚(年間最大36枚)、交付していますが、ご存じですか。

「知らなかった」が54.1%で最も多く、次いで「知っていた」が42.7%となっている。



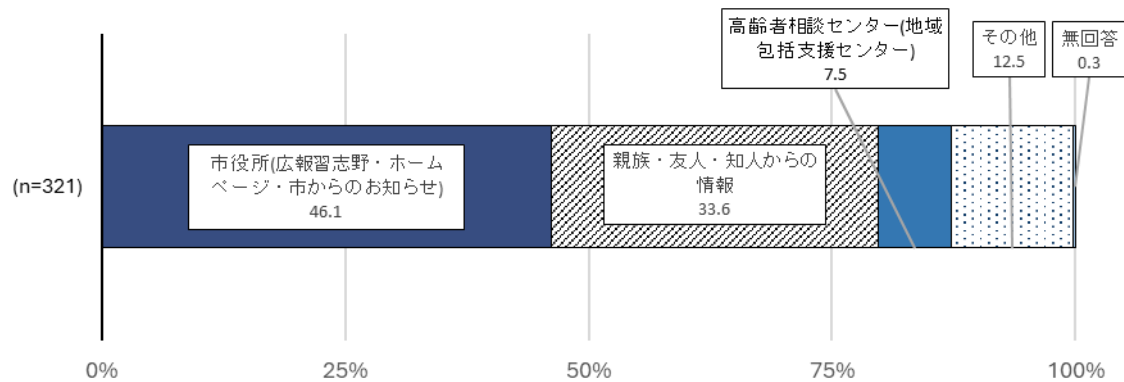
【経年比較】

前回調査に比べ、認知度がわずかに下がっている。



(「知っていた」を選択された方)本事業を何で知りましたか。

「市役所(広報習志野・ホームページ・市からのお知らせ)」が46.1%で最も多く、次いで「親族・友人・知人からの情報」が33.6%となっている。



より良い高齢者の外出支援策とするには、今後どのような事業の見直しを行うのが良いと思いますか。

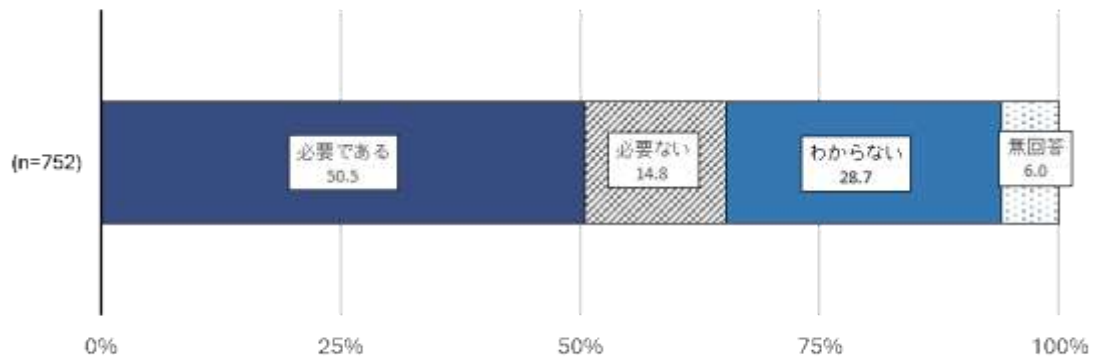
「タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい」が42.6%で最も多く、次いで「現状のタクシー券のまま継続してほしい」が32.7%となっている。



(4) 運転免許証自主返納者への支援

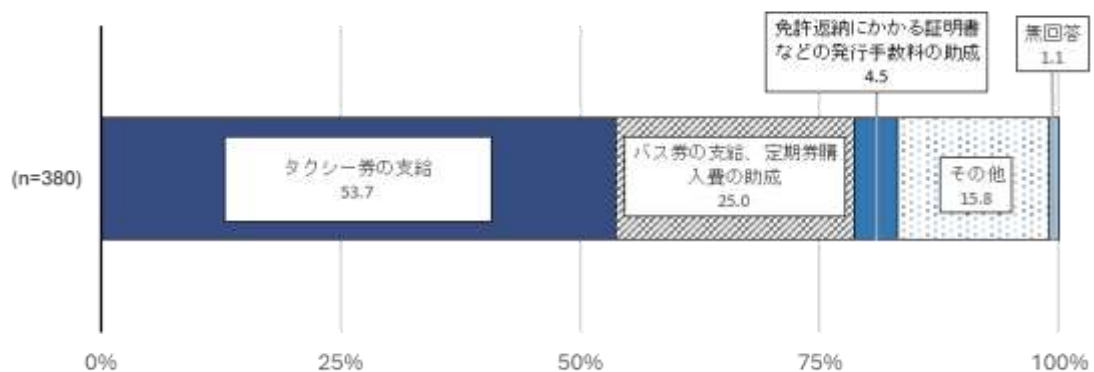
近年、高齢者ドライバーが当事者となる痛ましい事故が多発し、運転免許証の自主返納に大きな関心が集まっています。本市の公共交通は比較的充実していることから、現時点でタクシー券等の支給は行っていないですが、今後、運転免許証を自主返納した方に対する税金を使った支援は必要であると思いますか。

「必要である」が50.5%で最も多く、次いで「わからない」が28.7%となっている。



(「必要である」を選択された方)どのような支援が必要であると思いますか。

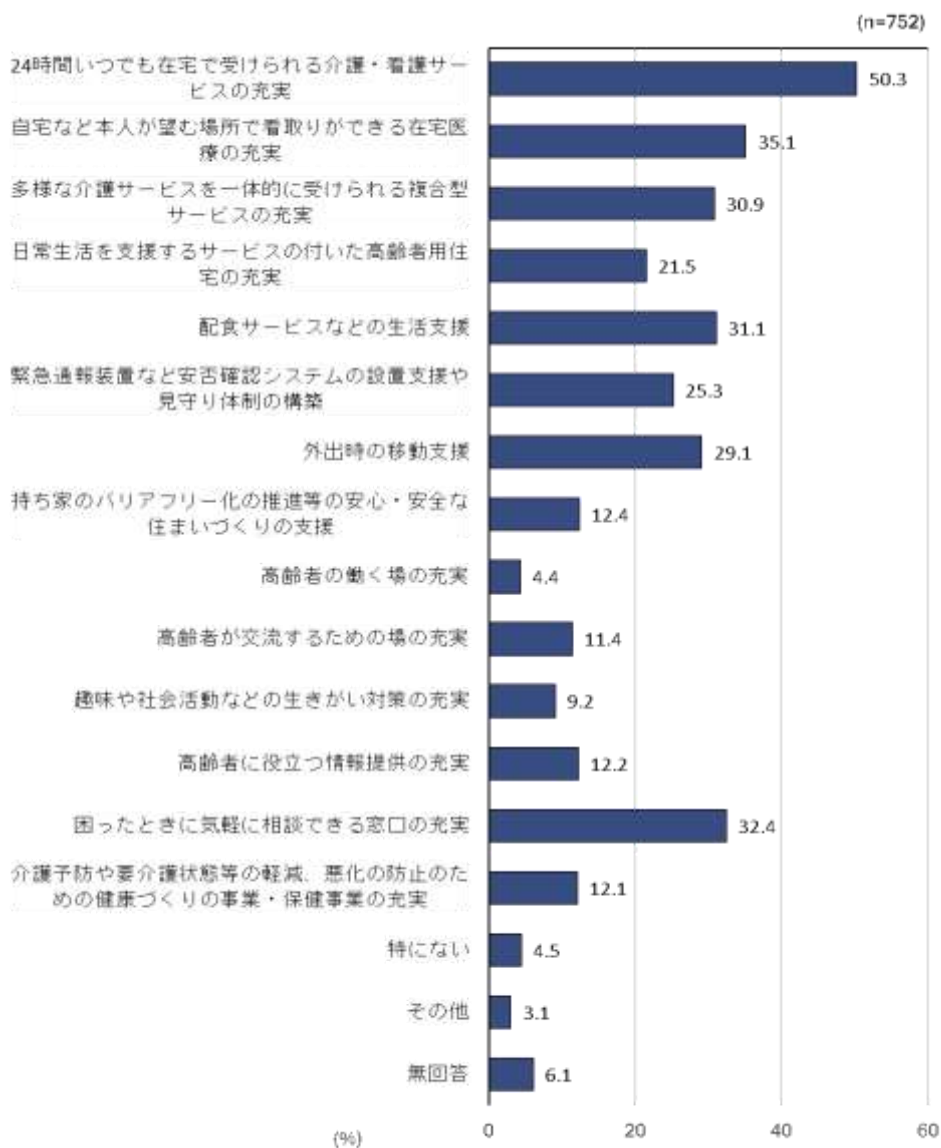
「タクシー券の支給」が53.7%で最も多く、次いで「バス券の支給、定期券購入費の助成」が25.0%となっている。



(5) 高齢者が地域で在宅を続けるために必要な施策

あなたは、高齢者が住み慣れた地域で在宅生活を続けていくために、主としてどのような施策が必要であると考えますか。(〇は5つまで)

「24時間いつでも在宅で受けられる介護・看護サービスの充実」が50.3%で最も多く、次いで「自宅など本人が望む場所で看取りができる在宅医療の充実」が35.1%となっている。その他、「困ったときに気軽に相談できる窓口の充実」(32.4%)、「配食サービスなどの生活支援」(31.1%)、「多様な介護サービスを一体的に受けられる複合型サービスの充実」(30.9%)が比較的高くなっている。

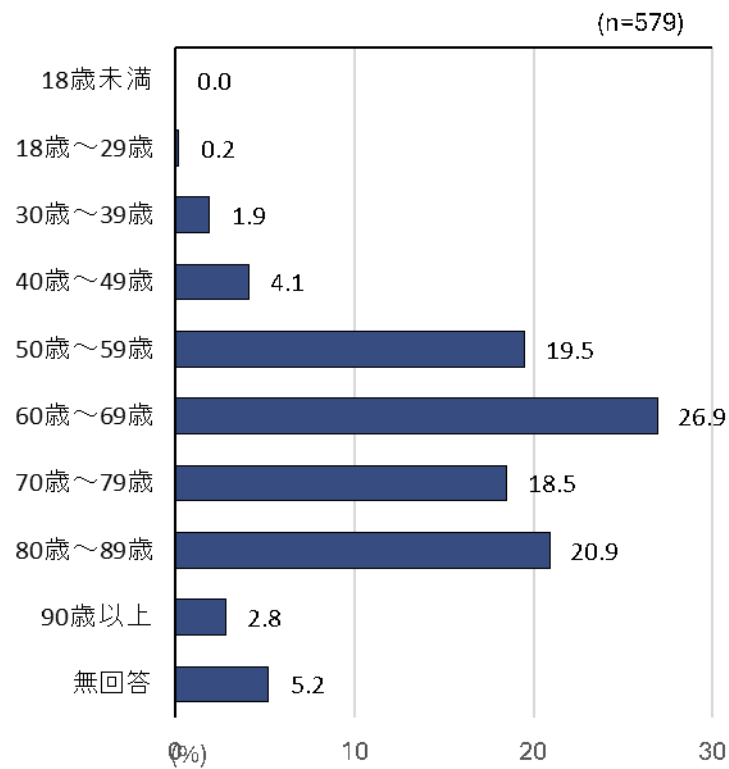


7. 主な介護者の方にうかがいます。

(1) 介護者の年齢

あなたの年齢をお答えください。

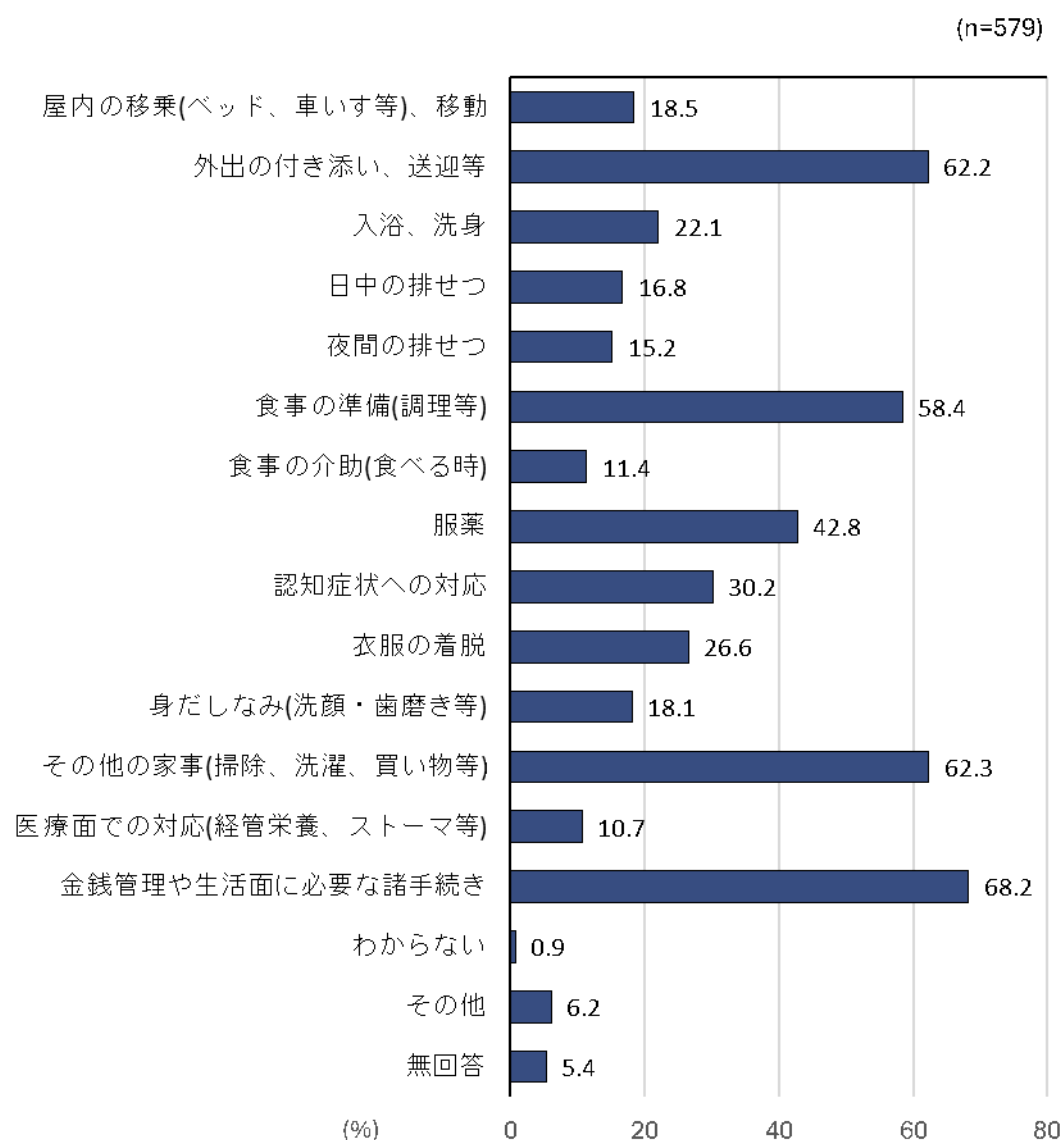
「60歳～69歳」が26.9%で最も多く、次いで「80歳～89歳」が20.9%となっている。



(2) 介護の種類

現在、主な介護者の方が行っている介護等は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

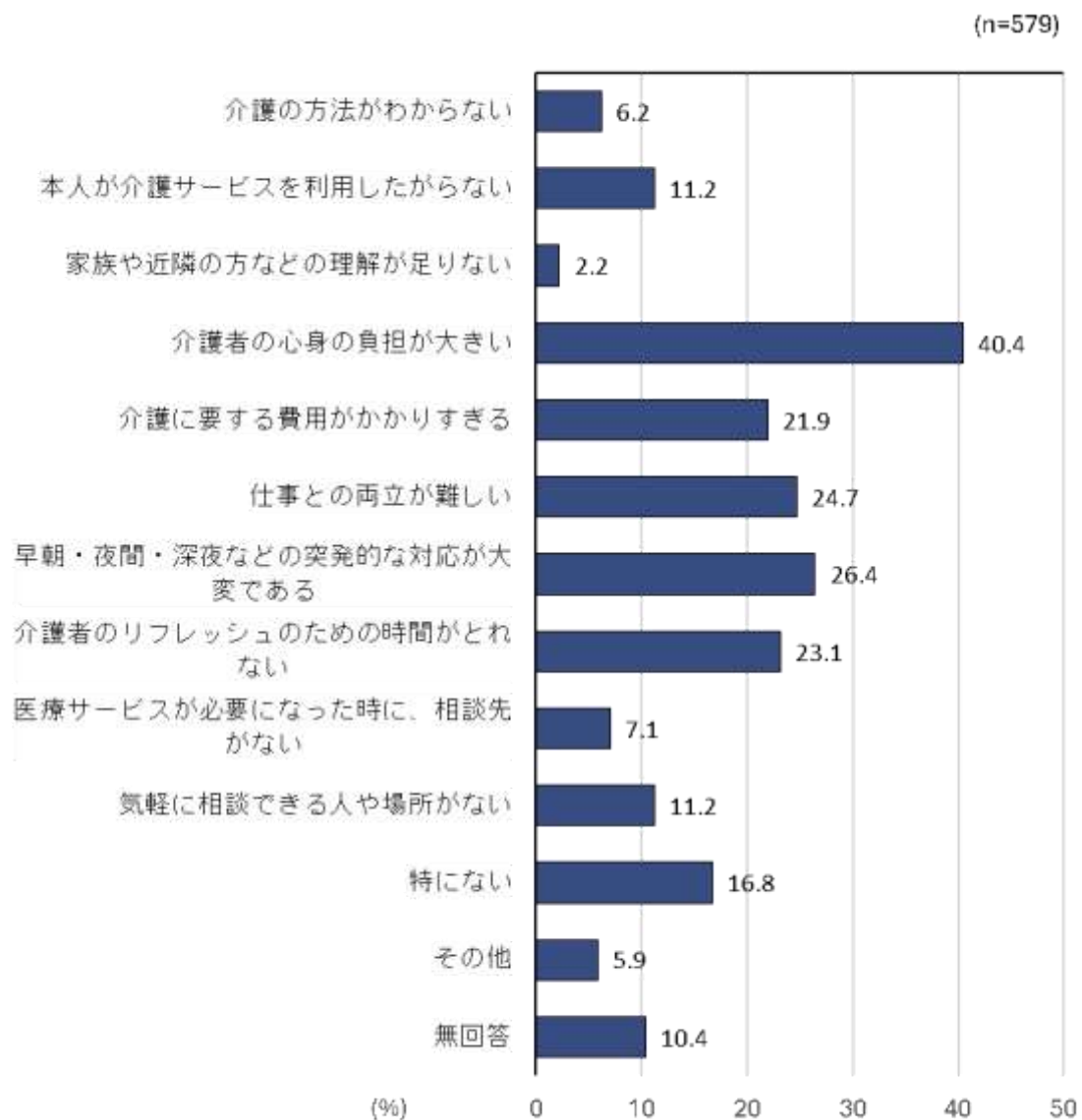
「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が68.2%で最も多く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が62.3%となっている。その他、「外出の付き添い、送迎等」(62.2%)、「食事の準備(調理等)」(58.4%)、「服薬」(42.8%)が比較的高くなっている。



(3) 介護を行う上で困っていること

介護を行う上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

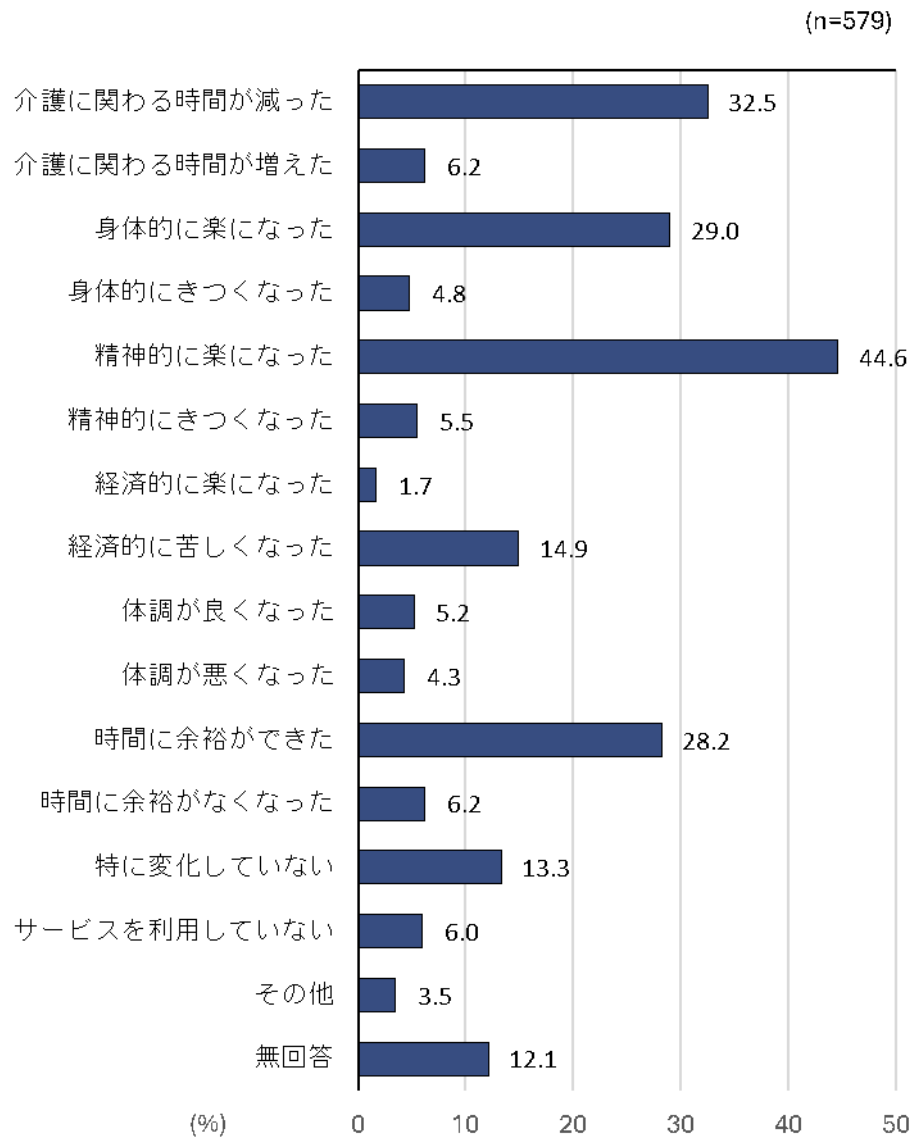
「介護者の心身の負担が大きい」が40.4%で最も多く、次いで「早朝・夜間・深夜などの突発的な対応が大変である」が26.4%となっている。その他、「仕事との両立が難しい」(24.7%)、「介護者のリフレッシュのための時間がとれない」(23.1%)、「介護に要する費用がかかりすぎる」(21.9%)が比較的高くなっている。



(4) 介護サービスを利用することによる変化

介護サービスを利用することによって、介護している方はどのように変化しましたか。(〇はいくつでも)

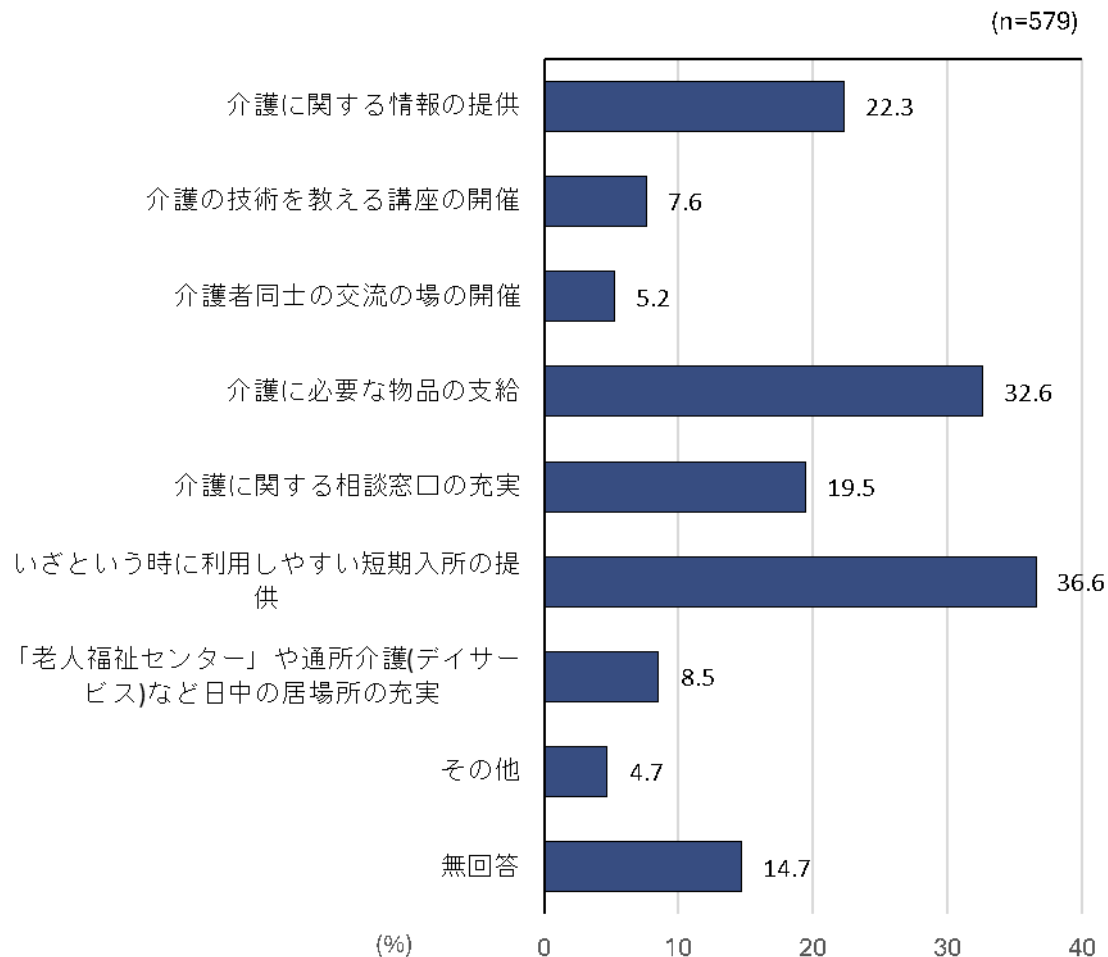
「精神的に楽になった」が44.6%で最も多く、次いで「介護に関わる時間が減った」が32.5%となっている。その他、「身体的に楽になった」(29.0%)、「時間に余裕ができた」(28.2%)が比較的高くなっている。



(5) 介護者としてあったらいいと思う支援

介護者として、介護に関してどのような支援があったらいいと思いますか。(〇は3つまで)

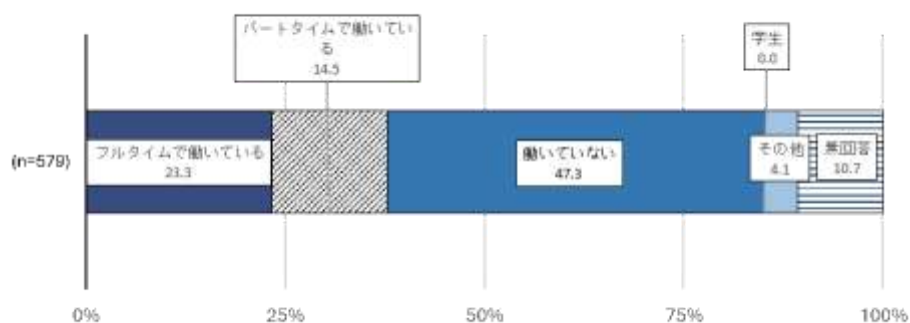
「いざという時に利用しやすい短期入所の提供」が36.6%で最も多く、次いで「介護に必要な物品の支給」が32.6%となっている。その他、「介護に関する情報の提供」(22.3%)「介護に関する相談窓口の充実」が比較的高くなっている。



(6) 介護者の勤務形態

あなたの現在の勤務形態についてお答えください。

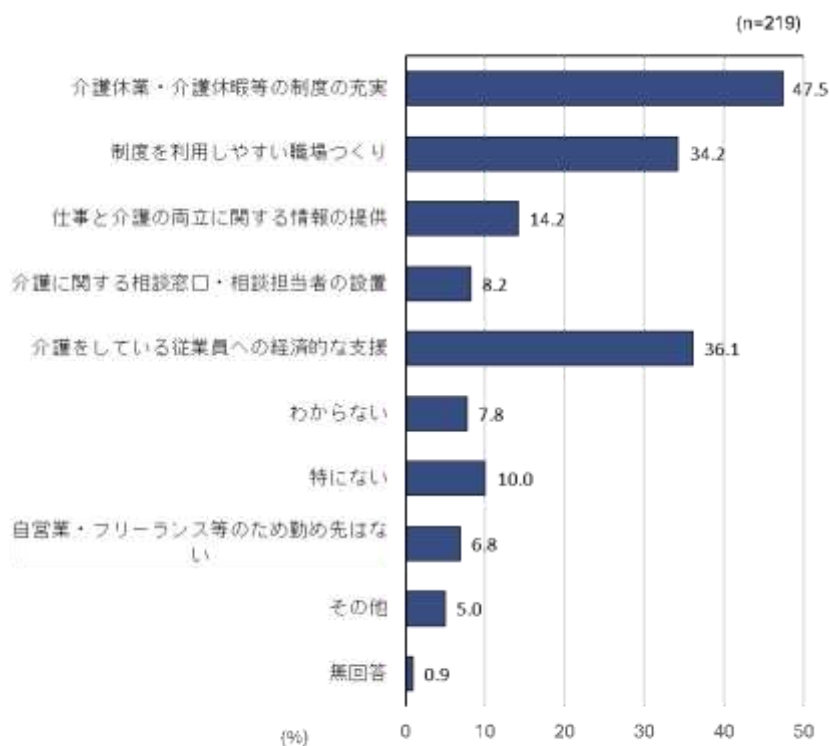
「働いていない」が47.3%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が23.3%となっている。



(7) 仕事と介護の両立に効果のある支援

(フルタイム・パートタイムで働いている方)あなたは、勤め先からどのような支援があれば仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(〇は3つまで)

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が47.5%で最も多く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が36.1%となっている。その他、「制度を利用しやすい職場づくり」(34.2%)が比較的高くなっている。



8. ご意見・ご要望

市の高齢者保健福祉施策についてご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

① 情報提供・周知の充実

- ・ 介護の仕方や制度をまとめた分かりやすいガイドがほしい
- ・ 介護初心者向けの手引書や冊子の配布を求める
- ・ 支援制度やサービスの情報が届いていない
- ・ 何が利用できるのか分からない
- ・ 情報は自分で探さないと得られない
- ・ 市のアプリや広報で介護情報が少ない
- ・ 施策や支援内容をもっと PR してほしい
- ・ 家族(別居含む)にも情報提供できる仕組みがほしい
- ・ ケアマネや施設の情報(評判・質)が分からない
- ・ タクシー券の制度を知らなかった
- ・ アンケート自体が分かりにくい

② 相談支援・体制(窓口・ケアマネ等)

- ・ 気軽に相談できる場や交流の場がほしい
- ・ 介護者同士の交流・カフェの場を求める
- ・ 相談窓口が遠く利用しづらい
- ・ どこに相談すればよいか分からない
- ・ ケアマネの選び方が分からない
- ・ ケアマネの質にばらつきがある
- ・ ケアマネが計画中心で寄り添いが不足
- ・ 包括支援センターの対応が不十分
- ・ 相談しても十分な対応が得られない
- ・ 介護と看護の境界の相談先が不明

③ 介護サービス・施設

- ・ 特養・施設が不足している
- ・ 入所待機が長く入れない
- ・ 認知症対応施設が少ない
- ・ ショートステイの受入先が少ない

- ・ 医療対応可能な施設が少ない
- ・ 低価格の施設が少ない
- ・ 地域密着型サービスが不足
- ・ 施設の質や対応にばらつきがある
- ・ 見守り体制が不十分
- ・ サービス利用の契約・手続きが煩雑

④ 介護人材・質(職員・ケアマネ等)

- ・ 介護職員の人手不足
- ・ ヘルパー不足
- ・ 職員の対応・接遇に不満
- ・ ケアマネの専門性・役割に疑問
- ・ 外国人介護士への不安
- ・ 介護職の待遇改善を求める

⑤ 経済的負担・制度(費用・不公平感)

- ・ 介護費用・保険料が高い
- ・ タクシー代・通院費の負担が大きい
- ・ 施設費用(食費・居住費)が高い
- ・ 非課税世帯中心の支援に不公平感
- ・ 所得区分の線引きが粗い
- ・ 支援対象外になることで負担増
- ・ サービス利用を控えざるを得ない
- ・ 保険負担割合の増加に不安

⑥ 介護者支援(家族・ヤングケアラー等)

- ・ 介護者の精神的・身体的負担が大きい
- ・ 介護離職を余儀なくされた
- ・ 仕事と介護の両立が困難
- ・ ヤングケアラーへの支援が必要
- ・ 介護者の相談・休息の場が必要
- ・ 介護者が病気時の預かり先がない

- ・ 介護者の収入保障を求める
- ・ 孤立しない仕組みが必要

⑦ 生活支援・在宅支援(見守り・食事・日常)

- ・ 食事支援(宅配)の充実を求める
- ・ 見守りや声かけの仕組みが必要
- ・ 外出・買い物支援が必要
- ・ 在宅介護では限界がある
- ・ 緊急時対応の充実を求める
- ・ ボランティア活用の必要性と課題
- ・ おひとり様支援(死後含む)の必要性

⑧ 移動・交通(タクシー・バス)

- ・ タクシー券の拡充・柔軟運用を求める
- ・ 同居要件で支給対象外になる問題
- ・ 免許返納後の移動手段不足
- ・ バス路線・本数が不十分
- ・ バス停が遠い
- ・ 交通弱者への支援不足
- ・ タクシー券の使い勝手改善(額面・対象)

⑨ 手続きの煩雑さ

- ・ 手続きが煩雑で負担が大きい
- ・ 申請書類が多い・分かりにくい
- ・ 更新手続きの分散・非効率
- ・ 認定に時間がかかる
- ・ マイナンバー活用不足
- ・ 行政対応が事務的
- ・ 個別事情への柔軟対応不足

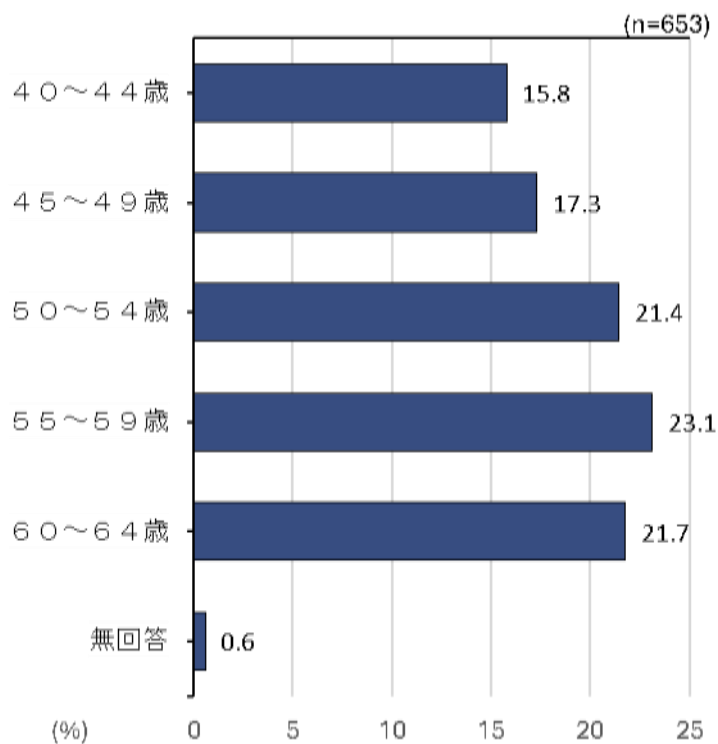
第4章 一般若年者調査

1. 回答者属性

(1) 年齢

あなたの年齢をお答えください。

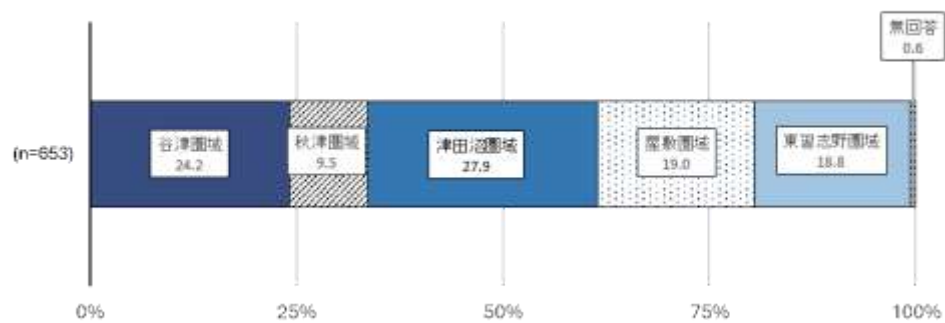
「55～59歳」が23.1%で最も多く、次いで「60～64歳」が21.7%となっている。



(2) 居住地区

お住いの地区名を教えてください。

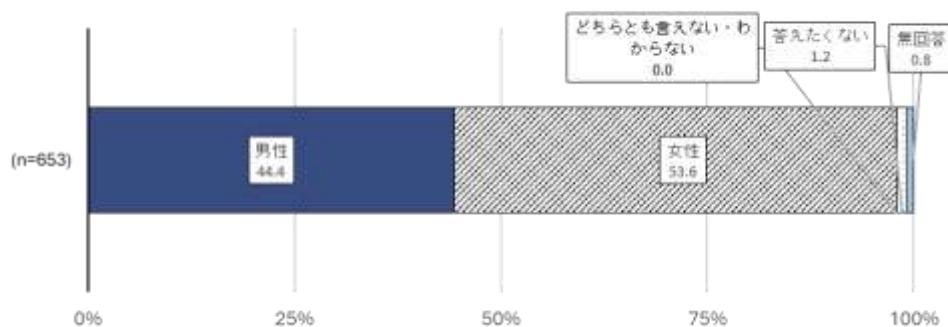
「津田沼圏域」が27.9%で最も多く、次いで「谷津圏域」が24.2%となっている。



(3) 性別

あなたの性別をお答えください。

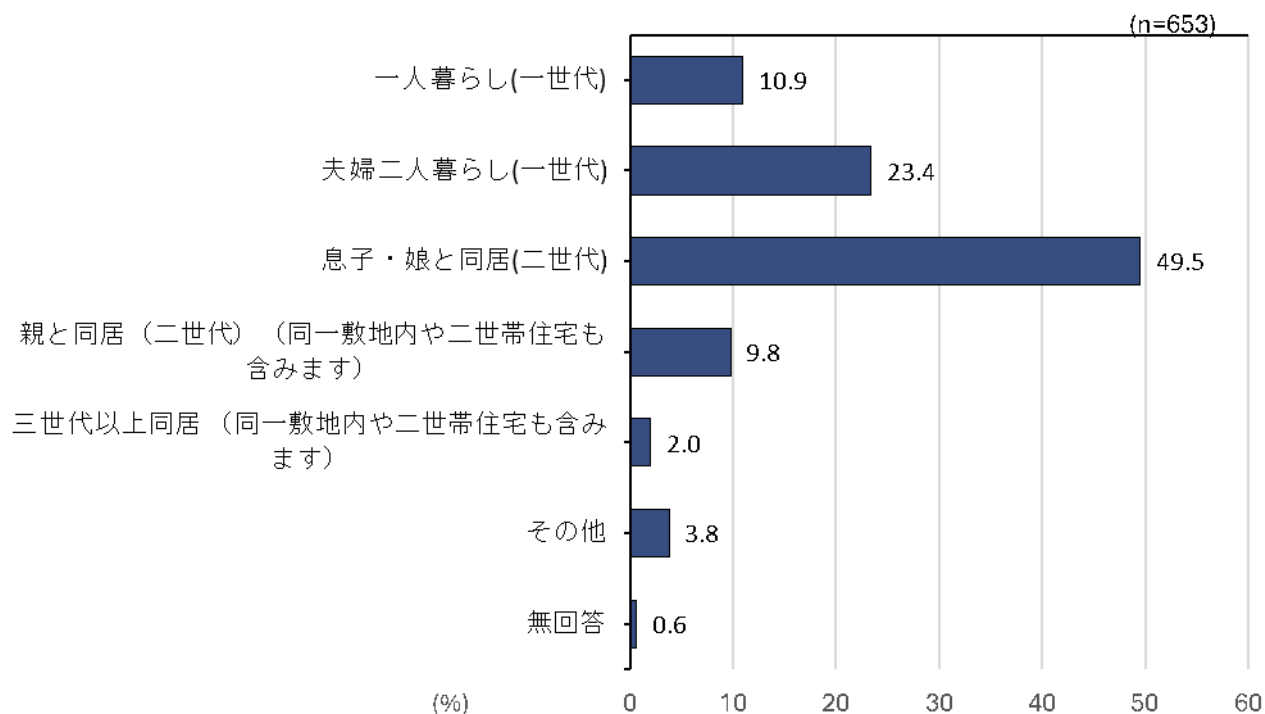
「女性」が 53.6%で、「男性」が 44.4%となっている。



(4) 家族構成

家族構成をお答えください。

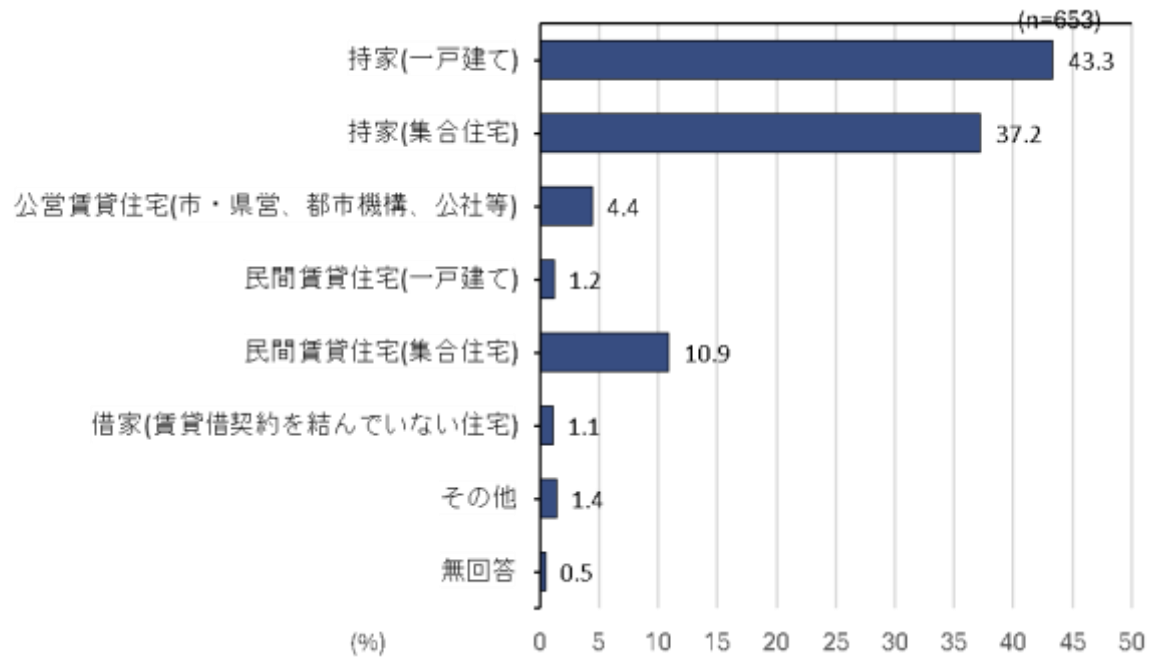
「息子・娘と同居(二世代)」が 49.5%で最も多く、次いで「夫婦二人暮らし(一世代)」が 23.4%となっている。



(5) 住まいの形態

お住まいは戸建て、または集合住宅のどちらですか。

「持家(戸建て)」が43.3%で最も多く、次いで「持家(集合住宅)」が37.2%となっている。

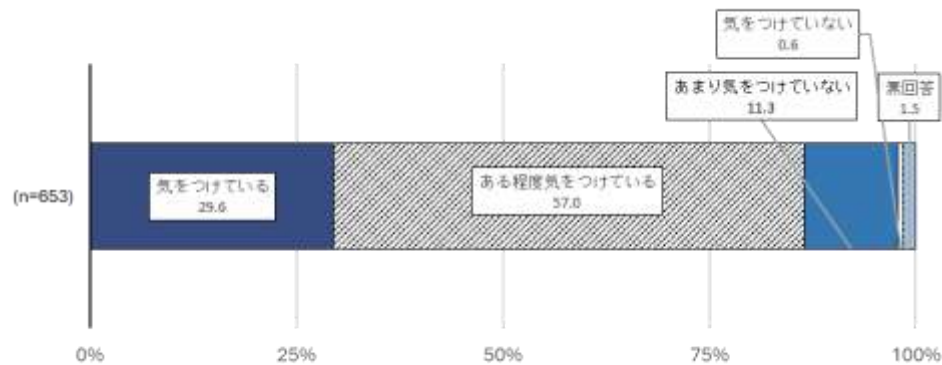


2. 健康について

(1) 健康への配慮

あなたは、日頃、自分の健康に気をつけていますか。

「ある程度気をつけている」が 57.0%で最も高く、次いで「気をつけている」が 29.6%となっている。



【年齢別比較】

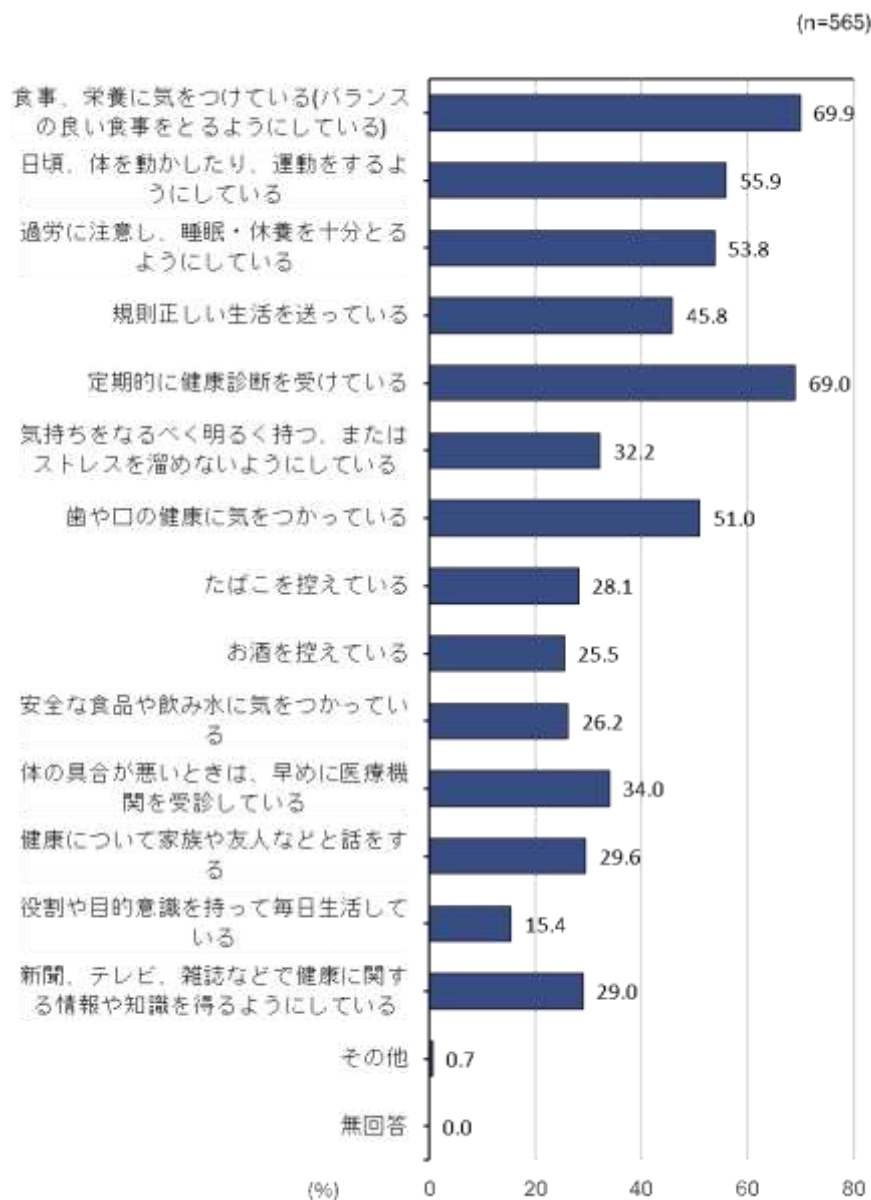
上段:度数 下段:%	問6					
	合計	気をつけて いる	ある程度気 をつけてい る	あまり気をつ けていない	気をつけて いない	無回答
全体	653 100.0	193 29.6	372 57.0	74 11.3	4 0.6	10 1.5
40～44歳	103 100.0	28 27.2	54 52.4	19 18.4	2 1.9	- -
45～49歳	113 100.0	32 28.3	60 53.1	19 16.8	- -	2 1.8
50～54歳	140 100.0	33 23.6	86 61.4	16 11.4	1 0.7	4 2.9
55～59歳	151 100.0	47 31.1	92 60.9	11 7.3	- -	1 0.7
60～64歳	142 100.0	52 36.6	78 54.9	9 6.3	1 0.7	2 1.4
無回答	4 100.0	1 25.0	2 50.0	- -	- -	1 25.0

【性別比較】

上段:回答数 下段:%	問6					
	合計	気をつけて いる	ある程度気 をつけてい る	あまり気 をつけてい ない	気をつけて いない	無回答
全体	653	193	372	74	4	10
	100.0	29.6	57.0	11.3	0.6	1.5
男性	290	85	159	41	2	3
	100.0	29.3	54.8	14.1	0.7	1.0
女性	350	105	205	32	2	6
	100.0	30.0	58.6	9.1	0.6	1.7
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	2	5	1	-	-
	100.0	25.0	62.5	12.5	-	-
無回答	5	1	3	-	-	1
	100.0	20.0	60.0	-	-	20.0

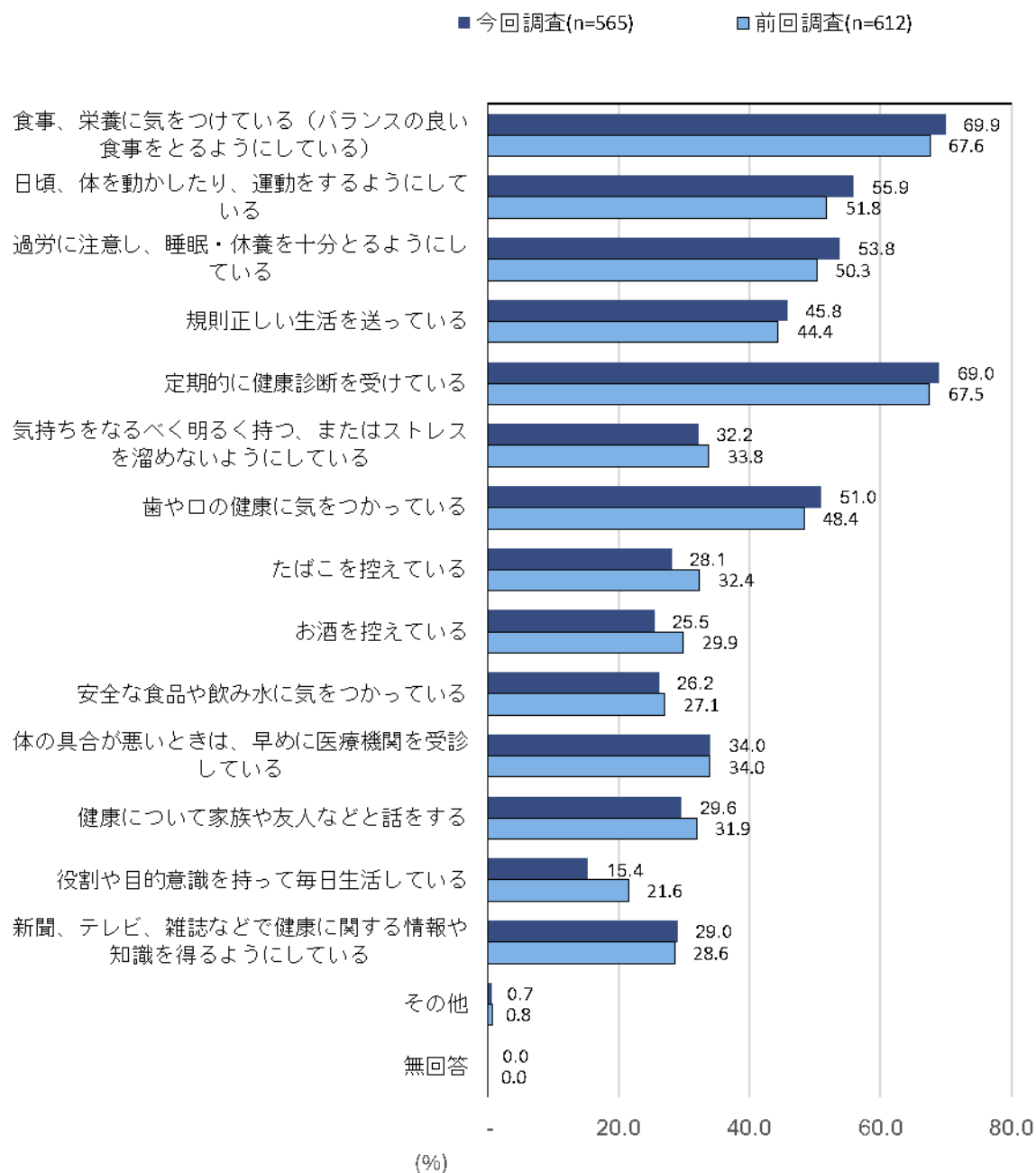
(「気を付けている」もしくは「ある程度気を付けている」を選択された方)何か実行していることがありますか。(〇はいくつでも)

「食事、栄養に気を付けている(バランスの良い食事をとるようにしている)」が69.9%で最も高く、次いで「定期的に健康診断を受けている」が69.0%となっている。その他、「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」(55.9%)、「過労に注意し、睡眠・休養を十分とるようにしている」(53.8%)、「歯や口の健康に気を付けている」(51.0%)、「規則正しい生活を送っている」(45.8%)、「体の具合が悪いときは、早めに医療機関を受診している」(34.0%)、「気持ちをなるべく明るく持つ、またはストレスを溜めないようにしている」(32.2%)が比較的高くなっている。



【経年比較】

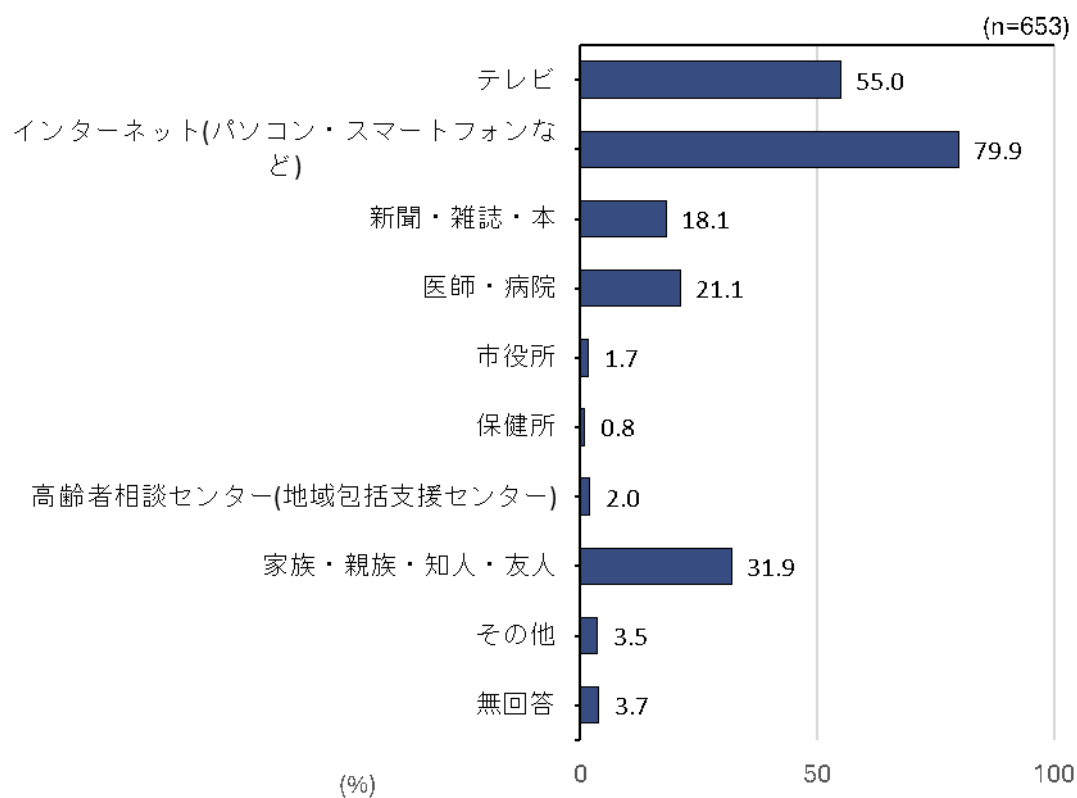
前回調査と比較しても大きな差は見られない。



(2) 医療・介護情報の入手先

医療や介護の知識や情報を、何から得ていますか。(〇はいくつでも)

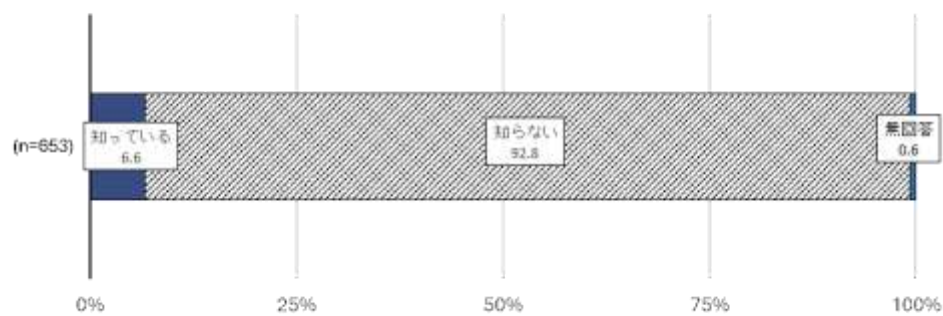
「インターネット(パソコン・スマートフォンなど)」が79.9%で最も高く、次いで「テレビ」が55.0%となっている。その他、「家族・親族・知人・友人」(31.9%)が比較的高くなっている。



(3) ACP の認知度

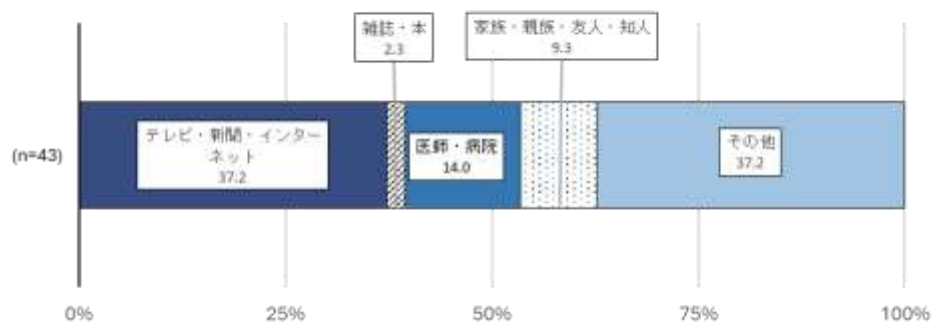
人生会議またはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)という言葉を知っていますか。

「知らない」が 92.8%で最も高く、次いで「知っている」が 6.6%となっている。



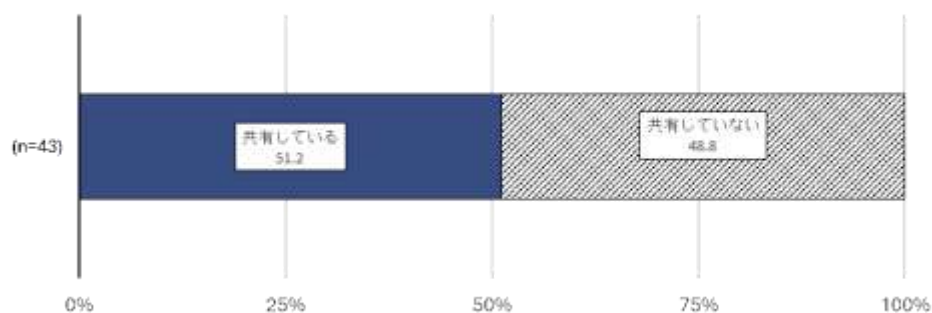
(「知っている」を選択された方) ACP という言葉をどこで知りましたか。

「テレビ・新聞・インターネット」が 37.2%で最も高く、次いで「医師・病院」が 14.0%となっている。



(「知っている」を選択された方)実際に家族や信頼する人たちと自分の考えを話し合ったり、共有していますか。

「共有している」が 51.2%で最も高く、次いで「共有していない」が 48.8%となっている。



人生の最終段階の医療・療養について、あなたの意思に沿った医療・療養を受けるためには、家族等や医療・ケアチームとあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うことが重要といわれています。このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。

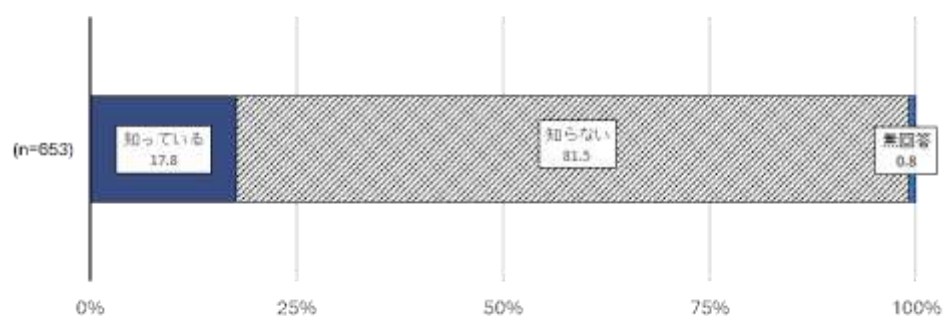
「賛成である」が 82.1%で最も高く、次いで「わからない」が 16.5%となっている。



(4) 認知症について

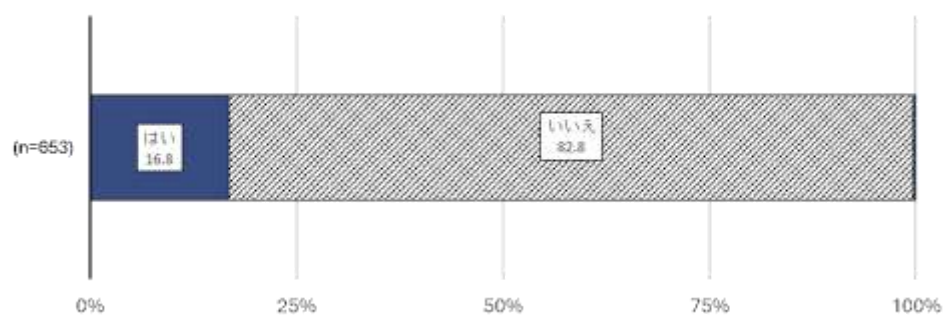
令和6年1月に認知症基本法が策定され、その中の考え方として「新しい認知症観」※の普及を推進しています。「新しい認知症観」を知っていますか。

「知らない」が81.5%で最も高く、次いで「知っている」が17.8%となっている。



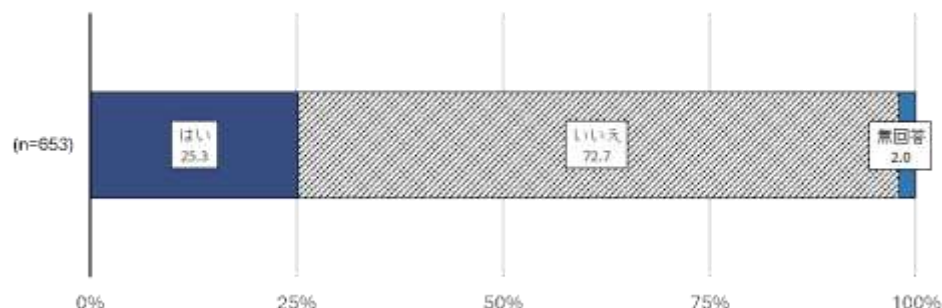
認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。

「いいえ」が82.8%で最も高く、次いで「はい」が16.8%となっている。



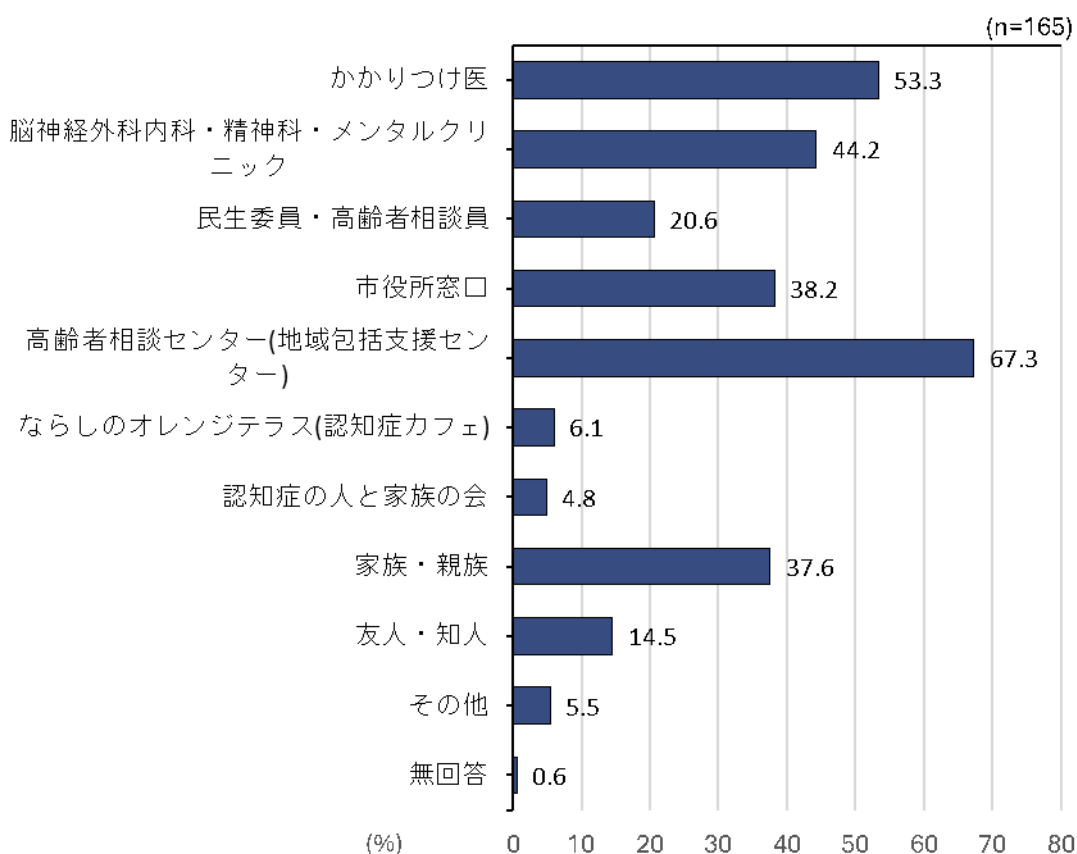
認知症に関する相談窓口を知っていますか。

「いいえ」が72.7%で最も高く、次いで「はい」が25.3%となっている。



(「はい」を選択された方)どこに相談すると思いますか、または相談しましたか。(〇はいくつでも)

「高齢者相談センター(地域包括支援センター)」が67.3%で最も高く、次いで「かかりつけ医」が53.3%となっている。その他、「脳神経外科内科・精神科・メンタルクリニック」(44.2%)、「市役所窓口」(38.2%)、「家族・親族」(37.6%)が比較的高くなっている。



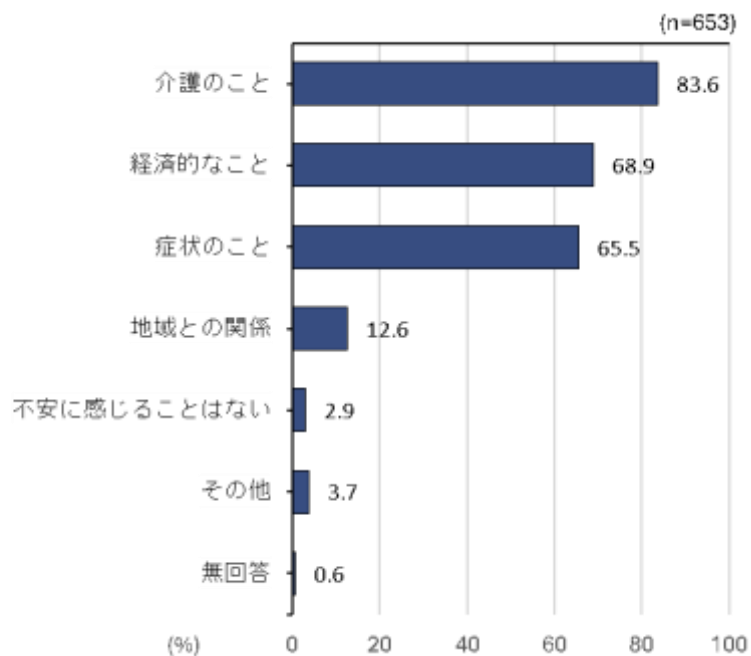
【年齢別比較】

上段:回答数 下段:%	問12-1						
	合計	かかりつけ 医	脳神経外科 内科・精神 科・メンタ ルクリニック	民生委員・ 高齢者相談 員	市役所窓口	高齢者相談 センター(地 域包括支援 センター)	ならしのオ レンジテラ ス(認知症カ フェ)
全体	165	88	73	34	63	111	10
	100.0	53.3	44.2	20.6	38.2	67.3	6.1
40～44歳	15	9	8	3	9	8	2
	100.0	60.0	53.3	20.0	60.0	53.3	13.3
45～49歳	20	14	7	3	10	12	2
	100.0	70.0	35.0	15.0	50.0	60.0	10.0
50～54歳	35	18	17	8	14	22	4
	100.0	51.4	48.6	22.9	40.0	62.9	11.4
55～59歳	48	21	19	13	13	35	-
	100.0	43.8	39.6	27.1	27.1	72.9	-
60～64歳	46	25	21	6	16	33	1
	100.0	54.3	45.7	13.0	34.8	71.7	2.2
無回答	1	1	1	1	1	1	1
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

上段:回答数 下段:%	問12-1					
	合計	認知症の人 と家族の会	家族・親族	友人・知人	その他	無回答
全体	165	8	62	24	9	1
	100.0	4.8	37.6	14.5	5.5	0.6
40～44歳	15	3	9	4	-	-
	100.0	20.0	60.0	26.7	-	-
45～49歳	20	-	9	3	-	-
	100.0	-	45.0	15.0	-	-
50～54歳	35	3	12	5	-	-
	100.0	8.6	34.3	14.3	-	-
55～59歳	48	-	14	6	5	1
	100.0	-	29.2	12.5	10.4	2.1
60～64歳	46	1	17	5	4	-
	100.0	2.2	37.0	10.9	8.7	-
無回答	1	1	1	1	-	-
	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-

自分自身が認知症になったときどうしたらいいのか、不安に感じることは何ですか。(〇はいくつでも)

「介護のこと」が83.6%で最も高く、次いで「経済的なこと」が68.9%となっている。その他、「症状のこと」(65.5%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

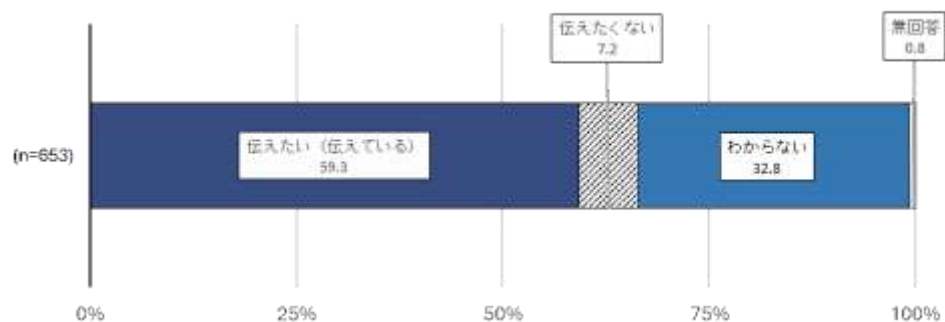
上段:回答数 下段:%	問13							
	合計	介護のこと	経済的なこと	症状のこと	地域との関係	不安に感じることはない	その他	無回答
全体	653	546	450	428	82	19	24	4
	100.0	83.6	68.9	65.5	12.6	2.9	3.7	0.6
40～44歳	103	84	76	71	16	5	4	-
	100.0	81.6	73.8	68.9	15.5	4.9	3.9	-
45～49歳	113	96	83	70	14	4	2	1
	100.0	85.0	73.5	61.9	12.4	3.5	1.8	0.9
50～54歳	140	113	97	99	18	1	5	-
	100.0	80.7	69.3	70.7	12.9	0.7	3.6	-
55～59歳	151	125	102	101	17	6	7	-
	100.0	82.8	67.5	66.9	11.3	4.0	4.6	-
60～64歳	142	125	91	85	17	3	6	2
	100.0	88.0	64.1	59.9	12.0	2.1	4.2	1.4
無回答	4	3	1	2	-	-	-	1
	100.0	75.0	25.0	50.0	-	-	-	25.0

【性別比較】

上段:回答数	問13							
下段:%	合計	介護のこと	経済的なこと	症状のこと	地域との関係	不安に感じることはない	その他	無回答
全体	653	546	450	428	82	19	24	4
	100.0	83.6	68.9	65.5	12.6	2.9	3.7	0.6
男性	290	241	203	178	27	10	8	2
	100.0	83.1	70.0	61.4	9.3	3.4	2.8	0.7
女性	350	295	240	243	54	9	16	1
	100.0	84.3	68.6	69.4	15.4	2.6	4.6	0.3
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	6	5	4	1	-	-	-
	100.0	75.0	62.5	50.0	12.5	-	-	-
無回答	5	4	2	3	-	-	-	1
	100.0	80.0	40.0	60.0	-	-	-	20.0

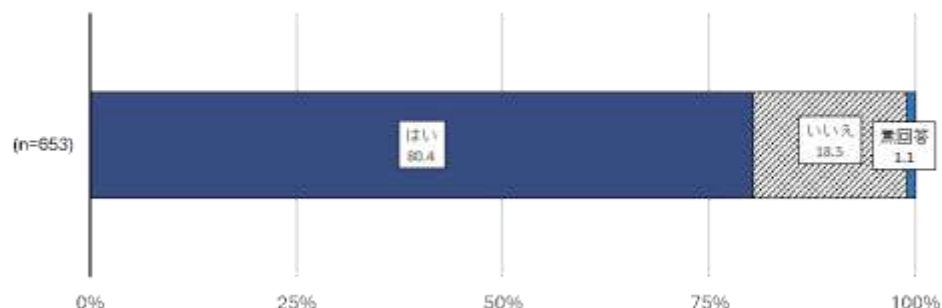
自分や家族が認知症になった場合、周囲に認知症であることを伝えたいと思いますか。

「伝えたい(伝えている)」が 59.3%で最も高く、次いで「わからない」が 32.8%となっている。



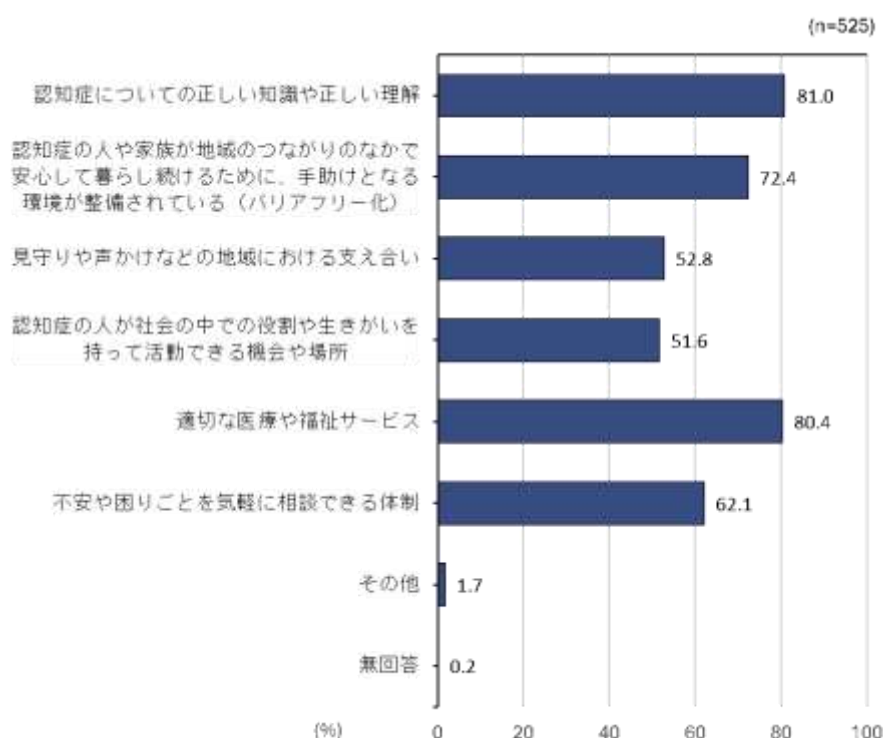
認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと思いますか。

「はい」が80.4%で最も高く、次いで「いいえ」が18.5%となっている。



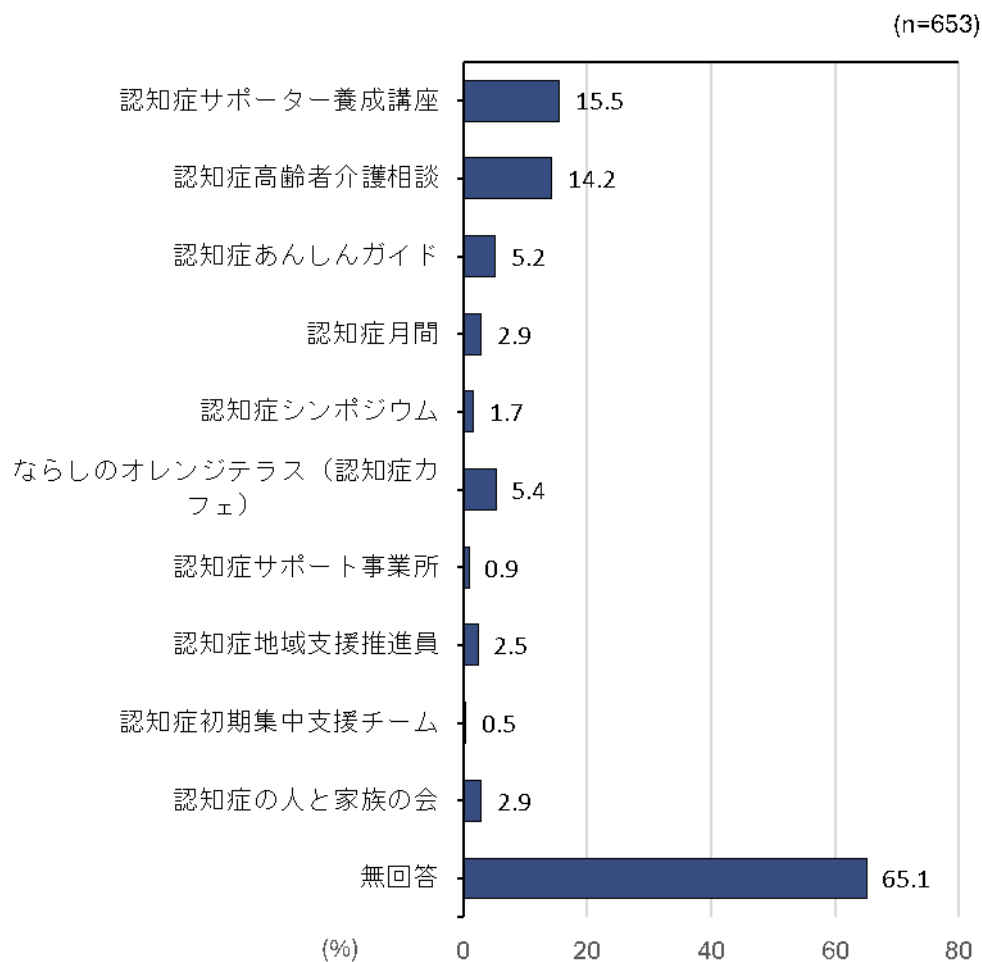
(「はい」を選択された方)認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる地域を作っていくためには必要であると思うことは何ですか。(○はいくつでも)

「認知症についての正しい知識や正しい理解」が81.0%で最も高く、次いで「適切な医療や福祉サービス」が80.4%となっている。その他、「認知症の人や家族が地域のつながりのなかで安心して暮らし続けるために、手助けとなる環境が整備されている(バリアフリー化)」(72.4%)、「不安や困りごとを気軽に相談できる体制」(62.1%)、「見守りや声かけなどの地域における支え合い」(52.8%)、「認知症の人が社会の中での役割や生きがいを持って活動できる機会や場所」(51.6%)が比較的高くなっている。



市が取り組んでいる認知症施策等で知っているものはありますか。

「認知症サポーター養成講座」が15.5%で最も高く、次いで「認知症高齢者介護相談」が14.2%となっている。



(5) 健康診査等の状況

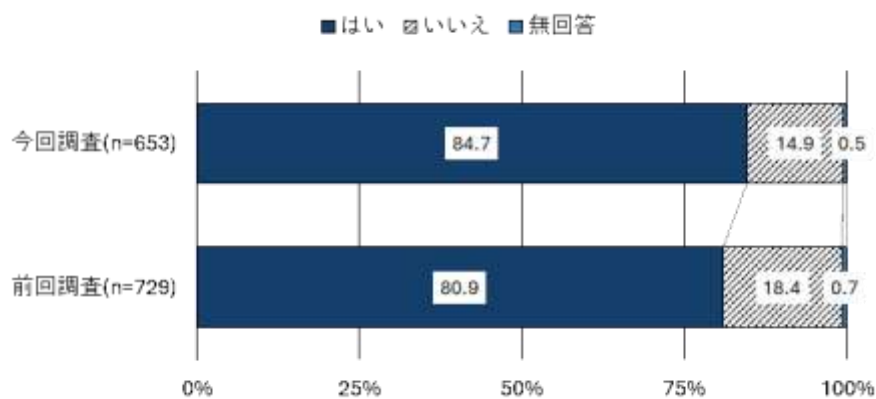
あなたは、1年以内に健康診査(特定健康診査・人間ドック・職場の健診等)を受けましたか。

「はい」が84.7%で最も高く、次いで「いいえ」が14.9%となっている。



【経年比較】

前回調査に比べ、受診率がわずかに上昇している。

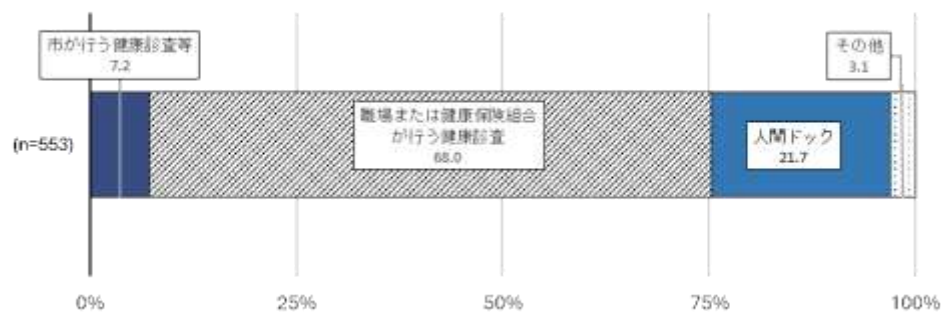


【性別比較】

上段:回答数	問17			
下段:%	合計	はい	いいえ	無回答
全体	653	553	97	3
	100.0	84.7	14.9	0.5
男性	290	264	25	1
	100.0	91.0	8.6	0.3
女性	350	279	70	1
	100.0	79.7	20.0	0.3
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-
	-	-	-	-
答えたくない	8	6	2	-
	100.0	75.0	25.0	-
無回答	5	4	-	1
	100.0	80.0	-	20.0

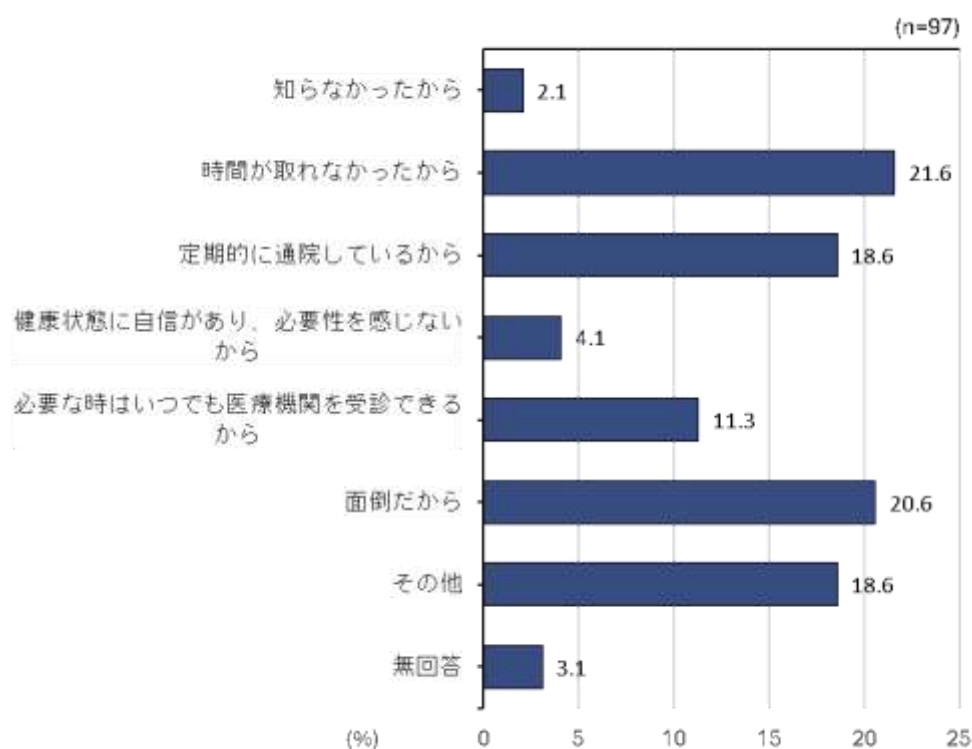
(「はい」を選択された方)どちらで健康診査を受けましたか。

「職場または健康保険組合が行う健康診査」が68.0%で最も高く、次いで「人間ドック」が21.7%となっている。



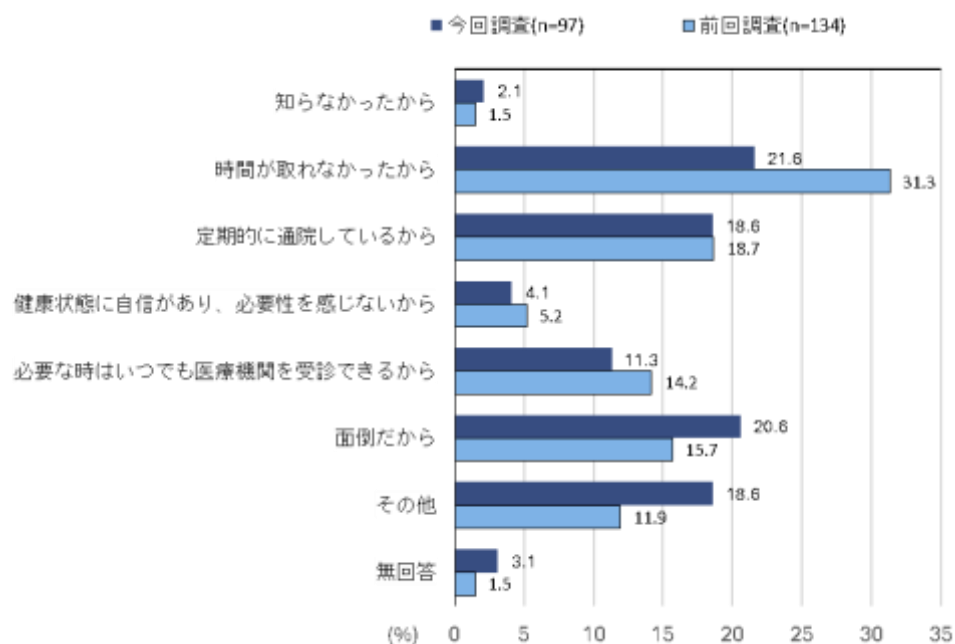
(「いいえ」を選択された方)健康診査を受けなかった理由は何ですか。

「時間が取れなかったから」が21.6%で最も高く、次いで「面倒だから」が20.6%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「時間が取れなかったから」が9.7ポイント下がり、「面倒だから」が4.9ポイント上昇している。



【年齢別】

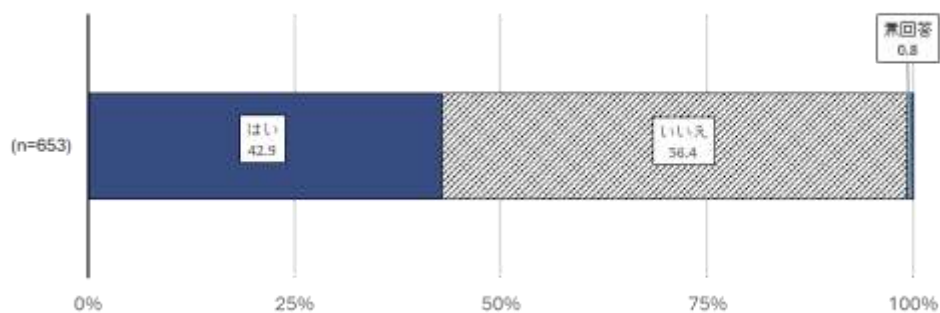
上段:回答数 下段:%	問17-2								
	合計	知らなかつたから	時間が取れなかつたから	定期的に通院しているから	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	必要な時はいつでも医療機関を受診できるから	面倒だから	その他	無回答
全体	97	2	21	18	4	11	20	18	3
	100.0	2.1	21.6	18.6	4.1	11.3	20.6	18.6	3.1
40～44歳	18	1	3	1	2	2	5	4	-
	100.0	5.6	16.7	5.6	11.1	11.1	27.8	22.2	-
45～49歳	14	-	4	2	2	1	4	1	-
	100.0	-	28.6	14.3	14.3	7.1	28.6	7.1	-
50～54歳	20	-	4	2	-	2	6	5	1
	100.0	-	20.0	10.0	-	10.0	30.0	25.0	5.0
55～59歳	22	-	5	7	-	2	3	3	2
	100.0	-	22.7	31.8	-	9.1	13.6	13.6	9.1
60～64歳	23	1	5	6	-	4	2	5	-
	100.0	4.3	21.7	26.1	-	17.4	8.7	21.7	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【性別比較】

上段:回答数 下段:%	問17-2								
	合計	知らなかつたから	時間が取れなかつたから	定期的に通院しているから	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	必要な時はいつでも医療機関を受診できるから	面倒だから	その他	無回答
全体	97	2	21	18	4	11	20	18	3
	100.0	2.1	21.6	18.6	4.1	11.3	20.6	18.6	3.1
男性	25	2	5	3	2	-	7	5	1
	100.0	8.0	20.0	12.0	8.0	-	28.0	20.0	4.0
女性	70	-	15	15	2	11	12	13	2
	100.0	-	21.4	21.4	2.9	15.7	17.1	18.6	2.9
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	2	-	1	-	-	-	1	-	-
	100.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-

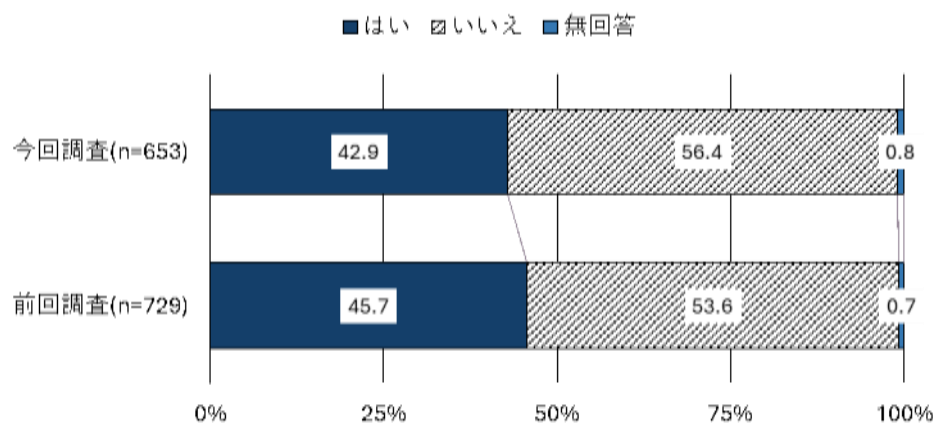
あなたは、1年以内にがん検診を受けましたか。

「いいえ」が56.4%で最も高く、次いで「はい」が42.9%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、受診率がわずかに上昇している。

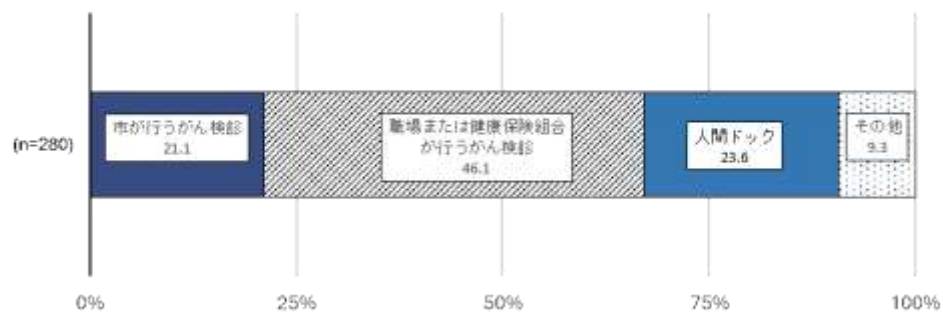


【性別比較】

上段:回答数	問18			
下段:%	合計	はい	いいえ	無回答
全体	653	280	368	5
	100.0	42.9	56.4	0.8
男性	290	74	214	2
	100.0	25.5	73.8	0.7
女性	350	198	150	2
	100.0	56.6	42.9	0.6
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-
	-	-	-	-
答えたくない	8	5	3	-
	100.0	62.5	37.5	-
無回答	5	3	1	1
	100.0	60.0	20.0	20.0

（「はい」を選択された方）どちらでがん検診を受けましたか。

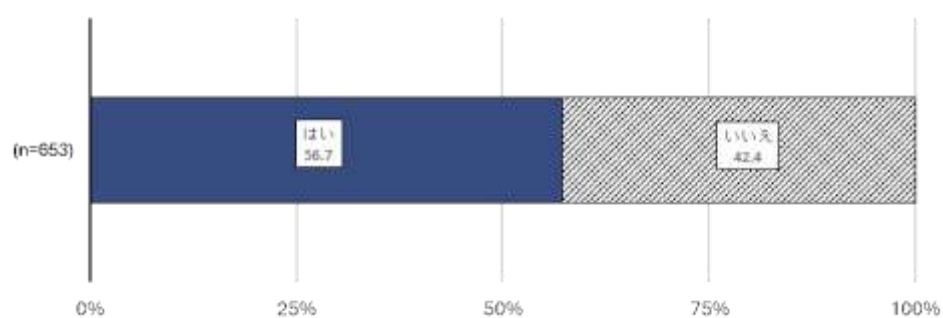
「職場または健康保険組合が行うがん検診」が46.1%で最も高く、次いで「人間ドック」が23.6%となっている。



(6) 口腔機能の状況

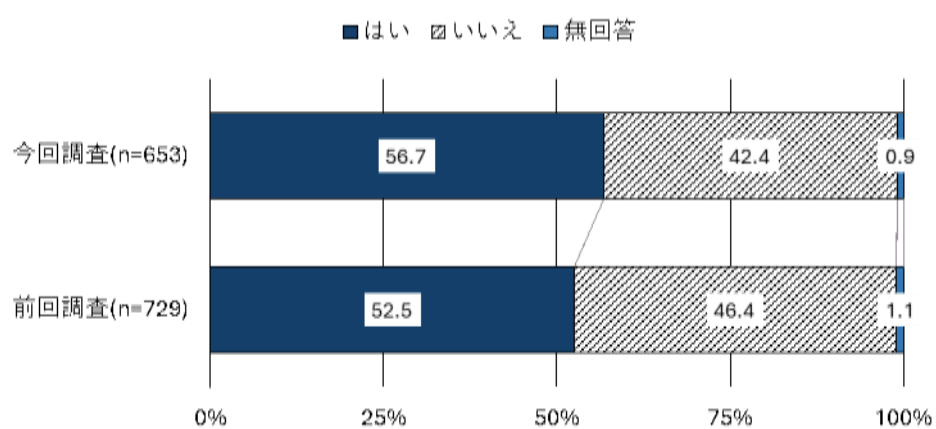
あなたは、1年以内に歯科健康診査を受けましたか。

「はい」が56.7%で最も高く、次いで「いいえ」が42.4%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、受診率がわずかに上昇している。



【性別比較】

上段:回答数 下段:%	問19			
	合計	はい	いいえ	無回答
全体	653	370	277	6
	100.0	56.7	42.4	0.9
男性	290	136	152	2
	100.0	46.9	52.4	0.7
女性	350	225	122	3
	100.0	64.3	34.9	0.9
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-
	-	-	-	-
答えたくない	8	7	1	-
	100.0	87.5	12.5	-
無回答	5	2	2	1
	100.0	40.0	40.0	20.0

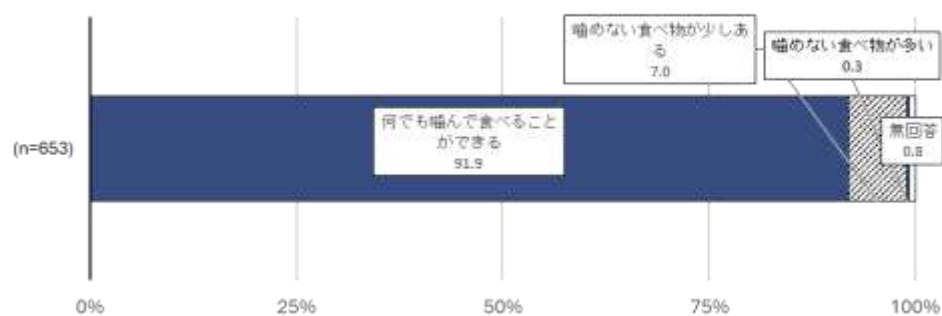
（「はい」を選択された方）どちらで歯科健康診査を受けましたか。

「市内医療機関」が 75.4%で最も高く、次いで「市外医療機関」が 21.1%となっている。



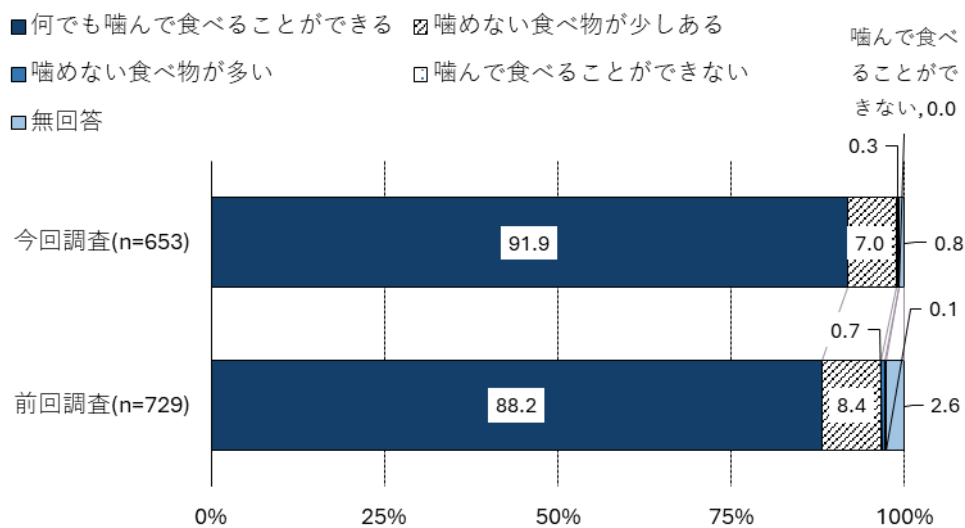
あなたは、ものを噛んで食べるとき、どのような状態ですか。(※入れ歯を使っても結構です。)

「何でも噛んで食べることができる」が91.9%で最も高く、次いで「噛めない食べ物が少しある」が7.0%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「何でも噛んで食べることができる」がわずかに上昇している。

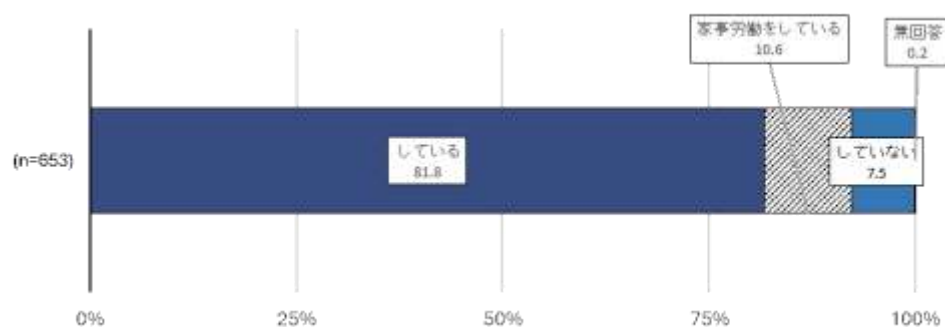


3. 就労や社会参画などについて

(1) 就労の状況

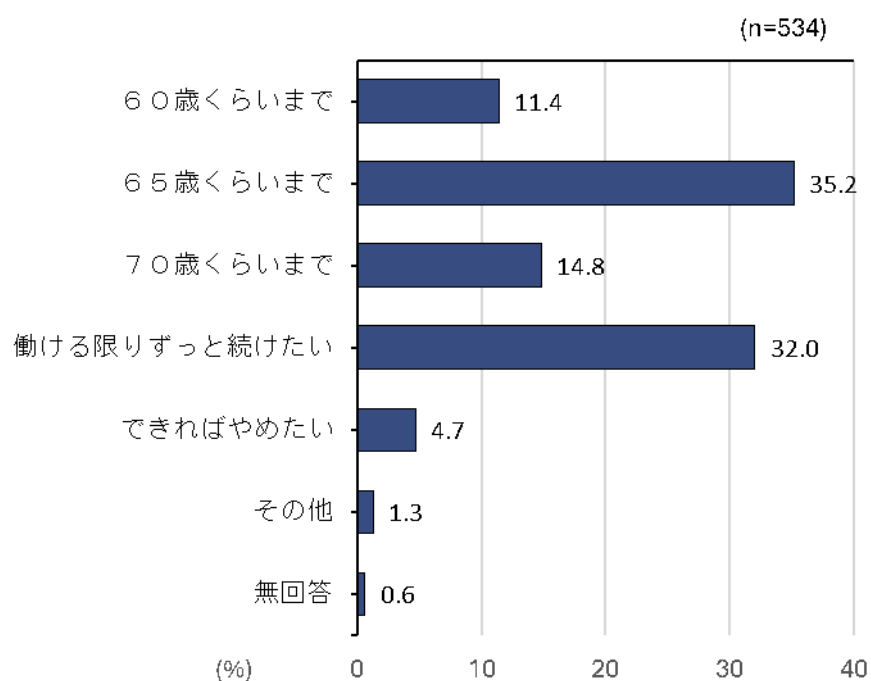
あなたは、現在、仕事をしていますか。

「している」が81.8%で最も高く、次いで「家事労働をしている」が10.6%となっている。



(「している」を選択された方) あなたは何歳ぐらいまで働きたいと思いますか。

「65歳くらいまで」が35.2%で最も高く、次いで「働ける限りずっと続けたい」が32.0%となっている。

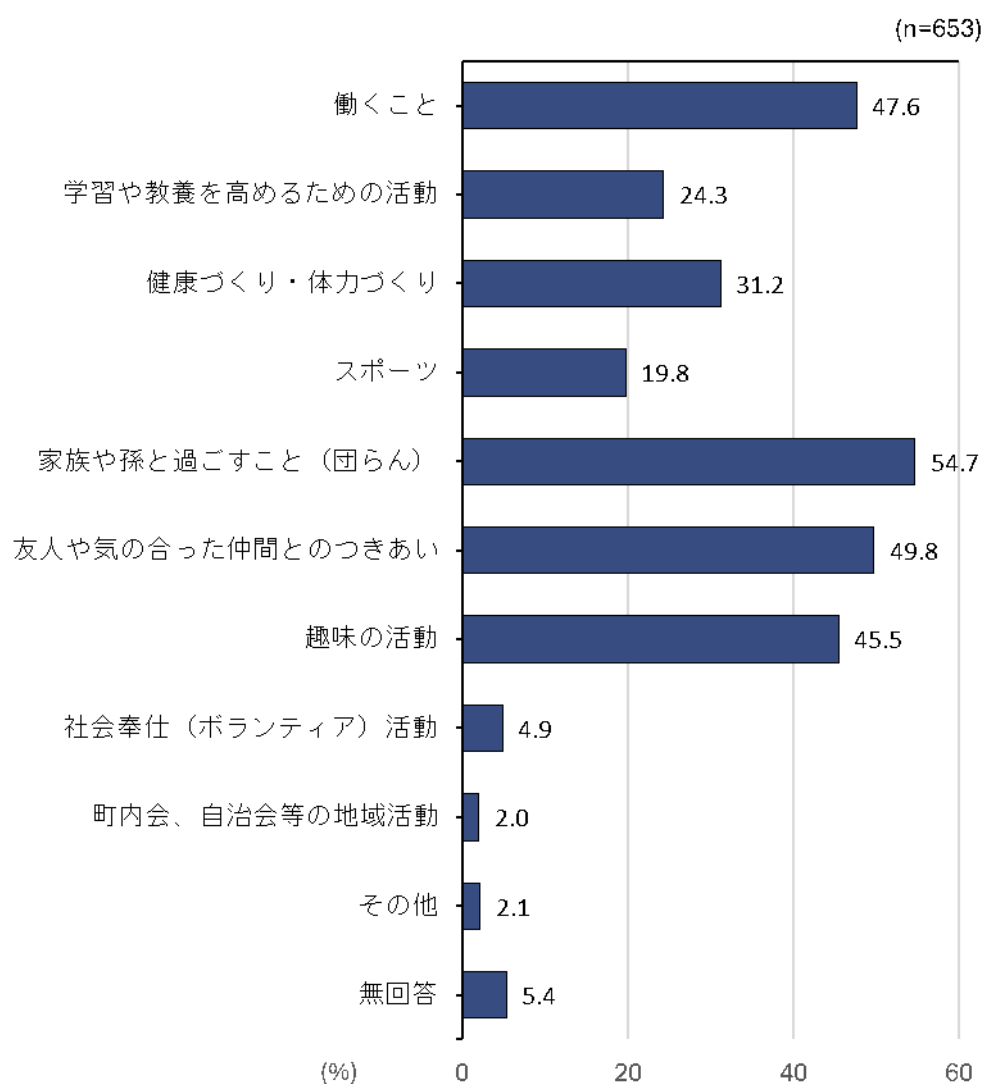


(2) 生きがいや今後やりたいこと

あなたが現在まで行っていることで、生きがいを感じるのとはどんなことですか。また、今後やってみたい(続けたい)ことはどんなことですか。(〇はそれぞれいくつでも)

① 生きがいを感じること

「家族や孫と過ごすこと(団らん)」が54.7%で最も高く、次いで「友人や気の合った仲間とのつきあい」が49.8%となっている。その他、「働くこと」(47.6%)、「趣味の活動」(45.5%)、「健康づくり・体力づくり」(31.2%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

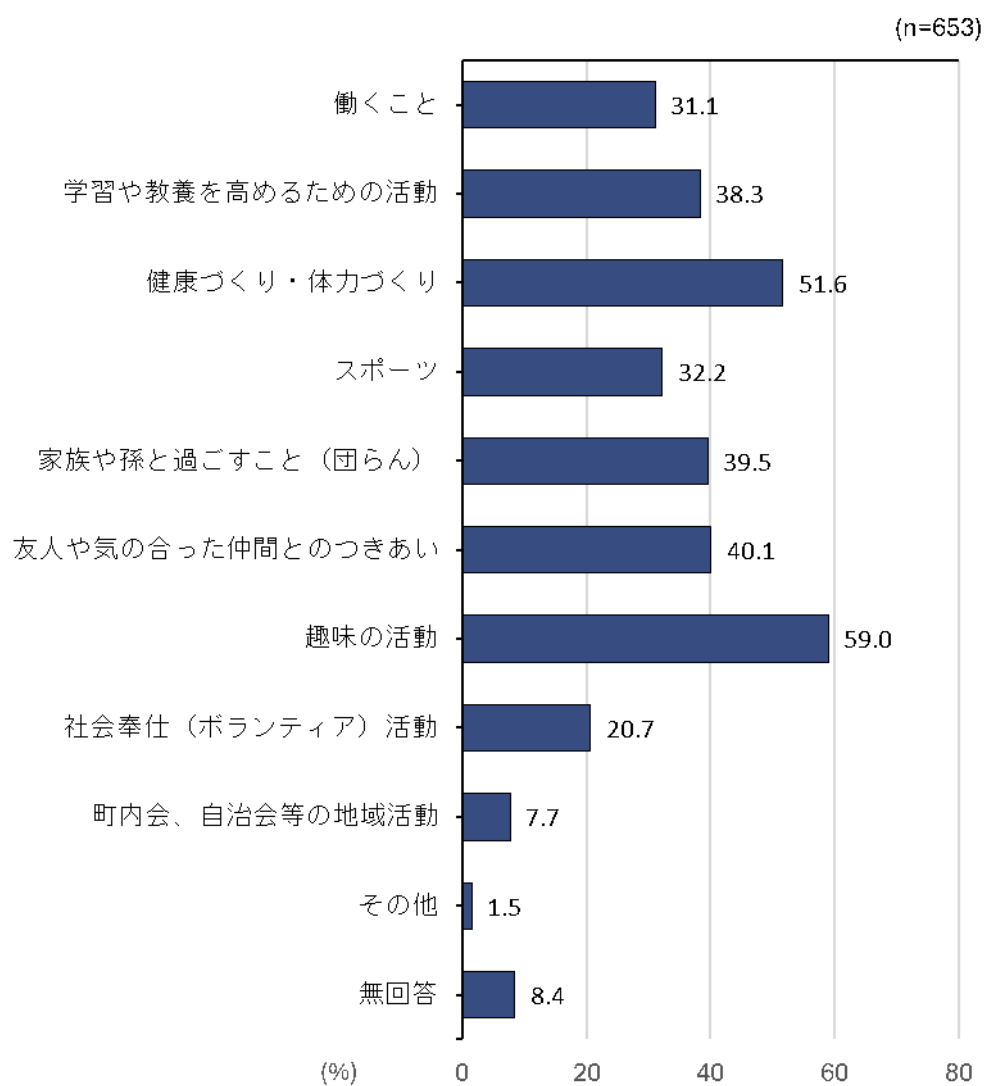
上段:回答数	問22①											
下段:%	合計	働くこと	学習や教養 を高めるた めの活動	健康づく り・体力づ くり	スポーツ	家族や孫と 過ごすこと (団らん)	友人や気の 合った仲間 とのつきあ い	趣味の活動	社会奉仕 (ボラン ティア) 活 動	町内会、自 治会等の地 域活動	その他	無回答
全体	653	311	159	204	129	357	325	297	32	13	14	35
	100.0	47.6	24.3	31.2	19.8	54.7	49.8	45.5	4.9	2.0	2.1	5.4
40～44歳	103	48	31	31	26	62	53	50	7	2	1	2
	100.0	46.6	30.1	30.1	25.2	60.2	51.5	48.5	6.8	1.9	1.0	1.9
45～49歳	113	60	30	31	17	69	58	51	8	4	1	5
	100.0	53.1	26.5	27.4	15.0	61.1	51.3	45.1	7.1	3.5	0.9	4.4
50～54歳	140	59	24	40	17	80	67	62	5	1	3	11
	100.0	42.1	17.1	28.6	12.1	57.1	47.9	44.3	3.6	0.7	2.1	7.9
55～59歳	151	71	33	50	37	79	86	77	4	3	5	4
	100.0	47.0	21.9	33.1	24.5	52.3	57.0	51.0	2.6	2.0	3.3	2.6
60～64歳	142	72	41	52	32	65	58	57	8	3	4	12
	100.0	50.7	28.9	36.6	22.5	45.8	40.8	40.1	5.6	2.1	2.8	8.5
無回答	4	1	-	-	-	2	3	-	-	-	-	1
	100.0	25.0	-	-	-	50.0	75.0	-	-	-	-	25.0

【性別比較】

上段:回答数	問22①											
下段:%	合計	働くこと	学習や教養 を高めるた めの活動	健康づく り・体力づ くり	スポーツ	家族や孫と 過ごすこと (団らん)	友人や気の 合った仲間 とのつきあ い	趣味の活動	社会奉仕 (ボラン ティア) 活 動	町内会、自 治会等の地 域活動	その他	無回答
全体	653	311	159	204	129	357	325	297	32	13	14	35
	100.0	47.6	24.3	31.2	19.8	54.7	49.8	45.5	4.9	2.0	2.1	5.4
男性	290	134	74	104	82	151	108	139	8	4	6	8
	100.0	46.2	25.5	35.9	28.3	52.1	37.2	47.9	2.8	1.4	2.1	2.8
女性	350	172	84	99	44	201	209	156	24	9	8	25
	100.0	49.1	24.0	28.3	12.6	57.4	59.7	44.6	6.9	2.6	2.3	7.1
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	3	1	1	3	2	4	2	-	-	-	1
	100.0	37.5	12.5	12.5	37.5	25.0	50.0	25.0	-	-	-	12.5
無回答	5	2	-	-	-	3	4	-	-	-	-	1
	100.0	40.0	-	-	-	60.0	80.0	-	-	-	-	20.0

②今後やりたいこと

「趣味の活動」が59.0%で最も高く、次いで「健康づくり・体力づくり」が51.6%となっている。その他、「友人や気の合った仲間とのつきあい」(40.1%)、「家族や孫と過ごすこと(団らん)」(39.5%)、「学習や教養を高めるための活動」(38.3%)、「スポーツ」(32.2%)、「働くこと」(31.1%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

上段:回答数 下段:%	問22②											
	合計	働くこと	学習や教養を高めるための活動	健康づくり・体力づくり	スポーツ	家族や孫と過ごすこと(団らん)	友人や気の合った仲間とのつきあい	趣味の活動	社会奉仕(ボランティア)活動	町内会、自治会等の地域活動	その他	無回答
全体	653	203	250	337	210	258	262	385	135	50	10	55
	100.0	31.1	38.3	51.6	32.2	39.5	40.1	59.0	20.7	7.7	1.5	8.4
40～44歳	103	29	40	56	37	34	32	68	18	8	2	7
	100.0	28.2	38.8	54.4	35.9	33.0	31.1	66.0	17.5	7.8	1.9	6.8
45～49歳	113	39	46	55	35	42	50	73	27	8	1	7
	100.0	34.5	40.7	48.7	31.0	37.2	44.2	64.6	23.9	7.1	0.9	6.2
50～54歳	140	43	47	77	43	56	55	84	30	11	1	13
	100.0	30.7	33.6	55.0	30.7	40.0	39.3	60.0	21.4	7.9	0.7	9.3
55～59歳	151	51	62	76	55	70	68	88	31	14	4	6
	100.0	33.8	41.1	50.3	36.4	46.4	45.0	58.3	20.5	9.3	2.6	4.0
60～64歳	142	40	54	72	39	55	55	71	28	8	2	21
	100.0	28.2	38.0	50.7	27.5	38.7	38.7	50.0	19.7	5.6	1.4	14.8
無回答	4	1	1	1	1	1	2	1	1	1	-	1
	100.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	-	25.0

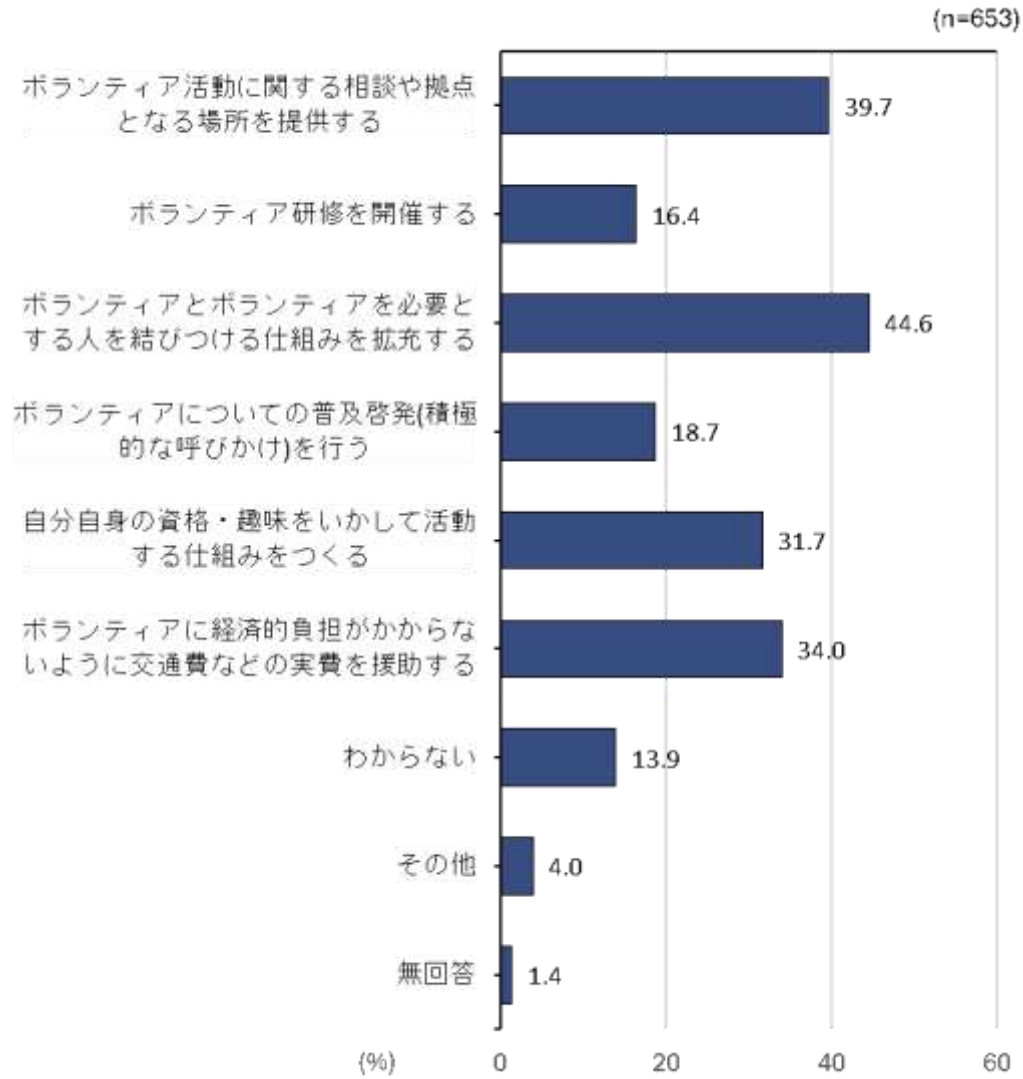
【性別比較】

上段:回答数 下段:%	問22②											
	合計	働くこと	学習や教養を高めるための活動	健康づくり・体力づくり	スポーツ	家族や孫と過ごすこと(団らん)	友人や気の合った仲間とのつきあい	趣味の活動	社会奉仕(ボランティア)活動	町内会、自治会等の地域活動	その他	無回答
全体	653	203	250	337	210	258	262	385	135	50	10	55
	100.0	31.1	38.3	51.6	32.2	39.5	40.1	59.0	20.7	7.7	1.5	8.4
男性	290	79	104	141	97	111	101	180	48	18	3	19
	100.0	27.2	35.9	48.6	33.4	38.3	34.8	62.1	16.6	6.2	1.0	6.6
女性	350	120	143	190	107	143	156	202	86	31	7	34
	100.0	34.3	40.9	54.3	30.6	40.9	44.6	57.7	24.6	8.9	2.0	9.7
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	2	2	4	5	2	2	1	-	-	-	1
	100.0	25.0	25.0	50.0	62.5	25.0	25.0	12.5	-	-	-	12.5
無回答	5	2	1	2	1	2	3	2	1	1	-	1
	100.0	40.0	20.0	40.0	20.0	40.0	60.0	40.0	20.0	20.0	-	20.0

4. 地域における交流、支え合いの状況

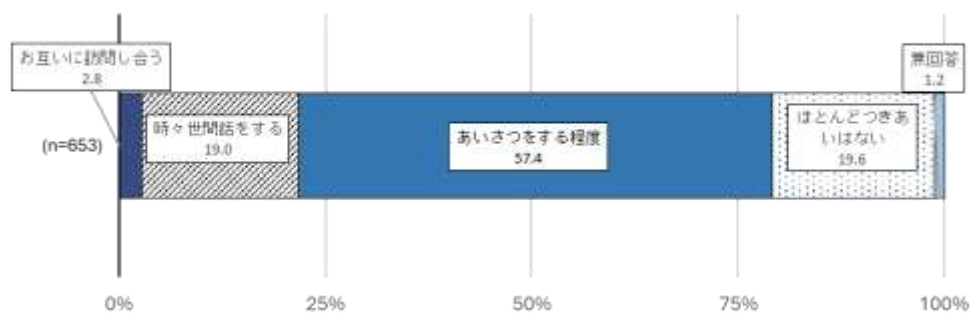
今後、ボランティア活動の輪を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「ボランティアとボランティアを必要とする人を結びつける仕組みを拡充する」が44.6%で最も高く、次いで「ボランティア活動に関する相談や拠点となる場所を提供する」が39.7%となっている。その他、「ボランティアに経済的負担がかからないように交通費などの実費を援助する」(34.0%)、「自分自身の資格・趣味をいかして活動する仕組みをつくる」(31.7%)が比較的高くなっている。



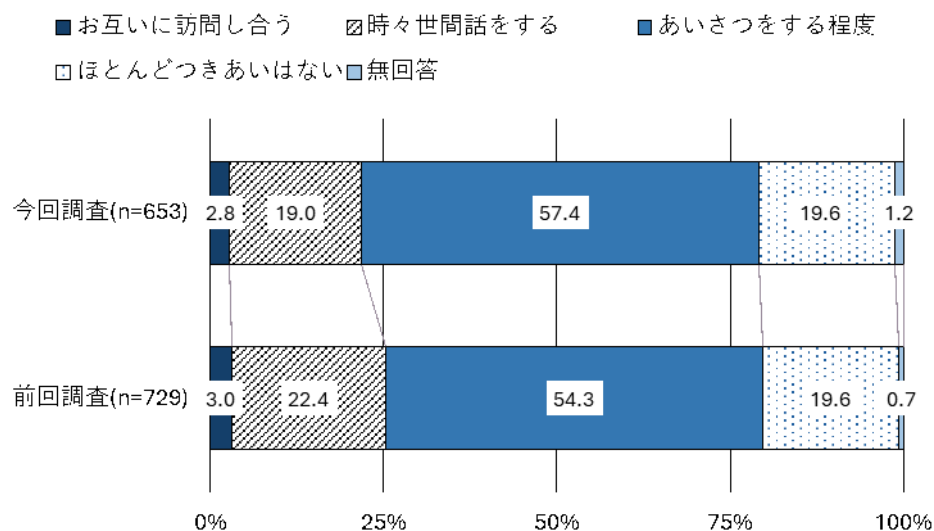
あなたは、隣近所とどの程度のつきあいをしていますか。

「あいさつをする程度」が57.4%で最も高く、次いで「ほとんどつきあいはない」が19.6%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「お互いに訪問し合う」「時々世間話をする」はそれぞれ下がり、「あいさつをする程度」がわずかに上昇している。

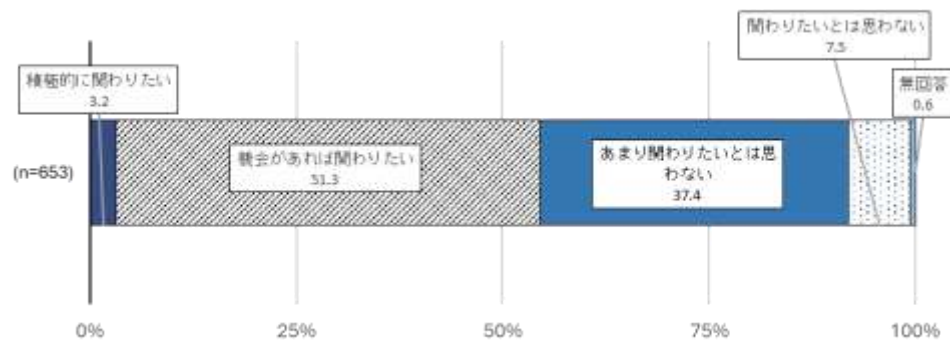


【性別比較】

上段:回答数 下段:%	問24					
	合計	お互いに訪問し合う	時々世間話をする	あいさつをする程度	ほとんどつきあいはない	無回答
全体	653	18	124	375	128	8
	100.0	2.8	19.0	57.4	19.6	1.2
男性	290	5	36	182	64	3
	100.0	1.7	12.4	62.8	22.1	1.0
女性	350	12	85	190	59	4
	100.0	3.4	24.3	54.3	16.9	1.1
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	1	-	2	5	-
	100.0	12.5	-	25.0	62.5	-
無回答	5	-	3	1	-	1
	100.0	-	60.0	20.0	-	20.0

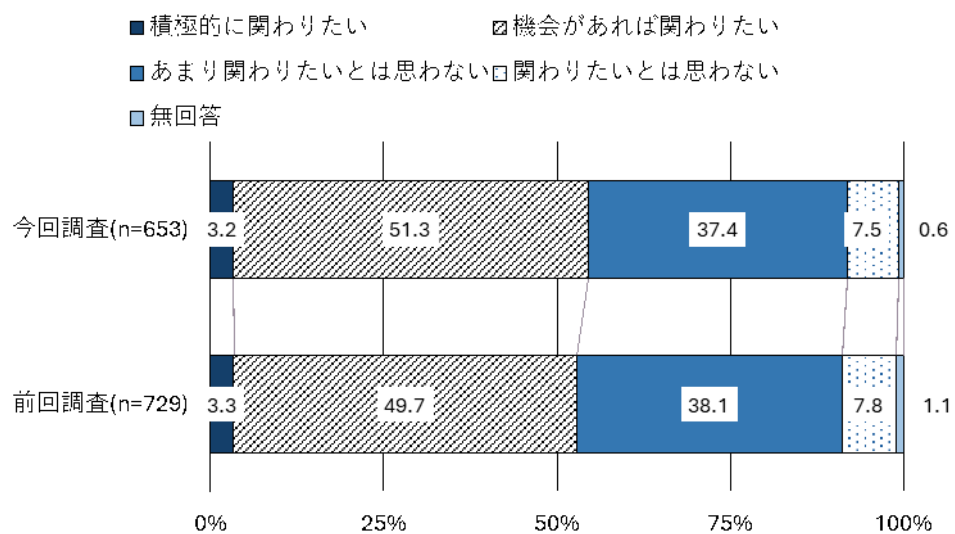
あなたは、隣近所の方々とどの程度望まれていますか。

「機会があれば関わりたい」が51.3%で最も高く、次いで「あまり関わりたいとは思わない」が37.4%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較しても大きな差は見られない。

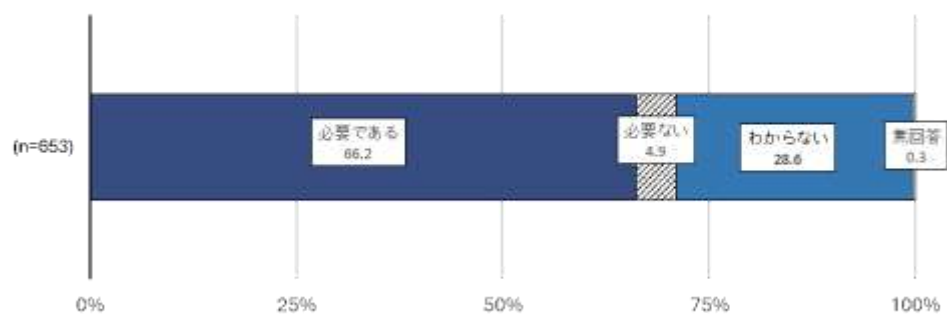


【性別比較】

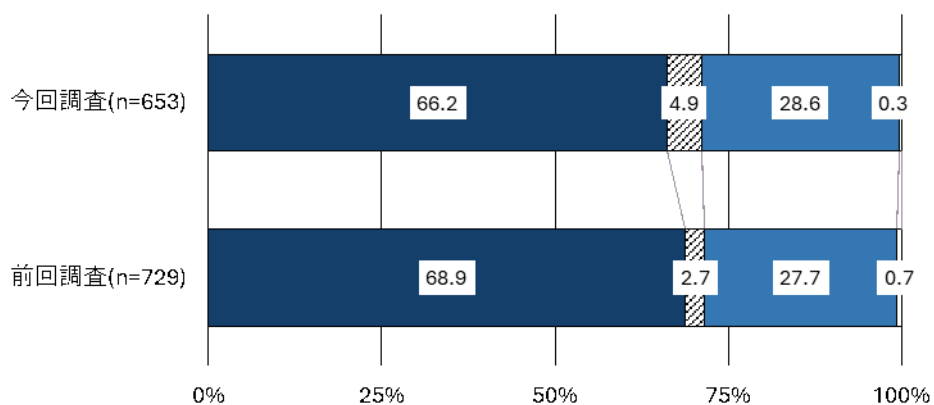
上段:回答数 下段:%	問25					
	合計	積極的に関 わりたい	機会があれば関わりた い	あまり関わ りたいとは思 わない	関わりたい とは思わな い	無回答
全体	653	21	335	244	49	4
	100.0	3.2	51.3	37.4	7.5	0.6
男性	290	8	136	111	34	1
	100.0	2.8	46.9	38.3	11.7	0.3
女性	350	13	196	125	14	2
	100.0	3.7	56.0	35.7	4.0	0.6
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	-	2	5	1	-
	100.0	-	25.0	62.5	12.5	-
無回答	5	-	1	3	-	1
	100.0	-	20.0	60.0	-	20.0

独居世帯や高齢者世帯が近年増えていますが、隣近所や地域で高齢者を支えることが必要だと思いますか。

「必要である」が66.2%で最も高く、次いで「わからない」が28.6%となっている。



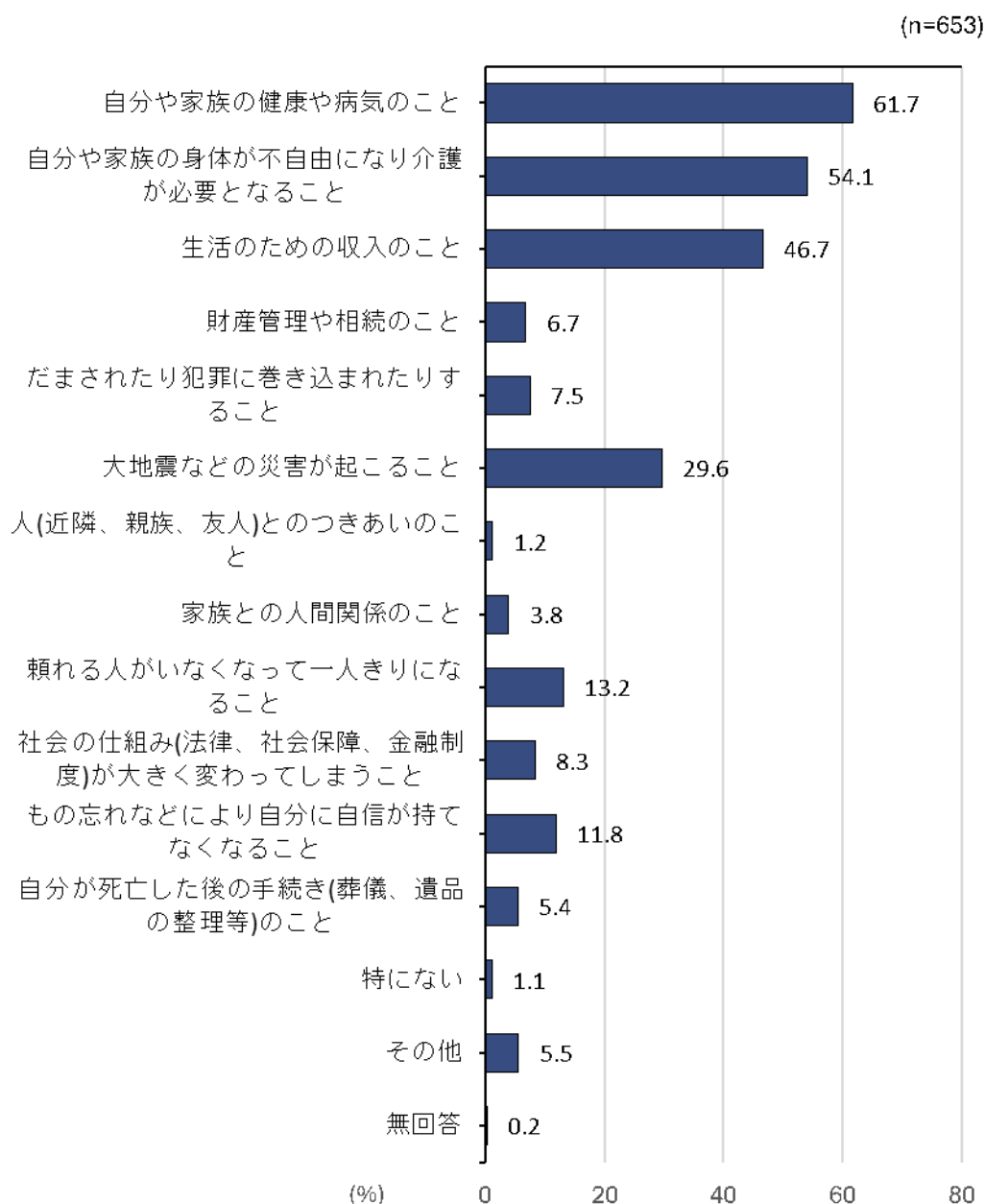
■ 必要である ▨ 必要ない ■ わからない □ 無回答



5. 将来の不安、備えについて

あなたは、ご自分の将来についてどんな不安がありますか。(〇は3つまで)

「自分や家族の健康や病気のこと」が61.7%で最も高く、次いで「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要となること」が54.1%となっている。その他、「生活のための収入のこと」(46.7%)、「大地震などの災害が起こること」(29.6%)が比較的高くなっている。



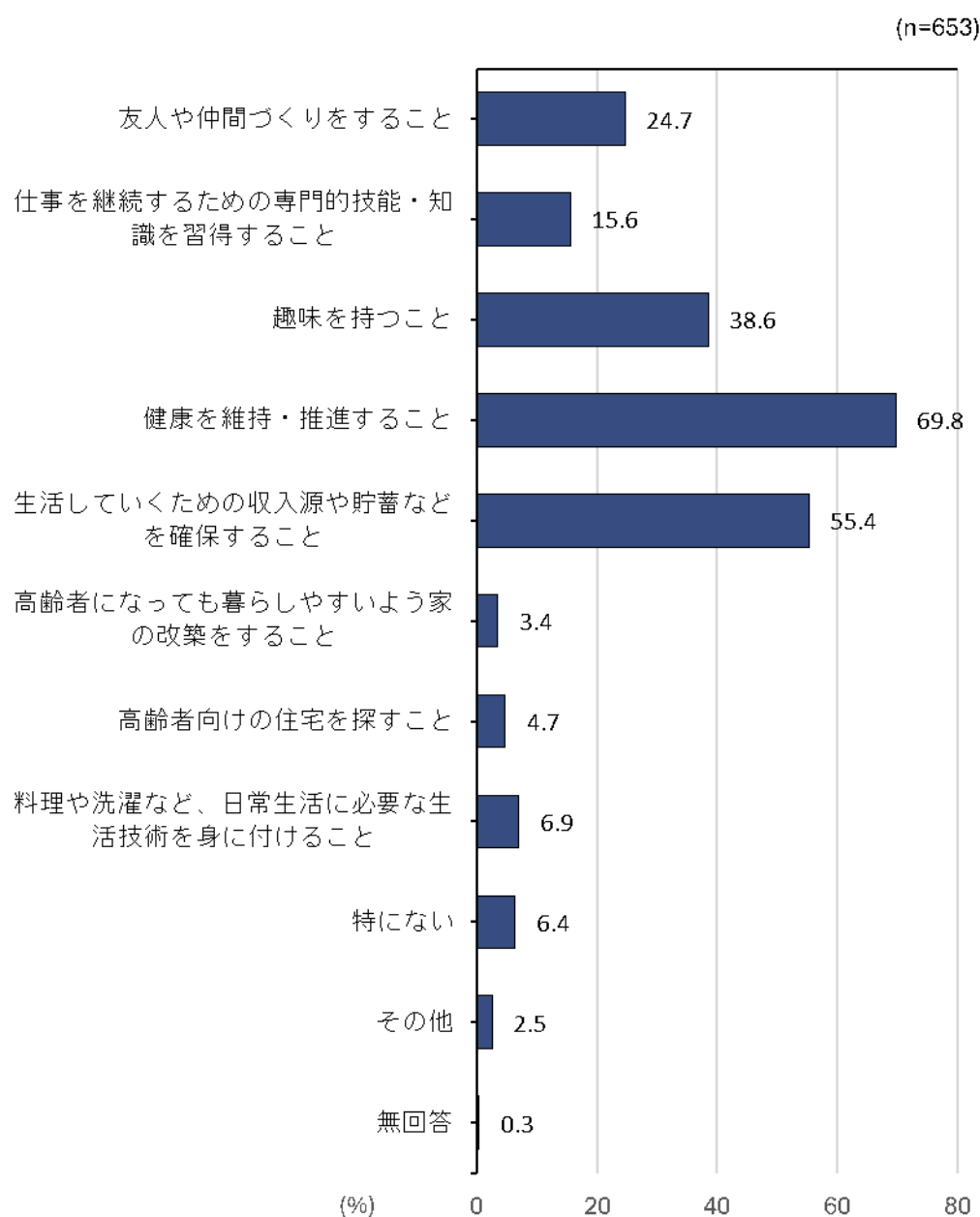
【年齢別比較】

上段:回答数 下段:%	問27								
	合計	自分や家族 の健康や病 気のこと	自分や家族 の身体が不 自由になり 介護が必要 となること	生活のため の収入のこ と	財産管理や 相続のこと	だまされたり 犯罪に巻 き込まれたり すること	大地震など の災害が起 こること	人(近隣、親 族、友人)と のつきあい のこと	家族との人 間関係のこ と
全体	653	403	353	305	44	49	193	8	25
	100.0	61.7	54.1	46.7	6.7	7.5	29.6	1.2	3.8
40～44歳	103	68	53	62	11	11	29	-	2
	100.0	66.0	51.5	60.2	10.7	10.7	28.2	-	1.9
45～49歳	113	66	55	59	8	12	41	1	7
	100.0	58.4	48.7	52.2	7.1	10.6	36.3	0.9	6.2
50～54歳	140	83	71	70	7	4	39	1	3
	100.0	59.3	50.7	50.0	5.0	2.9	27.9	0.7	2.1
55～59歳	151	95	84	57	7	8	45	5	8
	100.0	62.9	55.6	37.7	4.6	5.3	29.8	3.3	5.3
60～64歳	142	90	87	56	11	14	37	1	5
	100.0	63.4	61.3	39.4	7.7	9.9	26.1	0.7	3.5
無回答	4	1	3	1	-	-	2	-	-
	100.0	25.0	75.0	25.0	-	-	50.0	-	-

上段:回答数 下段:%	問27							
	合計	頼れる人が いなくなっ て一人きり になること	社会の仕組 み(法律、社 会保障、金 融制度)が大 きく変わっ てしまうこ と	もの忘れな どにより自 分に自信が 持てなくな ること	自分が死亡 した後の手 続き(葬儀、 遺品の整理 等)のこと	特にない	その他	無回答
全体	653	86	54	77	35	7	36	1
	100.0	13.2	8.3	11.8	5.4	1.1	5.5	0.2
40～44歳	103	10	9	3	5	1	3	-
	100.0	9.7	8.7	2.9	4.9	1.0	2.9	-
45～49歳	113	11	13	7	5	3	3	-
	100.0	9.7	11.5	6.2	4.4	2.7	2.7	-
50～54歳	140	24	10	20	8	2	11	-
	100.0	17.1	7.1	14.3	5.7	1.4	7.9	-
55～59歳	151	26	12	23	9	1	8	-
	100.0	17.2	7.9	15.2	6.0	0.7	5.3	-
60～64歳	142	14	10	23	8	-	11	-
	100.0	9.9	7.0	16.2	5.6	-	7.7	-
無回答	4	1	-	1	-	-	-	1
	100.0	25.0	-	25.0	-	-	-	25.0

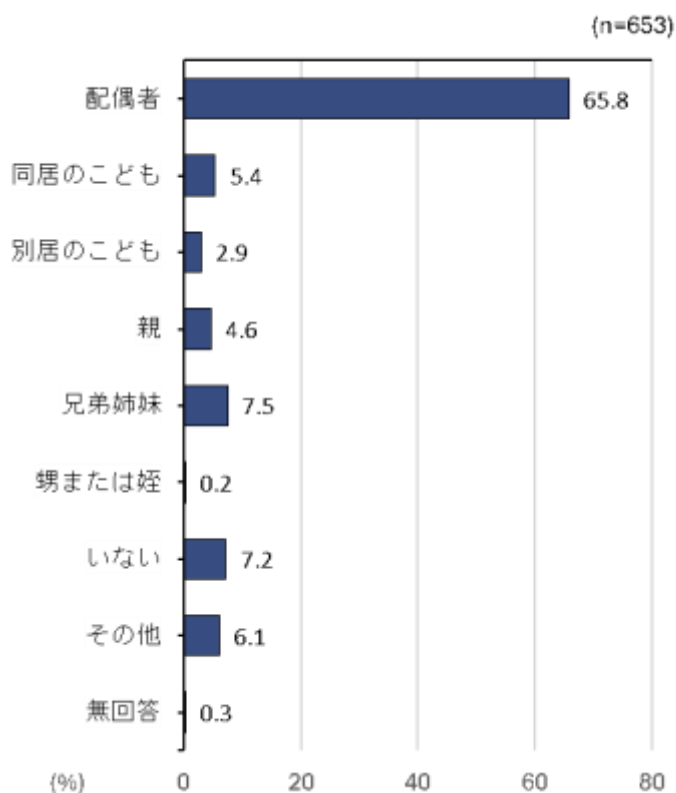
あなたは、ご自分の将来、特に老後の生活に備えて、現在どのようなことをしていますか、またはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「健康を維持・推進すること」が69.8%で最も高く、次いで「生活していくための収入源や貯蓄などを確保すること」が55.4%となっている。その他、「趣味を持つこと」(38.6%)が比較的高くなっている。



あなたの身に緊急事態が起きた時(事故等による介護を要する状態、認知症など)に、治療の方針の決定や介護サービスの利用に必要な手続き、金銭管理をしてくれる身内の方はいますか。いる場合は、主にどなたですか。(〇は1つ)

「配偶者」が 65.8%で最も高く、次いで「兄弟姉妹」が 7.5%となっている。



【年齢別比較】

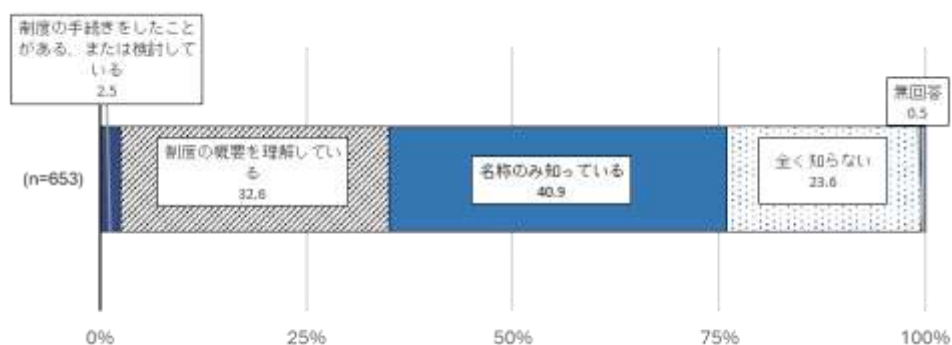
上段:回答数 下段:%	問29									
	合計	配偶者	同居のこども	別居のこども	親	兄弟姉妹	甥または姪	いない	その他	無回答
全体	653 100.0	430 65.8	35 5.4	19 2.9	30 4.6	49 7.5	1 0.2	47 7.2	40 6.1	2 0.3
40～44歳	103 100.0	68 66.0	3 2.9	-	16 15.5	5 4.9	-	8 7.8	3 2.9	-
45～49歳	113 100.0	83 73.5	3 2.7	-	3 2.7	9 8.0	-	8 7.1	7 6.2	-
50～54歳	140 100.0	91 65.0	10 7.1	2 1.4	9 6.4	7 5.0	-	10 7.1	10 7.1	1 0.7
55～59歳	151 100.0	99 65.6	9 6.0	5 3.3	1 0.7	18 11.9	1 0.7	11 7.3	7 4.6	-
60～64歳	142 100.0	87 61.3	10 7.0	12 8.5	1 0.7	10 7.0	-	10 7.0	12 8.5	-
無回答	4 100.0	2 50.0	-	-	-	-	-	-	1 25.0	1 25.0

【性別比較】

上段:回答数	問29									
下段:%	合計	配偶者	同居のこども	別居のこども	親	兄弟姉妹	甥または姪	いない	その他	無回答
全体	653	430	35	19	30	49	1	47	40	2
	100.0	65.8	5.4	2.9	4.6	7.5	0.2	7.2	6.1	0.3
男性	290	198	6	7	17	24	-	24	14	-
	100.0	68.3	2.1	2.4	5.9	8.3	-	8.3	4.8	-
女性	350	225	27	12	13	24	1	23	24	1
	100.0	64.3	7.7	3.4	3.7	6.9	0.3	6.6	6.9	0.3
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	6	-	-	-	1	-	-	1	-
	100.0	75.0	-	-	-	12.5	-	-	12.5	-
無回答	5	1	2	-	-	-	-	-	1	1
	100.0	20.0	40.0	-	-	-	-	-	20.0	20.0

あなたは「成年後見制度」※について、どの程度ご存知ですか。(○は1つ)

「名称のみ知っている」が40.9%で最も高く、次いで「制度の概要を理解している」が32.6%となっている。

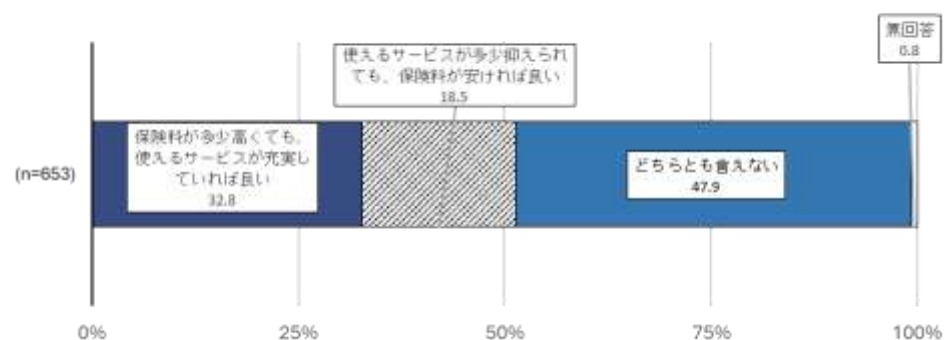


6. 介護保険制度・高齢者施策について

(1) 介護保険料と介護サービスのありかたについて

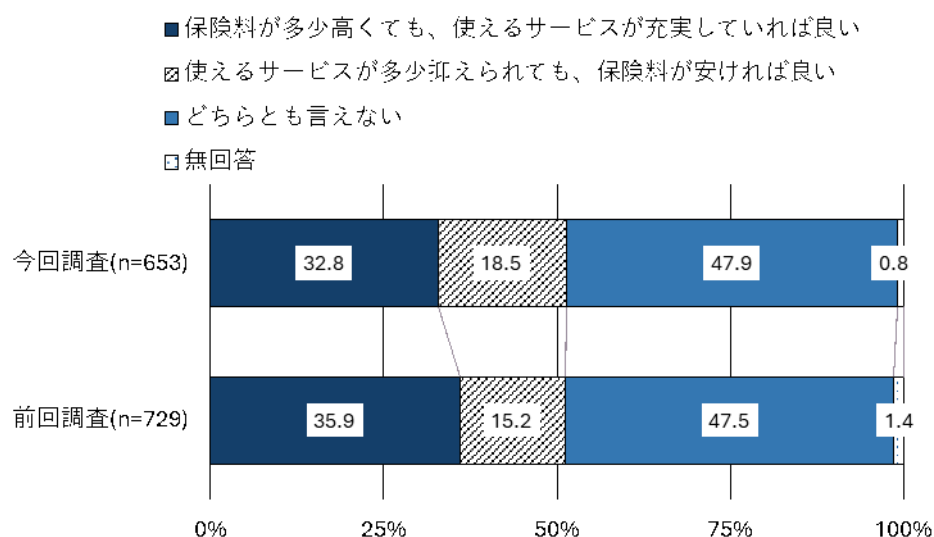
介護保険制度は、40歳以上の方から保険料を徴収して介護が必要な方にサービスを提供する費用にあてていますが、保険料と介護サービスのあり方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。
・今後、もしあなたご自身が介護が必要となった場合、どのようにしたいとお考えですか。(○は1つ)

「どちらとも言えない」が47.9%で最も高く、次いで「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」が32.8%となっている。



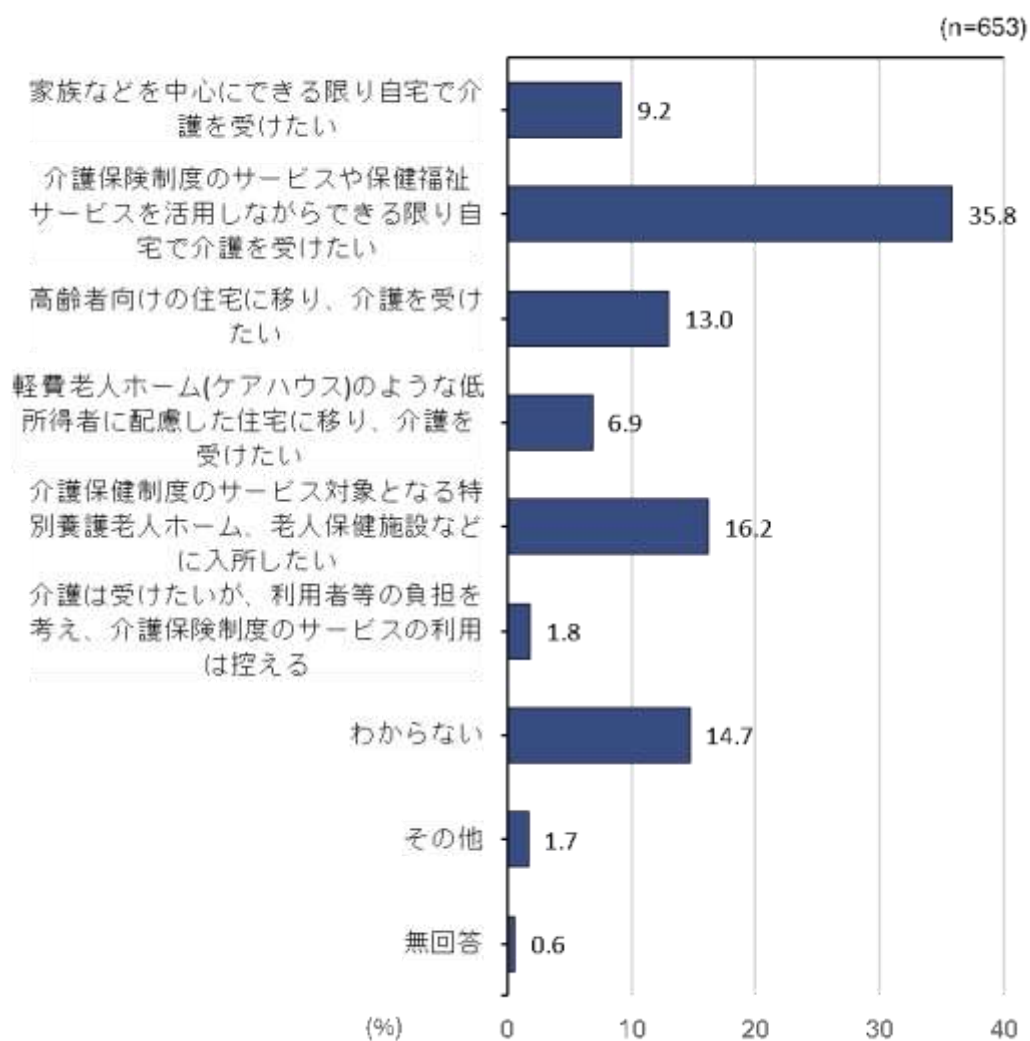
【経年比較】

前回調査と比較すると、保険料が高くてもサービス充実を重視する割合はわずかに下がり、サービス抑制でも保険料の低さを重視する割合がわずかに上昇している。



今後、もしあなたご自身が介護が必要となった場合、どのようにしたいとお考えですか。(〇は1つ)

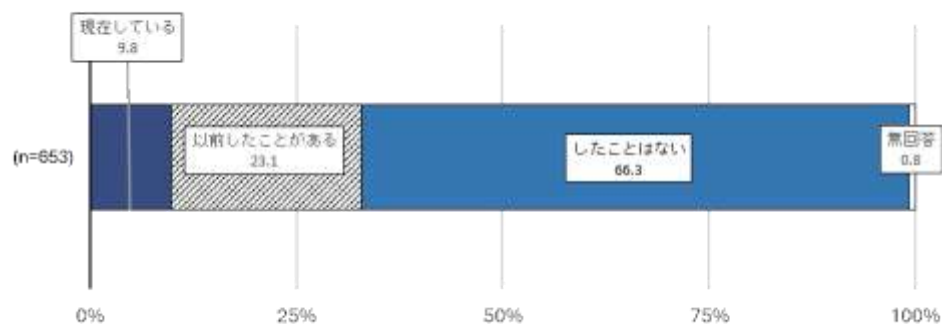
「介護保険制度のサービスや保健福祉サービスを活用しながらできる限り自宅で介護を受けたい」が35.8%で最も高く、次いで「介護保健制度のサービス対象となる特別養護老人ホーム、老人保健施設などに入所したい」が16.2%となっている。



(2) 介護の経験

あなたは、ご家族などの介護をしたことがありますか。

「したことはない」が66.3%で最も高く、次いで「以前したことがある」が23.1%となっている。



【年齢別比較】

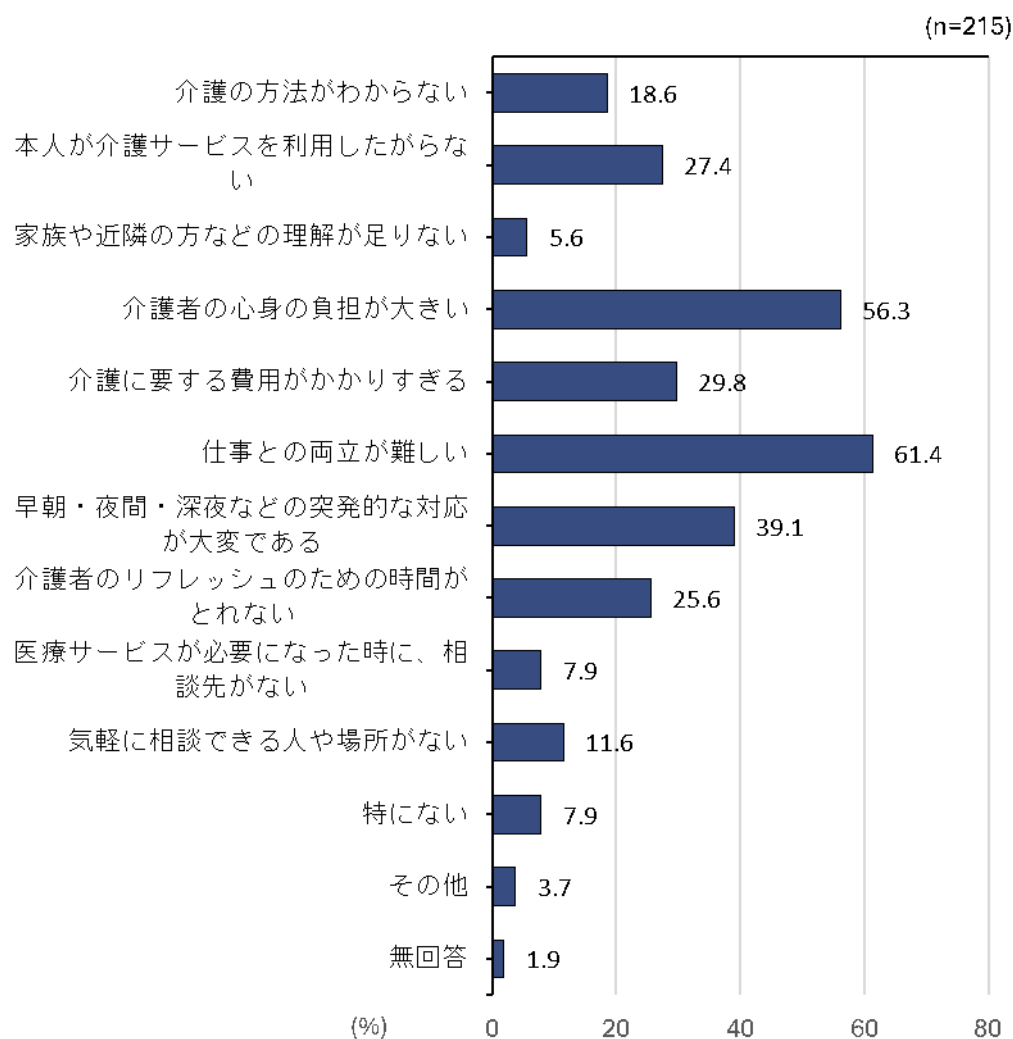
上段:回答数	問33				
下段:%	合計	現在している	以前したことがある	したことはない	無回答
全体	653	64	151	433	5
	100.0	9.8	23.1	66.3	0.8
40～44歳	103	2	13	88	-
	100.0	1.9	12.6	85.4	-
45～49歳	113	9	16	87	1
	100.0	8.0	14.2	77.0	0.9
50～54歳	140	14	34	91	1
	100.0	10.0	24.3	65.0	0.7
55～59歳	151	21	37	92	1
	100.0	13.9	24.5	60.9	0.7
60～64歳	142	17	50	74	1
	100.0	12.0	35.2	52.1	0.7
無回答	4	1	1	1	1
	100.0	25.0	25.0	25.0	25.0

【性別比較】

上段:回答数	問33				
下段:%	合計	現在してい る	以前したこ とがある	したことは ない	無回答
全体	653	64	151	433	5
	100.0	9.8	23.1	66.3	0.8
男性	290	26	53	209	2
	100.0	9.0	18.3	72.1	0.7
女性	350	36	95	217	2
	100.0	10.3	27.1	62.0	0.6
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-
答えたくない	8	1	2	5	-
	100.0	12.5	25.0	62.5	-
無回答	5	1	1	2	1
	100.0	20.0	20.0	40.0	20.0

(「現在している」「以前したことがある」を選択された方)介護を行う上で困っていること(困ったこと)について教えてください。(○はいくつでも)

「仕事との両立が難しい」が61.4%で最も高く、次いで「介護者の心身の負担が大きい」が56.3%となっている。その他、「早朝・夜間・深夜などの突発的な対応が大変である」(39.1%)、「介護に要する費用がかかりすぎる」(29.8%)、「本人が介護サービスを利用したがない」(27.4%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

第4章 一般若年者調査

上段:回答数 下段:%	問33-1													
	合計	介護の方法 がわからない	本人が介護 サービスを利用した がらない	家族や近隣 の方などの 理解が足り ない	介護者の心 身の負担が 大きい	介護に要す る費用がか かりすぎる	仕事との両 立が難しい	早朝・夜 間・深夜な どの突発的 な対応が大 変である	介護者のリ フレッシュ のための時 間がとれな い	医療サービ スが必要に なった時 に、相談先 がない	気軽に相談 できる人や 場所がない	特にない	その他	無回答
全体	215	40	59	12	121	64	132	84	55	17	25	17	8	4
	100.0	18.6	27.4	5.6	56.3	29.8	61.4	39.1	25.6	7.9	11.6	7.9	3.7	1.9
40～44歳	15	4	4	1	6	5	9	6	2	1	2	2	2	-
	100.0	26.7	26.7	6.7	40.0	33.3	60.0	40.0	13.3	6.7	13.3	13.3	13.3	-
45～49歳	25	5	4	-	17	4	14	9	8	3	8	-	1	1
	100.0	20.0	16.0	-	68.0	16.0	56.0	36.0	32.0	12.0	32.0	-	4.0	4.0
50～54歳	48	10	12	2	27	13	31	22	15	3	4	2	1	1
	100.0	20.8	25.0	4.2	56.3	27.1	64.6	45.8	31.3	6.3	8.3	4.2	2.1	2.1
55～59歳	58	9	14	7	27	20	34	22	13	5	6	5	2	2
	100.0	15.5	24.1	12.1	46.6	34.5	58.6	37.9	22.4	8.6	10.3	8.6	3.4	3.4
60～64歳	67	12	24	2	43	20	43	24	16	5	4	8	2	-
	100.0	17.9	35.8	3.0	64.2	29.9	64.2	35.8	23.9	7.5	6.0	11.9	3.0	-
無回答	2	-	1	-	1	2	1	1	1	-	1	-	-	-
	100.0	-	50.0	-	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-

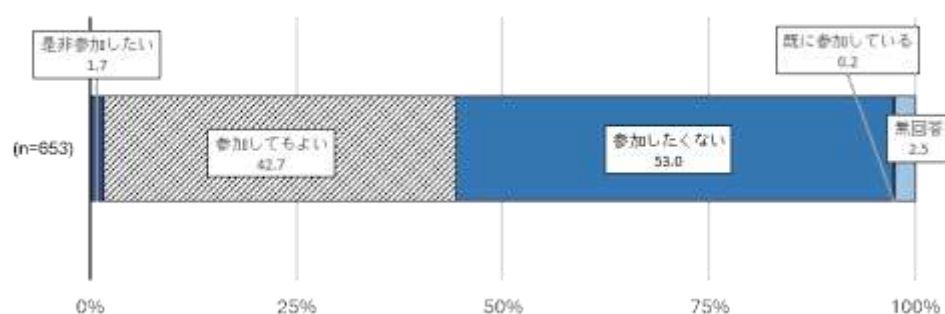
【性別比較】

上段:回答数 下段:%	問33-1													
	合計	介護の方法 がわからない	本人が介護 サービスを利用した がらない	家族や近隣 の方などの 理解が足り ない	介護者の心 身の負担が 大きい	介護に要す る費用がか かりすぎる	仕事との両 立が難しい	早朝・夜 間・深夜な どの突発的 な対応が大 変である	介護者のリ フレッシュ のための時 間がとれな い	医療サービ スが必要に なった時 に、相談先 がない	気軽に相談 できる人や 場所がない	特にない	その他	無回答
全体	215	40	59	12	121	64	132	84	55	17	25	17	8	4
	100.0	18.6	27.4	5.6	56.3	29.8	61.4	39.1	25.6	7.9	11.6	7.9	3.7	1.9
男性	79	14	22	4	47	23	50	31	17	7	9	6	1	2
	100.0	17.7	27.8	5.1	59.5	29.1	63.3	39.2	21.5	8.9	11.4	7.6	1.3	2.5
女性	131	26	35	8	70	36	79	50	37	10	15	11	7	2
	100.0	19.8	26.7	6.1	53.4	27.5	60.3	38.2	28.2	7.6	11.5	8.4	5.3	1.5
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	3	-	2	-	3	3	2	2	1	-	1	-	-	-
	100.0	-	66.7	-	100.0	100.0	66.7	66.7	33.3	-	33.3	-	-	-
無回答	2	-	-	-	1	2	1	1	-	-	-	-	-	-
	100.0	-	-	-	50.0	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-

(3) ボランティアの参加意向

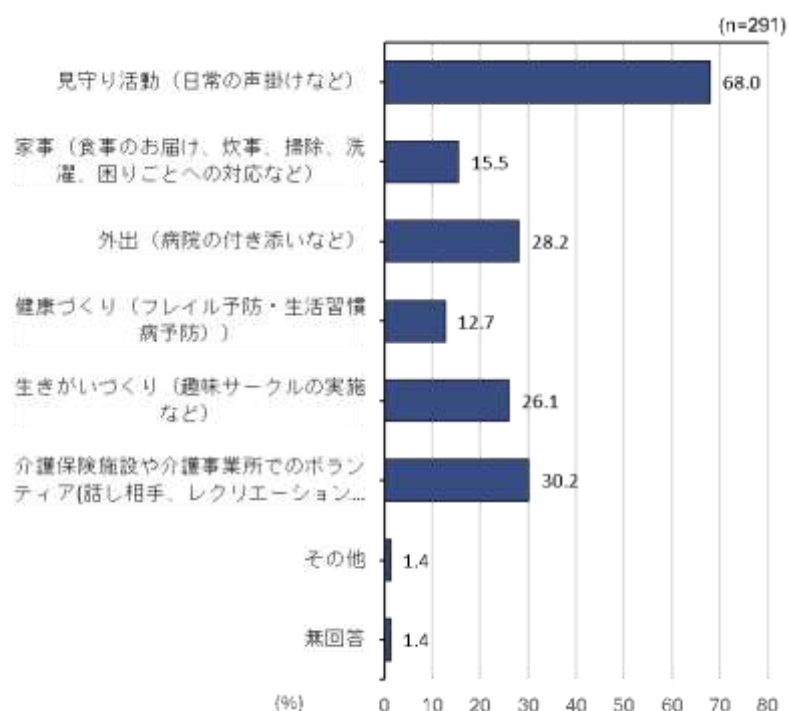
支援を必要とする高齢者を支える地域のボランティア活動があれば、あなたはその活動に支援者として参加してみたいと思いますか。

「参加したくない」が53.0%で最も高く、次いで「参加してもよい」が42.7%となっている。



(「参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を選択された方)支援を必要とする高齢者を支える地域のボランティア活動では、支援者としてどの活動に参加したいですか。また、どの活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

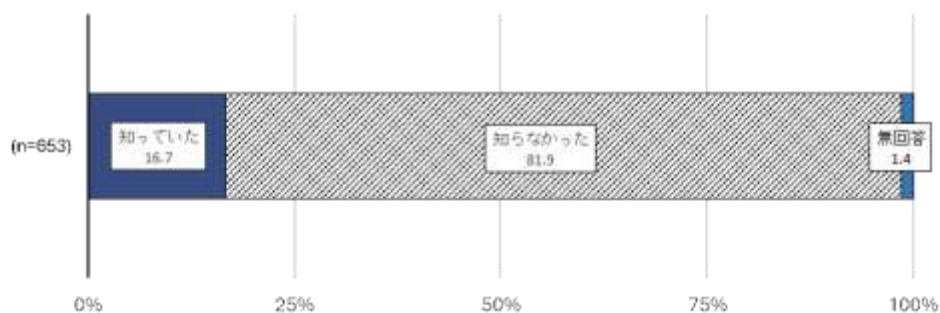
「見守り活動(日常の声掛けなど)」が68.0%で最も高く、次いで「介護保険施設や介護事業所でのボランティア(話し相手、レクリエーションの補助、職員の補助など)」が30.2%となっている。その他、「外出(病院の付き添いなど)」(28.2%)、「生きがいがづくり(趣味サークルの実施など)」(26.1%)が比較的高くなっている。



(4) 高齢者外出支援事業について

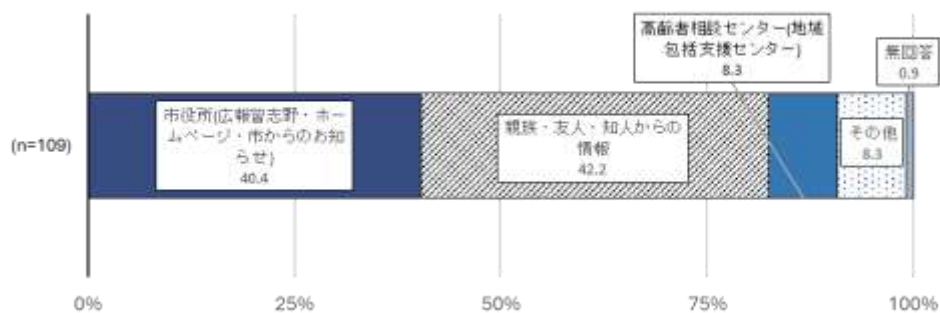
高齢者外出支援事業についてうかがいます。

「知らなかった」が81.9%で最も高く、次いで「知っていた」が16.7%となっている。



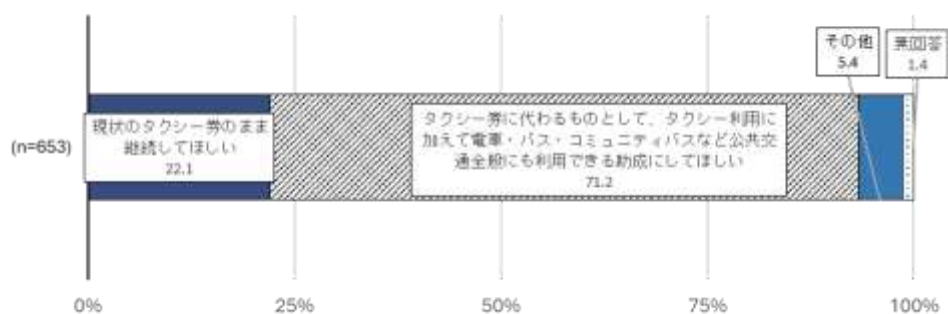
(「知っていた」を選択された方)本事業を何で知りましたか。

「親族・友人・知人からの情報」が42.2%で最も高く、次いで「市役所(広報習志野・ホームページ・市からのお知らせ)」が40.4%となっている。



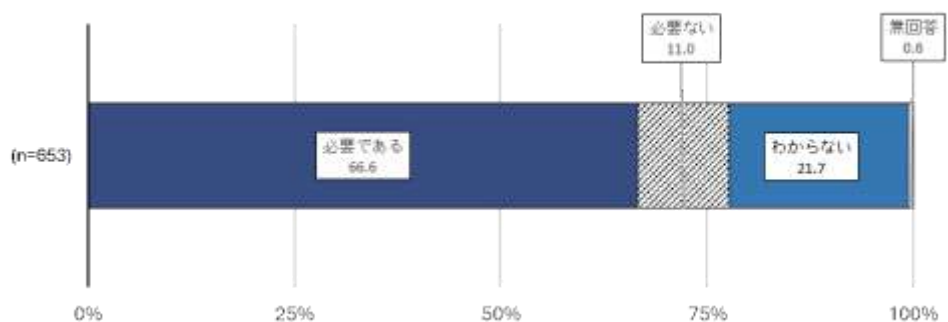
より良い高齢者の外出支援策とするには、今後どのような事業の見直しを行うのが良いと思いますか。

「タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい」が71.2%で最も高く、次いで「現状のタクシー券のまま継続してほしい」が22.1%となっている。



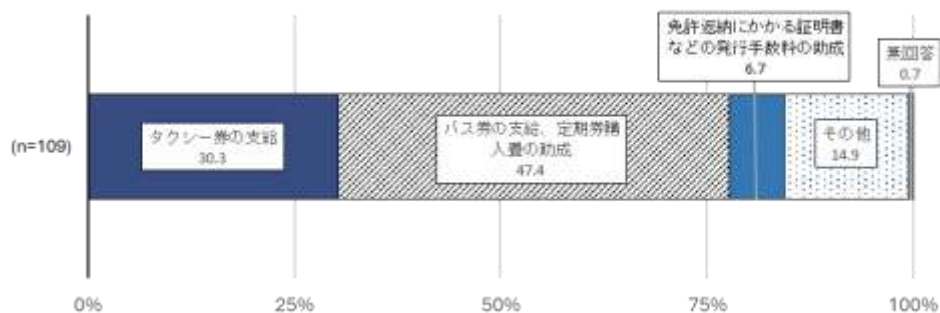
近年、高齢者ドライバーが当事者となる痛ましい事故が多発し、運転免許証の自主返納に大きな関心が集まっています。本市の公共交通は比較的充実していることから、現時点でタクシー券等の支給は行っていないですが、今後、運転免許証を自主返納した方に対する税金を使った支援は必要であると思いますか。

「必要である」が66.6%で最も高く、次いで「わからない」が21.7%となっている。



（「必要である」を選択された方）どのような支援が必要だと思いますか。

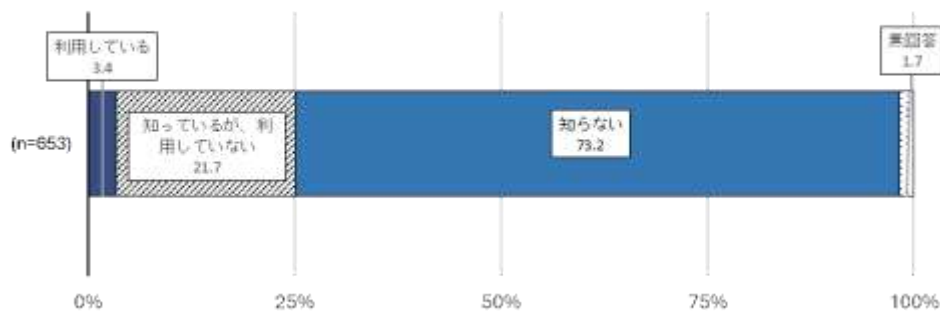
「バス券の支給、定期券購入費の助成」が47.4%で最も高く、次いで「タクシー券の支給」が30.3%となっている。



（5）高齢者相談センターの相談窓口の認知度

高齢者相談センターで、センター内での生活支援や介護予防についての相談ができることをご存じですか。もしくは利用していますか。

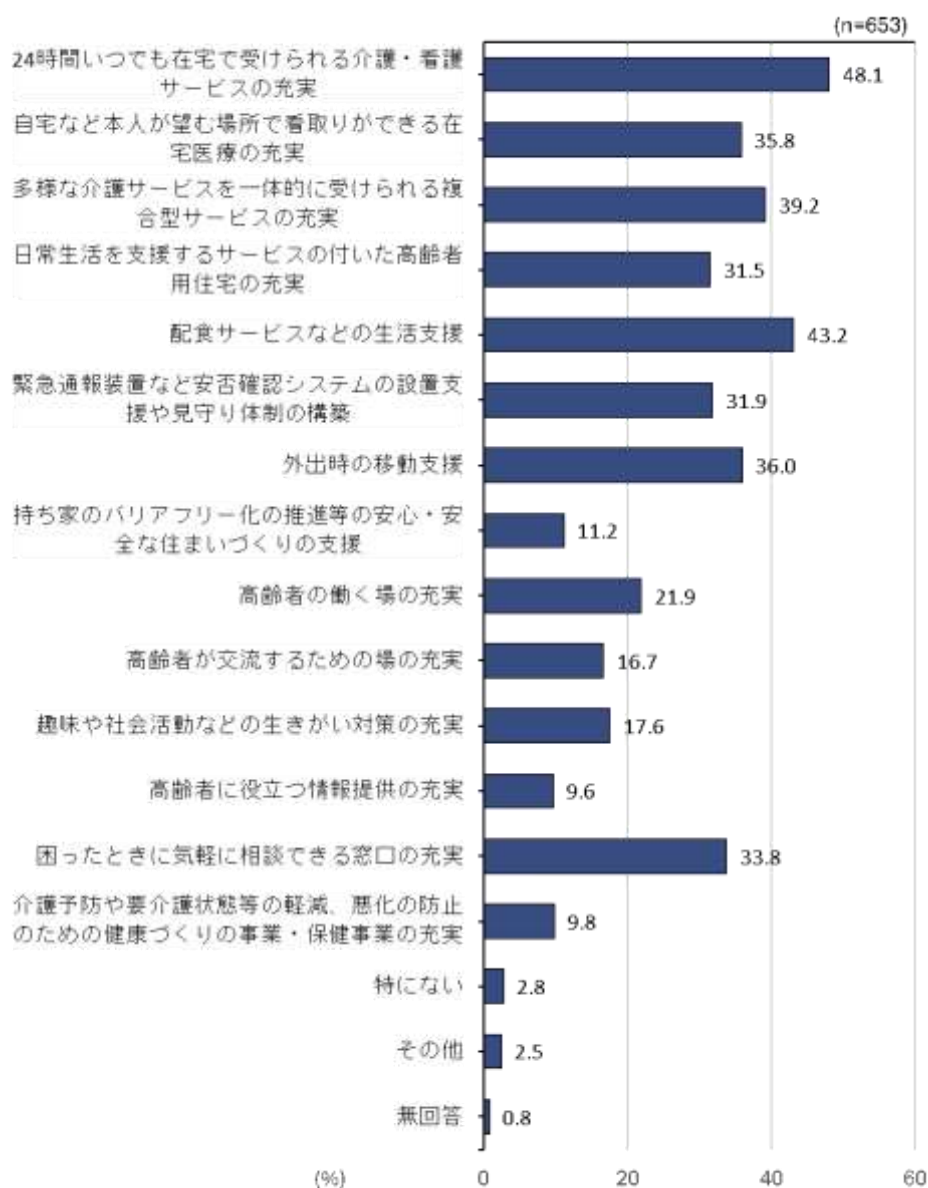
「知らない」が73.2%で最も高く、次いで「知っているが、利用していない」が21.7%となっている。



(6) 高齢者が地域で在宅生活を続けるために必要な施策

あなたは、高齢者が住み慣れた地域で在宅生活を続けていくために、主としてどのような施策が必要であると考えますか。(〇は5つまで)

「24時間いつでも在宅で受けられる介護・看護サービスの充実」が48.1%で最も高く、次いで「配食サービスなどの生活支援」が43.2%となっている。その他、「多様な介護サービスを一体的に受けられる複合型サービスの充実」(39.2%)、「外出時の移動支援」(36.0%)、「自宅など本人が望む場所で看取りができる在宅医療の充実」(35.8%)、「困ったときに気軽に相談できる窓口の充実」(33.8%)、「緊急通報装置など安否確認システムの設置支援や見守り体制の構築」(31.9%)、「日常生活を支援するサービスの付いた高齢者用住宅の充実」(31.5%)が比較的高くなっている。



7. ご意見・ご要望

最後に、市の高齢者保健福祉施策についてご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

①情報提供・周知

- ・制度やサービスを知らない、どこに相談すればよいかわからない
- ・ホームページや情報の見せ方が分かりにくい
- ・パンフレットや定期的な情報提供が必要
- ・インターネット以外での情報提供も必要
- ・アンケート結果や施策内容の周知を求める

②相談体制・支援体制

- ・気軽に相談できる窓口や継続的な支援がほしい
- ・初動(どこに相談するか)の分かりやすさが必要
- ・家族がいない場合の支援体制への不安
- ・相談窓口の対応やケアマネジャーの対応にばらつきがある。

③介護サービス・制度

- ・制度の仕組みや利用方法が分かりにくい
- ・申請手続きが煩雑、たらい回しの経験
- ・認定結果と実態の乖離への不満
- ・必要な人にサービスが届いていない、または過剰なサービスがある

④施設・サービス量

- ・特別養護老人ホームなどの施設が不足
- ・施設費用が高額で利用しづらい
- ・既存施設の老朽化への対応が必要

⑤人材・待遇

- ・介護職の待遇改善が必要
- ・人手不足によりサービスの質や継続性に影響
- ・ボランティアに頼りすぎない仕組みが必要

⑥経済的負担・制度の公平性

- ・介護や施設利用の費用負担が大きい
- ・年金だけでは生活が難しい
- ・支援制度の対象や基準への不公平感
- ・医療費や支援の無駄への指摘

⑦外出支援・交通

- ・バスや交通手段の充実が必要
- ・免許返納後の移動手段に不安
- ・タクシー券より使いやすい仕組みを希望
- ・バリアフリーや移動環境の整備が必要

⑧介護予防・生きがい

- ・健康寿命の延伸に向けた施策を希望
- ・働く機会や社会参加の場を求める
- ・交流や活動機会の充実
- ・運動や活動継続への支援

⑨見守り・生活支援

- ・独居高齢者への見守り体制の強化
- ・日常生活の支援(家事・手続き等)
- ・認知症や行方不明対策
- ・死後対応や保証人問題への不安

⑩制度・社会全体への意見

- ・税金の使い方の透明性
- ・無駄のない持続可能な施策の必要性
- ・高齢者支援と現役世代負担のバランス
- ・災害時の支援体制への不安
- ・終末期の在り方に関する意見

第5章 施設入所者調査

1. 回答者属性

(1) 回答者

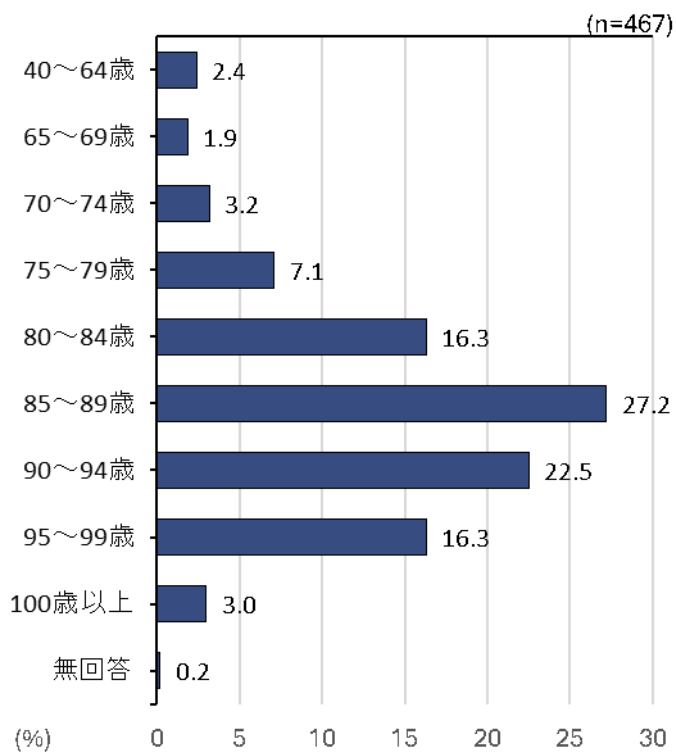
(単位:%)

	あて名 のご本 人	あて名 の方の配偶 者(夫・ 妻)	あて名 の方の こども	あて名 の方の 親族	ケアマネ ジャー	施設 の職 員	その 他	不明
施設入所者 (回答者数 467)	11.1	6.6	33.6	7.7	0.0	15.4	18.0	7.5

(2) 年齢

あなたの年齢をお答えください。

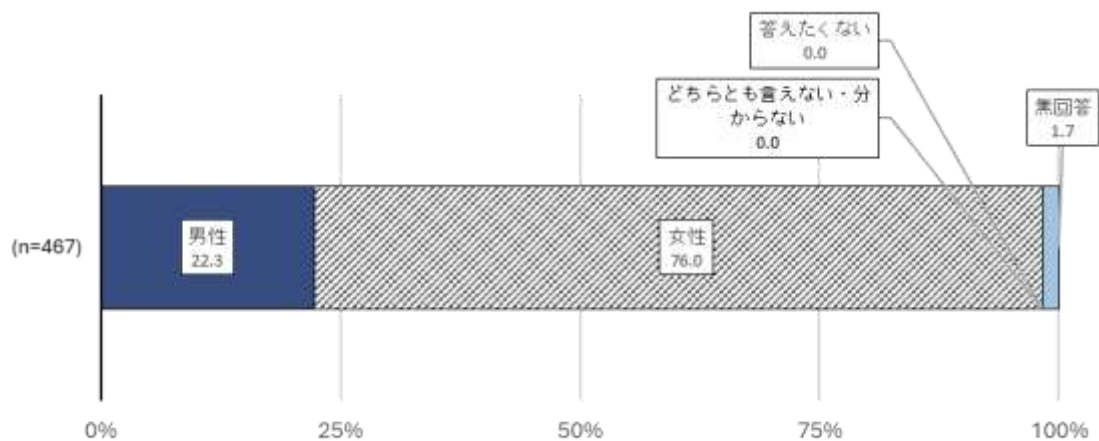
「85～89 歳」が 27.2%で最も高く、次いで「90～94 歳」が 22.5%となっている。



(3) 性別

あなたの性別をお答えください。

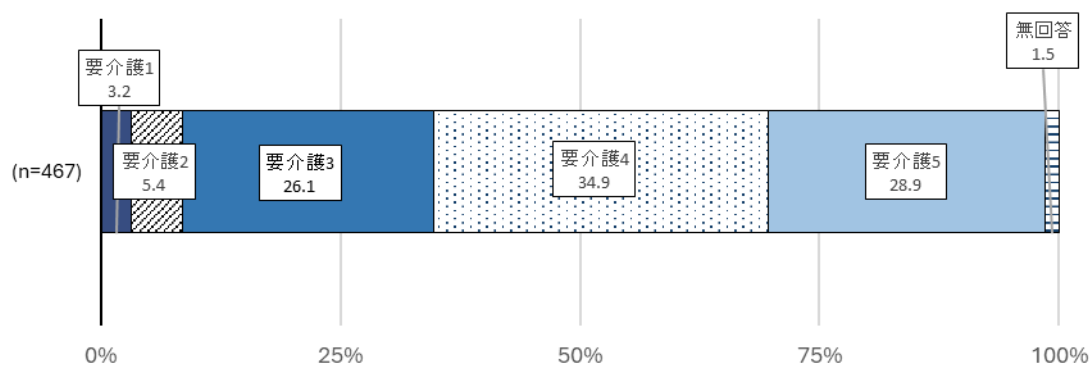
「女性」が 76.0%で最も高く、次いで「男性」が 22.3%となっている。



(4) 認定区分

あなたの認定区分は次のどれにあたりますか。

「要介護 4」が 34.9%で最も高く、次いで「要介護 5」が 28.9%となっている。

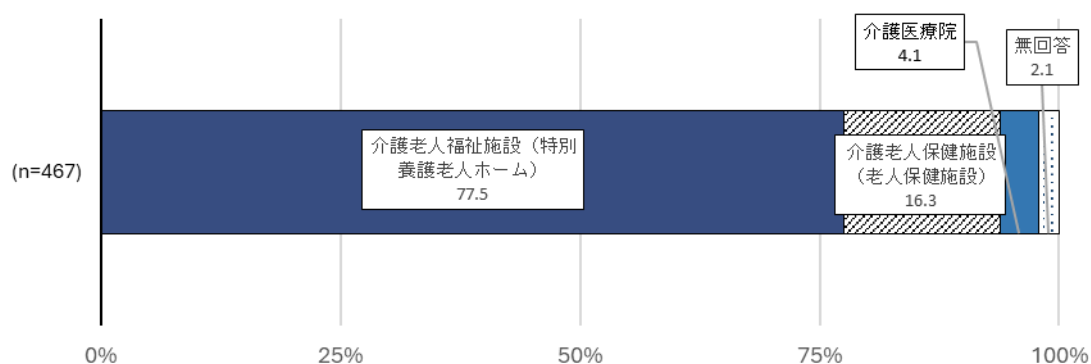


2. 入所している施設について

(1) 入所している施設の種類の

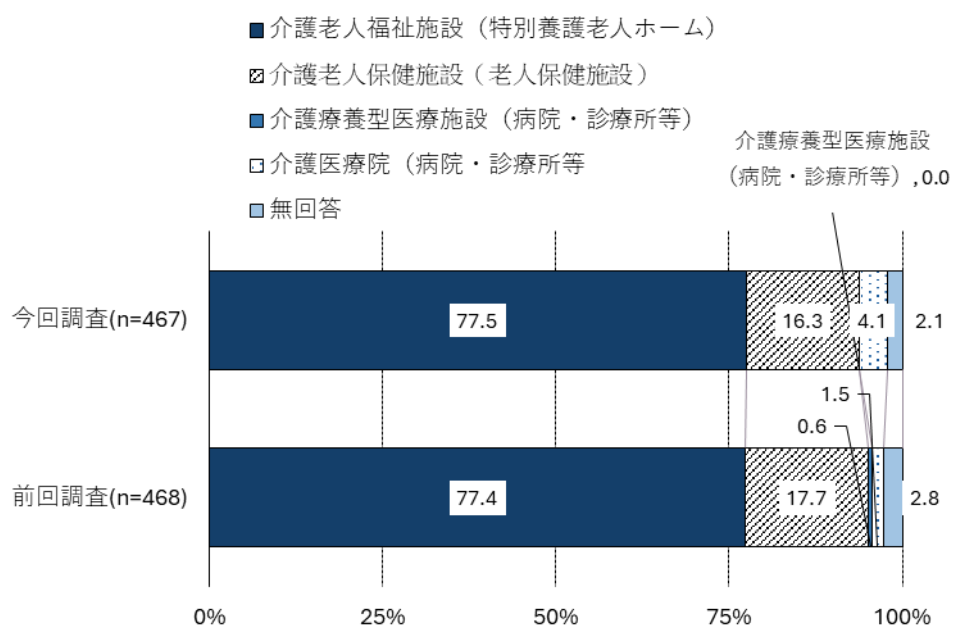
あなたは現在、どの施設に入所していますか。

「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」が77.5%で最も高く、次いで「介護老人保健施設(老人保健施設)」が16.3%となっている。



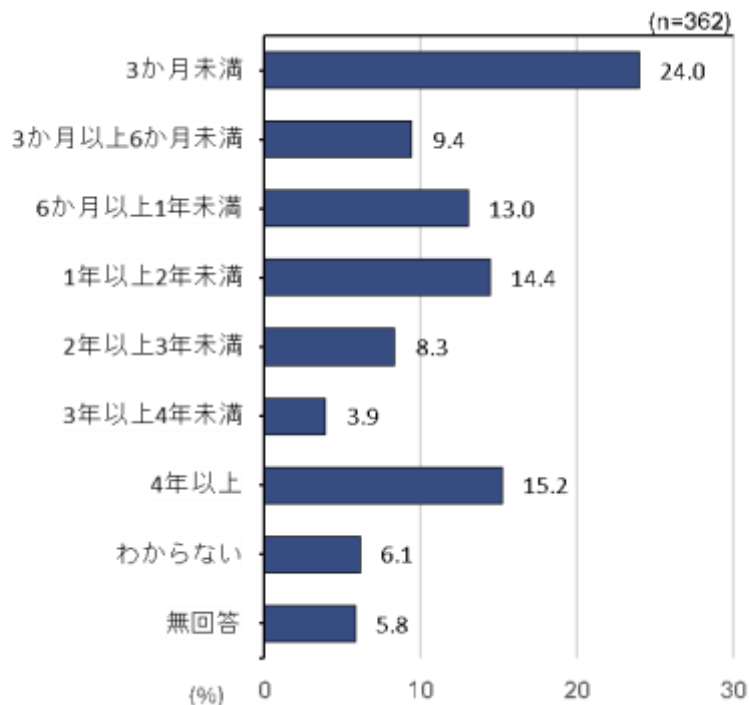
【経年比較】

前回調査と比較しても大きな差は見られない。



（「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」を選択された方）入所申込をされてから、入所するまでの期間はどの程度でしたか。

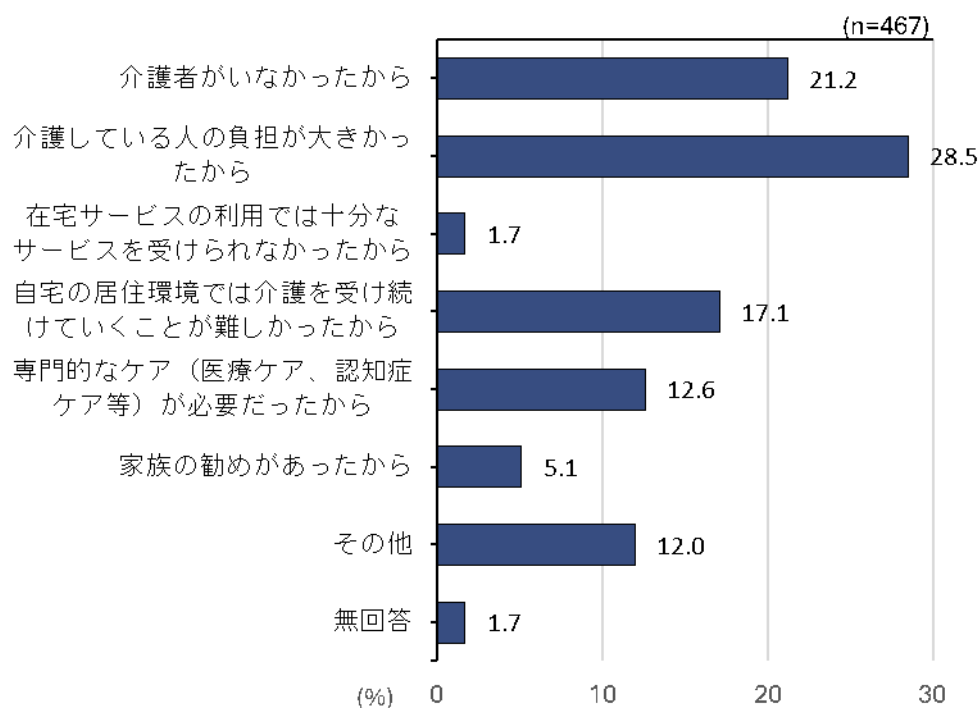
「3か月未満」が24.0%で最も高く、次いで「4年以上」が15.2%となっている。



(2) 入所の理由

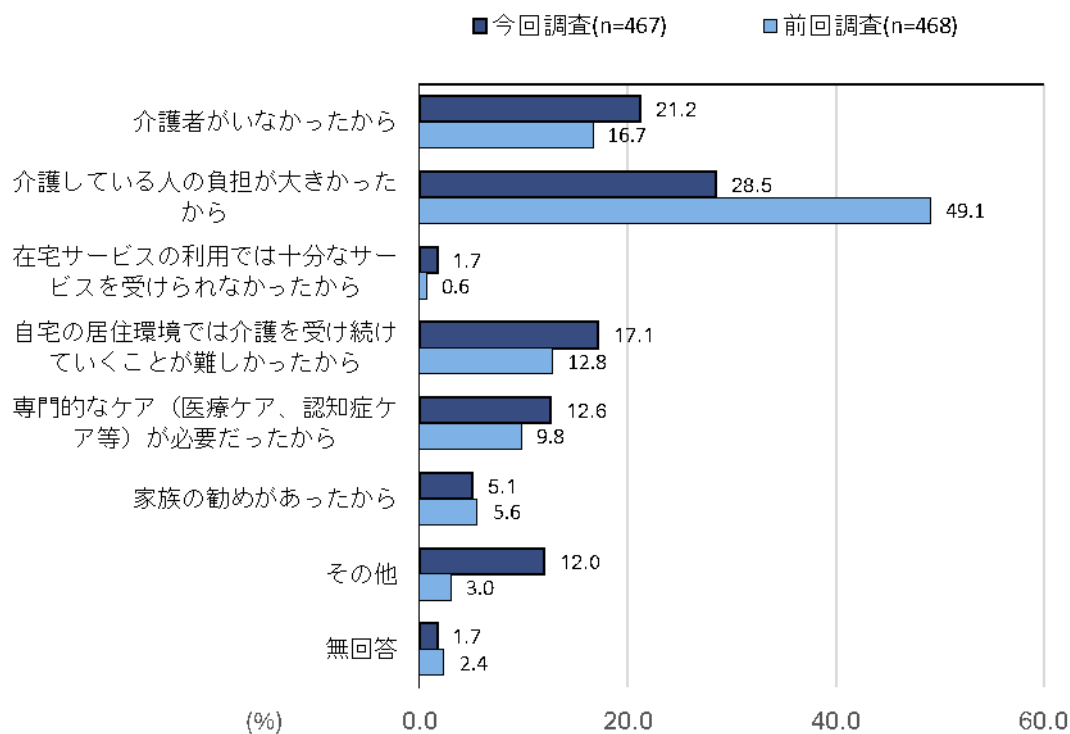
施設の入所を選んだ主な理由は何ですか。

「介護している人の負担が大きかったから」が28.5%で最も高く、次いで「介護者がいなかったから」が21.2%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「介護している人の負担が大きかったから」が 20.6 ポイント下がり、「介護者がいなかったから」「自宅の居住環境では介護を受け続けていくことが難しかったから」等がわずかに上昇している。



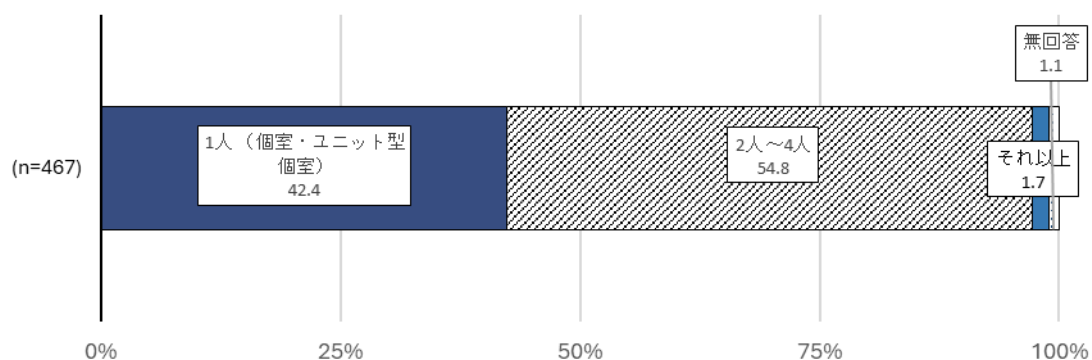
【認定区分別比較】

上段:回答数 下段:%	問5								
	合計	介護者がい なかったか ら	介護してい る人の負担 が大きかっ たから	在宅サービ スの利用で は十分な サービスを受 けられな かったから	自宅の居住 環境では介 護を受け続 けていくこ とが難し かったから	専門的なケ ア（医療ケ ア、認知症 ケア等）が 必要だった から	家族の勧め があったか ら	その他	無回答
全体	467	99	133	8	80	59	24	56	8
	100.0	21.2	28.5	1.7	17.1	12.6	5.1	12.0	1.7
要介護1	15	5	-	-	4	1	2	3	-
	100.0	33.3	-	-	26.7	6.7	13.3	20.0	-
要介護2	25	6	5	-	7	2	2	2	1
	100.0	24.0	20.0	-	28.0	8.0	8.0	8.0	4.0
要介護3	122	31	32	3	20	11	5	17	3
	100.0	25.4	26.2	2.5	16.4	9.0	4.1	13.9	2.5
要介護4	163	32	50	3	33	17	10	16	2
	100.0	19.6	30.7	1.8	20.2	10.4	6.1	9.8	1.2
要介護5	135	23	46	2	14	27	3	18	2
	100.0	17.0	34.1	1.5	10.4	20.0	2.2	13.3	1.5
無回答	7	2	-	-	2	1	2	-	-
	100.0	28.6	-	-	28.6	14.3	28.6	-	-

(3) 部屋について

あなたの部屋の定員は何人ですか。

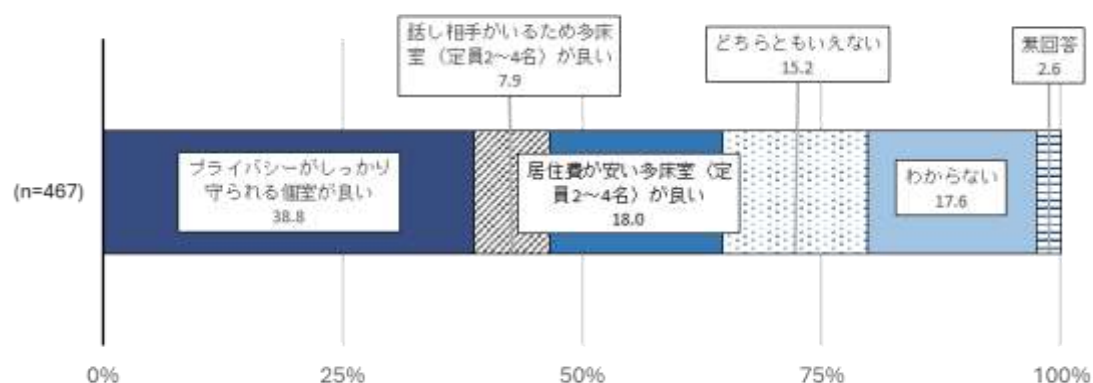
「2人～4人」が54.8%で最も高く、次いで「1人(個室・ユニット型個室)」が42.4%となっている。



部屋は個室と多床室のどちらを望めますか。

「プライバシーがしっかり守られる個室が良い」が38.8%で最も高く、次いで「居住費が安い多床室

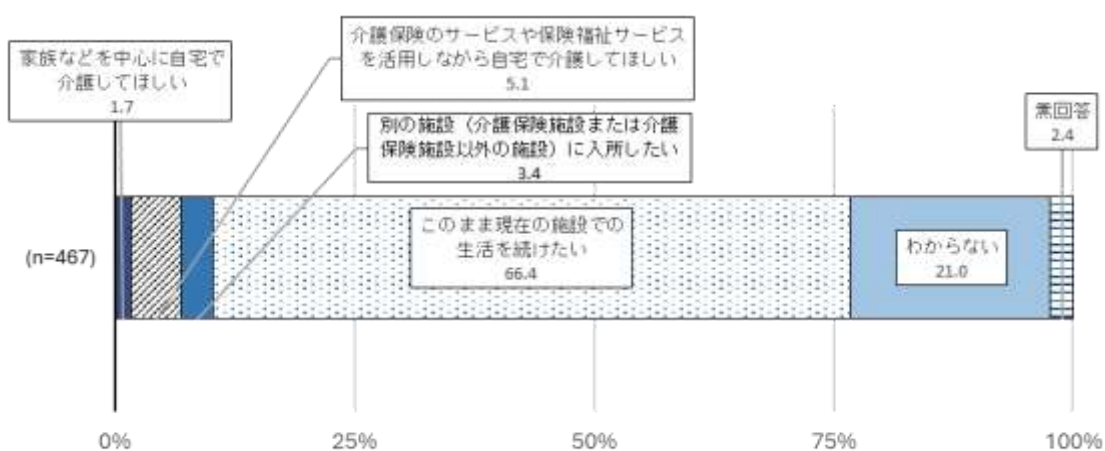
（定員2～4名）が良い」が18.0%となっている。



（4）今後希望する介護

今後、あなたはどのような介護を希望しますか。

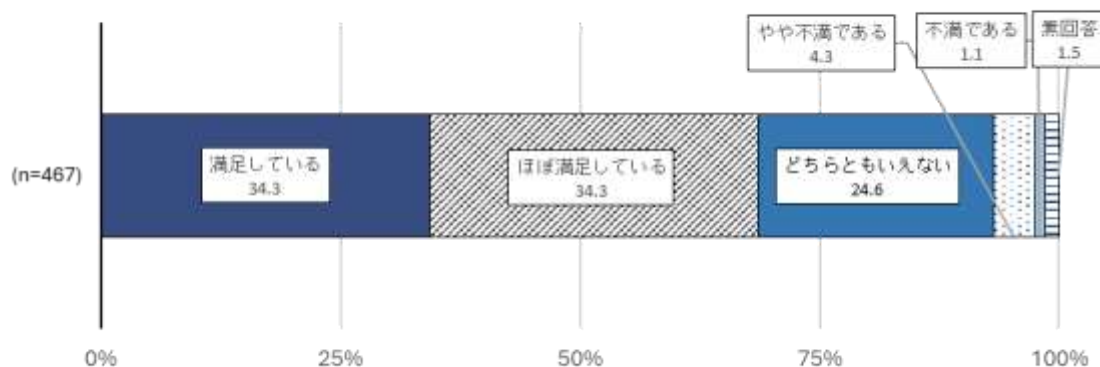
「このまま現在の施設での生活を続けたい」が66.4%で最も高く、次いで「わからない」が21.0%となっている。



(5) 入所先の満足度

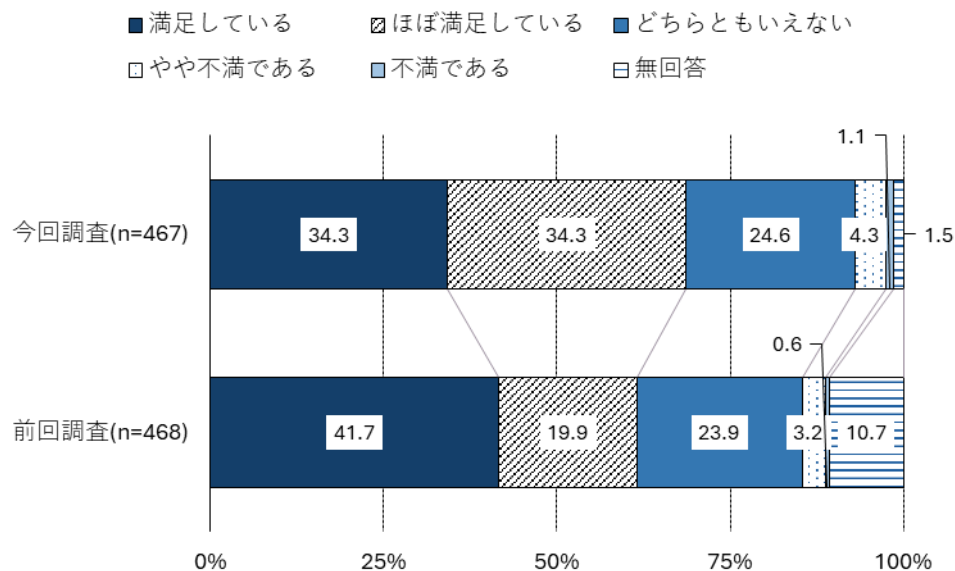
現在入所している施設のサービスに満足していますか。

「満足している」「ほぼ満足している」がともに 34.3%で、半数以上が「満足」となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「満足」(満足している、ほぼ満足している)の割合は上昇しているものの、「満足している」の割合は 7.4 ポイント下がっている。

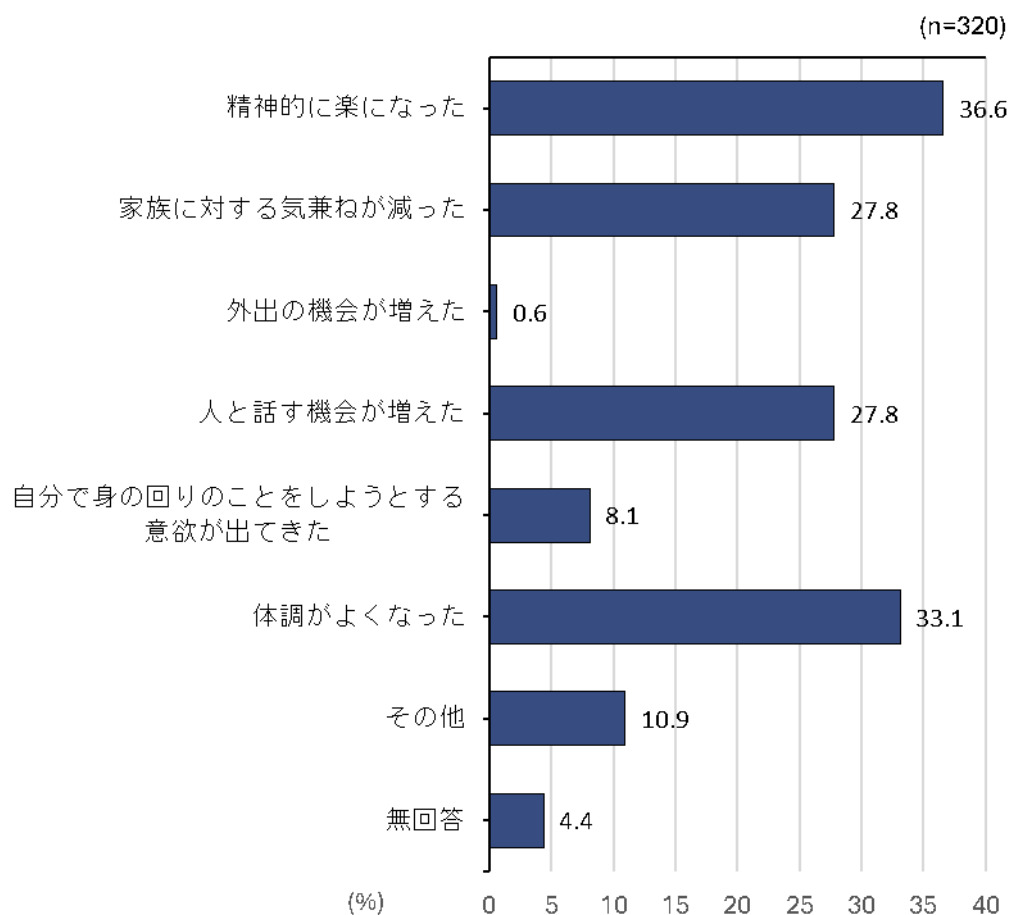


【施設別比較】

上段:回答数 下段:%	問9						
	合計	満足してい る	ほぼ満足し ている	どちらとも いえない	やや不満で ある	不満である	無回答
全体	467	160	160	115	20	5	7
	100.0	34.3	34.3	24.6	4.3	1.1	1.5
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	362	130	125	85	13	5	4
	100.0	35.9	34.5	23.5	3.6	1.4	1.1
介護老人保健施設 (老人保健施設)	76	24	27	19	4	-	2
	100.0	31.6	35.5	25.0	5.3	-	2.6
介護療養型医療施設 (病院・診療所等)	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-
介護医療院	19	3	5	8	2	-	1
	100.0	15.8	26.3	42.1	10.5	-	5.3
無回答	10	3	3	3	1	-	-
	100.0	30.0	30.0	30.0	10.0	-	-

(「満足」もしくは「ほぼ満足」を選択された方)あなたにとって、現在の施設サービスを受けて良かったと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

「精神的に楽になった」が 36.6%で最も高く、次いで「体調がよくなった」が 33.1%となっている。その他、「家族に対する気兼ねが減った」(27.8%)、「人と話す機会が増えた」(27.8%)が比較的高くなっている。



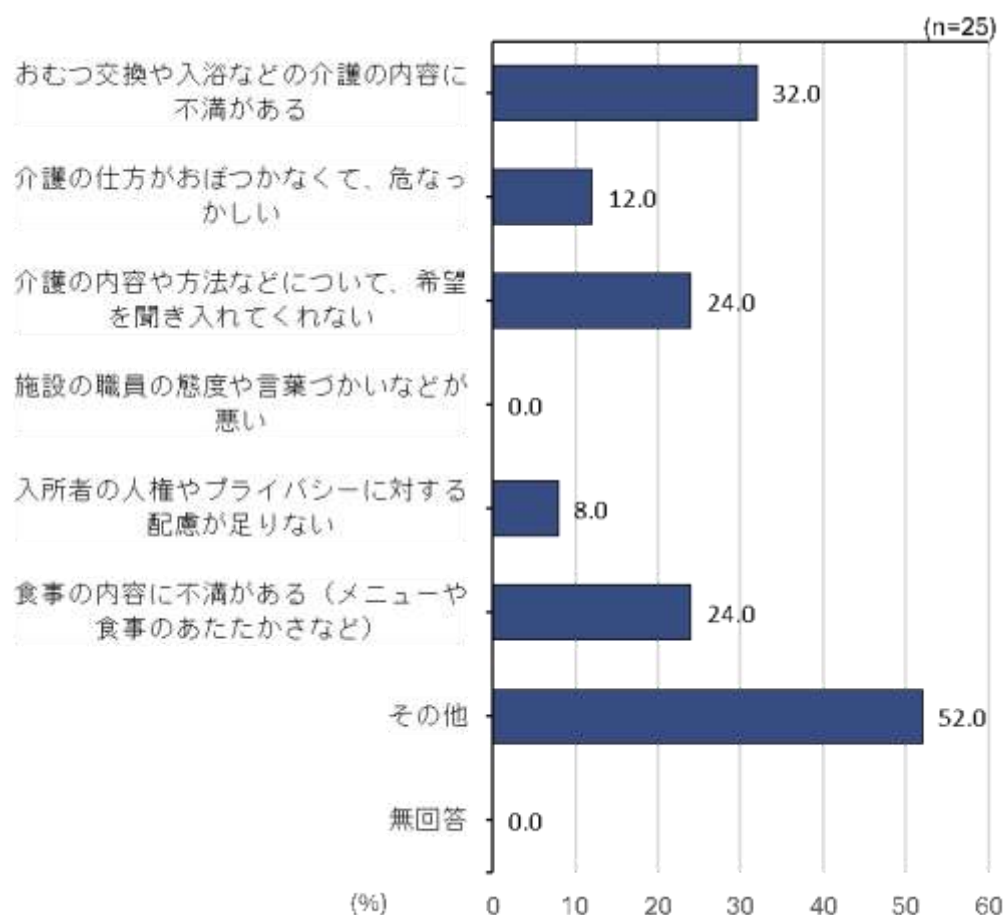
【施設別比較】

第 5 章施設入所者調査

上段:回答数 下段:%	問10								
	合計	精神的に楽 になった	家族に対す る気兼ねが 減った	外出の機会 が増えた	人と話す機 会が増えた	自分で身の 回りのこと をしようと する意欲が 出てきた	体調がよく なった	その他	無回答
全体	320	117	89	2	89	26	106	35	14
	100.0	36.6	27.8	0.6	27.8	8.1	33.1	10.9	4.4
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	255	94	73	2	63	18	76	31	10
	100.0	36.9	28.6	0.8	24.7	7.1	29.8	12.2	3.9
介護老人保健施設 (老人保健施設)	51	18	12	-	22	6	26	3	3
	100.0	35.3	23.5	-	43.1	11.8	51.0	5.9	5.9
介護療養型医療施設 (病院・診療所等)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
介護医療院	8	4	2	-	3	-	3	1	-
	100.0	50.0	25.0	-	37.5	-	37.5	12.5	-
無回答	6	1	2	-	1	2	1	-	1
	100.0	16.7	33.3	-	16.7	33.3	16.7	-	16.7

(「やや不満」もしくは「不満」を選択された方)あなたが、現在の施設サービスを受けて不満に思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)。

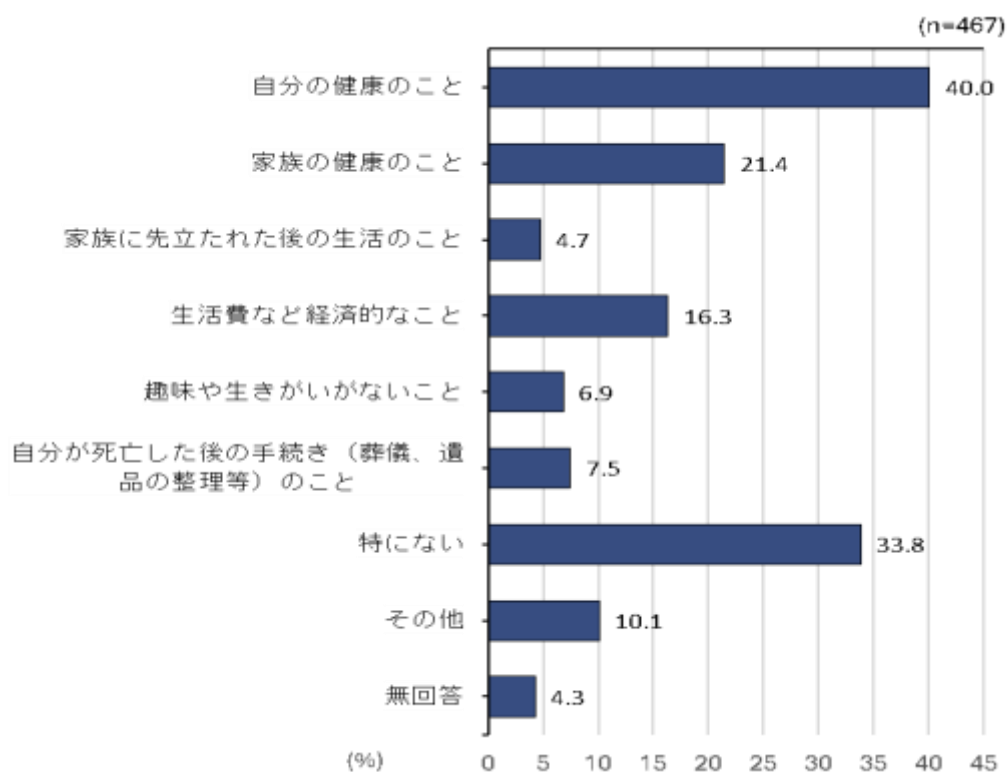
「おむつ交換や入浴などの介護の内容に不満がある」が32.0%と最も高く、次いで、「介護の内容や方法などについて、希望を聞き入れてくれない」「食事の内容に不満がある(メニューやあたたかさなど)」が24.0%となっている。



3. 現在の心配ごとや悩みごとについて

あなたには、現在、心配ごとや悩みごとがありますか。

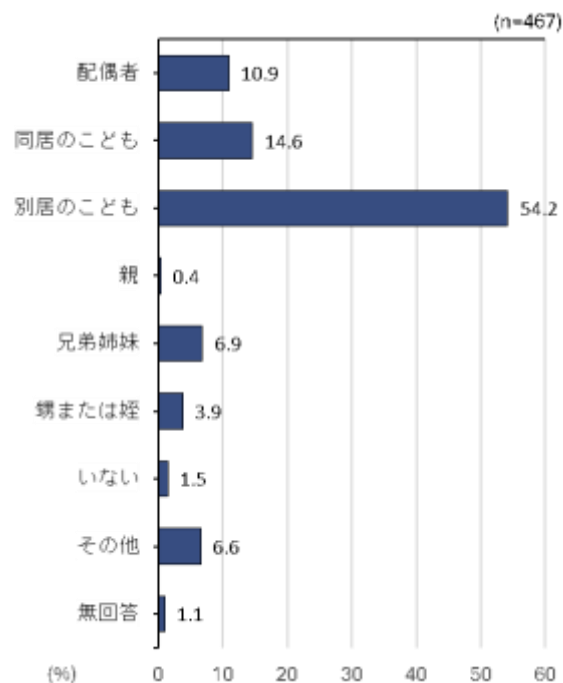
「自分の健康のこと」が40.0%で最も高く、次いで「特にない」が33.8%となっている。その他、「家族の健康のこと」(21.4%)が比較的高くなっている。



4. 将来への備えについて

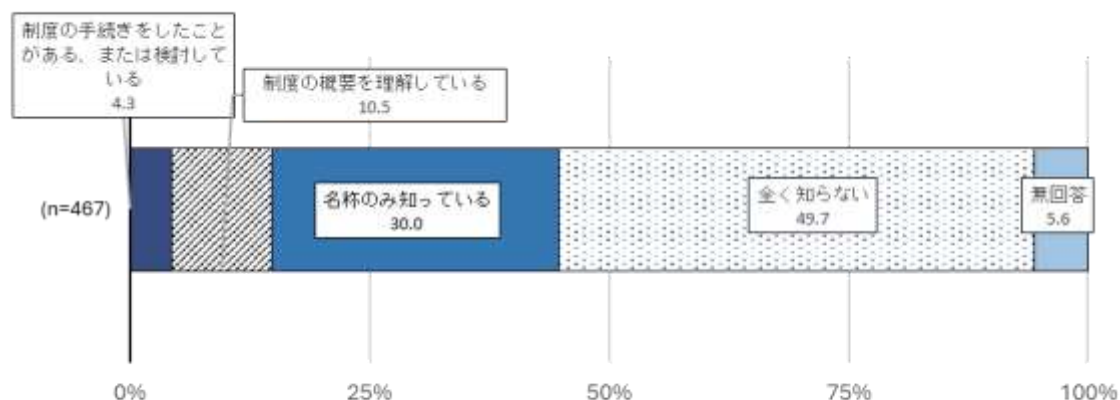
あなたの身に緊急事態が起きた時(事故等による介護を要する状態、認知症など)、治療の方針の決定や介護サービスの利用に必要な手続き、金銭管理をしてくれる身内の方はいますか。いる場合は、主にどなたですか。(〇は1つ)

「別居のこども」が 54.2%で最も高く、次いで「同居のこども」が 14.6%となっている。



あなたは「成年後見制度」について、どの程度ご存知ですか。(〇は1つ)

「全く知らない」が 49.7%で最も高く、次いで「名称のみ知っている」が 30.0%となっている。

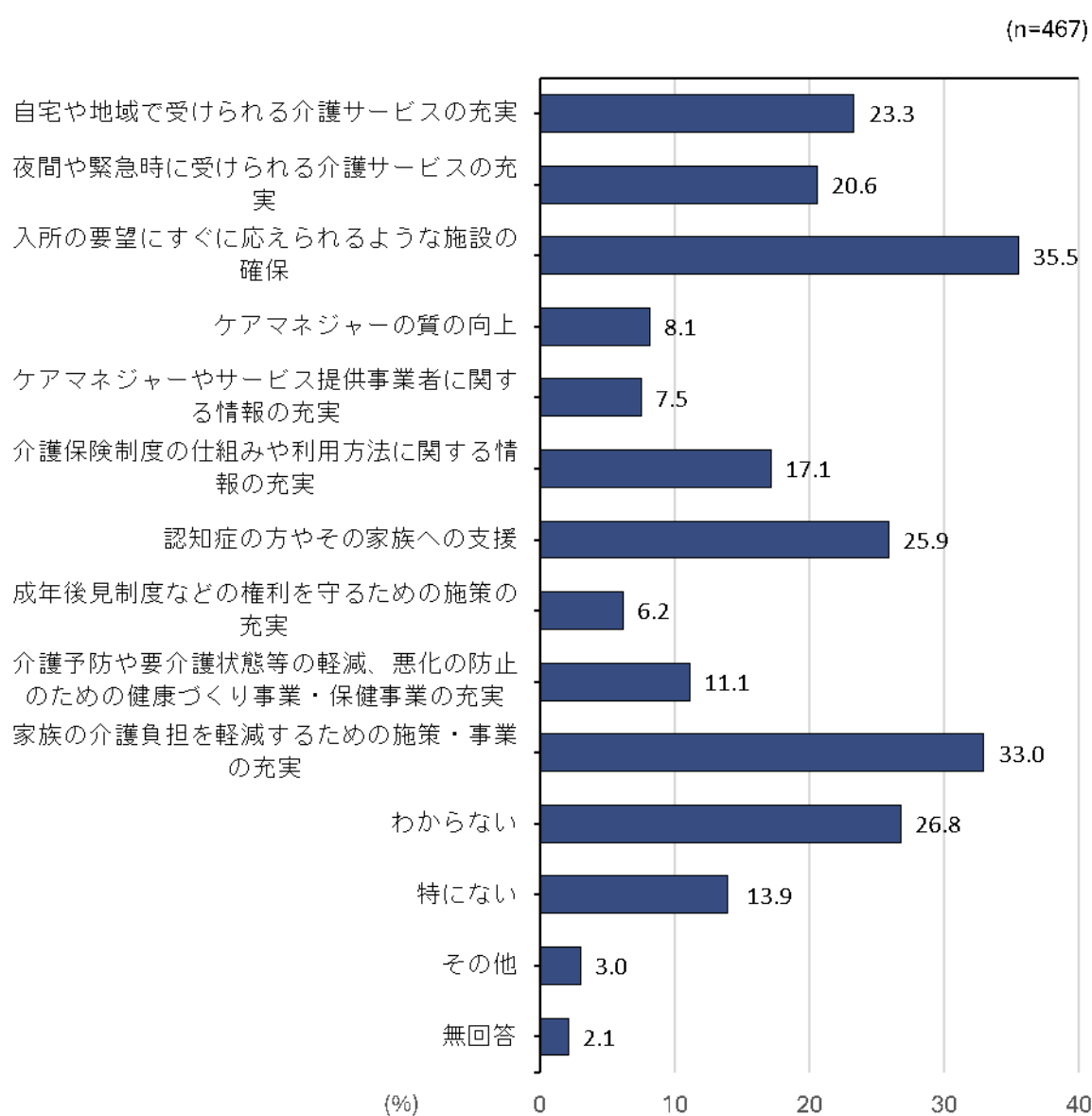


5. 介護保険制度・高齢者施策について

(1) 介護保険料と介護サービスのあり方

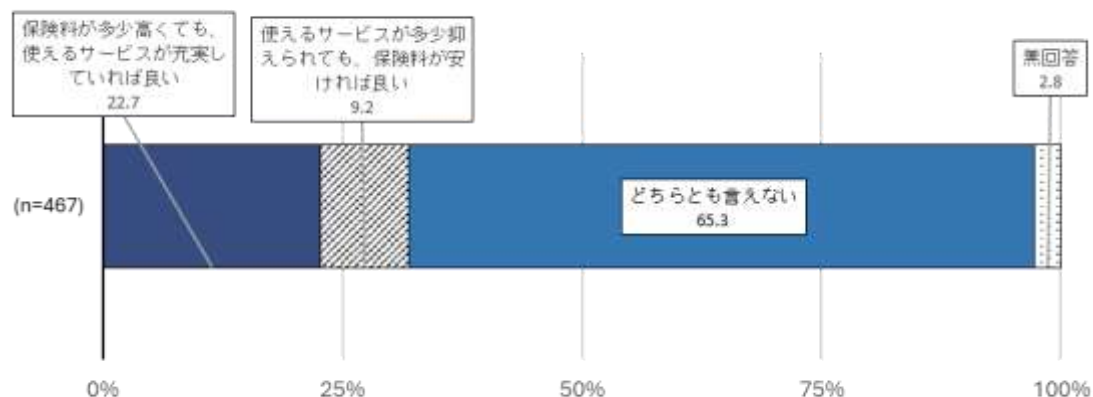
介護保険制度をはじめ、介護に関わるこれからの施策のあり方について、特に力を入れるべきことは何だと思いますか。(〇は5つまで)

「入所の要望にすぐに応えられるような施設の確保」が35.5%で最も高く、次いで「家族の介護負担を軽減するための施策・事業の充実」が33.0%となっている。その他、「わからない」(26.8%)、「認知症の方やその家族への支援」(25.9%)が比較的高くなっている。



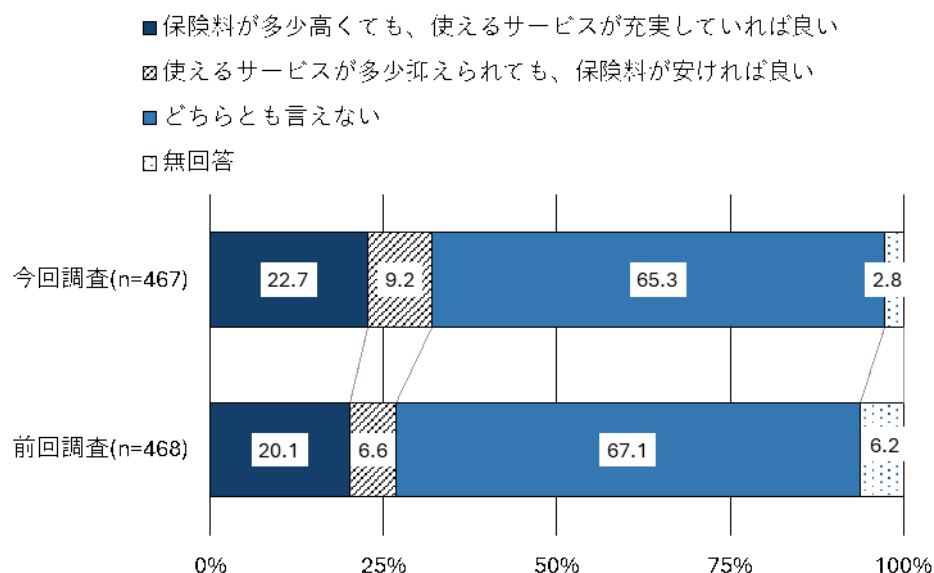
介護保険制度は、40歳以上の方から保険料を徴収して介護が必要な方にサービスを提供する費用に充てていますが、保険料と介護サービスの在り方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。

「どちらとも言えない」が65.3%で最も高く、次いで「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」が22.7%となっている。



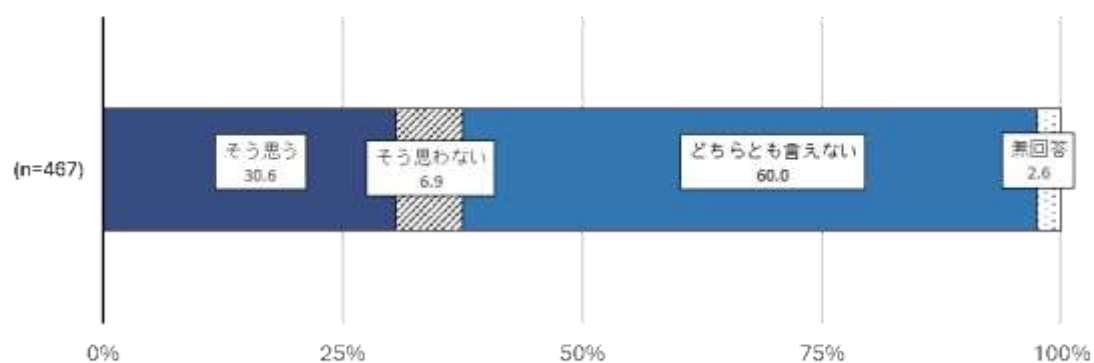
【経年比較】

前回調査と比較すると、大きな差はないものの、保険料が高くてもサービス充実を重視する割合、サービス抑制でも保険料の低さを重視する割合がそれぞれわずかに上昇している。



65 歳以上の方の保険料に関して「低所得者に配慮するために、高所得者の負担を多少増やすのもやむを得ない」ということについて、あなたはどのようにお考えですか。

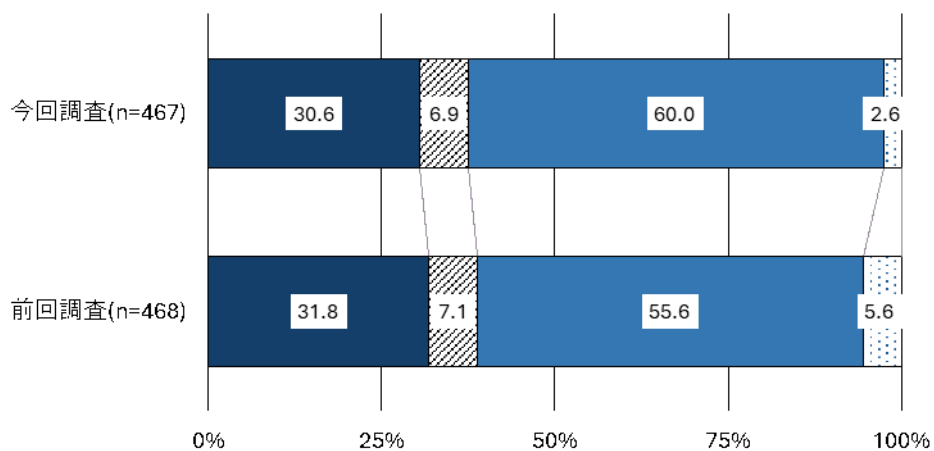
「どちらとも言えない」が 60.0%で最も高く、次いで「そう思う」が 30.6%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較しても大きな差は見られない。

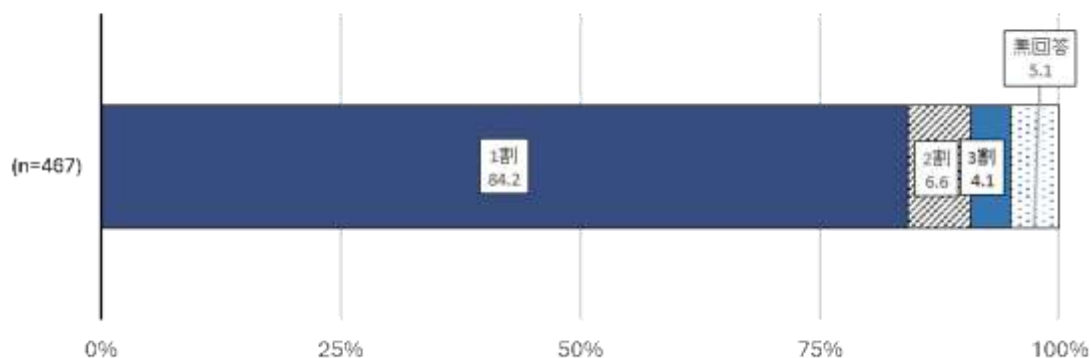
■ そう思う ▨ そう思わない ■ どちらとも言えない □ 無回答



(2) 介護サービスの自己負担割合と負担感

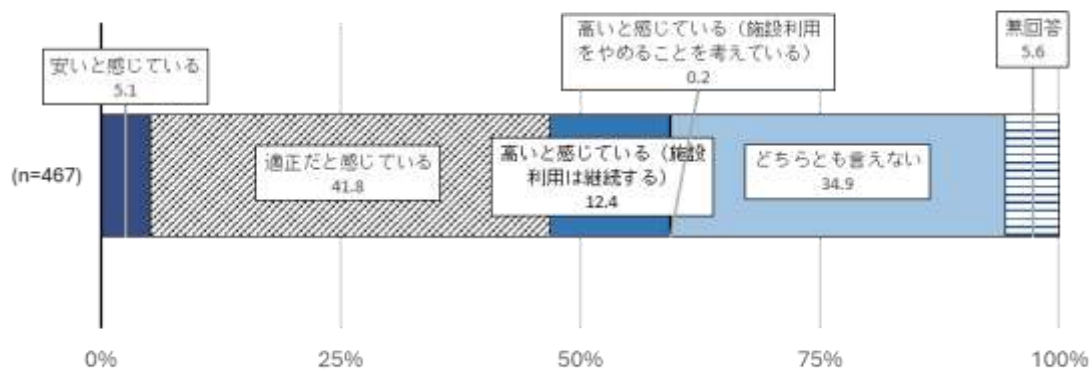
あなたの自己負担割合をお答えください。

「1割」が84.2%で最も高く、次いで「2割」が6.6%となっている。



お答えいただいた費用(自己負担分)について、どのように感じていますか。

「適正だと感じている」が41.8%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が34.9%となっている。



【自己負担別比較】

上段:件数 下段:%	問18(2)						
	合計	安いと感じ ている	適正だと感 じている	高いと感じ ている（施 設利用は継 続する）	高いと感じ ている（施 設利用をや めることを 考えてい る）	どちらとも 言えない	無回答
全体	467	24	195	58	1	163	26
	100.0	5.1	41.8	12.4	0.2	34.9	5.6
1割	393	24	174	37	-	150	8
	100.0	6.1	44.3	9.4	-	38.2	2.0
2割	31	-	14	12	-	4	1
	100.0	-	45.2	38.7	-	12.9	3.2
3割	19	-	4	9	-	5	1
	100.0	-	21.1	47.4	-	26.3	5.3
無回答	24	-	3	-	1	4	16
	100.0	-	12.5	-	4.2	16.7	66.7

6. ご意見・ご要望

最後に、市の高齢者保健福祉施策についてご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

①施設・入所

- ・市内の特養に空きがなく、他市の施設に入所しているため市内で入所したい
- ・近隣に施設が少なく遠方入所となり、家族が面会しづらい
- ・人工透析対応など特定条件で入居できる施設が不足している
- ・特養・療養型病院の数が少なく、待機者が多い
- ・入所したくても費用や定員の問題で入れない状況がある

②施設サービスの質・運営

- ・施設職員の対応や言動により面会しづらくなった
- ・施設側が苦情を認めず、相談対応にも不信感がある
- ・人手不足により対応が遅れる、細かいケアが行き届かない
- ・入浴回数が少なく、清潔保持に不満がある
- ・食事内容や制限により食べたいものが食べられない
- ・排泄介助のタイミングが職員都合になり苦痛を感じる
- ・施設内の衛生(床・洗面等)が気になる
- ・面会日が平日のみで家族が訪問しにくい

③医療・介護サービス

- ・夜間や緊急時の在宅サービスが不足している
- ・リハビリの機会が不足しているため増やしてほしい
- ・老健の入所期間制限や特養でのリハビリ継続に課題がある
- ・介護サービスを時間制限なく利用できれば利用したい
- ・聴力検査や補聴器支援など予防的対応の必要性

④人材・人手不足

- ・介護職員の人手不足があり対応に影響している
- ・介護職員の給与を上げることで人材確保につながる
- ・職員の入れ替わりが多く、ケアの質の安定に影響がある

⑤制度・運用

- ・介護保険負担限度額認定の手続きを簡素化してほしい
- ・介護認定の見直し機会を増やしてほしい
- ・自治体による対応(事故報告等)の違いに疑問がある
- ・ケアマネ間の連携が弱く、説明が重複する
- ・制度の利用条件や仕組みが分かりづらい

⑥経済的負担

- ・特養でも年金では賄えない費用負担がある
- ・地域によって施設利用料に差がある
- ・食費や利用料の算定根拠が分かりにくい
- ・介護保険料が上昇し負担が重い
- ・収入不足により在宅介護が困難

⑦情報提供・周知

- ・市の高齢者施策の内容が分かりにくい
- ・利用できるサービスや選択肢の説明が不足している
- ・冊子等で施策内容を分かりやすく示してほしい

⑧交通・外出

- ・特定施設へのバス便を増やしてほしい
- ・施設入所後も外出や面会の自由度を確保してほしい

⑨生活・交流・生きがい

- ・囲碁や将棋など気軽に楽しめる活動の機会がほしい
- ・地域で集まれる場や交流・ボランティアの場がほしい
- ・レクリエーションや日中活動の工夫が必要

⑩家族支援・在宅介護

- ・夜間支援が充実すれば在宅介護を継続しやすい
- ・家族の生活や収入との両立が難しい
- ・制度や支援により在宅介護が支えられている

⑪福祉全体への意見

- ・高齢者にやさしいまちづくりを進めてほしい
- ・福祉施策全体の充実と継続を望む
- ・災害時の施設対応や連絡方法を事前に知りたい

⑫アンケート・調査

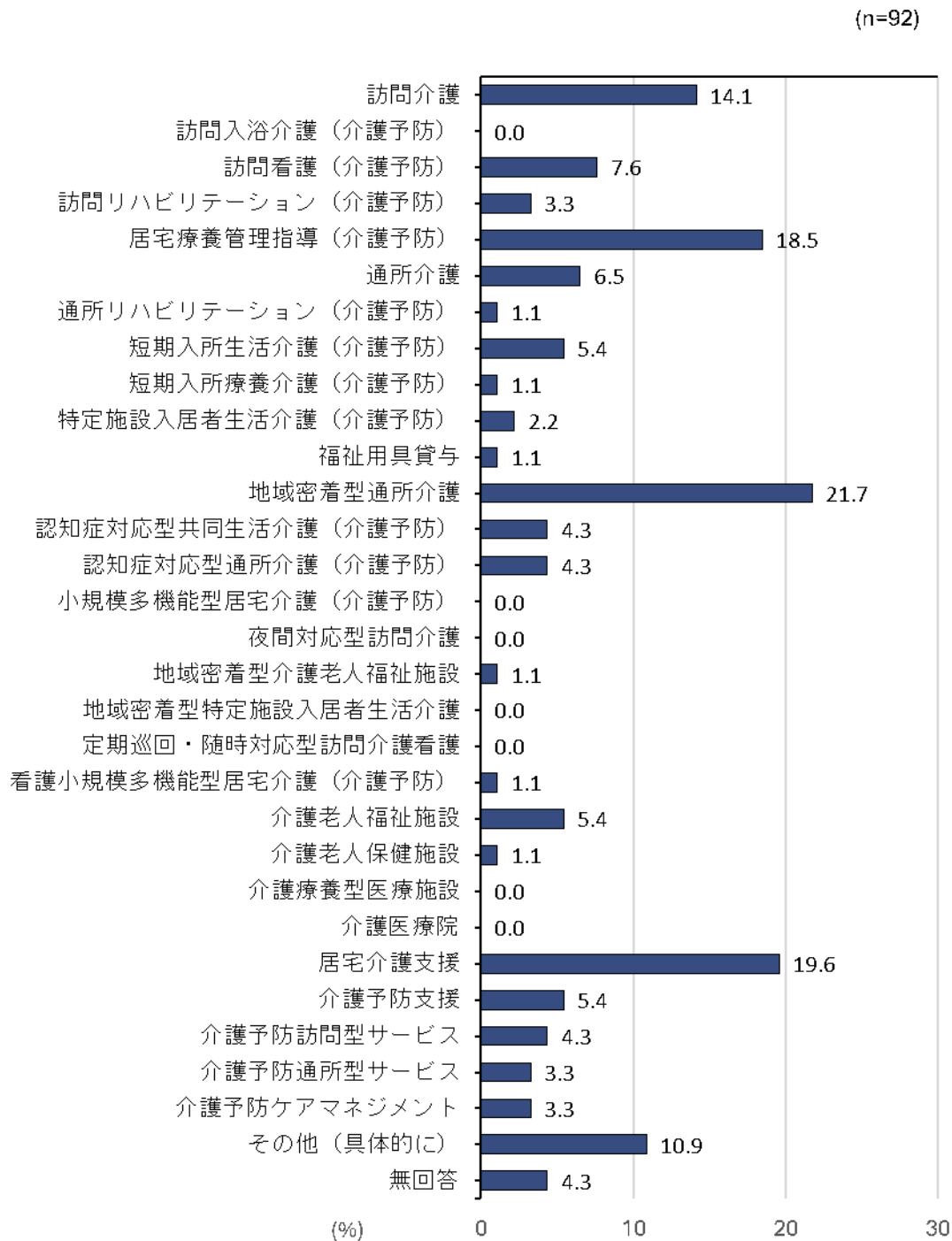
- ・アンケート回答が負担であり、調査方法の見直しを求める

第6章 サービス提供事業者調査

1. 貴事業者の概要について

貴事業者が現在、本市で実施しているサービスは何ですか。(○はいくつでも)

「地域密着型通所介護」が21.7%で最も高く、次いで「居宅介護支援」が19.6%となっている。その他、「居宅療養管理指導(介護予防)」(18.5%)、「訪問介護」(14.1%)が比較的高くなっている。



2. 介護保険サービスについて

次の①から③までのサービスのうち、貴事業者において提供しているサービスについて、(1)から(3)のそれぞれ当てはまるものに○をご記入ください。

(1)利用者からの利用申込みへの対応

「余裕はない」の回答率が高いサービスとしては、「介護療養型医療施設」「介護予防ケアマネジメント」がいずれも100.0%で最も高く、次いで「介護予防支援」「介護予防訪問型サービス」がいずれも85.7%となっている。「余裕はややある」が高いサービスとしては、「地域密着型通所介護」が65.2%で最も高く、次いで「居宅療養管理指導(介護予防)」が63.6%、「通所介護」が60.0%となっている。「余裕は十分ある」が高いサービスとしては、「訪問看護(介護予防)」が55.6%で最も高く、次いで「福祉用具貸与」が50.0%、「認知症対応型通所介護(介護予防)」が42.9%となっている。

上段: 回答数 下段: 割合	総回答数	余裕はない	余裕はややある	余裕は十分ある
①訪問介護	15	10 66.7%	3 20.0%	2 13.3%
②訪問入浴介護(介護予防)	3	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%
③訪問看護(介護予防)	9	2 22.2%	2 22.2%	5 55.6%
④訪問リハビリテーション(介護予防)	6	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%
⑤居宅療養管理指導(介護予防)	22	5 22.7%	14 63.6%	3 13.6%
⑥通所介護	10	2 20.0%	6 60.0%	2 20.0%
⑦通所リハビリテーション(介護予防)	5	2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%
⑧短期入所生活介護(介護予防)	8	4 50.0%	3 37.5%	1 12.5%
⑨短期入所療養介護(介護予防)	4	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%
⑩特定施設入居者生活介護(介護予防)	5	4 80.0%	1 20.0%	0 0.0%
⑪福祉用具貸与	4	2 50.0%	0 0.0%	2 50.0%
⑫地域密着型通所介護	23	5 21.7%	15 65.2%	3 13.0%
⑬認知症対応型共同生活介護(介護予防)	7	4 57.1%	2 28.6%	1 14.3%
⑭認知症対応型通所介護(介護予防)	7	2 28.6%	2 28.6%	3 42.9%
⑮小規模多機能型居宅介護(介護予防)	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%
⑯夜間対応型訪問介護	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%
⑰地域密着型介護老人福祉施設	4	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%
⑱地域密着型特定施設入居者生活介護	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%
⑲定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%
⑳看護小規模多機能型居宅介護(介護予防)	4	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%
㉑介護老人福祉施設	8	4 50.0%	3 37.5%	1 12.5%
㉒介護老人保健施設	4	3 75.0%	0 0.0%	1 25.0%
㉓介護療養型医療施設	3	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
㉔介護医療院	4	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%
㉕居宅介護支援	21	11 52.4%	9 42.9%	1 4.8%
㉖介護予防支援	7	6 85.7%	1 14.3%	0 0.0%
㉗介護予防訪問型サービス	7	6 85.7%	0 0.0%	1 14.3%
㉘介護予防通所型サービス	10	5 50.0%	5 50.0%	0 0.0%
㉙介護予防ケアマネジメント	7	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
㉚その他(具体的に)	8	5 62.5%	3 37.5%	0 0.0%

(2) 事業者の収支状況

「赤字である」の回答率が比較的高いサービスとしては、「地域密着型通所介護」が50.0%、「介護予防ケアマネジメント」が50.0%、「訪問看護(介護予防)」「介護予防通所型サービス」が37.5%となっている。「収支はほぼ均衡」の回答率が高いサービスとしては、「訪問リハビリテーション(介護予防)」が80.0%、「通所介護」が77.8%、「居宅療養管理指導(介護予防)」が55.0%となっている。「黒字である」が比較的高いサービスとしては、「特定施設入居者生活介護(介護予防)」が50.0%、「介護予防訪問型サービス」が40.0%、「認知症対応型共同生活介護(介護予防)」が33.3%となっている。

上段: 回答数 下段: 割合	総回答数	赤字である	収支はほぼ均衡	黒字である
①訪問介護	14	4 28.6%	6 42.9%	4 28.6%
②訪問入浴介護(介護予防)	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
③訪問看護(介護予防)	8	3 37.5%	5 62.5%	0 0.0%
④訪問リハビリテーション(介護予防)	5	1 20.0%	4 80.0%	0 0.0%
⑤居宅療養管理指導(介護予防)	20	5 25.0%	11 55.0%	4 20.0%
⑥通所介護	9	1 11.1%	7 77.8%	1 11.1%
⑦通所リハビリテーション(介護予防)	4	0 0.0%	3 75.0%	1 25.0%
⑧短期入所生活介護(介護予防)	7	2 28.6%	3 42.9%	2 28.6%
⑨短期入所療養介護(介護予防)	3	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
⑩特定施設入居者生活介護(介護予防)	4	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%
⑪福祉用具貸与	3	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
⑫地域密着型通所介護	22	11 50.0%	6 27.3%	5 22.7%
⑬認知症対応型共同生活介護(介護予防)	6	0 0.0%	4 66.7%	2 33.3%
⑭認知症対応型通所介護(介護予防)	6	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%
⑮小規模多機能型居宅介護(介護予防)	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
⑯夜間対応型訪問介護	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
⑰地域密着型介護老人福祉施設	3	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%
⑱地域密着型特定施設入居者生活介護	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
⑲定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
⑳看護小規模多機能型居宅介護(介護予防)	3	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
㉑介護老人福祉施設	7	2 28.6%	5 71.4%	0 0.0%
㉒介護老人保健施設	3	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%
㉓介護療養型医療施設	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
㉔介護医療院	3	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
㉕居宅介護支援	20	7 35.0%	10 50.0%	3 15.0%
㉖介護予防支援	6	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%
㉗介護予防訪問型サービス	5	1 20.0%	2 40.0%	2 40.0%
㉘介護予防通所型サービス	8	3 37.5%	4 50.0%	1 12.5%
㉙介護予防ケアマネジメント	6	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%
㉚その他(具体的に)	8	2 25.0%	4 50.0%	2 25.0%

(3) 今後の事業展開

「縮小を考えている」がみられるサービスとしては、「介護予防支援」が16.7%、「介護予防ケアマネジメント」が16.7%となっている。「現状のまま」が高いサービスとしては、「介護予防通所型サービス」が62.5%、「訪問介護」が50.0%、「居宅介護支援」が50.0%となっている。「拡大を考えている」が比較的回答率が高いサービスとしては、「訪問看護(介護予防)」が50.0%、「通所介護」が44.4%、「特定施設入居者生活介護(介護予防)」が40.0%となっている。

上段: 回答数 下段: 割合	総回答数	現時点ではわからない	縮小を考えている	現状のまま	拡大を考えている
①訪問介護	14	2 14.3%	2 14.3%	7 50.0%	3 21.4%
②訪問入浴介護(介護予防)	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
③訪問看護(介護予防)	8	3 37.5%	0 0.0%	1 12.5%	4 50.0%
④訪問リハビリテーション(介護予防)	5	3 60.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%
⑤居宅療養管理指導(介護予防)	19	6 31.6%	2 10.5%	10 52.6%	1 5.3%
⑥通所介護	9	3 33.3%	0 0.0%	2 22.2%	4 44.4%
⑦通所リハビリテーション(介護予防)	4	3 75.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%
⑧短期入所生活介護(介護予防)	7	3 42.9%	0 0.0%	3 42.9%	1 14.3%
⑨短期入所療養介護(介護予防)	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
⑩特定施設入居者生活介護(介護予防)	5	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%
⑪福祉用具貸与	3	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%
⑫地域密着型通所介護	22	9 40.9%	0 0.0%	9 40.9%	4 18.2%
⑬認知症対応型共同生活介護(介護予防)	6	2 33.3%	0 0.0%	3 50.0%	1 16.7%
⑭認知症対応型通所介護(介護予防)	6	3 50.0%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%
⑮小規模多機能型居宅介護(介護予防)	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑯夜間対応型訪問介護	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑰地域密着型介護老人福祉施設	3	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑱地域密着型特定施設入居者生活介護	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑲定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑳看護小規模多機能型居宅介護(介護予防)	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
㉑介護老人福祉施設	7	3 42.9%	0 0.0%	3 42.9%	1 14.3%
㉒介護老人保健施設	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
㉓介護療養型医療施設	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
㉔介護医療院	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
㉕居宅介護支援	20	6 30.0%	1 5.0%	10 50.0%	3 15.0%
㉖介護予防支援	6	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%
㉗介護予防訪問型サービス	5	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%
㉘介護予防通所型サービス	8	3 37.5%	0 0.0%	5 62.5%	0 0.0%
㉙介護予防ケアマネジメント	6	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%
㉚その他(具体的に)	7	3 42.9%	0 0.0%	3 42.9%	1 14.3%

貴事業者が今後、新たに実施したいサービスは何ですか。(〇はいくつでも)

「居宅介護支援」が6.5%で最も高く、次いで「居宅療養管理指導(介護予防)」が4.3%となっている。

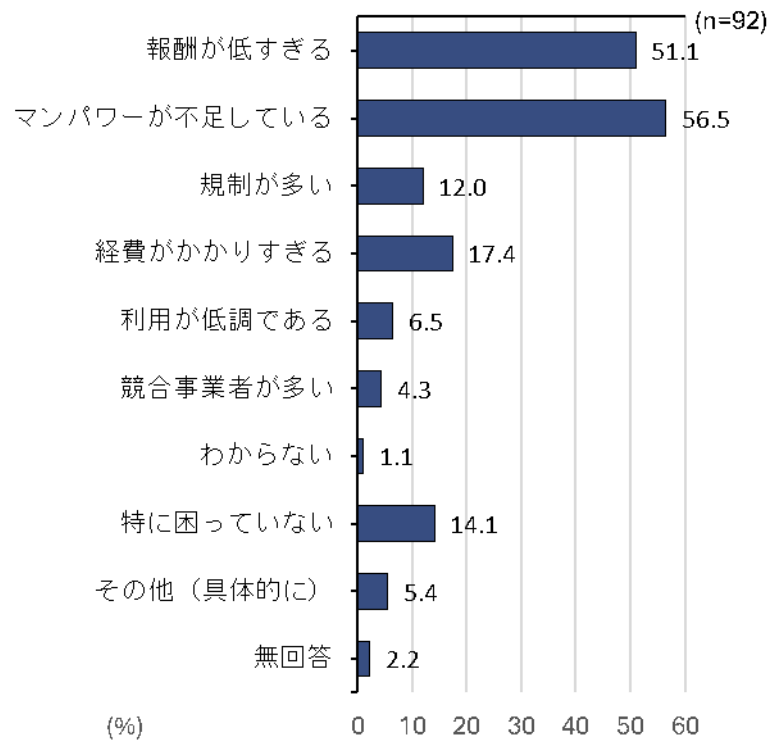


上記を選択した理由をお教えてください。

新たに実施したいサービス	理由
訪問介護	デイサービスは人手がなかなか集まらない
訪問看護(介護予防)	習志野市の福祉・医療サービスを発展・充実させたいから。
居宅療養管理指導(介護予防)	・それ以上はできない ・継続 ・歯科を通じてフレイル予防に貢献する為
通所介護	ニーズはあると考えているため
福祉用具貸与	ご利用者様の状態は、よく把握しているため、都度どのような福祉用具が必要あるか、サポートできるため。
認知症対応型共同生活介護(介護予防)	グループホーム中心に全国展開している為
介護老人福祉施設	歯科を通じて、フレイル予防に貢献する為
介護老人保健施設	歯科を通じて、フレイル予防に貢献する為
介護療養型医療施設	歯科を通じて、フレイル予防に貢献する為
居宅介護支援	・ケアマネの人数を増やしたい ・居宅介護支援事業所として入退職(入替)が激しい現状がある。人員的に現状維持が精いっぱいであり、いかに現状の規模を維持できるかが課題となっている。 ・現在休止中だから ・歯科を通じて、フレイル予防に貢献する為
介護予防通所型サービス	地域高齢者の自立支援と要介護化予防を図るため
移動支援に関するサービス(送迎の空き時間の活用や買い物支援など)	実際に通所施設に通われている方で、非常に困っているケースを目の当たりにしたから。
その他	・リハビリ、訪問看護の看護師、居宅介護支援のケアマネ人材不足により拡大していくのは現状難しい。常に募集は出し続けている ・金銭的、人材的にも新しい物を行う余裕が無いから。 ・現状として今後新たに展開する事業の予定ない。 ・今のまま地域に貢献したい。 ・市との契約で行っている業務だから ・時間と人手の不足 ・自立の入居者がおらずほぼ全員が要介護・要支援認定を受けているため。 ・食事面のサポートが難しい為、サービスと連動して配食も出来ると良いと考えている為。 ・人的余裕が無い ・調剤薬局ができることには限りがあるため ・不明なため ・報酬が低く経営が難しい ・本部の事業展開に則して対応いたします。 ・余裕がない

貴事業者がサービスを提供する上で困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

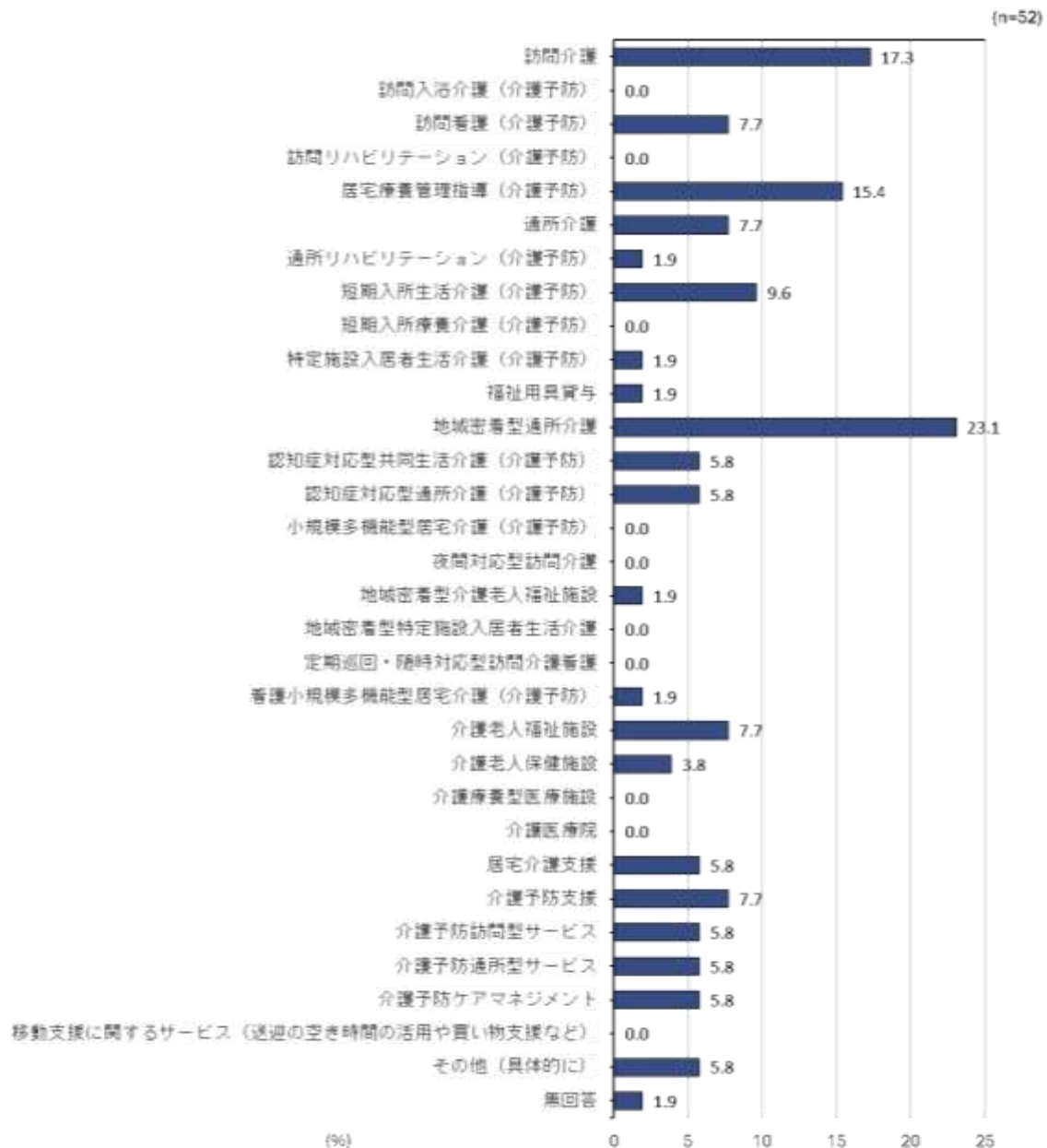
「マンパワーが不足している」が 56.5%で最も高く、次いで「報酬が低すぎる」が 51.1%となっている。その他、「経費がかかりすぎる」(17.4%)、「特に困っていない」(14.1%)が比較的高くなっている。



「マンパワーが不足している」を選択された方)不足しているのはどのサービスですか。また、どの職種ですか。(〇はいくつでも)

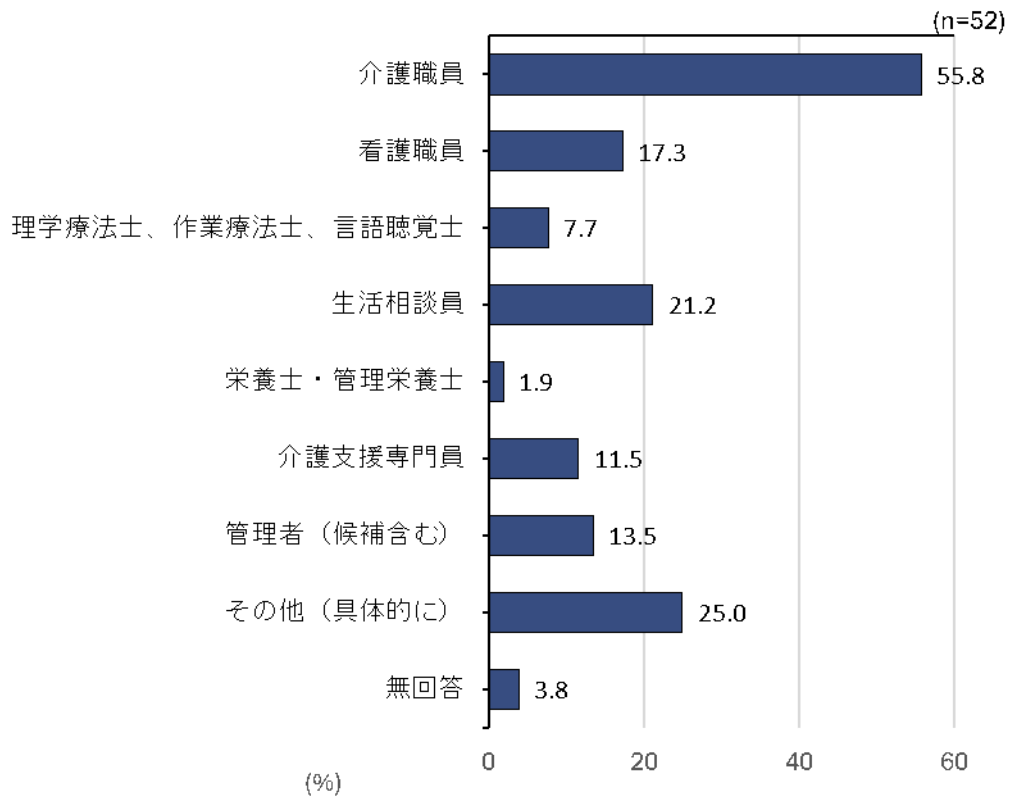
①マンパワーが不足しているサービス

「地域密着型通所介護」が23.1%で最も高く、次いで「訪問介護」が17.3%となっている。その他、「居宅療養管理指導(介護予防)」(15.4%)が比較的高くなっている。



②マンパワーが不足している職種

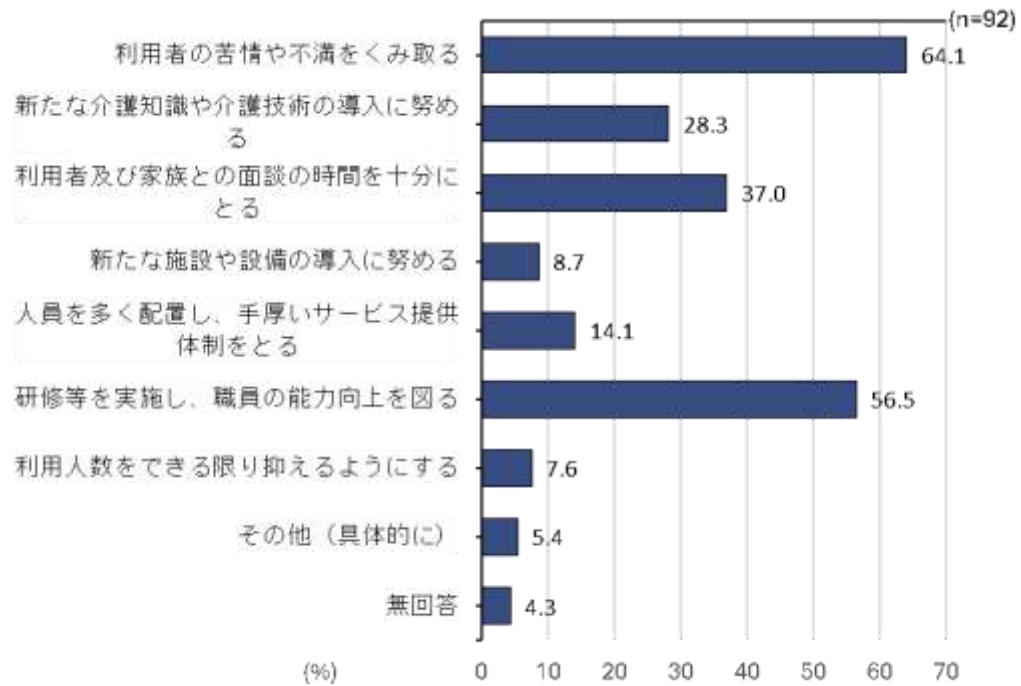
「介護職員」が 55.8%で最も高く、次いで「生活相談員」が 21.2%となっている。その他、「看護職員」(17.3%)が比較的高くなっている。



3. サービスの質の向上について

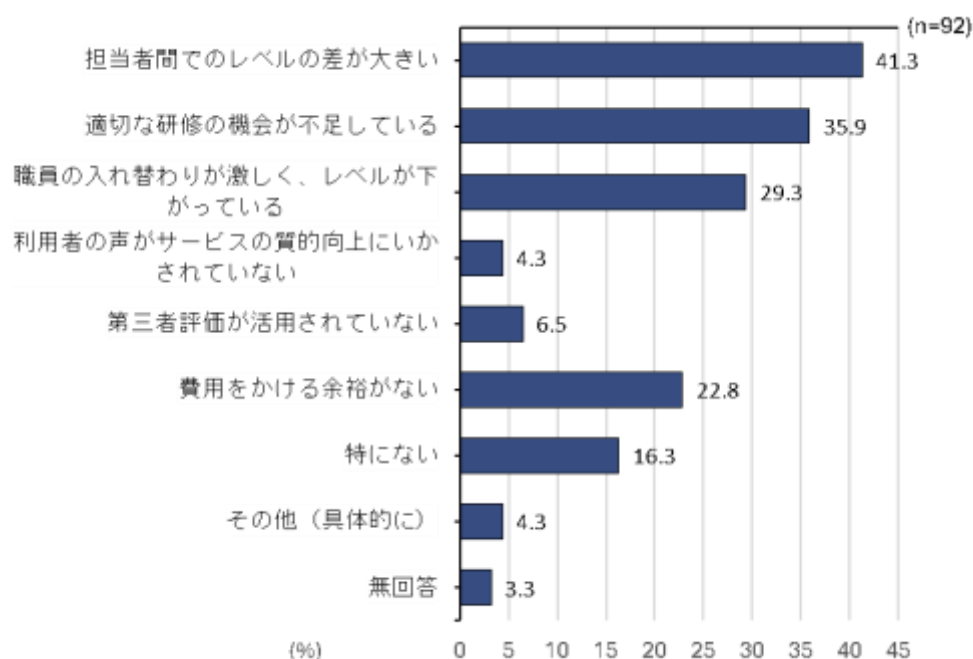
サービスの質を高めるために貴事業者が行っていることはどんなことですか。(○はいくつでも)

「利用者の苦情や不満をくみ取る」が 64.1%で最も高く、次いで「研修等を実施し、職員の能力向上を図る」が 56.5%となっている。その他、「利用者及び家族との面談の時間を十分にとる」(37.0%)が比較的高くなっている。



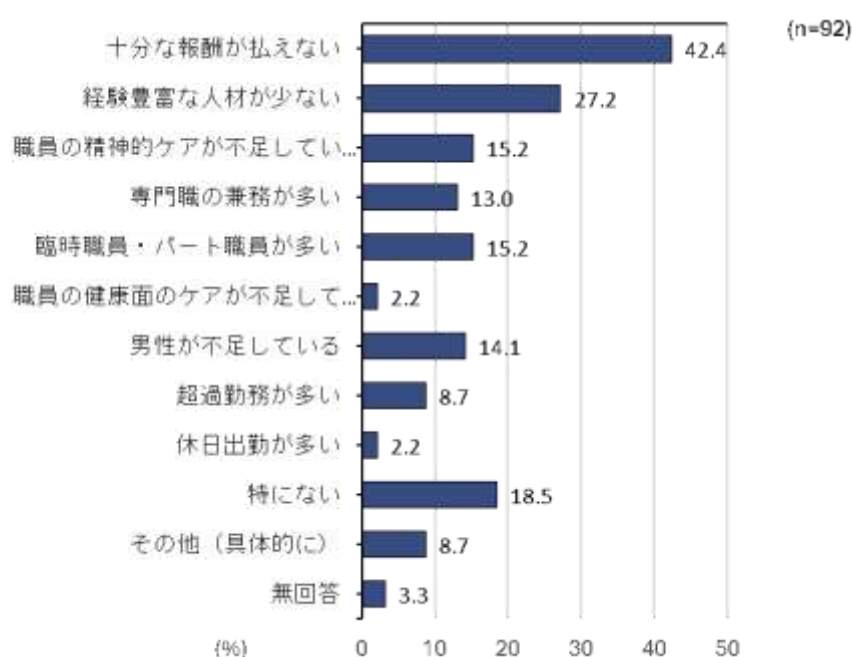
介護知識や介護技術などをレベルアップし、サービスの質的向上を図るうえでの課題は何だと思いますか。(○はいくつでも)

「担当者間でのレベルの差が大きい」が41.3%で最も高く、次いで「適切な研修の機会が不足している」が35.9%となっている。その他、「職員の入れ替わりが激しく、レベルが下がっている」(29.3%)が比較的高くなっている。



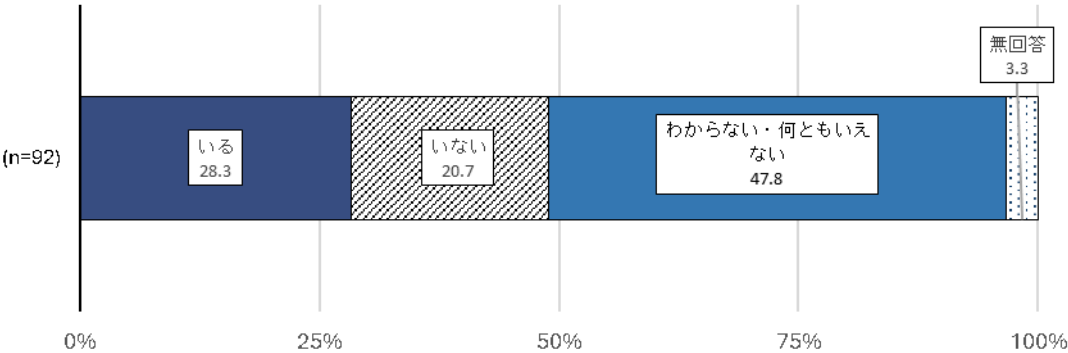
事業者における職員の雇用・勤務面での課題は何ですか。(○はいくつでも)

「十分な報酬が払えない」が42.4%で最も高く、次いで「経験豊富な人材が少ない」が27.2%となっている。その他、「特にない」(18.5%)が比較的高くなっている。



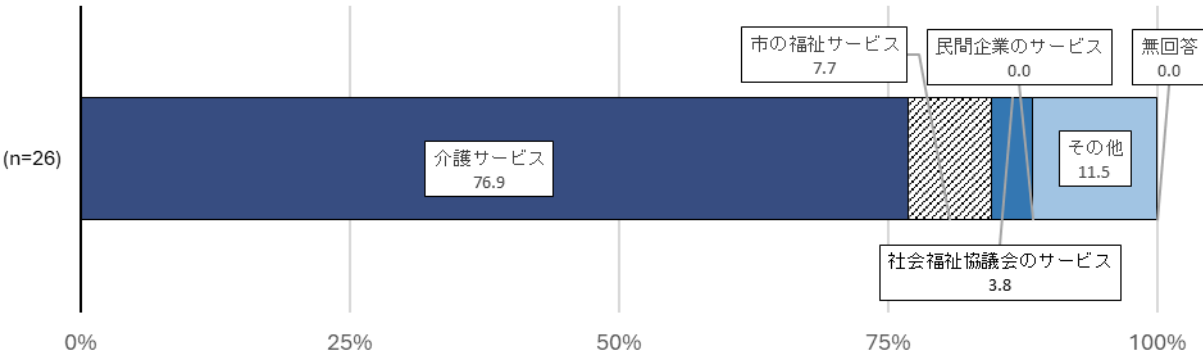
貴事業者がサービスを提供したり利用者から声を聞く中で、支援が必要であるにもかかわらず、福祉サービスの利用に結びついていない高齢者はいますか。

「わからない・何ともいえない」が47.8%で最も高く、次いで「いる」が28.3%となっている。



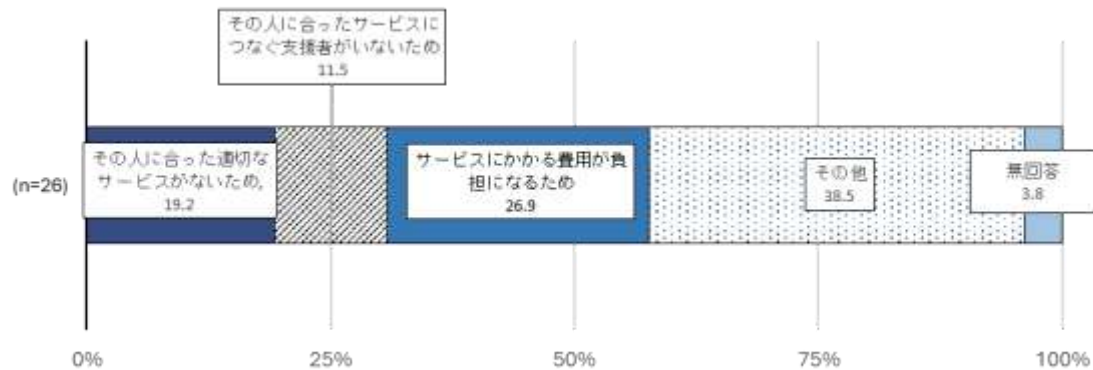
(「いる」を選択された方)結びついていないサービスは次のうちどれですか。

「介護サービス」が76.9%で最も高く、次いで「市の福祉サービス」が7.7%となっている。



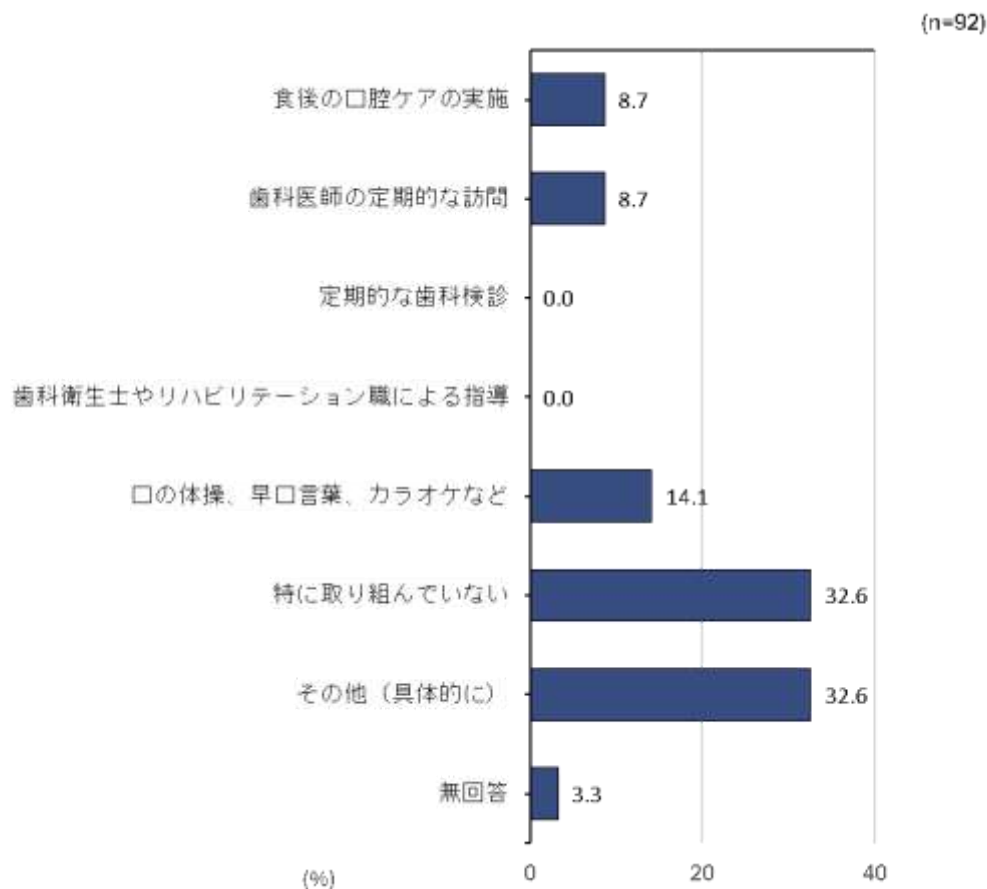
（「いる」を選択された方）結びついていない理由は次のうちどれですか。

「サービスにかかる費用が負担になるため」が 26.9%と最も高く、次いで「その人に合った適切なサービスがないため」が 19.2%となっている。



貴事業者は、歯や口腔の健康づくりについて、どのようなことに取り組んでいますか。

「特に取り組んでいない」が 32.6%で最も高く、次いで「口の体操、早口言葉、カラオケなど」が 14.1%となっている。



貴事業者では、利用者からどのような声をよく聞きますか。

- 運動の必要性や、自宅でできる運動等。
- 感謝の言葉が多い。
- 独居の方は非常に多く、通所サービス・訪問介護等のサービスを受けていても、生活自体は成り立っているが、心のケア(さみしさ、充実感の欠如)はなかなか埋まらない。近親者もなかなか来れない状況の方が多くいる。
- 事業所単位では聞いたことがない
- 最近は利用者家族もテレビでのニュースで情報を得ていることもあり、ケアマネジャーに対する「シャドーワーク」の問題が認識され始めていると感じる。ケアマネジャーのシャドーワーク問題が認知されるようになれば、医療機関や介護サービス事業所も含めて、雑用的なことをケアマネジャーに依頼してくることも少なくなってくるのではないかと。
- 感謝の言葉を多くいただきますが、サービスとしてまだまだいろいろできるため、薬局ができるサービスをもっと周知したいです。≡患者様が薬局がどういうサービスができるか理解していない
- 感謝の言葉をいただいている。「こんなにやってもらって(サービス)ありがとうございます。」
- 一人暮らしだからデイサービスでみんなとお話できるのが嬉しい。
- 一人暮らしで昼食、夕食を食べて帰ることができて安心。
- 利用者は認知症が進行して意思疎通が困難な方が多い。施設入居者の家族に訪問歯科診療の希望を確認してから行っている
- 楽しい
- 庭の手入れ、ペットの世話、窓掃除
- 訪問看護なのに、ここまでしてくれて助かると言ったお声を頂いております。
- サービスの空きがない
- タクシー券が欲しい。何かあった時、すぐに入れる施設はないか、美味しい配食サービスはないか。
- ”リハビリをもっとやりたいという声はよく聞く。リハビリのセラピストの介入はもちろん、介護職もフロアリハビリを実施。それでも足りない部分があるが、レクの実施や日中の過ごし方の工夫により改善していきたい。
- 助かります。ありがとう。

4. ケアマネジメントについて(該当事業者のみ)

現在不足していると感じるサービスは何ですか。(〇はいくつでも)

「訪問介護」が33.3%で最も高く、次いで「介護老人福祉施設」が22.2%となっている。その他、「短期入所生活介護(介護予防)」(19.4%)、「介護老人保健施設」(19.4%)が比較的高くなっている。

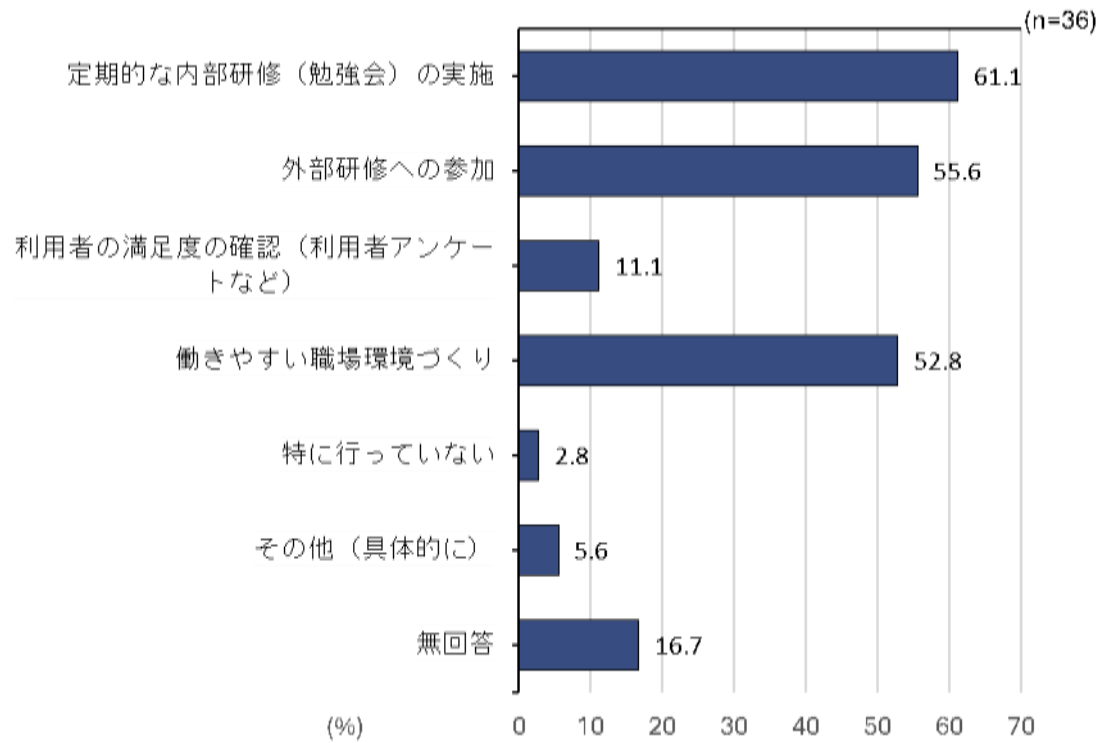


不足と感じている理由は何ですか。

- 受入を断られる。
- ショートステイ、ロングショートステイの空きがない。
- 介護老人福祉施設の空きが出ないためなかなか入所できない。
- 訪問入浴の事業所が市内に 3 事業所のみ。
- 働き方改革もあり、土日や時間帯によってヘルパーが不足。ヘルパーの高齢化や成り手不足もあり、依頼しても断られるケースが増えている。
- 通所リハ・市内通所リハが2か所しかなく選択肢が少ない。
- 夜間対応が大変で、在宅での生活を希望している人が疲れている。
- PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)がいない。OT、ST の充実で在宅生活が続けられることも多い。
- 予防の方を受けてもらえないので依頼しても待つことがある。
- 受け入れがない事業所があり、決まるまで利用者は待たされる。
- 病院受診の同行サービス(送迎付き)が必要。高齢、認知症、独居で家族も仕事で多忙だと受診すること自体困難になりがち。通院できず、薬もないまま状態が悪化する恐れがある。
- 認知症で医師の話や薬のことを覚えていられない方は、同行者が必要だが、家族が対応できない場合、ケアマネが同行することがある(数時間かかるが、無報酬)。
- 介護予防訪問型サービスでは他市の事業所が習志野市へ登録(申請)をしていないと依頼できないため、選択肢が少なくなってしまう。予防の報酬が少なく、支援を受けない事業所が増えたから。
- 買い物支援などの場合、近くにスーパー等がなく、少し離れると時間に制限があるため、ヘルパー不足により行けない。
- 介護度にあった回数での利用ができない(要支 2 で週 2 回使えるはずでも、空きがない)
- 有料老人ホームは値段が高い。
- ケアマネ自体の応募がない。介護老人保健施設のケアマネはいるが、年齢層も高くなってきており、将来的に不安である。居宅は現在 3 名、最低でも 4 名体制にし、地域のニーズに応えられる体制を作りたい。

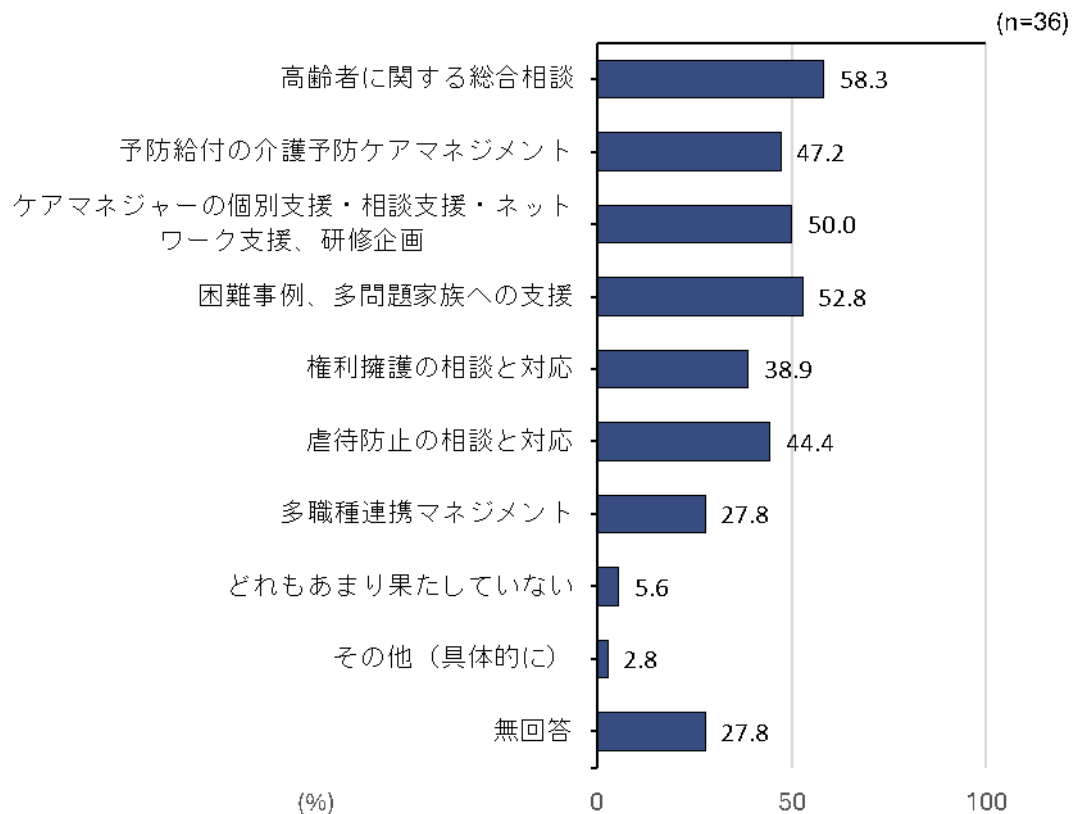
ケアマネジャーの質を高めるために行っていることは、どんなことですか。(〇はいくつでも)

「定期的な内部研修(勉強会)の実施」が61.1%で最も高く、次いで「外部研修への参加」が55.6%となっている。その他、「働きやすい職場環境づくり」(52.8%)が比較的高くなっている。



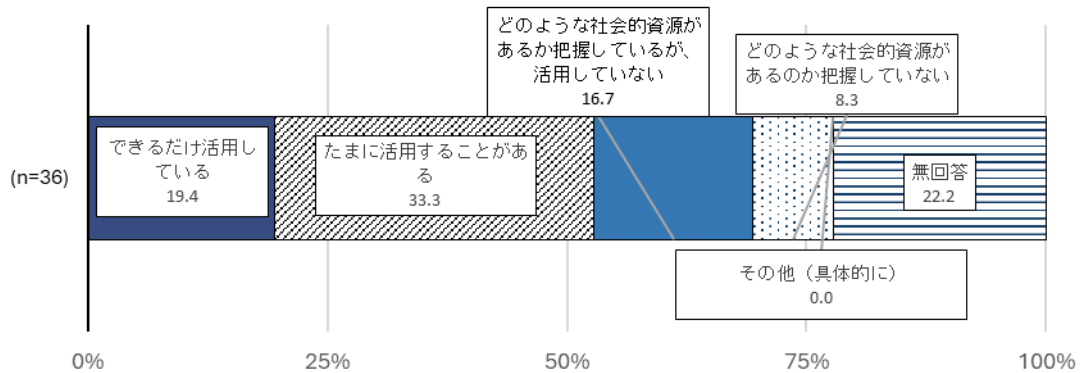
高齢者相談センター(地域包括支援センター)は、次のような役割を担っております。役割を果たしていると考えるものを選んでください。(〇はいくつでも)

「高齢者に関する総合相談」が58.3%で最も高く、次いで「困難事例、多問題家族への支援」が52.8%となっている。その他、「ケアマネジャーの個別支援・相談支援・ネットワーク支援、研修企画」(50.0%)、「予防給付の介護予防ケアマネジメント」(47.2%)、「虐待防止の相談と対応」(44.4%)が比較的高くなっている。



ケアプランを作成する際に、インフォーマルなサービスを活用して立っていますか。

「たまに活用することがある」が 33.3%で最も高く、次いで「できるだけ活用している」が 19.4%となっている。

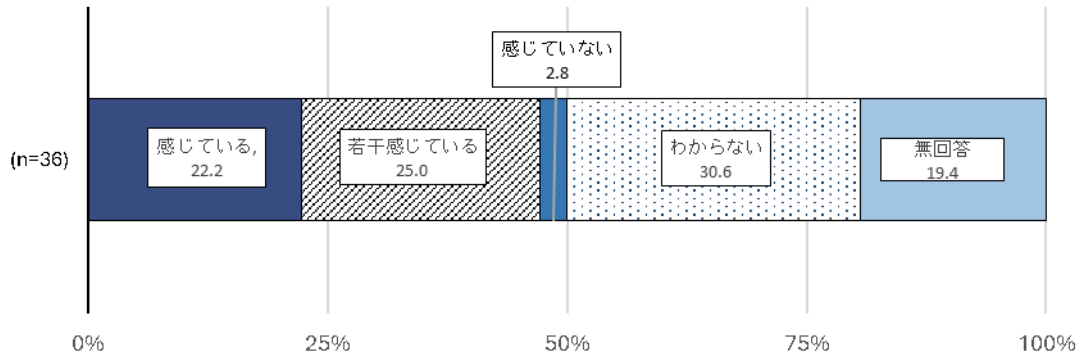


（「できるだけ活用」または「たまに活用」を選択された方）活用した／しているのはどのようなインフォーマルサービスですか。

- ☐ ワンコインサービスや傾聴ボランティアなど。
- ☐ 日常生活自立支援事業、社協の外出支援（無料）
- ☐ 配食サービス
- ☐ 訪問理容
- ☐ 介護保険外の福祉要員、訪問介護
- ☐ 高齢者の集いの場 高齢者の体操
- ☐ ゴミ収集事業、オムツ給付
- ☐ 介護タクシー、地域の見守り（配食サービス、新聞配達 etc.）
- ☐ 家族、社会資源
- ☐ 近隣住民との協働
- ☐ 戸口収集、保険外のマッサージ
- ☐ 訪問マッサージ等
- ☐ 安否確認
- ☐ 知人、友人、民生委員・地域の体操教室
- ☐ 緊急通報装置 福祉電話
- ☐ 自費ヘルパー、病院受診の送迎

他事業所のケアマネジャーについて、ケアマネジャーの対応に差があると感じていますか。

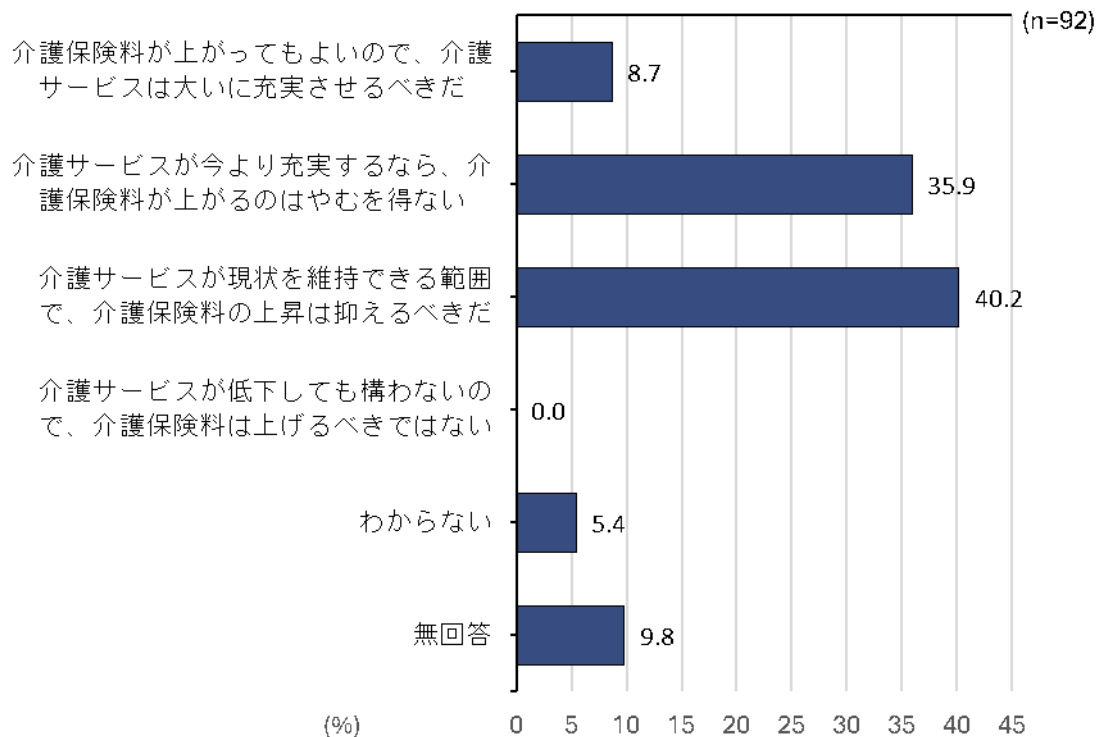
「わからない」が 30.6%で最も高く、次いで「若干感じている」が 25.0%となっている。



5. 今後の高齢者介護について

介護保険は急速に利用が増え、現状のまま伸びていくと、将来の介護保険料は現在よりもかなり高額になることが予測されます。介護サービスの維持・充実と介護保険料のバランスについて、どう考えますか。

「介護サービスが現状を維持できる範囲で、介護保険料の上昇を抑えるべきだ」が40.2%で最も高く、次いで「介護サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない」が35.9%となっている。



高齢者への介護サービスの充実のため、行政にどのようなことを希望しますか。(〇はいくつでも)

「認知症への正しい理解の普及・啓発、認知症の方とその家族を支える体制づくり」が45.7%で最も高く、次いで「高齢者を支える連携体制(地域・事業者・ボランティアなど)の構築」が33.7%となっている。その他、「介護サービスと医療サービスの連携体制の構築」(32.6%)、「介護が必要にならないような予防施策の充実」(30.4%)、「家族で介護ができるような家族支援策の充実」(29.3%)、「高齢者が安心して住めるための住み替えなどの住宅施策」(28.3%)が比較的高くなっている。



6. ご意見・ご要望

貴事業者は、自治体にどのような支援をしてほしいですか。

①人材・人手不足

- ・ 人手不足の解消のため、給与が安定するとよく、医療と同様に必要な分野として介護への関心を高める必要がある。
- ・ 給与は増えない一方で業務量が増加しており、介護職の負担が大きくなっている。
- ・ 離職率が高く、人間関係や事業所方針への不一致などが影響している。
- ・ 人材確保と育成により、質の高いサービス提供を維持・向上させる必要がある。
- ・ 介護予防や自立支援を進めるためには、職員の確保と定着が不可欠である。
- ・ 福祉体験の機会や資格取得支援、移住支援など人材確保につながる施策が必要である。
- ・ 人材不足や財源の状況から、現状の介護保険サービスの維持が難しいと感じる。

②介護保険制度について

- ・ 制度が将来にわたり継続できるよう、公平性や自立支援を重視した見直しが必要である。
- ・ 必要な人に必要なサービスを提供できる制度とし、利用者のニーズに応じた選択が可能となるようにする必要がある。
- ・ 要支援のまま介護度が変わらず、サービス量を増やせないケースがある。
- ・ 財源制約の中で制度運営が難しく、公正中立な支援のあり方が求められる。
- ・ 今後の制度改正が事業所経営に大きな影響を与えると考えられる。
- ・ 介護保険を利用しない人への保険料減額制度の検討が必要である。

③サービス提供体制

- ・ 事業所間の横の連携が取りづらく、連携を支援する仕組みが必要である。
- ・ 医療から介護への引き継ぎ時に、医療側の制度理解が不十分な場合がある。
- ・ サービス終了後の利用者の引継ぎやフォロー体制に課題がある。
- ・ 職場環境が良好であることが、利用者へのサービスにも影響すると考えられる。
- ・ 事業所の大規模化により人件費を確保し、マンパワーを維持して安定したサービス提供にかなげる必要がある。
- ・ サービスの維持が難しくなっており、過剰なサービスの見直しも必要である。
- ・ 医療依存度の高い利用者が増え、老健の運営が厳しくなっている。
- ・ 加算取得のための書類業務が多く、業務負担に見合っていない。
- ・ ケアマネジャーのシャドーワークが課題とされているが十分に解消されていない。

④利用者の経済的負担

- ・ 単位数の上限により自費負担が発生しているケースがある。
- ・ 利用者の生活費負担が増加しており、これ以上の自己負担増は困難な状況である。
- ・ 低所得者に対する通院介助などの支援が不足している。
- ・ 自治体による運営費や処遇改善の補助制度の導入が必要である。
- ・ 独居高齢者の増加を見据え、金銭管理や保証サービスを含めた支援が必要である。

⑤情報提供・理解促進

- ・ 介護サービスの利用方法や制度への理解が十分でない利用者がある。
- ・ 有償ボランティアの仕組みが理解しづらく、内容が分かりにくい。

⑥予防・自立支援

- ・ 介護度の維持・改善を進めることが介護費の増加抑制につながると考えられる。
- ・ 認知症は予防段階での介入が重要であり、早期対応が必要である。

第Ⅱ部 総括・整理

第7章 生活機能等の状況(一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果より)

本章では、一般高齢者及び要支援者・事業対象者への調査結果を基に、日常生活における生活機能や社会参加の状況を把握するとともに圏域ごとにその傾向を整理している。

1. 生活機能

(1) 運動器の機能低下

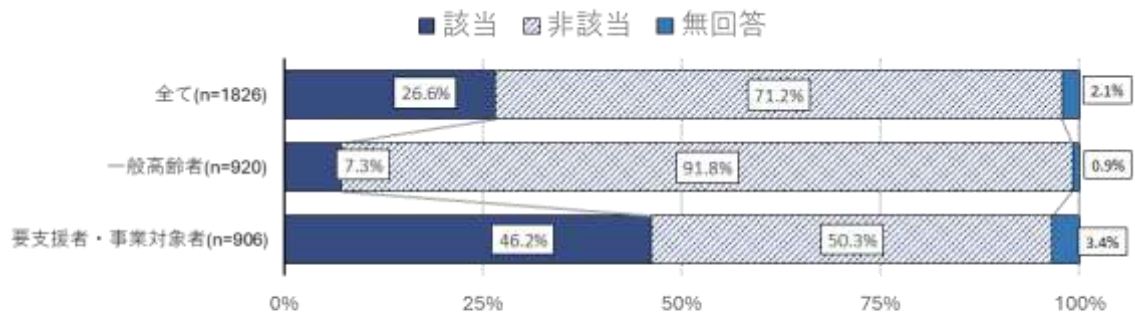
国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、5 項目のうち 3 項目に該当する人を「運動器の機能低下」のリスク該当者として整理した。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
15 分位続けて歩いていますか	できない
過去 1 年間に転んだ経験がありますか	何度もある 1 度ある
転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である やや不安である

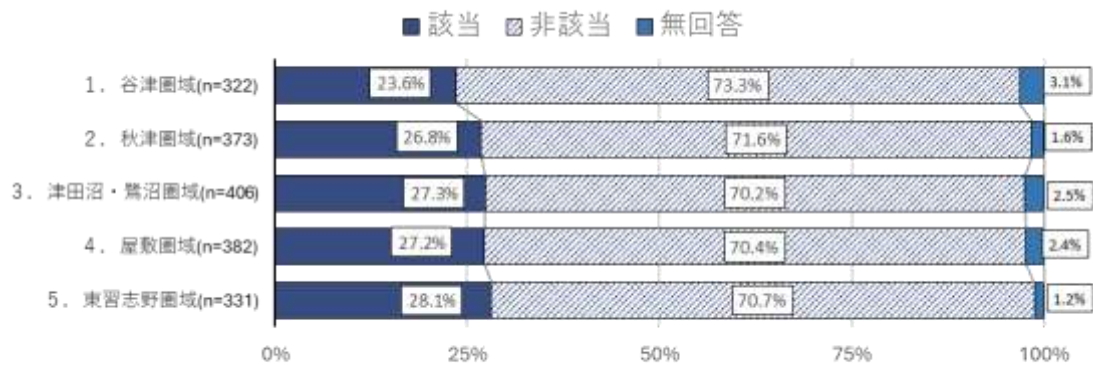
【調査区分別】

「運動器の機能低下」のリスク該当者は、全体で 26.6%となっている。調査区分別に見ると、要支援者・事業対象者で該当が 46.2%と、一般高齢者よりも 38.9 ポイント高い。



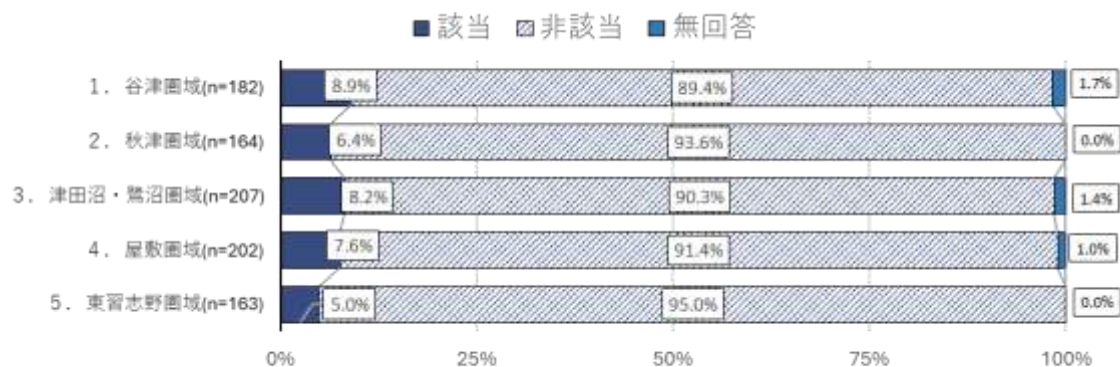
【圏域別】

圏域別でみると、東習志野圏域が 28.1%で最も高いが、いずれの圏域も大きな差はみられない。



■一般高齢者

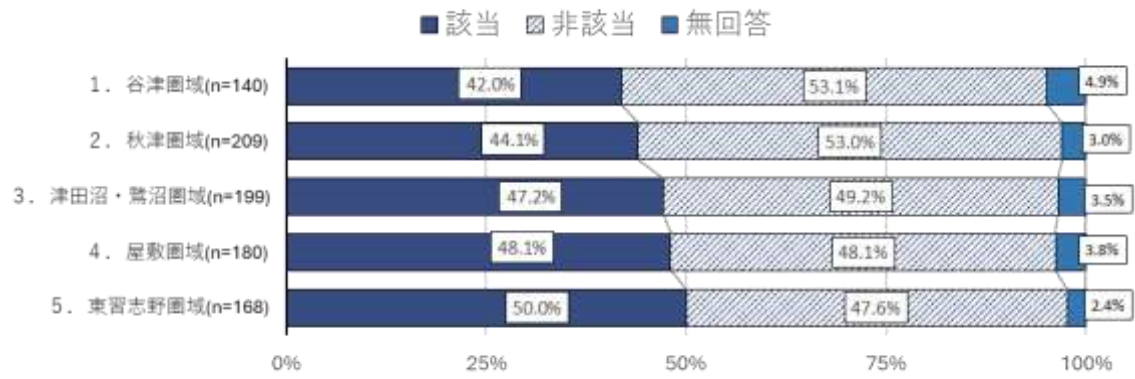
一般高齢者を圏域ごとに見ると、該当者は1割弱である。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、東習志野圏域の該当者の割合がやや高い。

第 7 章生活機能等の状況(一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果より)



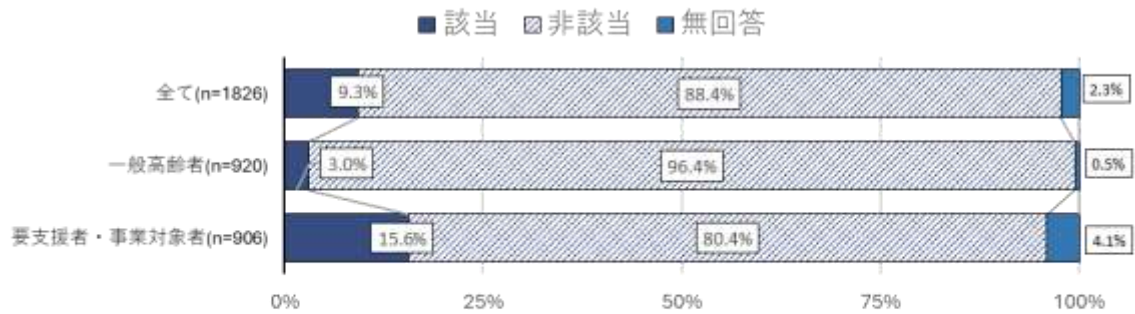
(2) 閉じこもり傾向

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を閉じこもり傾向のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない 週1回
令和6年と比べて外出の回数が減っていますか	とても減っている 減っている

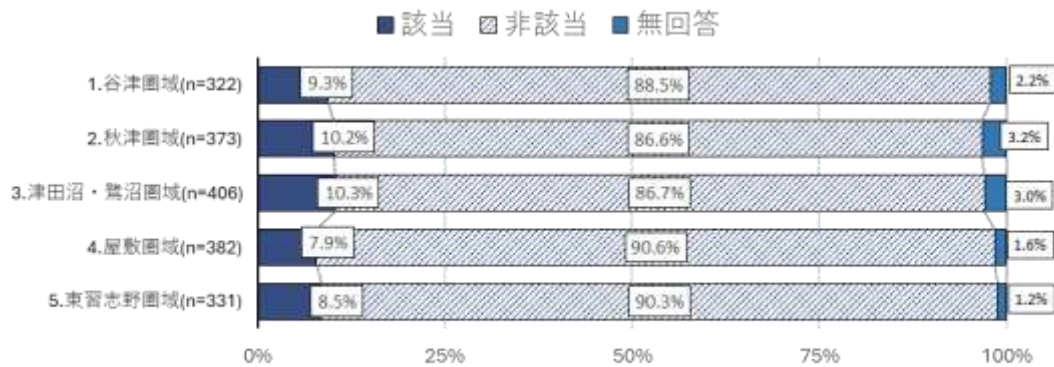
【調査区分別】

調査区分別に見ると、要支援者・事業対象者に該当率が高く、**15.6%**となっている。



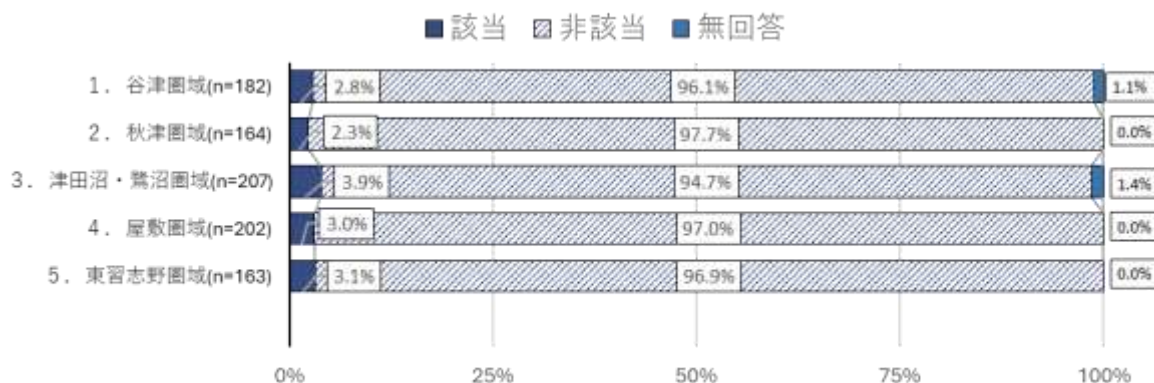
【圏域別】

全体的には、圏域ごとの大きな差はない。



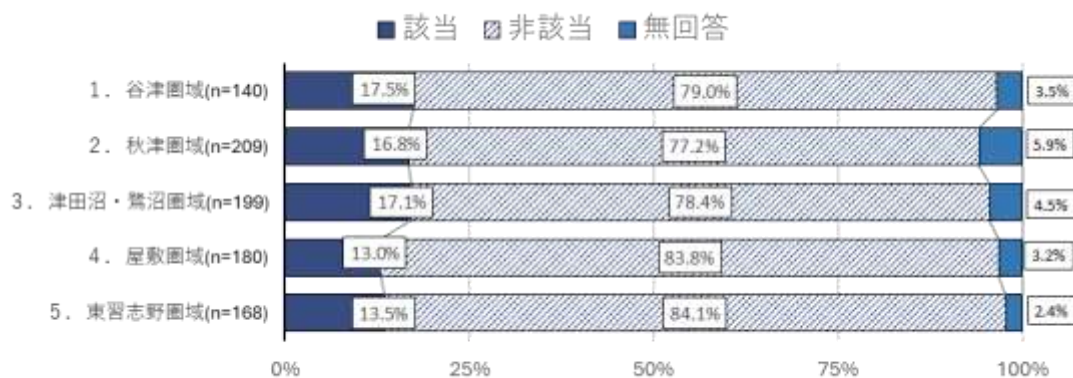
■一般高齢者

一般高齢者の該当者を圏域ごとに見ると、津田沼・鷺沼圏域にわずかに多いが、他圏域と大きな差はなく、全体的に 3%前後に収まっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者の該当者を圏域ごとに見ると、谷津圏域の該当率が17.5%とやや高い。



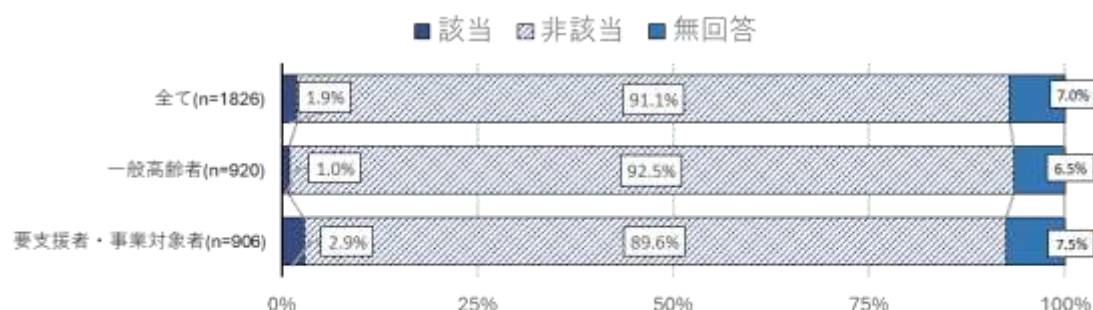
(3) 低栄養の傾向

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を「低栄養傾向」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
身長・体重をご記入ください。	BMI18.5 未満
6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	はい

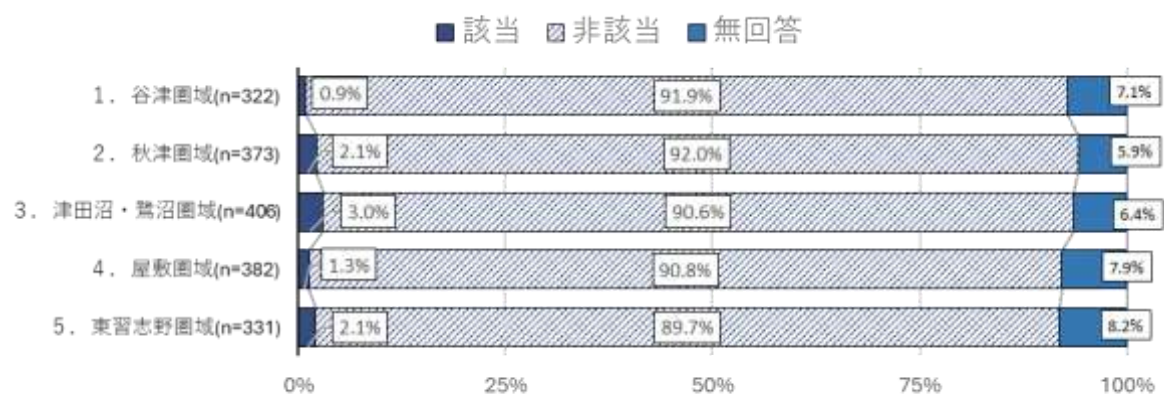
【調査区分別】

全体で見ると、低栄養の該当者は **1.9%** となっている。区分ごとの大きな差は見られない。



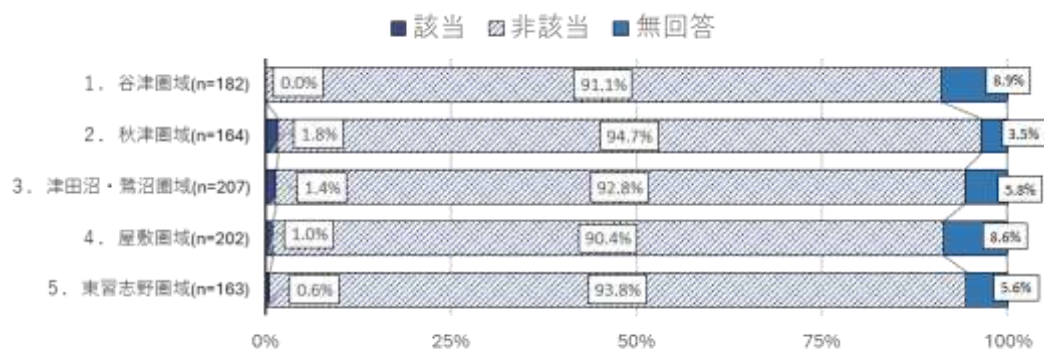
【圏域別】

圏域ごとでの大きな差は見られない。



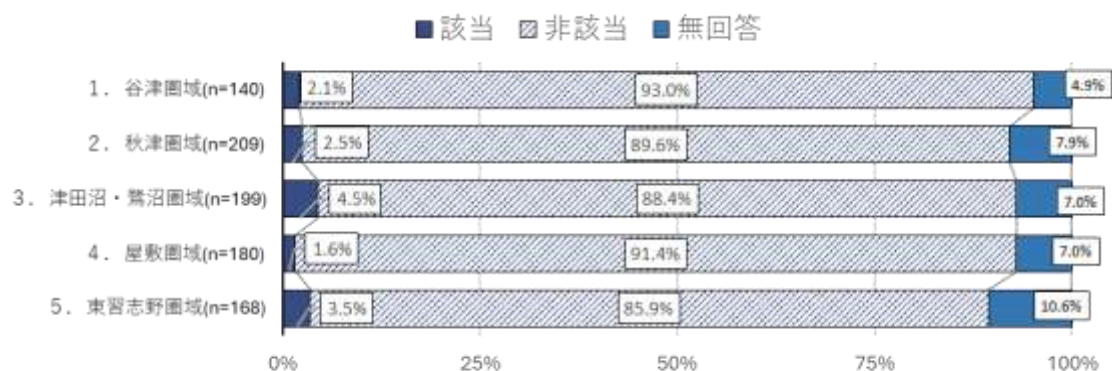
■一般高齢者

圏域ごとでの大きな差は見られず、該当者は2%以内に収まっている。



■要支援者・事業対象者

圏域ごとでの大きな差は見られず、該当は5%以内に収まっている。



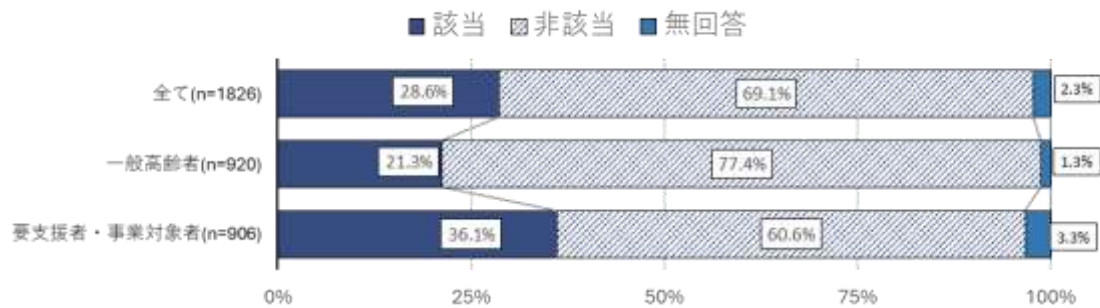
(4) 口腔機能の低下

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を「口腔機能低下」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい
お茶や汁物等でむせることがありますか	はい
口の渇きが気になりますか	はい

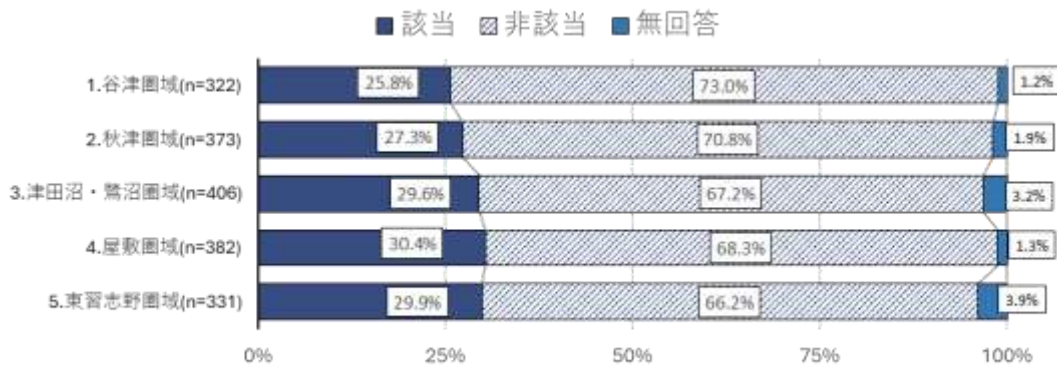
【調査区分別】

全体でみると該当率は3割未満だが、調査区分ごとにみると要支援者・事業対象者では該当率36.1%とやや高くなっている。



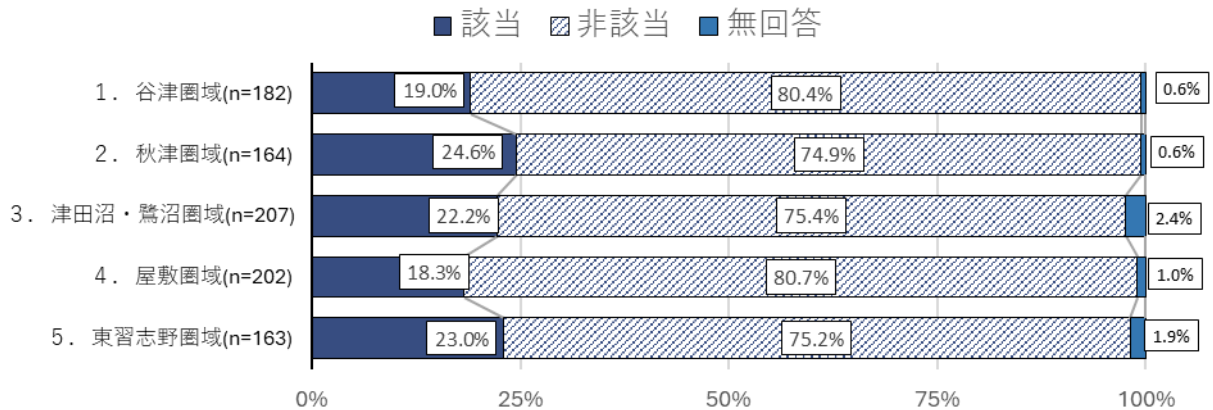
【圏域別】

圏域ごとに見ると、**屋敷**圏域の該当率がわずかに高い。



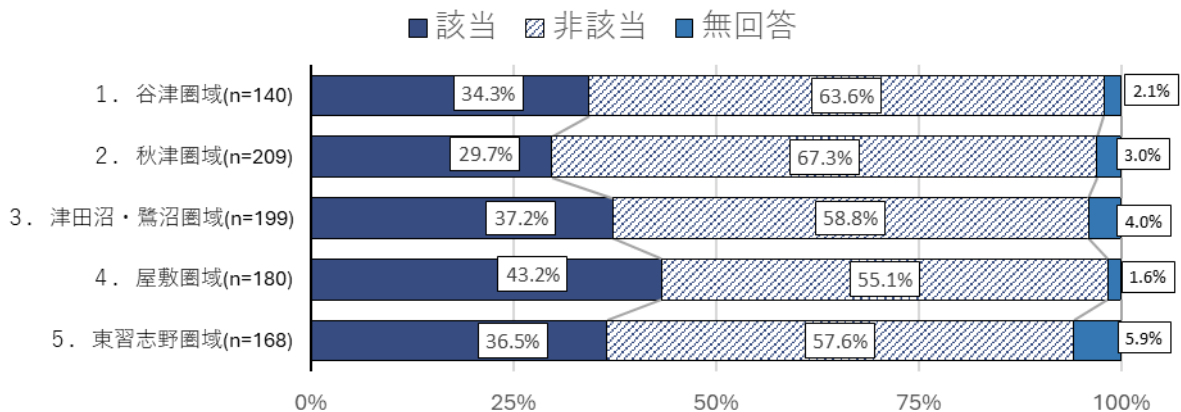
■一般高齢者

一般高齢者の該当者を圏域ごとに見ると大きな差は見られないが、**秋津**圏域がわずかに高い。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、該当率はそれぞれ3割～4割程度と大差はないものの、**屋敷**圏域がわずかに高い。



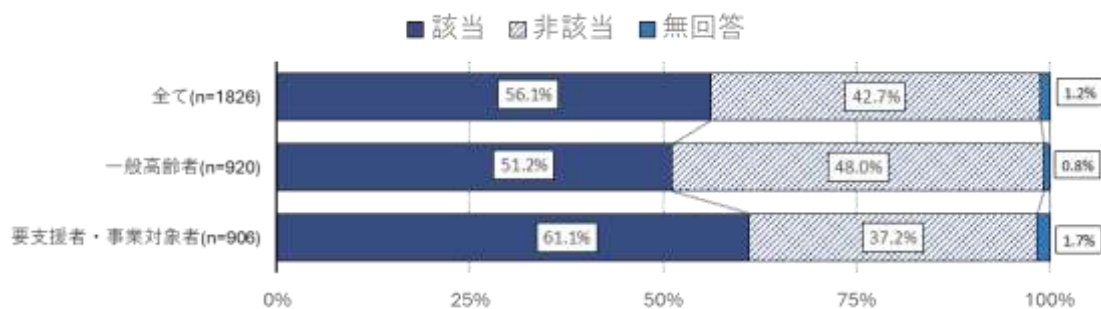
(5) 認知機能の低下

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち1項目以上に該当する人を「認知機能の低下」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
物忘れが多いと感じますか	はい
自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	いいえ
今日が何月何日かわからない時がありますか	はい

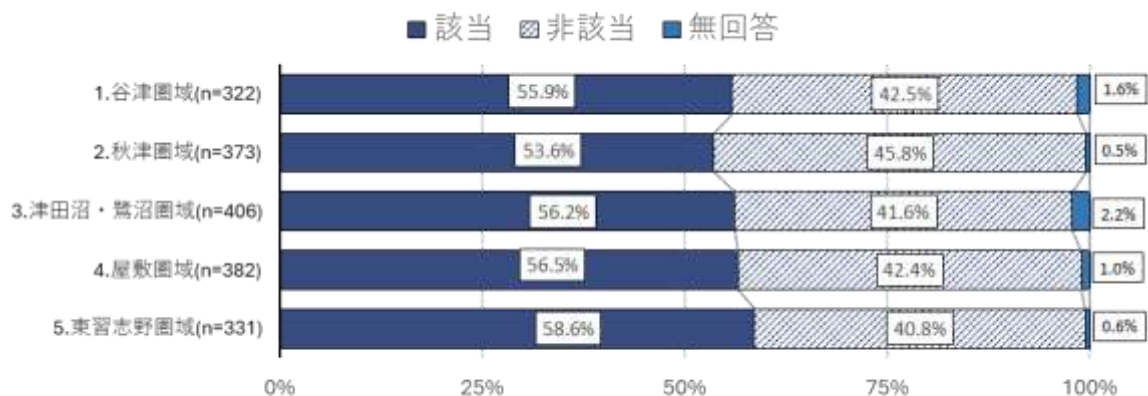
【調査区分別】

全体で見ると半数以上が該当している。また、調査区分ごとに見ると要支援者・事業対象者で6割以上が該当している。



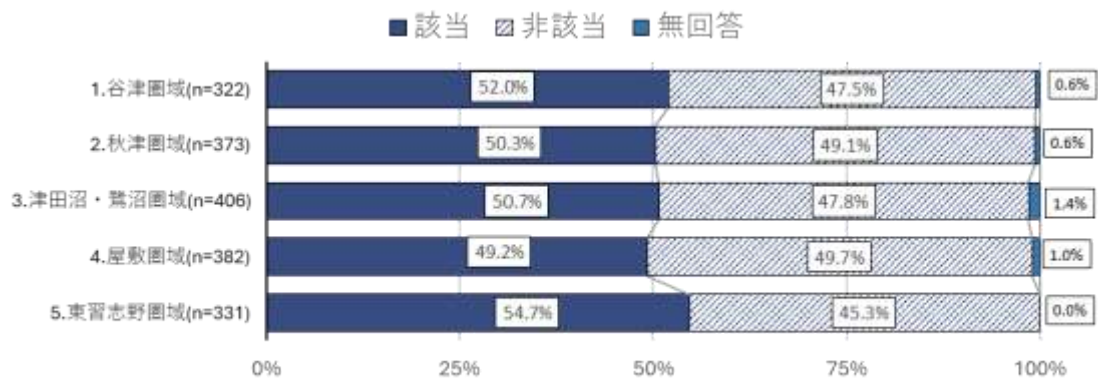
【圏域ごと】

圏域ごとでの大きな差は見られない。



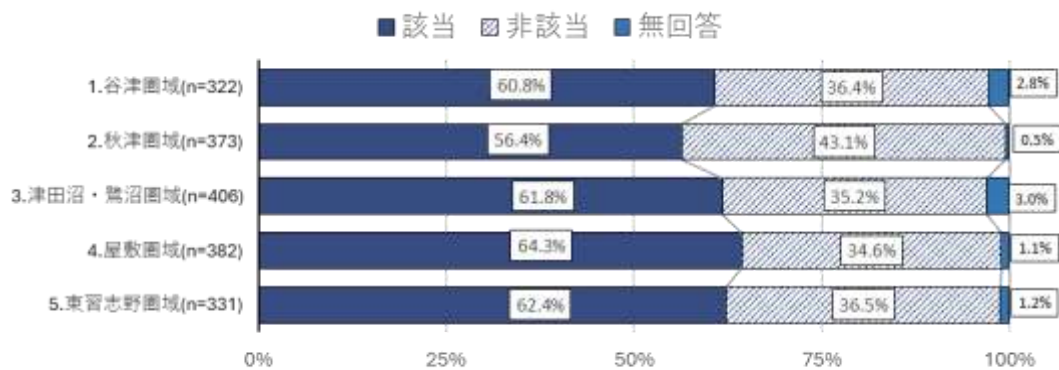
■一般高齢者

一般高齢者を圏域ごとに見ると**東習志野圏域**の該当率が **54.7%**とわずかに高くなっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者の該当者を圏域ごとに見ると、**屋敷圏域**が **64.3%**と高くなっている。



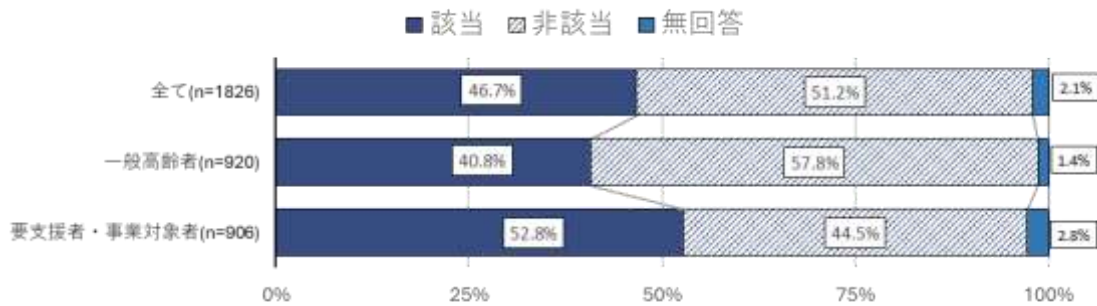
(6) うつ傾向

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のいずれかに該当する人を「うつ傾向」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい

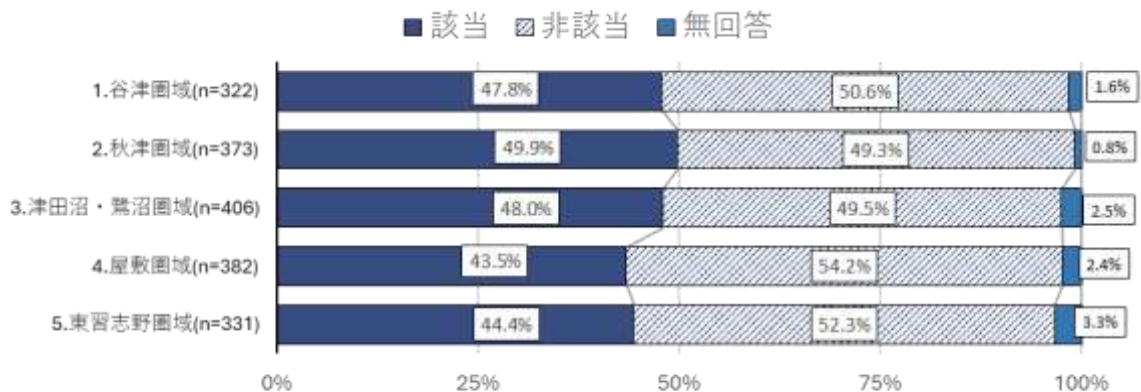
【調査区分別】

全体でみると該当率は46.7%だが、要支援者・事業対象者においては52.8%と6.1ポイント高い。



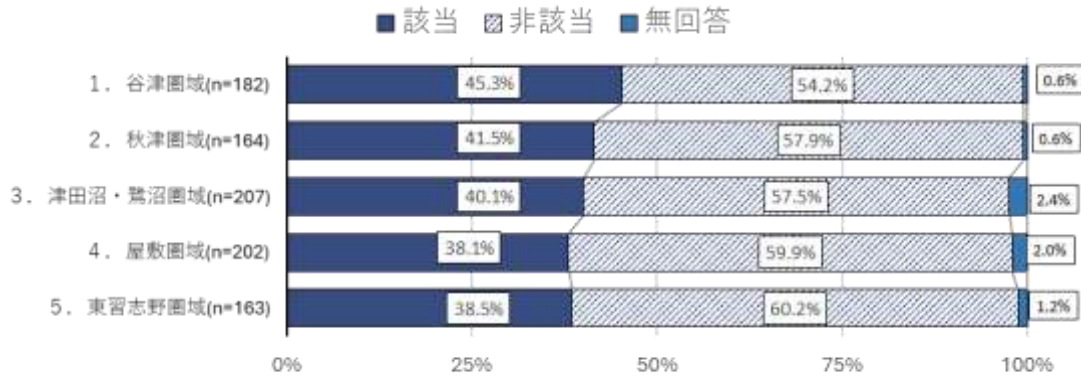
【圏域別】

圏域別にみると、秋津圏域の該当率が49.9%と高くなっている。



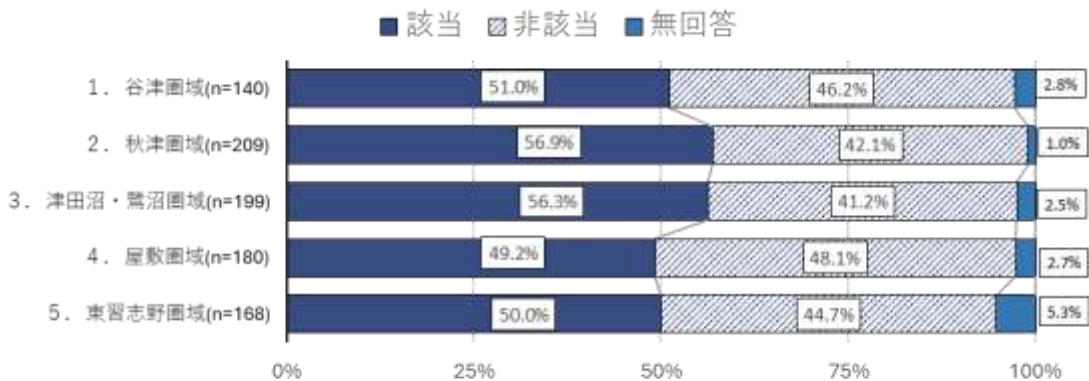
■一般高齢者

一般高齢者の該当者を圏域ごとに見ると、それぞれ 40%前後となっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、**秋津圏域**が該当率 56.9%と高くなっている。



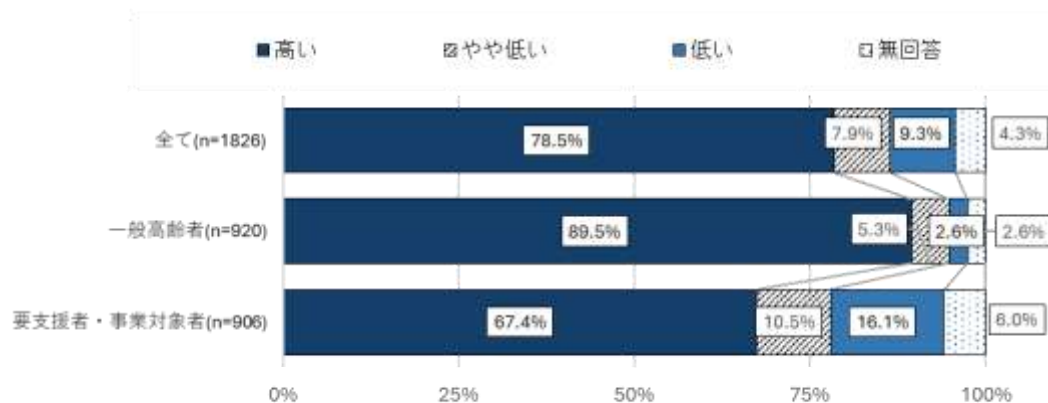
2. 手段的自立度(IADL)

老研式活動能力指標に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力(手段的自立度:IADL)が低下している人の状況を把握する。評価は、以下の設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価し、整理した。

設問	該当する選択肢
バスや電車を使って1人でがいしゅつしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で食品・日用品の買い物をしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で食事の用意をしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で請求書の支払いをしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で預貯金の出し入れをしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)

【調査区分別】

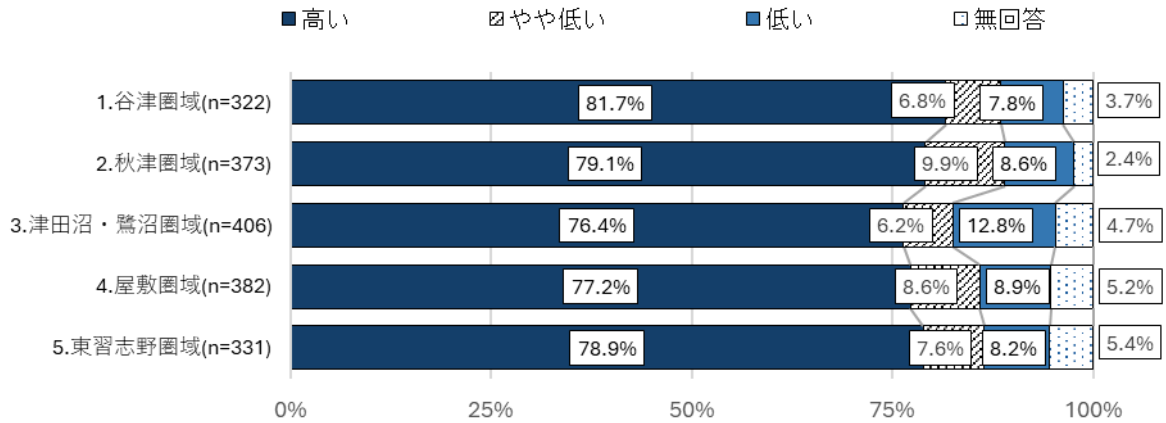
全体で見ると低下者(「やや低い」「低い」の計)の割合は **17.2%** となっている。調査区分ごとに見ると要支援者・事業対象者で低下者の割合が **26.6%** と高くなっている。



【圏域別】

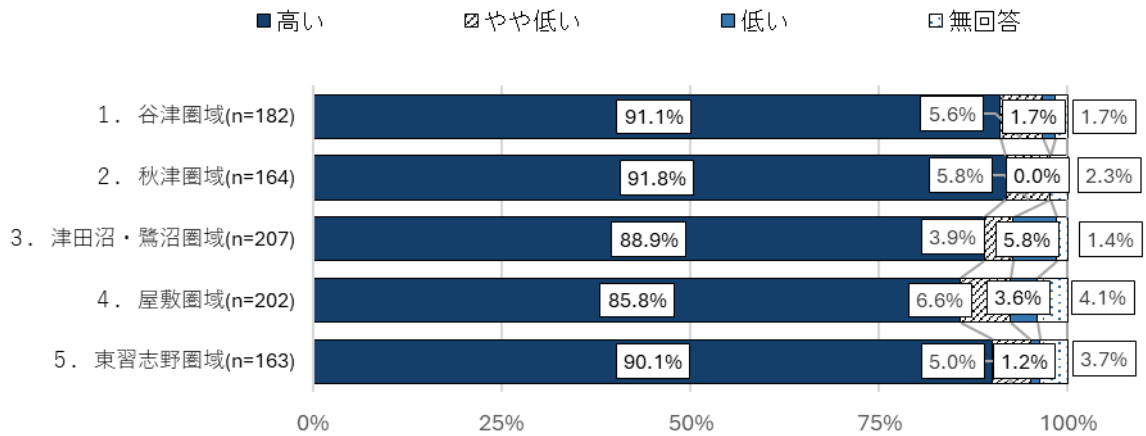
圏域別にみると、津田沼・鷺沼圏域の低下者が 19.0%と高くなっている。

第 7 章生活機能等の状況(一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果より)



■一般高齢者

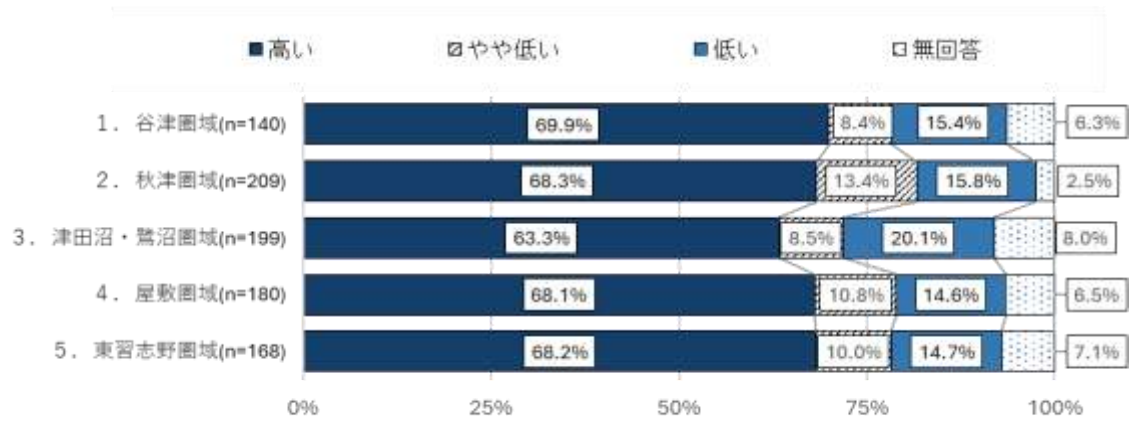
一般高齢者では圏域ごとに大差はない。低下者はそれぞれ 1 割程度となっている。



■要支援者・事業対象者

秋津圏域において低下者の割合が 29.2%とやや高くなっている。

第 7 章生活機能等の状況(一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果より)



3. 社会参加

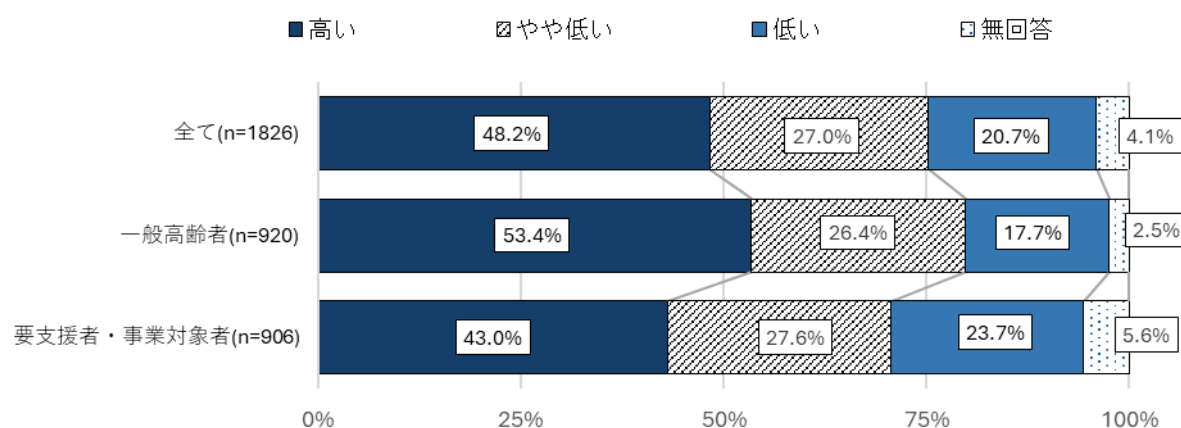
(1) 知的能動性

国の手引きに基づき、高齢者の余暇や創作など生活を楽しむ能力(知的能動性)の低下している人を把握する。調査票の以下の設問を抽出「はい」と回答した場合を 1 点として、4 点を「高い」、3 位を「やや低い」、2 点以下を「低い」として整理した。

設問	該当する選択肢
年金などの書類が書けますか	はい(1 点)
新聞を読んでいますか	はい(1 点)
本や雑誌を読んでいますか	はい(1 点)
健康についての記事や番組に関心がありますか	はい(1 点)

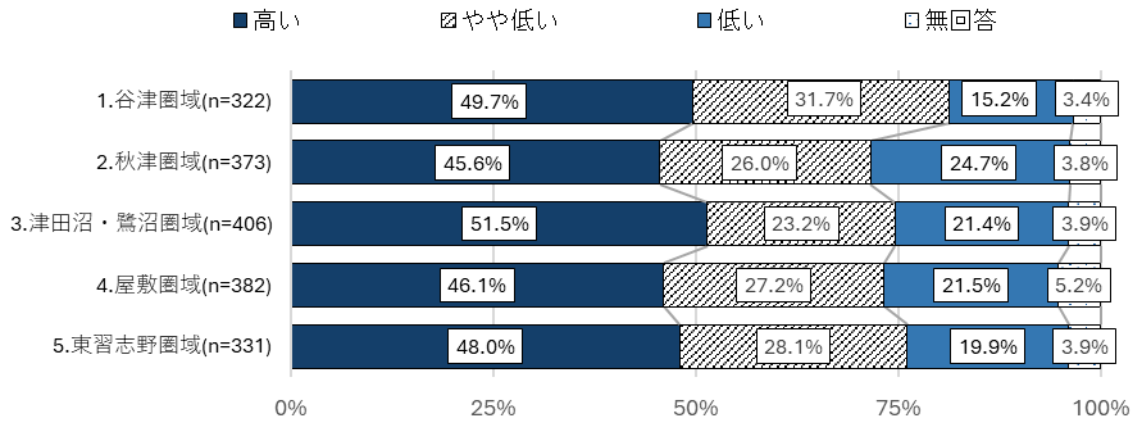
【調査区分別】

全体を見ると、低下者(「やや低い」と「低い」の計)が半数程度である。調査区分ごとに見ると、要支援者・事業対象者において低下者が **51.3%**とやや高い。



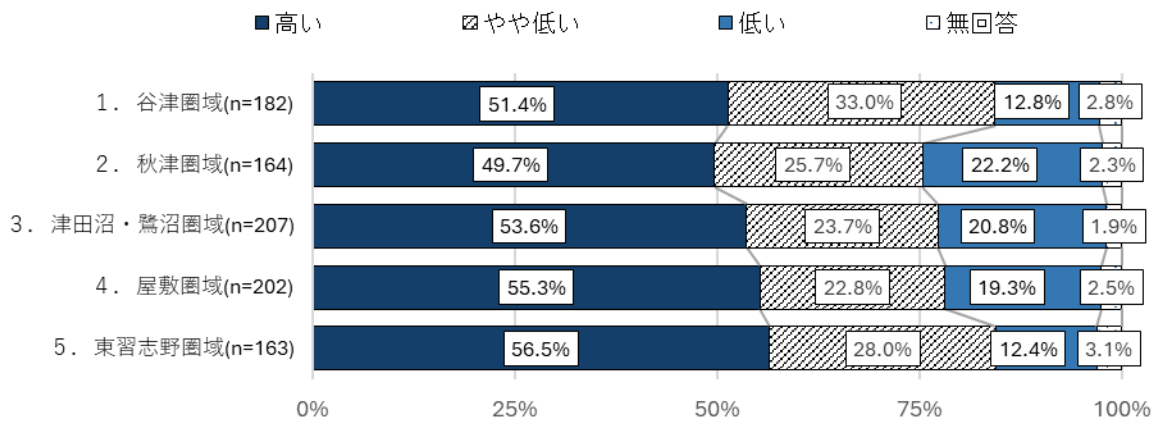
【圏域別】

圏域別にみると、秋津圏域の低下者が 50.7%と高くなっている。



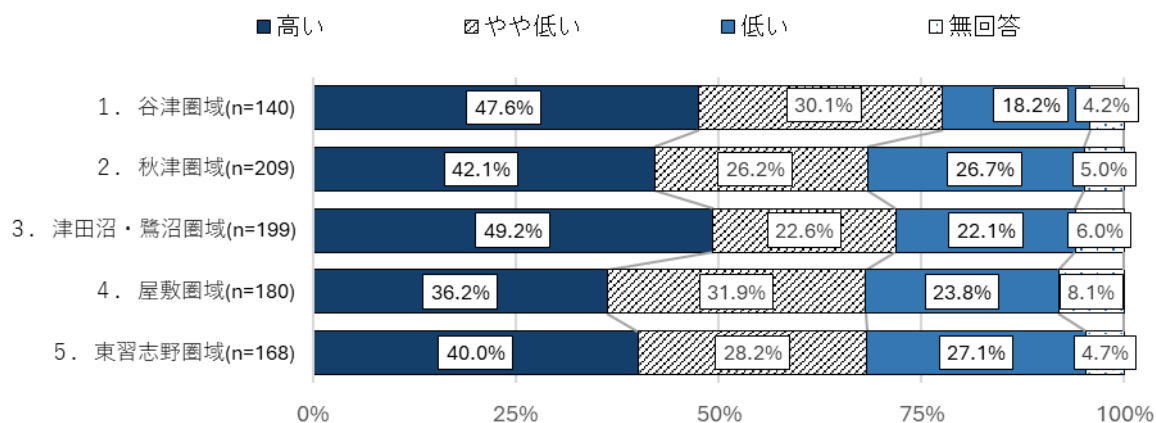
■一般高齢者

秋津圏域と谷津圏域において、低下者が 47.9%とやや高くなっている。逆に、東習志野圏域では低下者がやや少なく、40.4%である。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者においては、東習志野圏域、屋敷圏域の低下者がそれぞれ 55%以上となっている。



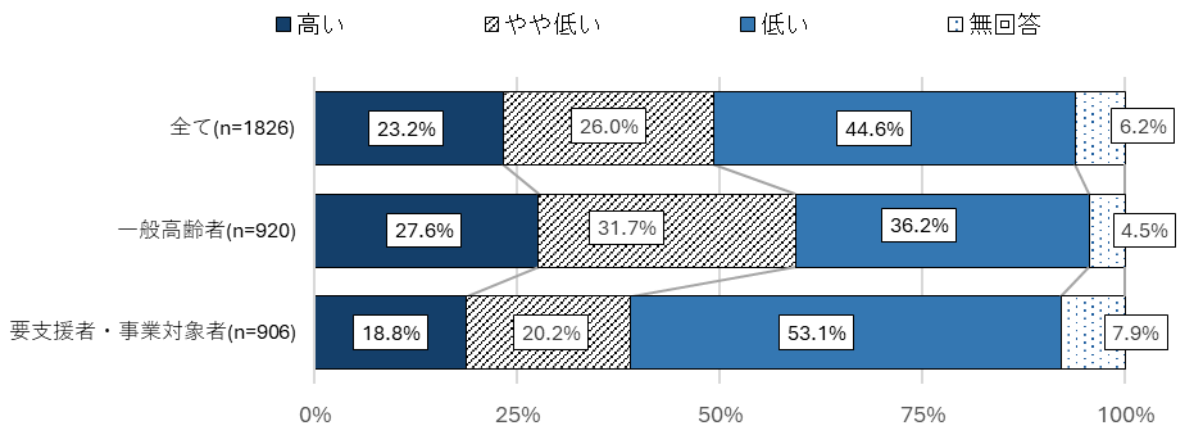
(2) 社会的役割

国の手引きに基づき、地域で社会的な役割を果たす能力(社会的役割)の低下している人を把握する。調査票の以下の設問を抽出「はい」と回答した場合を 1 点として、4 点を「高い」、3 位を「やや低い」、2 点以下を「低い」として整理した。

設問	該当する選択肢
友人の家を訪ねていますか	はい(1 点)
家族や友人の相談にのっていますか	はい(1 点)
病人を見舞うことができますか	はい(1 点)
若い人に自分から話しかけることがありますか	はい(1 点)

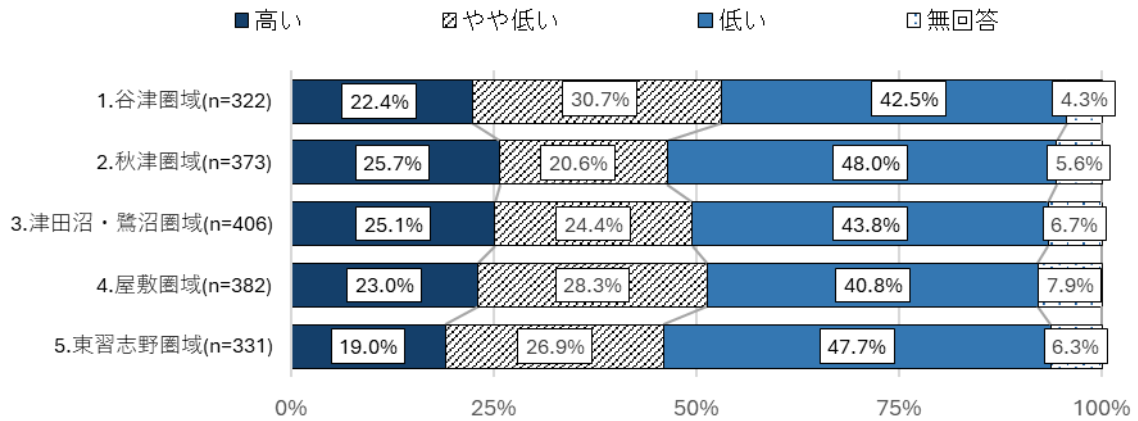
【調査区分別】

全体で見ると、低下者(「やや低い」と「低い」の計)が 7 割以上ある。要支援者・事業対象者においては **73.3%**とより高くなっている。



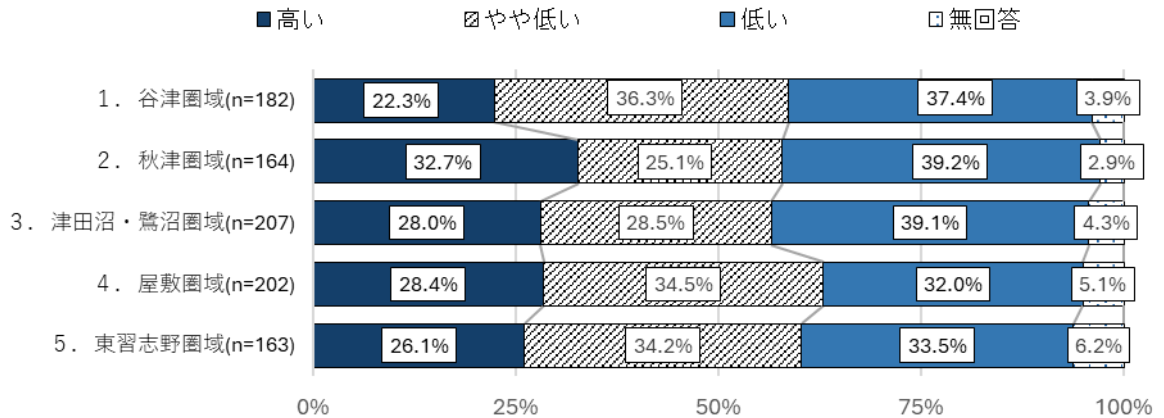
【圏域別】

圏域別にみると、東習志野圏域の低下者が 74.6%と高くなっている。



■一般高齢者

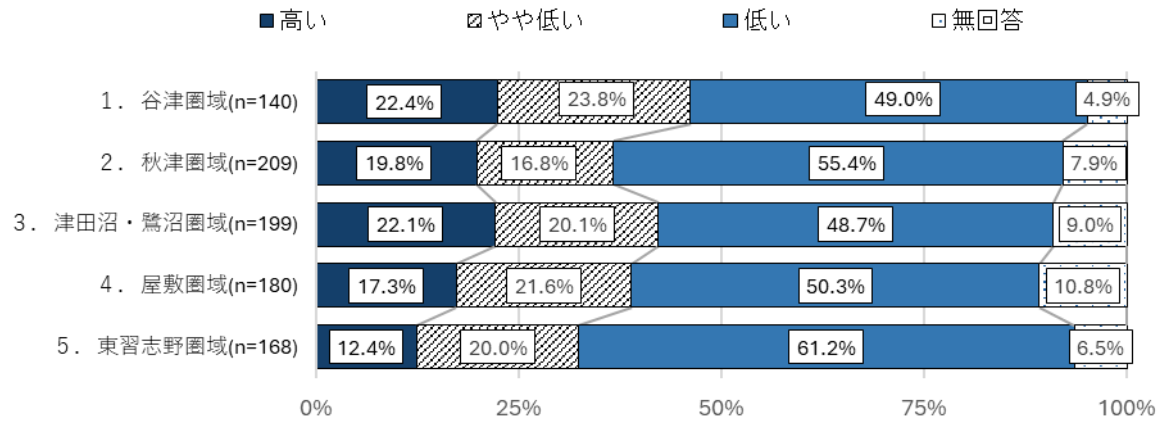
一般高齢者を圏域ごとに見ると東習志野圏域で、低下者がやや高くなっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者では圏域ごとのばらつきがあり、一般高齢者と同様、東習志野圏域で低下者がやや高く 81.2%となっている。

第 7 章生活機能等の状況(一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果より)



第8章 認知症に関する状況

1. 認知症への理解

(1) 「新しい認知症観」について

調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者)それぞれで半数以上が「知らない」と回答した。共生社会の実現のために、より一層の普及啓発が重要である。

(2) 認知症の相談窓口について

「認知症に関する相談窓口を知っているか」の設問では、調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者)それぞれで半数以上が「いいえ」と回答した。相談窓口の周知が引き続き重要である。

(3) 市が取り組んでいる認知症施策について

「認知症高齢者介護相談」や「認知症サポーター養成講座」に一定の認知度が見られるものの、調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、一般若年者)の回答者数のそれぞれ 6 割超が無回答としており、「知っている施策がない」人が大半である可能性があり、施策の周知が引き続き重要である。

2. 認知症に対する不安・実態

(1) 認知症の要介護状況

要介護認定者における介護・介助が必要となった主な原因については、「認知症・アルツハイマー」が 36.0%と最も高く、前回調査の 31.0%と比べて 5.0 ポイント上昇している。

また、自分や家族に認知症の症状があると回答した割合は、一般高齢者で 10.3%、要支援者・事業対象者で 16.2%、要介護認定者で 45.6%、一般若年者で 16.8%となっており、要介護認定者において他の調査区分と比較して高い割合となっている。

認知症は介護が必要となる要因の一つとして大きな割合を占めており、今後の高齢者施策においても引き続き注力する必要がある。

(2) 認知症向け介護サービスの状況

サービス提供事業者調査において、利用申込みへの対応状況について、認知症対応型共同生活介護では 7 件の回答のうち 4 件が「余裕はない」となっており、対応余力が限られている状況がみられる。一方、認知症対応型通所介護では 7 件の回答のうち 2 件が「余裕はない」となっている。

(3) 認知症への不安

「自分自身や家族が認知症になったときにどうしたらいいのか、不安に感じること」について、「介護のこと」が最も高い。特に一般若年者では 83.6%となっており、比較的高い割合となっている。

3. 今後の共生社会への展望

(1) 認知症になった場合のイメージ

「自分や家族が認知症になった場合、周囲に認知症であることを伝えたいか」を問う設問では「伝えたい(伝えている)」が比較的高い結果となった。特に一般若年者で 59.3%と比較的高い割合となっている。その一方で、「わからない」が各調査区分で 3 割台あり、認知症に対する受容的な意識が一定程度みられるものの、実際の対応や周囲への伝え方については判断が定まっていない層も多いことがうかがえる。

「認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいか」を問う設問では、一般高齢者、要支援者・事業対象者、一般若年者共に「はい」が 8 割台で最も高い結果となった。

(2) 共生社会に向けて必要なこと

「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる地域を作っていくために必要であると思うことは何ですか」の設問では、「認知症についての正しい知識や正しい理解」、「適切な医療や福祉サービス」がそれぞれ上位となっている。また、「認知症の人や家族が地域のつながりの中で安心して暮らし続けるために、手助けとなる環境が整備されている」や「不安や困りごとを気軽に相談できる体制」も比較的高い結果となり、正しい知識の普及、医療・サービスや相談体制の整備が求められている。

(3) 認知症向け介護サービスの今後の事業展開

認知症対応型共同生活介護及び認知症対応型通所介護については、今後の事業展開に関して「現状維持」または「現時点ではわからない」とする回答の割合が高く、事業規模の大きな変化は想定されていない状況がみられる。また、「縮小を考えている」とする回答はみられなかった一方で、「拡大を考えている」とする事業所も一部にみられる。

第9章 将来への備えに関する状況

1. 将来への備えに関する理解

(1) ACP

- アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の認知度について、「知っている」と回答する割合は、各調査区分で1割台にとどまっており、低い状況となっている。特に一般若年者では6.6%と1割にも満たない結果となっている。
- ACPをどこで知ったかを問う設問では、「テレビ・新聞・インターネット」が各調査区分で最も高い結果となっている。
- 人生の最終段階の医療・療養についてあらかじめ、繰り返し話し合うことについて、「賛成である」が各調査区分で最も高い結果となった。反対意見は極めて少なく、1%未満となっている。一方で、「わからない」とする回答も一定程度みられることから、ACPについて具体的な考えや判断に至らない状況がうかがえる。

(2) 身元保証制度

- 緊急事態が起きた時、金銭管理をしてくれる身内について、一般高齢者と一般若年者では「配偶者」が最も高いのに対し、要支援者・事業対象者、要介護認定者、施設入所者では「別居のこども」が最も高い結果となっている。
- なお、親族以外が身元保証等を行う制度の必要性について、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「わからない」が最も高く、それぞれ4割程度となっている。「必要性を感じる」はそれぞれ3割程度と一定程度ある一方で「必要性を感じない」とする回答も2割程度あることから、必要性に対する認識は一様ではなく、制度の理解が十分に浸透していない状況がうかがえる。

(3) 成年後見制度

成年後見制度の認知度について、「名称のみ知っている」が一般高齢者、要支援者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者でいずれにおいても4割以上と最も高い結果となっている。一方で施設入所者のみ「全く知らない」が49.7%と最も高い。このことから、成年後見制度については、名称の認知は一定程度みられるものの、内容の理解や具体的な活用に至っていない状況がうかがえる。

2. 将来への備えの状況

(1) ACP の状況

ACP を知っている人のうち、実際に家族や信頼する人たちと自分の考えを「共有している」とする回答は、「共有している」が各調査区分で半数程度となっており、一定の取組がみられる。一方で、「共有していない」が一般高齢者で 41.1%、一般若年者で 48.8%となっており、ACP を知っていても話し合いの実践にまでは結び付いていない状況もまた一定程度確認できる。

(2) 終活

- 終活について、「既に準備している」「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」「関心がある」を合わせると、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに 8 割程度が関心を示している。そのうち、「既に準備している」は一般高齢者で 12.7%、要支援者・事業対象者で 17.3%にとどまっており、関心は高いものの、実際の準備までは至っていない状況がみられる。
- 終活に関心がある層のうち、終活のために準備している(または準備を進めたい)内容について、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「家財等の整理・処分」が最も高い結果となった。その他、「エンディングノートの作成」「終末期医療や介護」が比較的高い結果となっている。

(3) 老後の生活に必要なだと思うこと

一般若年者における「自分の将来に備えて、現在どのようなことをしているか、またはどのようなことが必要だと思うか」について、「健康を維持・推進すること」が 69.8%で最も高く、次いで「生活していくための収入源や貯蓄などを確保すること」が 55.4%となっている。その他、「趣味を持つこと」(38.6%)が比較的高くなっている。将来に向けた備えとして、健康面や経済面に加え、生活の充実に関する意識がみられる。

第10章 住み慣れた地域での生活継続に関する状況

1. 生活継続に対する意向

一般高齢者、一般若年者における「もし介護が必要となった場合の生活場所等」については、「介護保険制度のサービスや保健福祉サービスを活用しながらできる限り自宅で介護を受けたい」が一般高齢者(39.6%)、一般若年者(35.8%)ともに最も高く、在宅での生活継続に対する意向がみられる。

また、要支援者・事業対象者及び要介護認定者における「今後希望する生活場所」については、「現在のまま住み続けようと思う」がいずれも最も高くなっている。さらに、施設入所者における「今後希望する介護」についても、「このまま現在の施設での生活を続けたい」が最も高い結果となっている。

これらのことから、各調査区分において、現在の生活環境を維持したいとする意向がみられるとともに、在宅生活の継続に対するニーズの高さがうかがえる。

2. 生活継続に向けた支援ニーズ

(1) 住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な施策

一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者における高齢者が住み慣れた地域で在宅生活を続けていくために必要な施策としては、各調査区分に共通して「24 時間いつでも在宅で受けられる介護・看護サービスの充実」が最も高く、それぞれ 4～5 割程度を占めている。

また、「自宅など本人が望む場所で看取りができる在宅医療の充実」、「配食サービスなどの生活支援」、「困ったときに気軽に相談できる窓口の充実」も比較的高く、医療・介護サービスの充実に加え、日常生活支援や相談体制の整備が求められている。

さらに、一般若年者においては「配食サービスなどの生活支援」や「外出時の移動支援」などの割合が他の調査区分と比較して高く、生活支援や移動支援に対するニーズの高さがうかがえる。

(2) 自宅での生活を続けるために必要なサービス

一般高齢者、要支援認定者・事業対象者における自宅での生活を続けるために必要だと思うサービスについて比較すると、両者ともに「見守り・声かけ」や「換気扇や窓ふきなどの大掛かりな掃除」が上位となっている点は共通している。

一方で、一般高齢者では「特になし」が 34.1%と最も高く、「公的機関などの必要な手続き」や「買い物」など、特定の場面における支援ニーズが中心であるのに対し、要支援認定者・事業対象者では「買い物」、「電球交換」、「庭の手入れ」、「ゴミ出し」など、生活維持に関わる支援ニーズが比較的高い傾向にある。

3. 日常生活における困りごと・不安

(1) 現在困っていること

一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者における現在困っていることについては、「自分や家族の健康や病気のこと」が各調査区分で最も高い結果となっており、共通した不安としてみられる。

なお、一般高齢者では「特にない」が 17.7%と一定程度みられるのに対し、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者においては、「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要なこと」や「もの忘れなどにより自分に自信が持てなくなること」が比較的高くなっている。

施設入所者における現在の心配ごとや悩みごとについて、「自分の健康のこと」が 40.0%で最も高く、次いで「特にない」が 33.0%、「家族の健康のこと」が 21.4%となっている。

一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者と比較すると、いずれの調査区分においても「自分や家族の健康や病気のこと」「自分の健康のこと」は依然として高い割合となっており、生活環境にかかわらず健康に対する不安が中心的な課題となっている。

(2) 将来についての不安

一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者における将来の不安については、いずれの調査区分においても「自分や家族の健康や病気のこと」が最も高く、共通した不安となっている。

また、「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要なこと」、「もの忘れなどにより自分に自信が持てなくなること」、「大地震などの災害が起こること」も比較的高くなっている。

一方で、一般若年者では、上記に加えて「生活のための収入のこと」(46.7%)が高くなっており、また、これらの上位項目については他の調査区分と比較していずれも割合が高い傾向がみられる。

これらのことから、高齢者においては健康や介護に関する不安が中心であるのに対し、若年層では経済面を含めた幅広い不安がより強く認識されている状況がうかがえる。

4. 外出・移動環境の状況

(1) 高齢者外出支援事業の認知度

- 一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者における高齢者外出支援事業(タクシー券の交付)の認知度については、全体的に「知らなかった」とする回答が高い傾向にある。
一方で、要支援認定者・事業対象者においては、「知っていた」が 54.9%と半数を超えており、他の調査区分と比較して認知度が高い結果となっている。
また、一般若年者においては「知らなかった」が 81.9%と約 8 割に達しており、他の調査区分と比較して認知が進んでいない状況がみられる。
- 高齢者外出支援事業(タクシー券の交付)を知っている人の情報の入手経路については、一般高齢者では「親族・友人・知人からの情報」が 52.7%で最も高く、次いで「市役所(広報習志野・ホームページ・市からのお知らせ)」が 35.4%となっている。
一方で、要支援認定者・事業対象者及び要介護認定者では、「市役所(広報習志野・ホームページ・市からのお知らせ)」がそれぞれ 42.3%、46.1%で最も高くなっている。
これらのことから、一般高齢者では身近な人を通じた情報により認知されている傾向がみられるのに対し、要支援認定者・事業対象者及び要介護認定者では、行政からの情報提供により認知されている傾向がみられる。
なお、一般若年者では「親族・友人・知人からの情報」が 42.2%、「市役所(広報習志野・ホームページ・市からのお知らせ)」が 40.4%と拮抗している。

(2) 高齢者外出支援事業の見直しについて

高齢者外出支援事業(タクシー券の交付)の見直しについては、いずれの調査区分においても「タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい」が最も高く、共通して公共交通を含めた支援の拡充を求める意向がみられる。その割合は、一般高齢者で 69.3%、一般若年者で 71.2%と特に高くなっている一方で、要支援認定者・事業対象者では 49.7%、要介護認定者では 42.6%と、他の調査区分と比較するとやや低い結果となっている。

また、「現状のタクシー券のまま継続してほしい」とする回答は、要支援認定者・事業対象者で 28.7%、要介護認定者で 32.7%と比較的高くなっており、現行制度の継続を求める意向も一定程度みられる。

(3) 運転免許証を自主返納した方への支援

- 運転免許証を自主返納した方への支援の必要性については、いずれの調査区分においても「必要である」とする回答が最も高く、全体的に支援の必要性が認識されている。

その割合は、一般高齢者で 56.1%、要支援認定者・事業対象者で 52.0%、要介護認定者で 50.5%となっている。

また、一般若年者においては 66.6%と他の調査区分と比較して高い傾向にある。

- 運転免許証を自主返納した方への支援として必要な内容については、一般高齢者及び一般若年者では「バス券の支給、定期券購入費の助成」がそれぞれ 43.0%、47.4%で最も高くなっている。

一方で、要支援認定者・事業対象者及び要介護認定者では「タクシー券の支給」がそれぞれ 45.2%、53.7%で最も高くなっている。

これらのことから、一般高齢者及び一般若年者では公共交通の利用を前提とした支援ニーズが高いのに対し、要支援認定者・事業対象者及び要介護認定者では、より個別的な移動手段であるタクシーの利用を前提とした支援ニーズが高い傾向にある。

5. 在宅生活を支える介護者の状況

(1) 介護者の年齢

主な介護者の年齢について、要支援認定者・事業対象者の介護者では「80 歳～89 歳」が 36.3% で最も高く、次いで「60 歳～69 歳」(17.5%)、「70 歳～79 歳」(16.4%)となっている。

また、要介護認定者の介護者においては「60 歳～69 歳」が 26.9% で最も高く、次いで「80 歳～89 歳」(20.9%)、「70 歳～79 歳」(18.5%)、「50 歳～59 歳」(19.5%)と、幅広い年代に分布している。

これらのことから、主な介護者は 60 歳以上の高齢者が中心となっており、いわゆる「老老介護」の状況がみられる。

(2) 介護を行う上で困っている(困った)こと

いずれの調査区分においても「介護者の心身の負担が大きい」や「仕事との両立が難しい」、「早朝・夜間・深夜などの突発的な対応が大変である」が比較的高く、共通した課題としてみられる。

その上で、要支援認定者・事業対象者では「特にない」が 23.8% で最も高く、他の調査区分と比べて一定の余裕がみられる。

一方で、要介護認定者では「介護者の心身の負担が大きい」が 40.4% と高く、加えて「介護に要する費用がかかりすぎる」などの経済的な負担も比較的高くなっている。

一般若年者のうち、介護者の経験がある人について、「仕事との両立が難しい」が 61.4% と特に高く、時間的な制約を中心とした負担がより大きい状況がみられる。

(3) 仕事との両立

- 主な介護者の勤務形態について、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者ともに「働いていない」が高い割合となっている。一方で、「フルタイムで働いている」は要支援認定者・事業対象者で 16.9%、要介護認定者で 23.3%、「パートタイムで働いている」はそれぞれ 9.6%、14.5% となっており、一定程度の介護者が就労しながら介護を担っている状況がみられる。

これらのことから、介護者の半数程度は就労していないものの、働きながら介護を担っている層も一定数存在しており、就労と介護の両立が課題となっている状況がうかがえる。

- 「勤め先からどのような支援があれば仕事と介護の両立に効果があると思うか」については、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者のいずれにおいても「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が最も高くなっている。

また、「制度を利用しやすい職場づくり」や「介護をしている従業員への経済的な支援」も比較的高くなっており、制度の整備に加えて、職場環境や経済面に関する支援ニーズがみられる。

第11章 社会参加・地域との関わりの状況

1. 地域の活動

(1) 参加状況

- 全ての項目で、「参加していない」が過半数となっている。一般高齢者では「老人クラブ」が 77.3%で最も高く、要支援認定者・事業対象者では「収入のある仕事」が 64.7%で最も高い。一方で、参加している割合をみると、一般高齢者、要支援認定者・事業対象者ともに「趣味関係」が最も高く、一般高齢者で約 3 割、要支援認定者・事業対象者で約 2 割台半ばの参加がみられる。

(2) 参加の意向

地域住民の有志による地域づくり活動への参加意向について、一般高齢者では「参加してもよい」が 47.5%で最も高く、要支援認定者・事業対象者においても 36.4%と比較的高い割合となっている。

一方で、「ぜひ参加したい」は一般高齢者で 5.4%、要支援認定者・事業対象者で 9.1%と低い割合にとどまっているほか、「参加したくない」もそれぞれ 35.0%、35.5%と一定程度みられる。

これらのことから、積極的な参加意向は高くないものの、条件次第では参加してもよいと考える層が一定程度確認できた。

(3) 隣近所や地域で高齢者を支えることについて

隣近所や地域で高齢者を支えることの必要性についてみると、要支援認定者・事業対象者で 72.6%、要介護認定者で 68.0%、一般若年者で 66.2%が「必要である」と回答しており、いずれの調査区分においても高い割合となっている。

一方で、「必要ない」とする回答はいずれの調査区分においても低く、地域で支え合うことの重要性が広く認識されている状況がみられる。

第12章 介護サービスの利用・供給の状況

1. 介護保険制度に対する意識

(1) 介護保険制度における保険料と介護サービスのあり方

介護保険制度における保険料と介護サービスのあり方について、一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者のいずれにおいても「どちらとも言えない」が最も高く、4割台後半となっている。

一方で、「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」は各調査区分で3割前後と一定程度みられるのに対し、「使えるサービスが多少抑えられても、保険料が安ければ良い」は1割台にとどまっている。

また、施設利用者では「どちらとも言えない」が65.3%と特に高く、他の調査区分と比較して判断を保留する傾向が強くみられる。

(2) 低所得者への配慮

低所得者に配慮するために、高所得者の65歳以上の方の保険料負担を増やすことについて、一般高齢者では「そう思う」が52.1%で最も高く、要支援認定者・事業対象者では45.5%、要介護認定者では41.5%と、いずれの調査区分においても一定の割合を占めている。

一方で、「どちらとも言えない」も一般高齢者で34.9%、要支援認定者・事業対象者で37.4%、要介護認定者で42.6%と比較的高く、特に要介護認定者では最も高い結果となっている。

また、施設利用者では「どちらとも言えない」が60.0%と特に高く、他の調査区分と比較して判断を保留する傾向が強くみられる。

2. 介護サービスの利用状況

(1) サービスの利用状況

この1か月における介護保険サービスの利用状況についてみると、要支援認定者・事業対象者では「利用している」が47.8%、「利用していない」が46.8%と拮抗している。

一方で、要介護認定者では「利用している」が85.1%と大半を占めており、「利用していない」は12.2%にとどまっている。

これらのことから、要支援認定者・事業対象者ではサービスの利用が分かれている状況であるのに対し、要介護認定者ではサービス利用が進んでいる状況がみられる。

(2) 利用しているサービス

介護保険サービスの利用内容についてみると、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者のいずれにおいても「通所リハビリテーション(デイケア)」が最も高くなっている。

その上で、要支援認定者・事業対象者では「福祉用具貸与」(33.7%)や「訪問介護(ヘルパー)」(18.9%)が比較的高く、日常生活の支援や補助を目的としたサービスの利用が中心となっている。

一方で、要介護認定者では上記に加え、「訪問リハビリテーション」(18.0%)、「小規模多機能型居宅介護」(19.7%)や「認知症対応型通所介護」(15.6%)、「認知症対応型共同生活介護(グループホーム)」(13.3%)など、多様なサービスが利用されている。

(3) 介護者サービス利用による介護者の変化

介護サービスを利用することによる介護者の変化について、要支援認定者・事業対象者の介護者、要介護認定者の介護者のいずれにおいても「精神的に楽になった」が比較的高く、サービス利用による精神的な負担軽減がみられる。

また、要介護認定者では「介護に関わる時間が減った」(32.5%)、「身体的に楽になった」(29.0%)、「時間に余裕ができた」(28.2%)なども高く、身体的・時間的な負担の軽減もみられる。

一方で、「経済的に苦しくなった」は要支援認定者・事業対象者で4.6%、要介護認定者で14.9%と一定程度みられ、特に要介護認定者においては費用負担の影響もうかがえる。

なお、要支援認定者・事業対象者では「特に変化していない」が23.0%で最も高く、サービス利用による変化の実感が相対的に小さい状況もみられる。

(4) 利用していない理由

介護保険サービスを利用していない理由について、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者のいずれにおいても「今のところ自分でやっていけるから」及び「今のところ家族介護でやっていけるから」が高く、サービスを必要としていないと考えている層が多い状況がみられる。

一方で、要介護認定者では「病院に入院しているから」(20.7%)が比較的高く、家族による対応や入院等の状況が影響していると考えられる。

また、「どのようなサービスがあるのかわからないから」や「利用者負担が大きいから」といった理由も一定程度みられ、サービスの認知や費用面が利用に影響している状況もうかがえる。

(5) サービスの自己負担感

介護保険サービスの自己負担割合に対する負担感について、要支援認定者・事業対象者では「適正だと感じている」が42.7%、要介護認定者では50.4%でそれぞれ最も高く、一定程度の納得感がみられる。

一方で、「高いと感じている」及び「とても高いと感じている」を合わせると、要支援認定者・事業対象

者で9.6%、要介護認定者で16.5%となっており、特に要介護認定者において負担感を感じている割合が比較的高くなっている。

(6) 福祉サービスの利用に結び付いていない高齢者

サービス提供事業者調査において、支援が必要であるにもかかわらずサービスの利用に結びついていない高齢者については、「いる」が28.3%となっており、一定数存在している状況がみられる。

結びついていないサービスの内容としては、「介護サービス」が76.9%で最も高くなっている。

また、結びつかない理由については、「サービスにかかる費用が負担になるため」が26.9%で最も高いものの、その他の自由記述では「本人の拒否」が30.8%と最も多くなっており、費用面に加えて本人の意向が影響している状況がうかがえる。

3. サービスの供給状況

(1) 事業者の人手不足

サービス提供事業者調査におけるサービスを提供する上で困っているについて、「マンパワーが不足している」が56.5%で最も高く、次いで「報酬が低すぎる」が51.1%となっている。

マンパワーが不足しているサービスは、「地域密着型通所介護」が23.1%で最も高く、次いで「訪問介護」が17.3%、「居宅療養管理指導」が15.4%となっている。

マンパワーが不足している職種は、「介護職員」が55.8%で最も高く、他の職種と比べて大きく上回っている。また、「生活相談員」が21.2%、「看護職員」が17.3%、「管理者(候補含む)」が13.5%、「介護支援専門員」が11.5%と続いており、現場職員に加えて、相談・調整機能を担う職種においても不足がみられる。

(2) インフォーマルサービスの利用

サービス提供事業者調査におけるインフォーマルサービスの活用状況について、「たまに活用することがある」「できるだけ活用している」を合わせて活用している層が5割程度あり、一定程度活用されている状況がみられる。

インフォーマルサービスの内容については、「配食サービス」や「見守り・安否確認」、「ごみ出し・収集支援」などの日常生活支援に関するものが多くみられる。また、「訪問理美容」や「訪問マッサージ」、「介護タクシー」などの外出・生活支援サービスのほか、「ボランティア」や「地域の体操・集いの場」、「家族・知人による支援」など、地域や人とのつながりを活用した支援もみられる。

(3) 地域のボランティア意向

一般高齢者、要支援者・事業対象者における「ボランティアとして活動できるとしたら協力できる内容」について、「見守り・声かけ」が特に高く、その他「買い物」「ゴミ出し」「薬の受け取り」も一定数挙がっ

ている。

一般若年者においては、支援を必要とする高齢者を支えるボランティア活動への参加意向について、「是非参加したい」、「参加してもよい」、「既に参加している」を合わせた参加意向のある層は44.6%となっている。

支援者として参加したい活動について、「見守り活動(日常の声掛けなど)」が68.0%で最も高く、他の項目と比べて大きく上回っている。次いで、「介護保険施設や介護事業所でのボランティア」、「外出(病院の付き添いなど)」、「生きがいづくり(趣味サークルの実施など)」が比較的高くなっている。

これらのことから、見守りなどの比較的参加しやすい活動を中心に、インフォーマルサービスと連携した支援の広がりが期待される。